

上林新庄遺跡

上林古墳

上林テラダ遺跡

下新庄タナカダ遺跡

野々市町南部土地区画整理事業に係る  
埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅲ

2000年

石川県野々市町教育委員会  
野々市町南部土地区画整理組合

上林新庄遺跡

上林古墳

上林テラダ遺跡

下新庄タナカダ遺跡

野々市町南部土地区画整理事業に係る  
埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅲ

2000年

石川県野々市町教育委員会  
野々市町南部土地区画整理組合

## 例 言

- 1 本書は石川県石川郡野々市町上林及び新庄地内に位置する上林新庄遺跡、上林古墳、上林テラダ遺跡、下新庄タナカダ遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本書は、野々市町南部土地区画整理事業に係る上記4遺跡の緊急発掘調査報告書で、野々市町教育委員会が野々市町南部土地区画整理組合の委託を受けて1990・91年、1993~95年の5カ年にわたり調査を実施したものである。
- 3 現地における調査の期間、面積、担当者は以下のとおりである。

遺跡名	年度	期間	面積(m <sup>2</sup> )	担当者
上林新庄 (上林古墳含む)	1990年度	6月19日~12月25日	5,600	社会教育課主事 横山貴広
	1991年度	5月20日~1月9日	7,100	同 上
	1993年度	4月13日~3月23日	11,650	同 上
	1994年度	5月 9日~12月26日	4,200	文化課主事 横山 貴広 同 徳野(鶴見)裕子
	1995年度	4月10日~11月20日	12,200	横山 貴広(現 文化課主事)
上林テラダ	1990年度	7月 7日~11月 6日	1,000	社会教育課主事 横山貴広
下新庄タナカダ	1994年度	9月22日~12月28日	3,000	横山 貴広・徳野 裕子

- 4 遺物の整理及び報告書作成に必要な記録資料整理については竹田倫子、野村祥子、安 好美がおこなった。その他図版作成・遺構図トレース・現場写真撮影を横山が、遺物写真撮影を永野勝章(野々市町教育委員会文化課主事)が担当した。
- 5 本書の執筆及び編集は横山がおこなった。
- 6 図版の縮尺はすべて図上に標示し、水平基準線レベルは海拔高である。なお、方位はすべて磁北を指す。
- 7 調査によって得られた資料は、すべて野々市町教育委員会が一括して保管しており、一部野々市町ふるさと歴史館において展示をおこなっている。
- 8 発掘調査から報告書作成に至るまで、多くの方々や機関からご教示、ご協力をいただいた。以下にご芳名を記して深甚の謝意を表したい。(順不同、敬称略)  
伊藤雅文・垣内光次郎・桙田 誠・金山弘明・北野 博・小嶋芳孝・小林 修(故人)  
田嶋明人・出越茂和・戸満幹夫・西村康賢(故人)・布尾和史・橋本澄大・藤田邦雄  
三浦純夫・山本直人・湯尻修平・吉岡康暢・古本外茂治  
石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター・松任市教育委員会  
野々市町南部土地区画整理組合

# 目 次

## 例 言

第1章 上林新庄遺跡	1
第1節 1990年度の調査	
1. 調査の経過と概要	1
2. 遺構と遺物	1
遺物観察表	21
第2節 1991年度の調査	
1. 調査の経過と概要	24
2. 遺構と遺物	24
遺物観察表	58
第3節 1993年度の調査	
1. 調査の経過と概要	62
2. 遺構と遺物	62
遺物観察表	143
第4節 1994年度の調査	
1. 調査の経過と概要	150
2. 遺構と遺物	150
遺物観察表	167
第5節 1995年度の調査	
1. 調査の経過と概要	169
2. 遺構と遺物	169
遺物観察表	182
第6節 まとめ	183
写真図版	187
第2章 上林古墳	247
第1節 調査の経過と概要	249
第2節 遺構と遺物	249
第3節 まとめ	250
写真図版	255
第3章 上林テラダ遺跡	263
第1節 調査の経過と概要	265
第2節 遺構と遺物	266
第3節 まとめ	267
写真図版	271
第4章 下新庄タナカダ遺跡	273
第1節 調査の経過と概要	275
第2節 遺構と遺物	275
第3節 まとめ	279
写真図版	289

## 附 図

# 上林新庄遺跡



第1図 埋蔵文化財分布図

# 第1章 上林新庄遺跡

上林新庄遺跡は、野々市町上林・新庄地内で施行された野々市町南部土地区画整理事業に先立つ埋蔵文化財分布調査において確認された南部遺跡群5遺跡の中の最大の遺跡であり、現地での発掘調査は冒頭のごとく延べにして5カ年を要し、総調査面積は実に40,750m<sup>2</sup>に上る。当区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査は、全体として1989年度から96年度までの延べ8年にわたり実施されたものであり、このため調査の契機及び周辺の歴史的環境については既刊『上新庄ニシウラ遺跡』(野々市町南部上地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ 1998年3月刊)を参照していただきたい。また、これだけの大規模な遺跡の想定される全範囲を調査できたことは、一重に野々市町南部土地区画整理事業組合及び地権者の方々の深いご理解とご協力によるところが大きく、結果として古墳時代後期の横穴式石室を有する古墳1基と、古墳時代後期から始まり古代後半にまで及ぶ良好な集落跡を確認できた。ここでは、以下で各年度ごとの調査成果を順次報告していくこととするが、紙数の制約もあり遺構については主的なものを、遺物についてはその概略を記すことにとどめ、詳細は各々遺構一覧表及び遺物観察表によることでご理解いただきたい。また、各年度ごとの調査区の範囲並びに配置は第2図に示したとおりである。なお、本書中遺構番号については実測し得た遺物を出土した遺構を中心とし、その他若干の補足を加えて付しており、上2桁は調査年度(西暦下2桁)を、下2桁は実質的な遺構番号を表すものである。

## 第1節 1990年度の調査

### 1. 調査の経過と概要

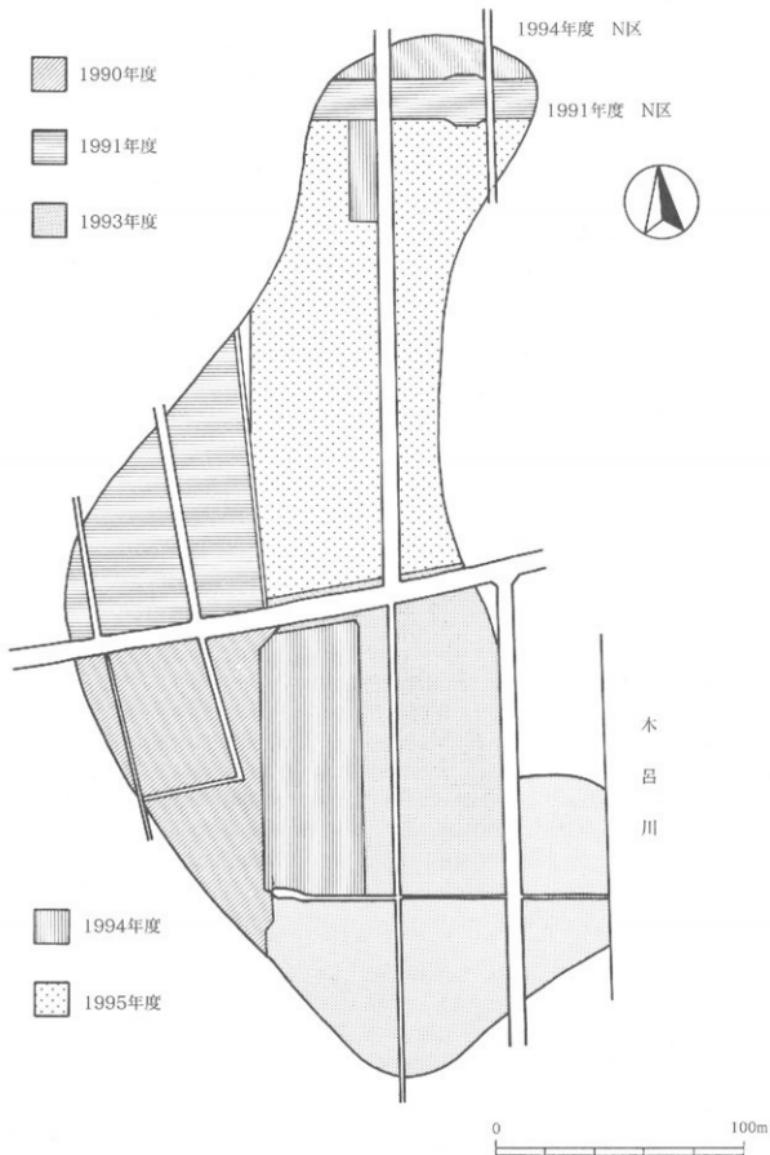
1990年度の調査は、前年の上新庄ニシウラ遺跡に続き都市計画道路本町新庄線建設予定地を中心として実施した。5,000m<sup>2</sup>を越える大規模な発掘調査を担当者1人でおこなうということは奉職以来初めての経験であり、連日30人以上の作業員を抱えての業務は遺跡の性格を考え、適切な方針を日々決定していくことも許されない多忙なものであった。事実、本来ならば記録しなければならない遺構の上層断面等、いくつかは削り落し、または降雨等により崩壊してしまったものも少なくない。記録保存を目的とした発掘調査としては決して十分ではない、むしろ破壊に近いものであったが、それでもこれまで未知の地域であった南部地区に大きなひろがる古代の集落の一端を確認することができた。ただし、この時点では筆者自身当遺跡の性格をいかにも自然発生的な、地方の農村集落として考えていたことは事実である。

### 2. 遺構と遺物

当調査区で確認された主な遺構は、竪穴住居10棟、土坑42基、その他ピット、畝溝状遺構が多数見られるものの、掘立柱建物跡は確認することができなかった。遺跡推定地の西南縁辺ということで、集落の中枢といった機能からはやや外れた感があり、事実竪穴住居の配列にも計画性は見出せず、その帰属時期も遺跡全体の中ではやや古い段階に終始するものであり、S I-9002あたりが下限となる。以下、それぞれの遺構について若干の補足をおこなっていく。

#### ① 竪穴住居

当調査区で確認された住居跡は調査区中央の狭い部分に密集しており、a：方形もしくは略長方形



第2図 上林新庄遺跡 年度別調査区図 (S=1/2,000)

を呈し、主軸方位を西に振るもの（S I-9001・05・07・08）と b：東西に長い略長方形を呈し、主軸方位を東に振るもの（S I-9002・09・10）、c：偏平な略椭円形を呈し主軸方位を若干東へ振るもの（S I-9004・06）、d：端正な方形を呈し、ほぼ南北を指すもの（S I-9003）の 4 タイプに大別できる。また、遺物の様相から考えられる時期的な変遷としては、まず a グループが 7 世紀末を中心としたほぼ同じ時期で捉えられるのに対して、b グループは 7 世紀中頃から 8 世紀前半にかけての S I-9010→(09)→02 という時間幅で考えられる。この内、S I-9009については検討資料に乏しく、9010と同時期と考えた方が良いかもしれない。c グループについても同様で、7 世紀後半から末にかけて S I-9004→06 という関係が窺える。規模は異なるものの、ともに偏平な椭円形を呈しており、住居用途とは別の機能が継承されたものであろうか。その他、S I-9003は 8 世紀前半のものであろう。第 9 図28は天井部内面にヘラ状具による 1 条の線刻を施した須恵器壺蓋である。また、第 9 図32は焼成こそ十分ではないが、底部側面を打ち欠いた転用鏡である。

### ② 溝

調査区西側を北流する大溝は、調査初年度ということで完掘したものの、次年度の調査で大正時代初期までは開口していたものであることが確実である。出土した遺物は多岐にわたり、打製石斧及び中世に属するものを除けば、概ね 7 世紀中頃から 10 世紀末までのもので占められる。また、住居跡が密集する中央部分に広がる多くの畝溝状遺構の在り方であるが、検出時の状況は周辺（特に南側で顕著）に比べて検出面自体が低く、湿気を伴う粘性の強いシルト質であった。この部分については、残念であるが調査の進捗を第一義とし、住居跡を優先したいという担当者の想いが強く働き、プランからの検討を十分に果たしたとは言い難い。また、巻本附図上で遺構番号を付したものは実測こそし得なかったものの僅少な遺物を検出しているが、時期的判断を下せるものではない。

### ③ その他

当調査区は中央に広がる畝溝状遺構を除けば上林新庄遺跡としてはさほど遺構密度が高くない部分であり、それに比例して出土した遺物も調査面積に比べれば少ないものであった。S P-9022からは製塙土器（第13図96）が 1 点出土しており、S K-9001からは器とともに鉄筆写しのミニチュア上製羽釜が出土している。S X-9002は竪穴状の落ち込みであり、深さは 7 cm と浅いものである。第13図101は口縁端部を垂直に面取りする鍤轆轤である。S X-9004は不定形の大型のものであり、規模から見れば S I に含めた方が妥当かもしれない。遺物の出土は確認されなかった。また、北側を東西に伸びる平行な 2 条の溝は近代のものである。

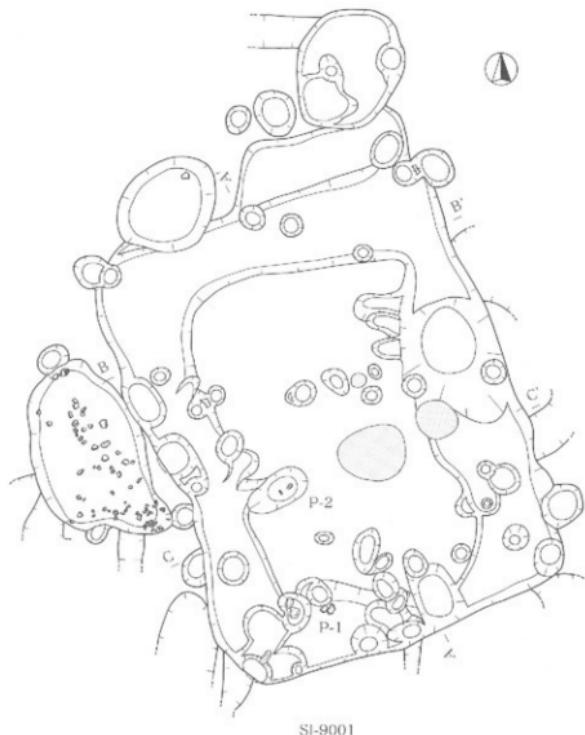
## 遺構一覧表

### ・S I (竪穴住居)

番号	長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)	床面積(m <sup>2</sup> )	形 状	主軸方位	備 考
9001	5.84	4.38	8	26.5	長方形	N 18.5° W	II <sub>2</sub>
9002	3.86	3.44	35	13.4	長方形	N 15° E	III?
9003	4.98	4.78	22	22.93	略方形	N 6.5° W	II <sub>2</sub> ~II <sub>3</sub>
9004	4.4	3.04	21	12.27	略長方形	N 11° E	II <sub>1</sub> ?
9005	4	3.32	34	12.79	長方形	N 25.5° W	II <sub>2</sub>
9006	3.2	2.28	14	6.78	略橢円形	N 3° E	
9007	4.9	(3.22)	14	(15.57)	略方形	N 13° W	II <sub>2</sub>
9008	(5.56)	—	34	—	略方形か	N 22.5° W	II <sub>2</sub> ~II <sub>3</sub>
9009	3.18	2.96	12	9.2	略方形	N 16° E	土師器
9010	6.34	4.4	22	27.1	長方形	N 22.5° E	I <sub>2</sub> ~II <sub>1</sub>

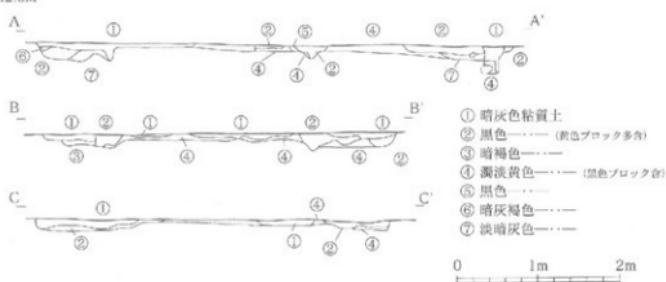
### ・S K (土坑)

番号	長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)	形 状	備 考
9001	2.26	2.04	10	略方形	土師器
9002	1.7	0.96	77	不定形	

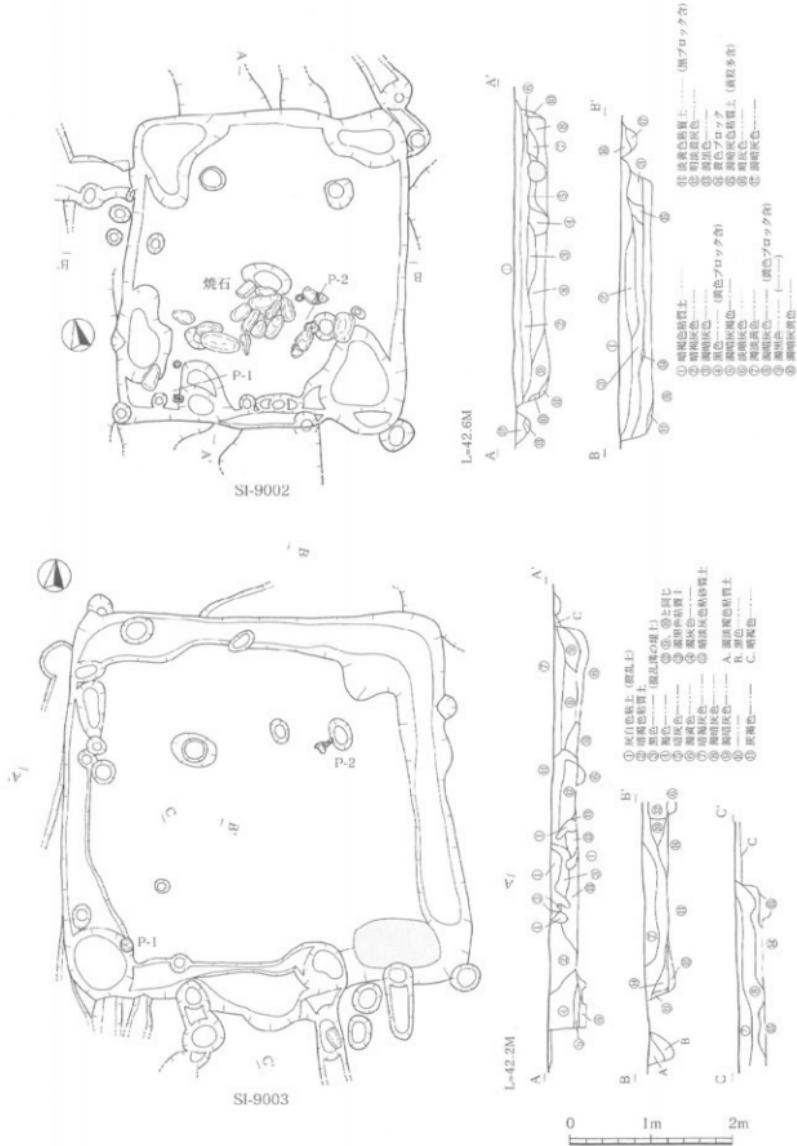


SI-9001

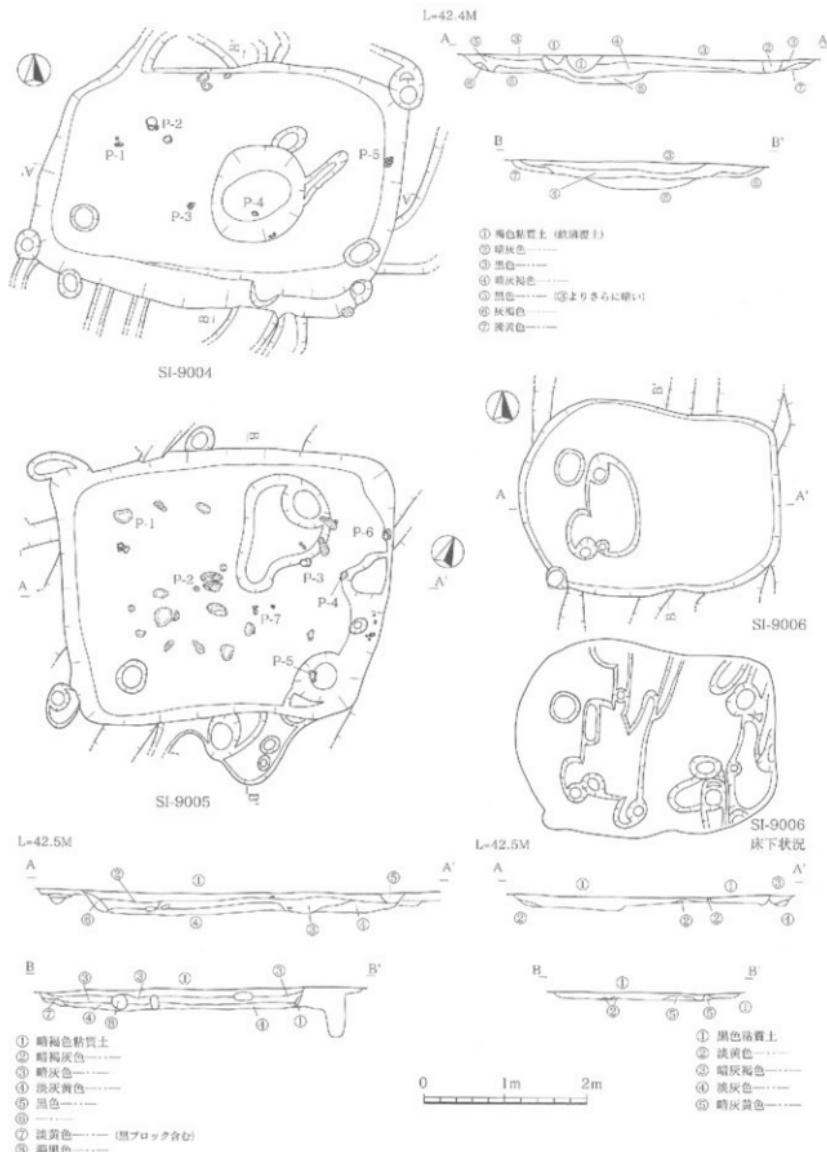
L=42.3M



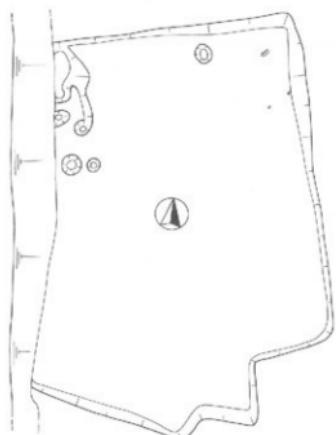
第3図 1990年度 遺構実測図① (S=1/60)



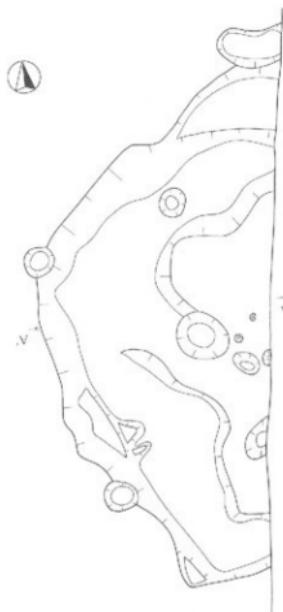
第4図 1990年度 遺構実測図② (S=1/60)



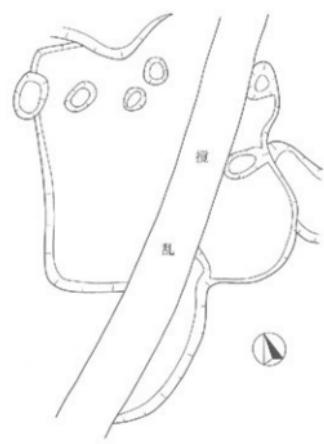
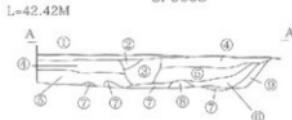
第5図 1990年度 遺構実測図③ (S=1/60)



SI-9007



SI-9008

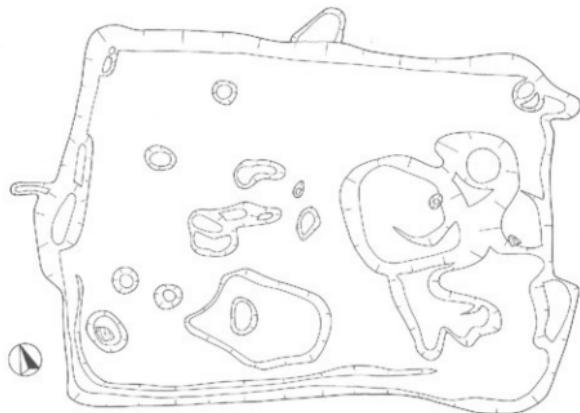


SI-9009

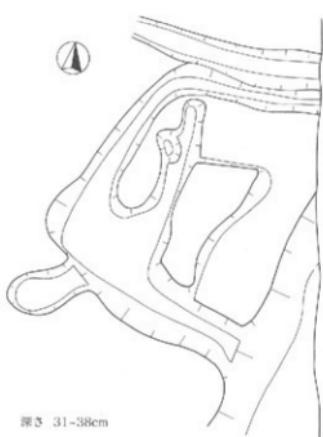
- |           |                  |
|-----------|------------------|
| ① 深褐色粘質土  | ⑥ 暗灰色粘質土         |
| ② 褐色---   | ⑦ 淡黄色---         |
| ③ 暗褐色---  | ⑧ 淡黄褐色---        |
| ④ 暗灰褐色--- | ⑨ ----- (表ブロック合) |
| ⑤ 灰灰色     |                  |

0 1m 2m

第6図 1990年度 遺構実測図④ (S=1/60)



SII-9010



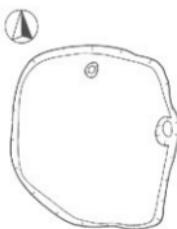
深さ 31-38cm

SX-9001



SX-9002

深さ 7cm



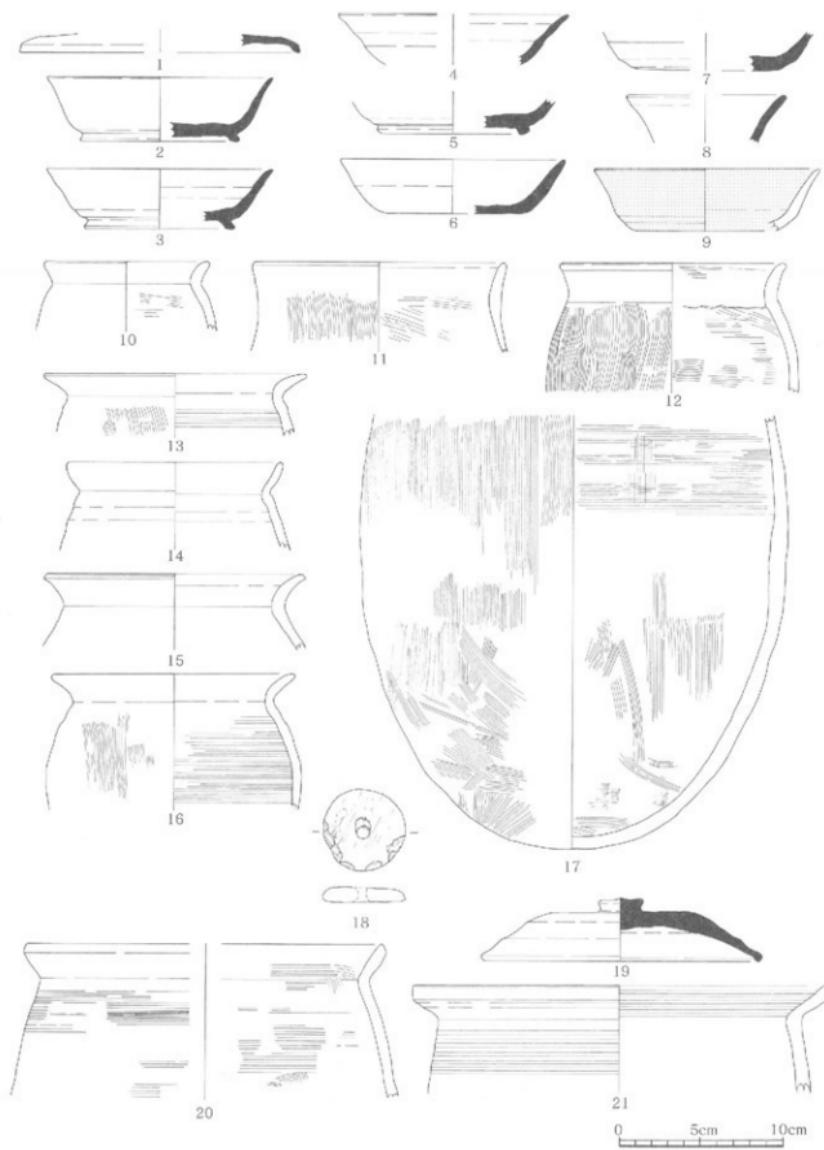
SK-9001



SK-9002

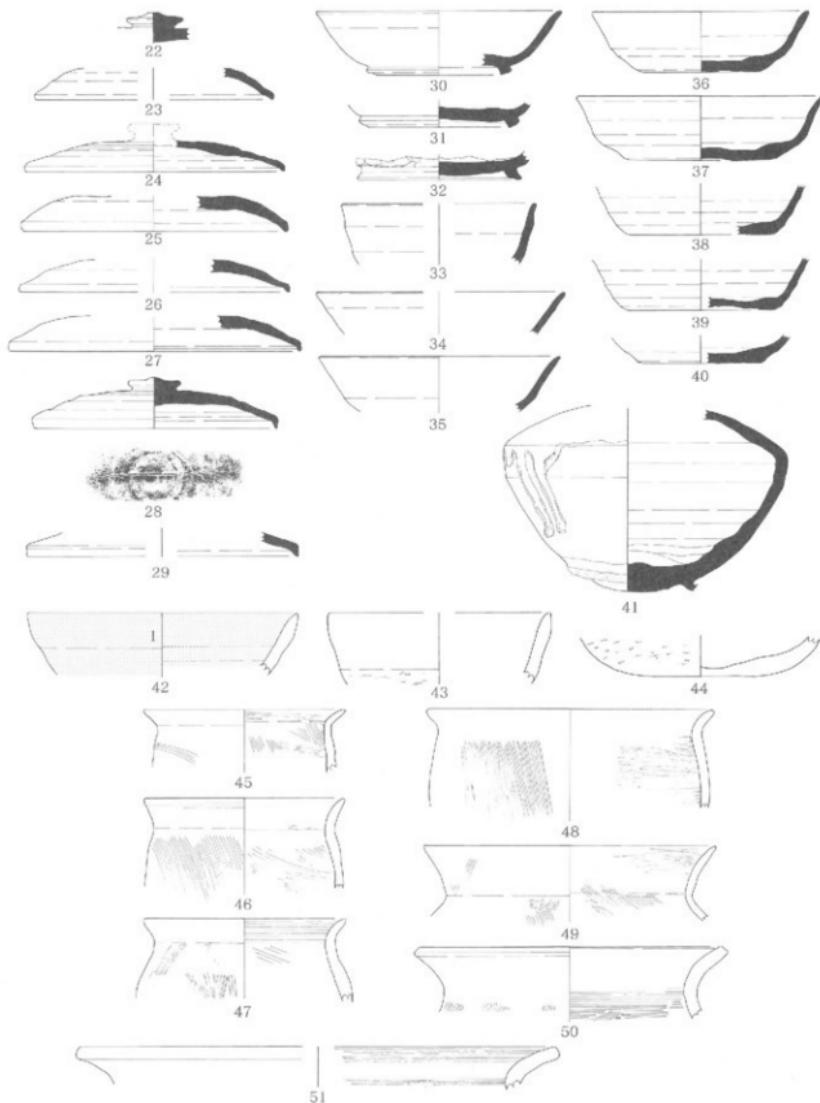
0 1m 2m

第7図 1990年度 遺構実測図⑤ (S=1/60)



SI-9001 (1~18)  
SI-9002 (19~21)

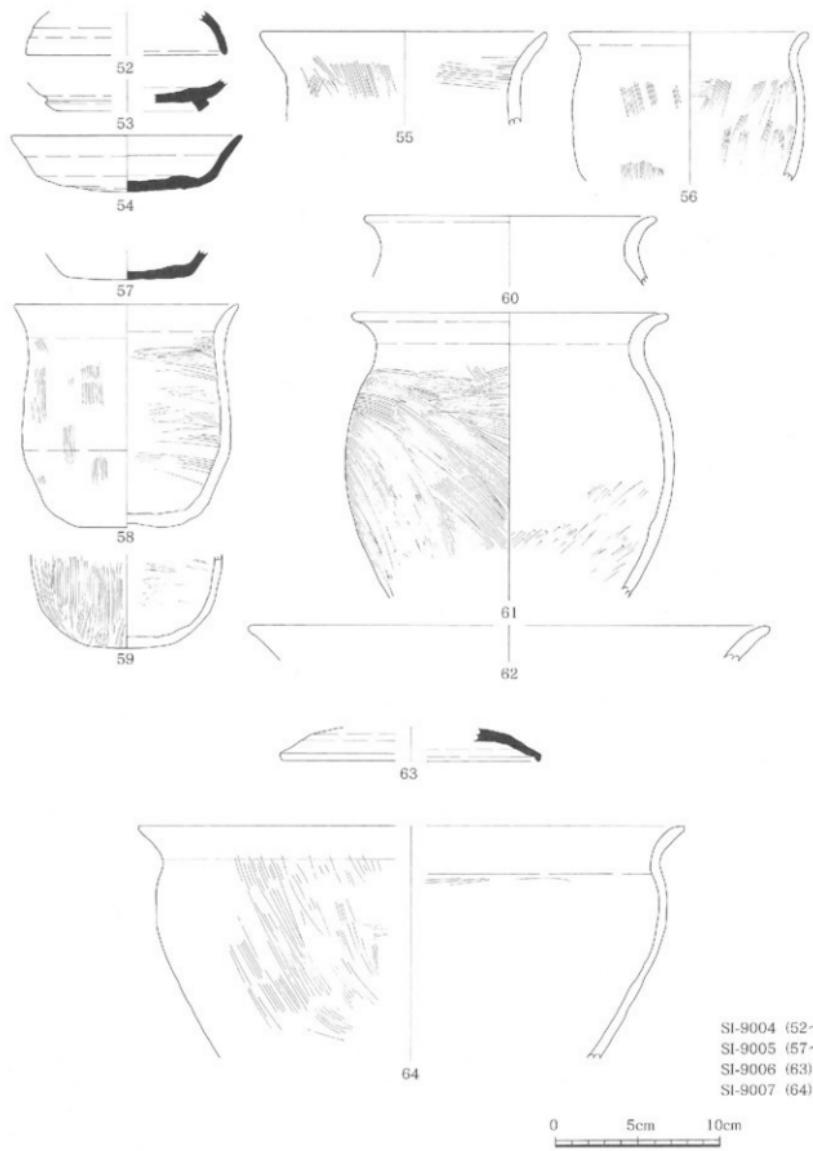
第8図 1990年度 遺物実測図① (S=1/3)



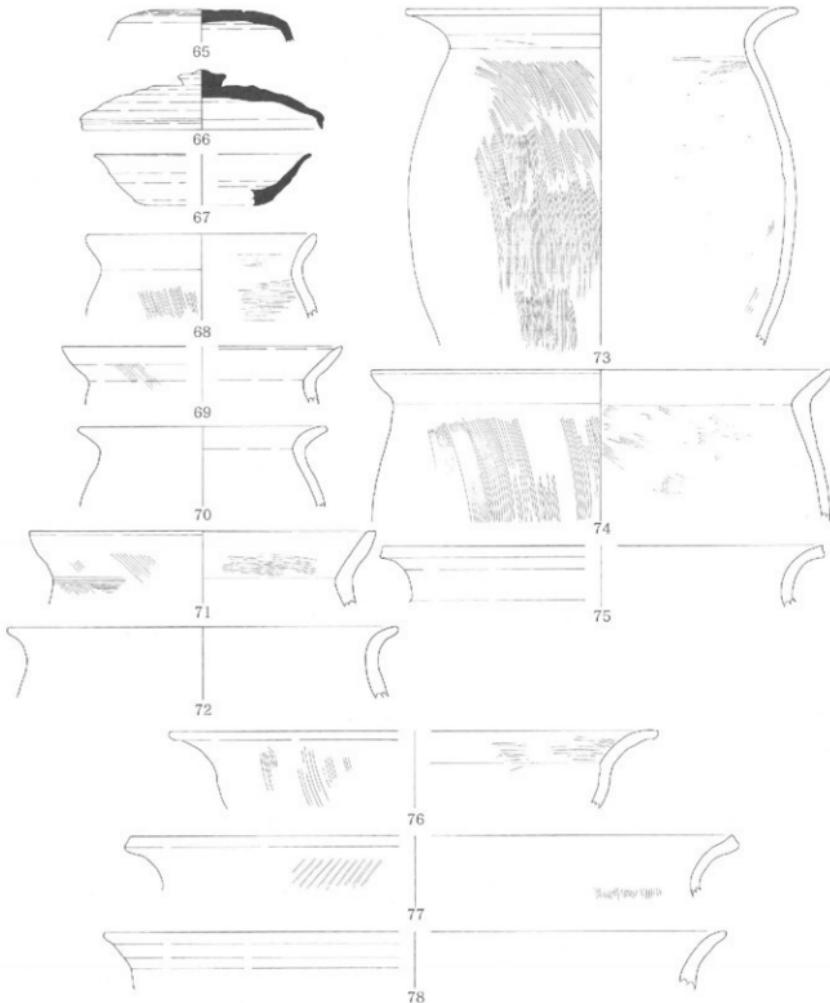
SI-9003 (22~51)

0 5cm 10cm

第9図 1990年度 遺物実測図② (S=1/3)



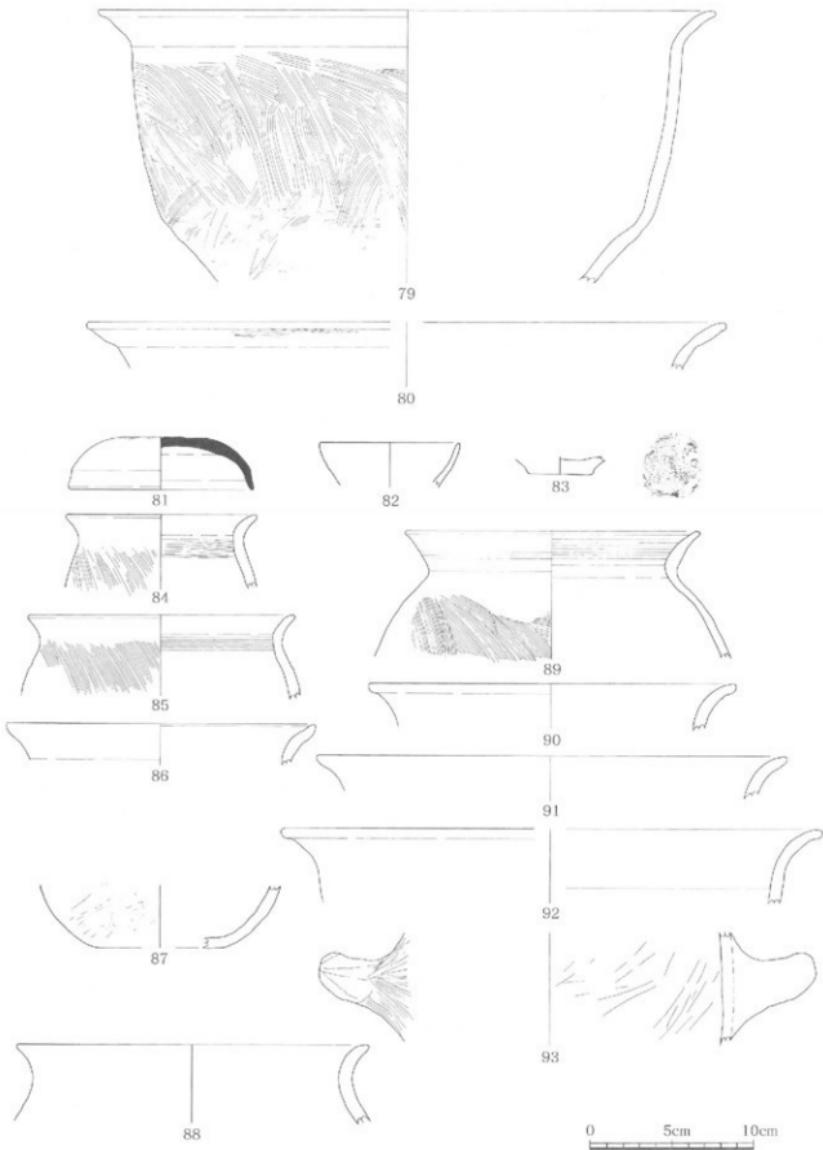
第10図 1990年度 遺物実測図③ (S=1/3)



SI-9008 (65~78)

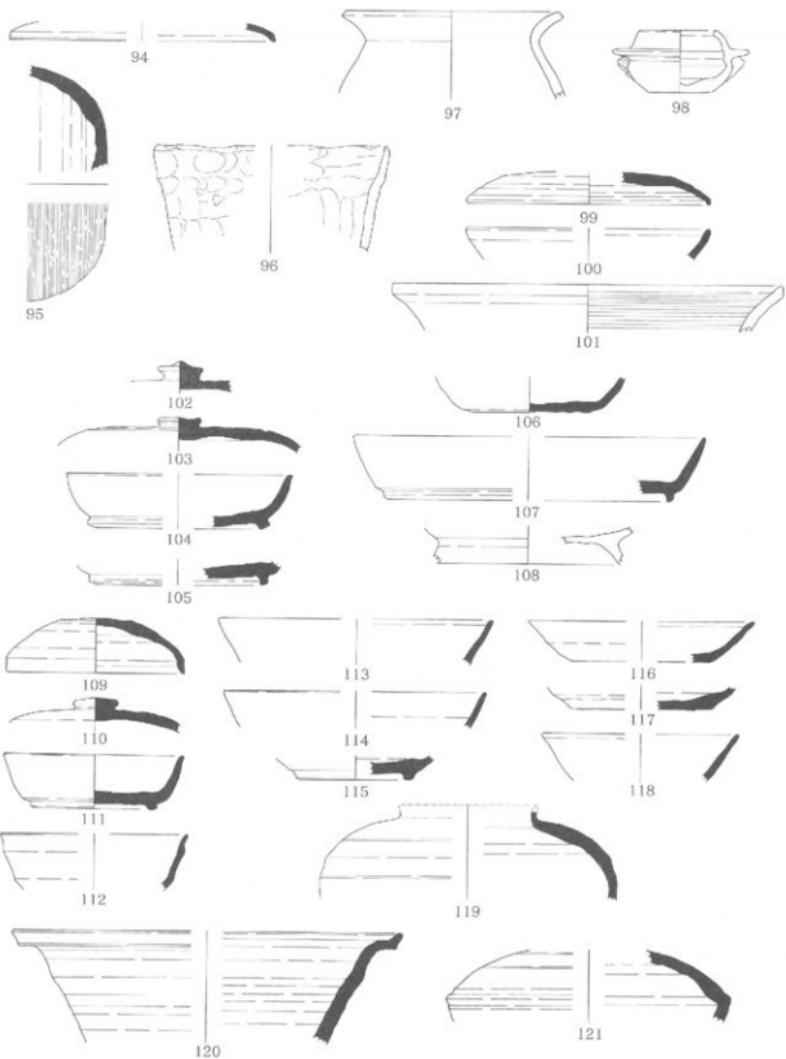
0 5cm 10cm

第11図 1990年度 遺物実測図④ (S=1/3)



SI-9008 (79)  
SI-9009 (80)  
SI-9010 (81~93)

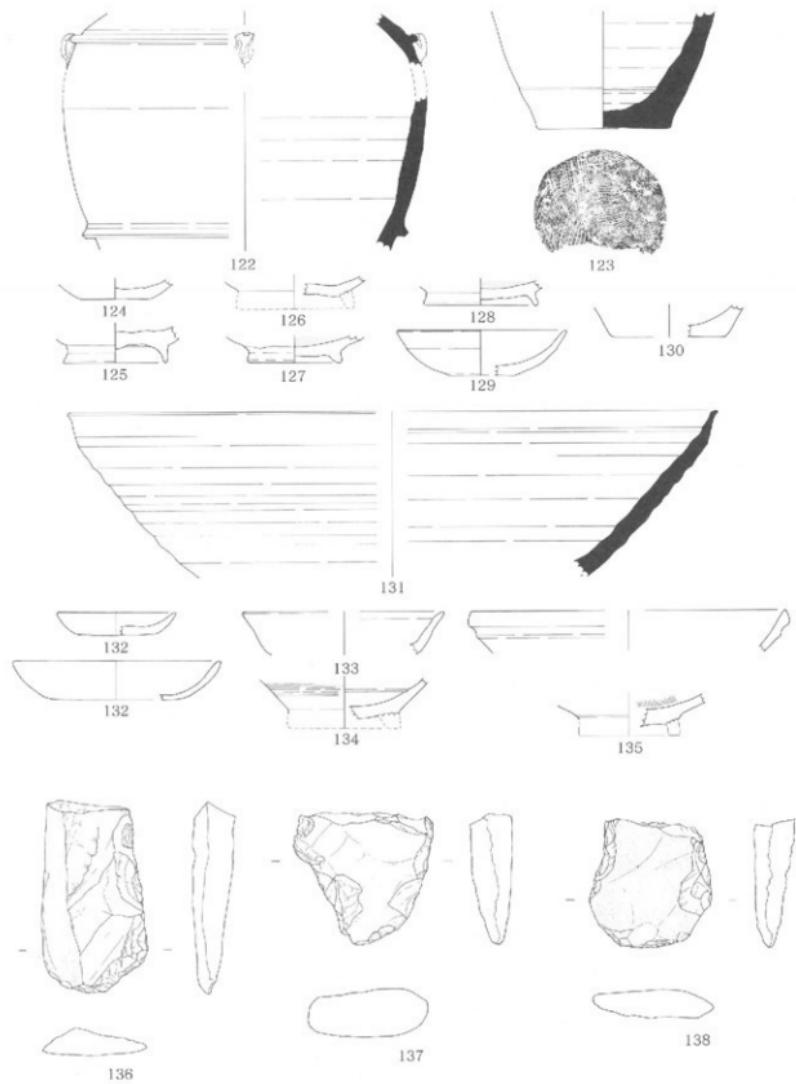
第12図 1990年度 遺物実測図⑤ (S=1/3)



0 5cm 10cm

SP-9020 (94・95) · SP-9022 (96)  
SK-9001 (97・98) · SX-9002 (99~101)  
大羽北側 (102~108)  
大羽中央 (109~121)

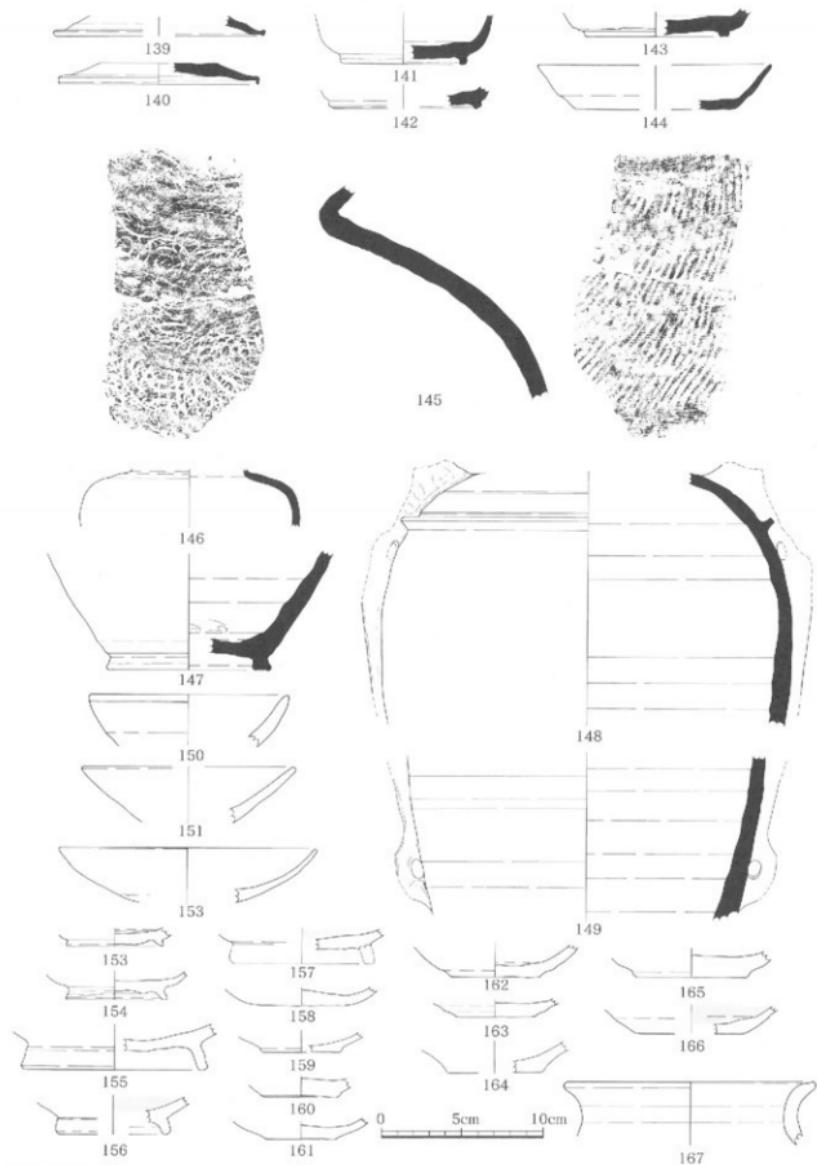
第13図 1990年度 遺物実測図⑥ (S=1/3)



大溝中央 (122~138)

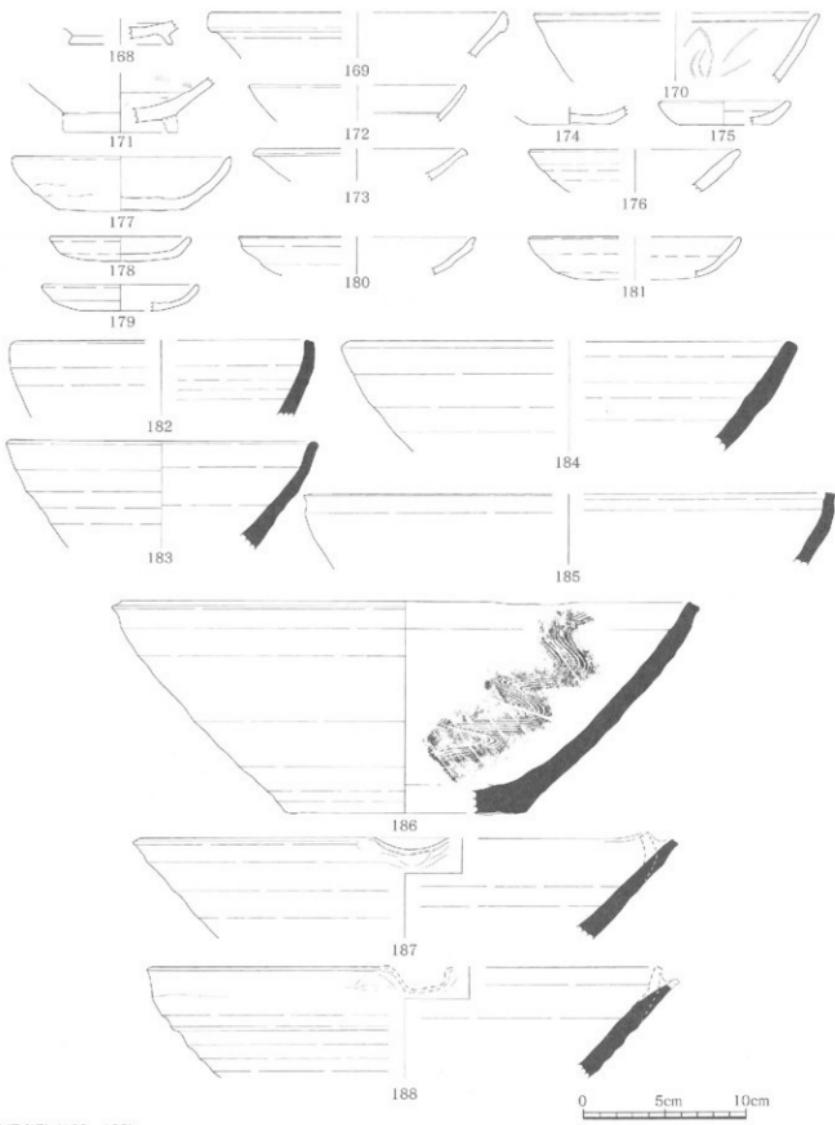
0 5cm 10cm

第14図 1990年度 遺物実測図⑦ (S=1/3)



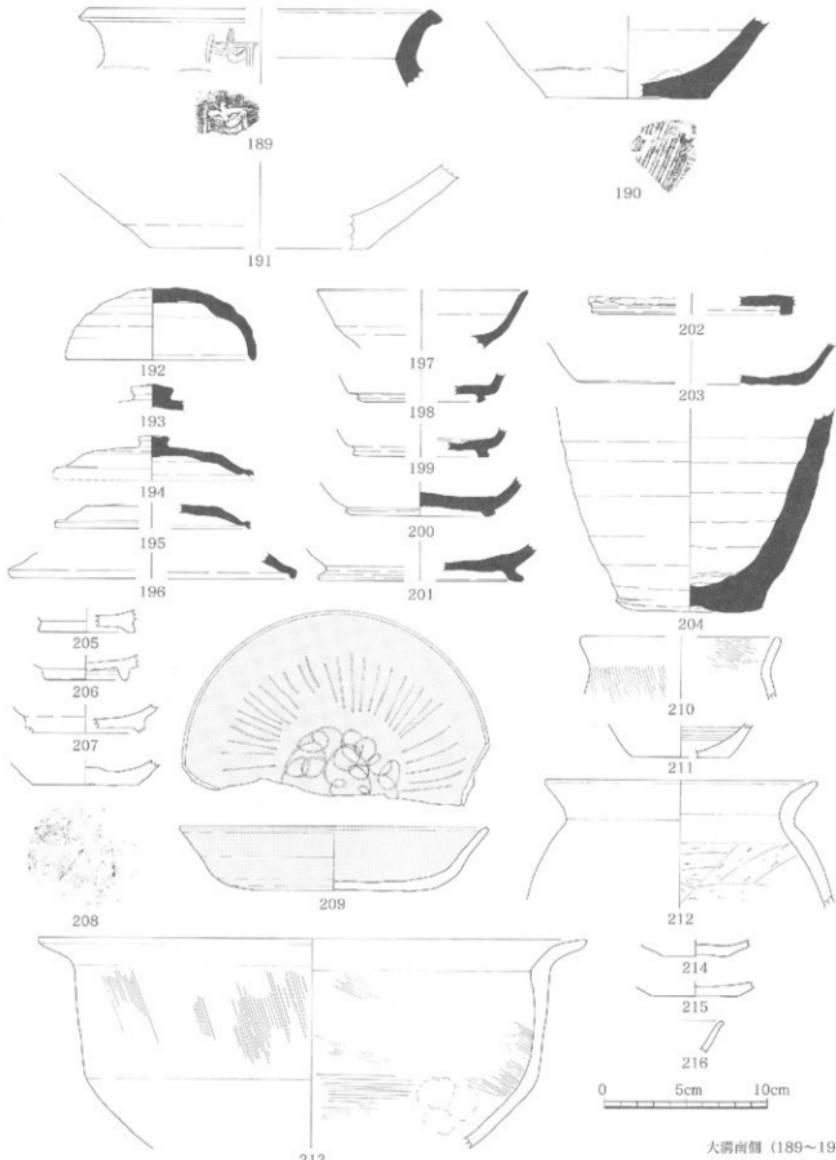
大溝南側 (139~167)

第15図 1990年度 遺物実測図⑧ (S=1/3)



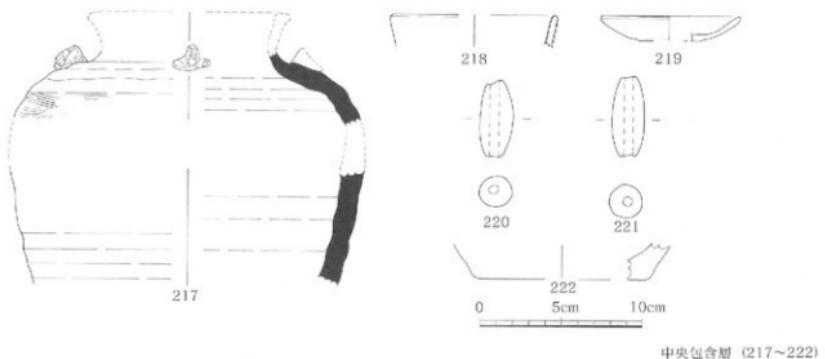
大溝南側 (168~188)

第16図 1990年度 遺物実測図⑨ (S=1/3)



第17図 1990年度 遺物実測図⑩ (S=1/3)

大溝南側 (189~191)  
中央包層 (192~216)



中央包含層 (217~222)

第18図 1990年度 遺物実測図⑪ (S=1/3)

### 遺物観察表 凡例

※ 器種 器種については一般的な名称を記すにとどめ、須恵器、土師器の別は実測図中で前者を断面黒塗りで、後者を白抜きで表現している。また、珠洲焼など須恵器系のものについても断面黒塗りとし、土師質土器や陶磁器類については土師器の表現法を踏襲したが、表中にその旨を標記している。

法量 単位はすべてcmで統一し、Cは口径を、Nは頸部径を、Wは胴部最大径を、Bは底径を、Hは器高を表している。また、土器以外のものについてはLは全長を、Wは最大幅を、Dは厚さを表している。表中数字を( )で括ったものについては推定値である。

調整 基本的に上位のものを上段に、下位のものを下段に記しているが、一部外面を上段に、内面を下段に記しているものもある。また、色調についてはaは外面を、bは内面を表しており、区別のないものは同色である。

胎土 細礫については粒の大きさをS (1mm以下)、M (1~3mm)、L (3mm以上) とし、量を1 (少量含む)、2 (やや多い)、3 (多い) で表した。また、土師器については海綿骨片などの土壤そのものに関わるものや、赤色粒などの混和材に関わるものも併せて記入した。

## 遺物觀察表 (1990年度)

番号	器種	法量	調査	色調	焼成	胎土	保存	備考
1 瓶	C:17.1	ナデ	灰褐色	良 S-2 1/8				
2 有台平	C:13.9	ナデ	灰色	良 S-2 1/4				
	B:9.7	ナデ	灰褐色	良 S-2 1/4				
3 有台平	C:13.8	ナデ	灰色	良 S-1 1/6				
	B:9.2	ナデ	灰褐色	良 S-1 1/6				
4 环	C:14.0	ナデ	a:暗灰褐色 b:灰褐色	良 S-2 1/8				
5 有台平	B:9.3	ナデ	淡灰褐色	並 S-1 小片				
6 环	C:13.8	ナデ	灰色	並 S-1 1/4				
	B:8.6	ナデ	灰褐色	並 S-1 1/4				
7 环	B:9.3	ナデ	灰色	並 S-1 小片				
8 象形	C:9.7	ナデ	a:暗灰褐色 b:灰褐色	良 S-2 小片				
9 瓶	C:13.8	ナデ	淡灰褐色	並 M-1 小片	内外赤彩			
10 瓶	C:10.2	ナデ	a:赤褐色 b:灰褐色	新 S-1 1/7				
	ハケ	ナデ	赤褐色	新 S-1 1/7				
11 瓶	C:15.4	ナデ	暗褐色	並 I-1 小片				
	ハバ	ナデ	暗褐色	並 M-1				
12 瓶	C:13.8	ナデ	深褐色	良 S-1 2/3	P-1 石英			
	ハケ	ナデ	深褐色	良 S-1 2/3	P-1 石英			
13 瓶	C:16.2	ナデ	a:暗褐色 b:暗褐色	並 S-1 小片				
	ハバ	ナデ	暗褐色	並 S-1 小片				
14 瓶	C:13.0	ナデ	暗褐色	並 M-1 1/4				
	ハバ	ナデ	暗褐色	並 M-1 1/4				
15 瓶	C:16.2	ナデ	a:赤褐色 b:暗褐色	並 M-1 小片				
	ハバ	ナデ	赤褐色	並 M-1 小片				
16 瓶	C:15.0	ナデ	a:褐色	不良 S-M-1 1/6	P-2			
	ハバ	ナデ	b:褐色	不良 S-M-1 1/6	P-2			
17 瓶	W:26.2	ハケ	淡褐色	並 S-L-1 1/5	第十花崗岩 接合			
				M-2				
18 筋縫車	I-5.1				石製品	完	3 8 g	
	H-1.0							
19 瓶	C:16.9	ナデ	灰色	良 S-1 完	P-2			
	H:3.9	ナデ	灰色	良 S-1 完	P-2			
20 瓶	C:21.8	ナデ	a:黄褐色 b:暗褐色	良 S-2 1/8				
	ハバ	ナデ	a:黄褐色 b:暗褐色	良 S-2 1/8				
21 瓶	C:25.0	ナデ	a:暗褐色 b:暗褐色	並 M-2 1/4				
	ハバ	ナデ	a:暗褐色 b:暗褐色	並 M-2 1/4				
22 盖	W:3.5	ナデ	灰色	良 S-2 完				
23 盖	C:14.5	ナデ	灰色	良 S-2 1/6	自然物(海)			
24 盖	C:15.8	ナデ	灰色	良 S-2 2/3	自然物			
	H:3.0	ナデ	灰色	良 S-2 2/3	自然物			
25 盖	C:16.1	ナデ	灰色	並 S-1 1/4				
	ハバ	ナデ	灰色	並 S-1 1/4				
26 盖	C:16.4	ナデ	灰色	良 S-2 小片	内面生地痕			
	ハバ	ナデ	灰色	良 S-2 小片	内面生地痕			
27 盖	C:17.8	ナデ	a:暗黄色 b:灰褐色	良 S-2 1/4	内面生地痕			
	ナデ	ナデ	a:暗黄色 b:灰褐色	良 S-2 1/4	内面生地痕			
28 盖	C:15.0	ナデ	灰色	良 S-3 4/5	心網印 (斜位)			
	ナデ	ナデ	灰色	良 S-3 4/5	心網印 (斜位)			
29 盖	C:16.1	ナデ	灰色	並 S-1 1/6				
30 有台平	C:15.0	ナデ	灰色	良 S-2 1/5				
	B:9.0	ナデ	灰色	良 S-2 1/5				
31 有台平	B:9.9	ナデ	灰色	良 S-2 1/2				
	ハバ	ナデ	灰色	良 S-2 1/2				
32 有台平	B:10.1	ナデ	赤褐色	不良 S-2 2/3	輕用鐵			
	ハバ	ナデ	赤褐色	不良 S-2 2/3	輕用鐵			
33 环	C:11.8	ナデ	a:暗灰褐色 b:灰褐色	並 S-2 小片	高油黏質			
34 环	C:15.2	ナデ	灰色	良 S-1 小片				
35 环	C:14.8	ナデ	灰色	良 S-2 1/5				
36 环	C:13.4	ナデ	a:暗灰褐色 b:灰褐色	並 S-1 1/4				

番号	器種	法量	調査	色調	焼成	胎土	保存	備考
37 环	C:15.2	ナデ	灰色	並 M-1 1/4				
	B:9.2	ナデ	灰色	並 M-1 1/4				
38 环	B:9.0	ナデ	a:青灰褐色 b:灰褐色	並 S-1 1/4	黑堆粘質			
39 环	C:(13.6	ナデ	a:青灰褐色 b:灰褐色	並 S-L-1 1/4				
	B:9.1	ナデ	a:青灰褐色 b:灰褐色	並 S-L-1 1/4				
40 环	B:7.9	ナデ	暗灰色	並 S-1 1/4				
41 長壺頭	W:17.4	ナデ	a:暗灰褐色 b:灰褐色	良 S-3 完	P-1			
42 檍	C:16.6	ナデ	黑褐色	並 M-1 1/7	内外赤彩			
43 檇	C:13.6	ナデ	暗褐色	並 S-2 小片				
44 檇	B:7.2	ケズリ	暗褐色	並 S-M-2 1/2				
45 瓢	C:12.4	ナデ	暗褐色	並 S-1 1/4				
	ハケ	ナデ	暗褐色	並 S-1 1/4				
46 瓢	C:12.2	ナデ	a:暗褐色 b:深褐色	並 S-1 1/6	炭化物			
	ハケ	ナデ	a:暗褐色 b:深褐色	並 S-1 1/6	炭化物			
47 瓢	C:12.4	ナデ	a:暗褐色 b:暗褐色	並 S-2 1/3				
	ハケ	ナデ	a:暗褐色 b:暗褐色	並 S-2 1/3				
48 瓢	C:17.6	ナデ	褐色	並 SI 黑斑 石英	小片			
49 瓢	C:18.0	ナデ	褐褐色	不良 S-2 石英	1/8			
50 瓢	C:19.3	ナデ	a:深褐色 b:深褐色	並 M-2 1/3	黑地點質			
51 瓢	C:29.2	ナデ	暗褐色	並 S-1 小片				
52 瓢	C:12.4	ナデ	a:灰色 b:深灰色	良 S-2 1/8				
53 有台平	B:10.0	ナデ	灰色	並 S-1 1/5	摩耗擦			
54 环	C:14.2	ナデ	灰色	並 S-1 1/3	P-3			
	ハバ	ナデ	灰色	並 S-1 1/3	P-3			
55 瓢	C:17.4	ナデ	深褐色	並 S-2 小片	P-5			
	ハケ	ナデ	深褐色	並 S-2 小片	P-5			
56 瓢	C:14.6	ナデ	a:暗褐色 b:深褐色	並 S-2 1/4	剥離微			
	ハケ	ナデ	a:暗褐色 b:深褐色	並 S-2 1/4	剥離微			
57 环	B:7.8	ナデ	a:灰色 b:暗褐色	並 S-1 1/3				
	ハバ	ナデ	a:灰色 b:暗褐色	並 S-1 1/3				
58 瓢	C:13.8	ナデ	暗褐色	並 S-L-1 M-3 2/3	P-4			
	H:13.9	ナデ	暗褐色	並 S-L-1 M-3 2/3	P-4			
59 瓢	W:8.0	ナデ	a:褐色 b:暗褐色	並 S-3 2/3 1/3	P-3			
	ハバ	ナデ	a:褐色 b:暗褐色	並 S-3 2/3 1/3	P-3			
60 瓢	C:18.0	ナデ	暗褐色	並 S-1 石英	1/7			
	ハバ	ナデ	暗褐色	並 S-1 石英	1/7			
61 瓢	C:19.4	ナデ	褐色	並 S-M-1 石英	1/5 P-6			
	W:20.2	ナデ	褐色	並 S-M-1 石英	1/5 P-6			
62 塔	C:32.0	ナデ	暗褐色	並 S-1 小片				
63 盆	C:15.8	ナデ	a:深褐色 b:深灰色	良 S-1 1/6				
	ケズリ	ナデ	a:深褐色 b:深灰色	良 S-1 1/6				
64 塔	C:33.4	ナデ	暗灰褐色	並 S-L-1 M-2 小片				
	ハバ	ナデ	暗灰褐色	並 S-L-1 M-2 小片				
65 盆	天:6.2	ナデ	a:暗褐色 b:灰褐色	良 S-2 1/4				
	ハバ	ナデ	a:暗褐色 b:灰褐色	良 S-2 1/4				
66 盆	C:14.6	ナデ	a:灰褐色 b:灰白色	良 S-2 2/3				
	ハバ	ナデ	a:灰褐色 b:灰白色	良 S-2 2/3				
67 环	C:13.3	ナデ	a:和灰褐色 b:灰褐色	良 S-2 1/6				
	H:3.7	ナデ	a:和灰褐色 b:灰褐色	良 S-2 1/6				
68 瓢	C:34.0	ナデ	褐色	並 S-M-1 海苔	1/8			
	ハケ	ナデ	褐色	並 S-M-1 海苔	1/8			
69 瓢	C:17.2	ナデ	深褐色	並 S-2 小片	摩耗			
	ハバ	ナデ	深褐色	並 S-2 小片	摩耗			
70 瓢	C:15.4	ナデ	暗褐色	並 S-M-1 1/6	摩耗			

番号	石種	法 量	調 整	色 調	焼成	船 土	過存	備 考
71	雲	C:21.2	ナフ→ナフ	淡褐色	並	S-L-2 海骨	小片	
72	雲	C:19.8	ナフ	a:淡褐色 b:淡褐色	並	S-1	小片	
73	雲	C:23.8	ナフ・ナフ W:24.0	a:淡褐色 b:淡褐色	並	S-2	小片	
74	雲	C:28.0	ナフ	淡褐色	並	S-2 M-1	1/8 厚耗激	
75	雲	C:27.0	ナフ	淡褐色	並	M-2	小片	
76	石	C:30.2	ナフ→ナフ	淡褐色	並	S-M-2 海骨	小片	
77	雲	C:39.0	ナフ	a:淡褐色 b:淡褐色	並	M-2 L-1	小片 糊か	
78	石	C:38.2	ナフ	a:淡褐色 b:淡褐色	並	S-2 M-1	小片	
79	石	C:38.0	ナフ	淡褐色	並	S-2	1/3	
80	石	C:39.2	ナフ・ナフ	淡褐色	並	S-M-2	小片	
81	石	C:14.0	ナフ→ナフ H:3.3	灰色	良	S-2	1/2	
82	鈍	C:8.6	ナフ	淡褐色	並	S-M-1	1/6	
83	鈍	B:3.8	ナフ	a:但角色 b:褐色	並	S-1	光 柔切	
84	雲	C:11.8	ナフ	淡褐色	並	S-2	1/6	
85	雲	C:16.2	ナフ・鮮白	淡褐色	並	S-M-1	1/3	
86	雲	C:19.0	ナフ	淡褐色	並	M-1	小片	
87	雲	B:7.8	ナフ・ケズリ	a:暗褐色 b:淡褐色	並	S-3 M-L-1	1/5	
88	雲	C:21.6	ナフ	a:淡黃褐色 b:淡褐色	並	S-2	1/6 厚耗	
89	雲	C:18.0	ナフ	淡褐色	並	S-2	1/4	
90	雲	C:22.5	ナフ	a:淡黃褐色 b:淡褐色	並	S-2 石英	1/8	
91	石	C:28.8	ナフ	淡褐色	並	S-3 褐鐵 褐鐵 褐鐵	小片	
92	石	C:33.0	ナフ	淡褐色	並	S-3	小片	
93	雲		ナフ→ナフ ナフ状剥け	淡褐色	並	S-3 海骨 (把子)	光	
94	雲	C:16.3	ナフ	灰色	並	S-1	小片	
95	鈍瓶	ガラス10	ナフ	灰色	良	S-2	1/4 外圓降灰	
96	製造 土器	C:14.0	ナフ 指揮柱	a:淡黃褐色 b:淡黃色	並	S-3 赤泥粘土	1/8	
97	雲	C:13.0	ナフ	淡褐色	並	S-2	1/7	
98	小型 土器	C:4.7 H:3.9	ナフ	淡黃白色	稍良	1/2 十葉羽茎 (鉢茎写)		
99	石	C:14.8	ナフ→ナフ	灰色	良	S-1	1/3 内面 ナフ剥	
100	石	C:14.8	ナフ	a:淡灰色 b:灰色	良	S-1	小片 ナフ剥	
101	雲	C:24.0 カサリ目	ナフ	淡褐色	並	S-2	小片	
102	雲	W:2.8	ナフ	淡灰色	良	S-1	光 外圓降灰	
103	雲	天保:10.5 H:4.0	ナフ→ナフ	灰色	良	S-2	2/3 外圓降灰	
104	有台环	C:13.8	ナフ	灰色	並	S-1	小片	
105	有台环	B:10.9	ナフ	灰色	良	S-1	小片 厚耗激	
106	环	B:7.3	ナフ	灰色	良	S-1	1/6	
107	雲	C:21.5 H:4.0	ナフ	灰色	並	稍良	小片	
108	鈍	B:(11.0)	ナフ	a:淡褐色 b:淡黃褐色	並	稍良	1/8	

番号	器種	法 量	調 整	色 調	焼成	船 土	過存	備 考
109	蓋	C:9.9	ナフ→ナフ H:3.5	灰色	良	S-1	1/4	
110	蓋		ナフ	淡灰褐色	不良	S-2	1/6	單耗微
111	有台环	C:11.1	ナフ	灰色	良	S-1	2/3	
112	环	C:11.6	ナフ	灰色	良	S-1	小片	
113	环	C:16.7	ナフ	淡灰色	並	S-1	小片	
114	环	C:16.9	ナフ	灰色	良	S-1	小片	
115	有台环	B:7.3 ナフ→ナフ	ナフ	灰色	良	S-1	1/3	
116	环	C:13.8	ナフ H:2.5 ナフ→ナフ	淡灰褐色	並	S-1	小片	
117	环	B:8.7	ナフ→ナフ	a:淡白色 b:灰色	並	S-1	1/6	
118	环	C:12.0	ナフ	灰色	良	S-1	小片	
119	有台环	N:8.5	ナフ	a:淡褐色 b:灰色	良	S-1	1/4	外圓降灰
120	広口盃	C:24.0	ナフ	暗灰褐色	良	S-1	小片	
121	長颈瓶 (台付)	W:17.4	ナフ	灰色	良	S-2	1/5	外圓降灰
122	圓耳瓶	W:21.9	ナフ	灰色	良	S-2	小片	圓耳微凹 耳部微凹
123	頸頸 (底付)	B:8.1	ナフ	灰色	良	S-2	2/3	圓耳微凹
124	鈍	B:4.4	ナフ	棕褐色	良	S-1	1/2	圓耳微凹 赤色粒
125	鈍	B:6.5	ナフ	淡棕褐色	良	精良	光	厚耗微
126	鈍		ナフ	淡黃白色	精良	1/2		圓耳微凹
127	鈍	B:5.8	ナフ	淡地褐色	良	精良	1/2	內凹
128	鈍	B:7.0	ナフ	淡地褐色	精良	光	內凹	內凹
129	鈍	C:10.4	ナフ	棕黃色	並	M-L-2 H:3.8	1/2	圓耳微凹 薄唇
130	蓋	B:7.0	ナフ	淡黃褐色	並	S-1	1/5	厚耗微
131	鑿孔 (口)	C:39.8	ナフ	暗灰褐色	良	S-2	小片	珠圓
132a	瓶	C:7.3	ナフ	棕褐色	良	精良	1/2	圓耳微凹 中曲
132b	瓶	C:12.8 H:2.4	ナフ	淡褐色	並	精良	1/2	非對称 中曲
133	瓶	C:12.4	ナフ	淡黃白色	良	S-1	小片	非對称 中曲
134	白輪瓶		ケズリ	露胎白口	良	堅緻	1/2	長形外延輪 乳白色
135	白輪瓶	C:19.3 H:(7.8)	ナフ	露胎白口	良	堅緻	1/3	青白無輪 淡黃白色
136	刮削器	W:6.5						245 g 肩石灰山岩
137	刮削器	W:6.5 D:2.6						219 g 泥灰岩
138	刮削器	W:7.6 D:2.5						175 g 泥灰岩
139	蓋	C:12.7	ナフ	灰褐色	並	S-1	小片	
140	蓋	C:12.2	ナフ	a:灰褐色 b:灰色	良	S-2	1/4	外圓降灰
141	有台环	B:7.6	ナフ	青灰褐色	良	S-M-2	1/4	
142	有台环	B:9.5	ナフ	灰白色	並	S-1	小片	
143	有台环	B:8.9 ナフ→ナフ	ナフ	灰色	良	S-1	1/4	
144	环	C:14.4 H:2.8 ナフ→ナフ	ナフ	淡灰褐色	並	S-1	小片	
145	蓋		ナフ	灰白色	並	S-2	小片	
146	盖	W:13.6	ナフ	灰色	良	S-1	1/4	深青自然物
147	盖	B:10.1	ナフ	a:湖綠色 b:灰色	良	M-1	1/4	
148	双耳瓶	W:25.3 ナフ→ナフ	ナフ	灰色	並	S-1	1/3	

番号	器種	法量	調整	色調	地成	胎土	遺存	備考
149	双耳瓶	特目:サ	灰色	良	S-3	1/3	穴径1.1	
150	陶	C:12.2	ナデ	淡褐色	並	S-1	1/7	四瓣1条
151	陶	C:13.2	ナデ	褐色	良	S-1	1/8	四瓣分片
152	陶	C:16.0	ナデ	淡黄褐色	並	精良	1/3	圆轮系切
153	陶	B:6.0	ナデ	淡黄褐色	並	精良	1/2	圆轮系切
154	陶	B:6.2	ナデ	a:淡褐色 b:淡褐色	新	S-1	光	圆轮系切
155	陶	B:11.5	ナデ	赤褐色	良	S-M-2	1/4	圆轮系切
156	陶	B:7.0	ナデ	赤褐色	良	S-1	1/6	圆轮系切 内黑
157	陶		ナデ	淡褐色	良	S-1	1/3	圆轮系切 内黑
158	陶	B:(5.4)	ナデ	淡褐色	並	S-1	1/4	圆轮系切
159	陶	B:4.8	ナデ	淡黄褐色	並	S-3	1/4	圆轮系切
160	陶	B:5.0	ナデ	a:淡褐色 b:淡黄色	良	M-1	光	圆轮系切
161	陶	B:4.3	ナデ	淡黄白色	並	精良	1/4	圆轮系切
162	陶	B:5.5	ナデ	淡黄褐色	良	精良	1/3	圆轮系切
163	陶	B:5.9	ナデ	褐色	良	S-1	1/3	圆轮系切
164	陶	H:(5.8)	ナデ	a:褐色 b:淡褐色	等	S-2	1/5	圆轮系切
165	陶	B:6.9	ナデ	褐色	良	S-M-2	1/2	圆轮系切
166	陶	B:6.9	ナデ	淡褐色	良	S-1	1/5	圆轮系切 内黑
167	甕	C:15.5	ナデ	淡褐色	並	S-2	小片	
168	陶	B:6.2	ナデ	赤褐色	並	精良	1/8	(鉢)
169	玉環陶	C:18.0	ナデ	淡褐色	良	堅緻	小片	(青磁)
170	陶	C:17.5	ナデ	淡褐色(白色)	良	堅緻	小片	(青磁)
171	陶		ナデ	淡褐色(白色)	良	堅緻	1/4	(青磁)
172	皿	C:13.2	ナデ	淡褐色	良	堅緻	小片	(青磁)
173	折沿盤	C:13.2	ナデ	淡褐色	良	堅緻	小片	(青磁)
174	皿	B:4.5	ナデ	褐色	並	堅緻(斷面)	1/2	
175	小皿	C:8.1	ナデ	淡黄褐色	並	精良	1/4	圆轮系切
		H:1.5						
176	中皿	C:13.0	ナデ	褐色	良	S-1	1/6	中世
177	陶	C:13.3	ナデ	淡黄褐色	並	精良	1/2	圆轮系切
178	小皿	C:8.4	ナデ	淡黄白色	並	S-1	光	輪切
179	小皿	C:9.4	ナデ	淡黄白色	並	精良	1/5	輪切
180	中皿	C:14.6	ナデ	淡黄白色	良	S-1	小片	輪切
181	中皿	C:13.0	ナデ	淡黄白色	並	精良	1/6	輪切 2次被熱
182	钵	C:18.5	ナデ	淡灰褐色	不良	S-1	小片	深腹
183	钵	C:19.1	ナデ	a:淡黄色 b:褐色	良	S-2	1/4	珠洲 (青磁)
184	钵	C:28.0	ナデ	a:淡色 b:褐色	不良	S-L-1	小片	珠洲
185	片口钵	C:32.6	ナデ	灰色	良	S-1	小片	珠洲
186	片口钵	C:36.0	ナデ	暗青褐色	良	S-1	1/6	珠洲 B:34.9 H:13.0
187	片口钵	C:33.4	ナデ	a:灰色 b:褐色	良	S-2	1/6	珠洲
188	片口钵	C:34.0	ナデ	灰色	良	S-M-2	小片	珠洲
189	束	C:22.2	ナデ	暗灰色	良	S-2	1/4	珠洲
190	皿	B:10.2	ナデ	灰色	並	S-2	1/4	珠洲 (鉢)
191	皿	B:13.3	摩耗	a:淡灰褐色 b:淡褐色	不良	M-1	小片	静止系切
192	皿	C:11.5	ナデ	灰色	並	S-2	1/2	調整難
		H:4.5						
193	鉢	W:2.6	ナデ	灰色	良	S-2	完	内向+記号
194	皿	C:(12.2)	ナデ	灰色	具	S-M-1	1/2	
195	皿	C:11.8	ナデ	灰色	良	S-1	1/7	
		H:3.8						
196	皿	C:17.3	ナデ	灰色	良	S-1	小片	
197	片	C:32.9	ナデ	灰色	良	S-1	1/8	
198	有台盘	B:7.9	ナデ	a:淡灰褐色 b:灰色	並	S-1	1/8	
		H:4.5						
199	有台盘	B:8.4	ナデ	灰色	並	S-1	1/5	摩耗
200	有台盘	B:9.2	ナデ	灰色	並	S-2	1/4	
		H:3.8						
201	有台盘	B:12.5	ナデ	灰色	良	S-2	1/8	
		H:3.8						
202	有台盘	B:13.2	ナデ	暗灰褐色	良	S-2	1/5	転用器
		H:3.8						
203	盤	B:13.8	ナデ	灰色	並	S-L-1	小片	
		H:3.8						
204	双耳瓶	B:9.0	ナデ	灰色	良	S-2	1/2	器表面粗
		H:3.8						
205	碗	B:6.0	ナデ	淡褐色	並	S-1	1/2	
		H:3.8						
206	圓輪網	B:5.0	ナデ	淡褐色	良	S-1	1/3	質付無積 暗綠褐色 近世
		H:3.8						
207	碗	B:(6.6)	ナデ	a:淡褐色 b:淡褐色	並	M-1	1/3	摩耗痕
		H:3.8						
208	甕	B:6.6	ナデ	淡褐色	並	S-1	2/3	系切
		H:3.8						
209	碗	C:19.0	ナデ	淡褐色	並	M-1	1/2	内曲端斜 内外赤彩
		H:3.8						
210	甕	C:12.4	ナデ	淡褐色	並	S-2	1/8	黑雲母
		H:3.8						
211	甕	B:6.0	ナデ	a:淡褐色 b:淡褐色	並	S-2	1/4	系切
		H:3.8						
212	甕	C:16.4	ナデ	淡褐色	並	M-2	1/3	
		H:3.8						
213	瓶	C:33.6	ナデ	淡褐色	並	M-L-2	1/4	摩耗痕
		H:3.8						
214	皿	B:4.2	ナデ	淡褐色	並	S-1	3/4	系切 内曲
		H:3.8						
215	皿	B:5.4	ナデ	淡褐色	並	S-L-1	1/2	摩耗痕
		H:3.8						
216	小皿 (鉢)	B:6.0	ナデ	淡褐色	並	精良	小片	緑灰褐色 輪切
		H:3.8						
217	四耳甕	W:21.8	ナデ	灰色	良	S-2	1/8	珠洲 耳部積付
		H:3.8						
218	碗	C:(10.2)	ナデ	素地白色	良	堅緻	小片	淡褐色
		H:3.8						
219	小皿 (鉢)	C:8.4	ナデ	淡褐色	良	S-1	1/6	自然地 (淡褐色)
		H:3.8						
220	土罐	L:4.8	ナデ	淡褐色	並	S-3	完	穴径0.6
		W:2.1						1.5 g
221	土罐	L:5.0	ナデ	淡褐色	並	L-1	完	穴径0.6
		W:2.0						2.0 g
222	深钵 (鉢)	B:11.0	ナデ	淡褐色	並	S-2	1/8	
		H:3.8						

## 第2節 1991年度の調査

### 1. 調査の経過と概要

南側に位置する調査区は、前年度に続き都市計画道路を優先した調査区であり、遺跡推定地の西端部分にあたる。また、北側の南北に長い調査区は四十万中林線建設に係る調査区であり、推定地の北端に近い部分である。南調査区については北流する基幹用水を境としてさらに西調査区（W区）、東調査区（E区）に2分して調査をおこなった。その結果中央及び北側を近代の旧河川が貢流するものの全域にわたって古代の良好な集落跡が残されていることが確認された。中でも調査区北端で検出した横穴式石室を有する古墳の存在には、当初まったく予想していなかっただけに驚かされる結果となつた。遺跡全体の広がりとしては、西側及び北側にやや伸びるようであるが、事前の試掘調査で前年度調査区より続く旧河川の覆土（灰色粘土）を遺跡の終焉とした可能性が高い。

### 2. 遺構と遺物

当調査区では、竪穴住居16棟、掘立柱建物11棟、土坑82基、溝100条以上（欲溝状含む）、その他多数のピット及び横穴式石室1基が確認されている。この内、横穴式石室を有する上林古墳については遺跡地図への登載で別遺跡として扱っているため後に報告することとし、ここではそれ以外の遺構及び遺物の概略を記する。当調査区は、中央を北流する近代の旧河川（大正初期の耕地整理以前までは開口していたものと思われる）2条により大きく破壊を受けており、特に上林古墳の墳丘推定地までをも破壊していることが惜しまれる。

#### ① 竪穴住居

旧河川により破壊を受けている中央部分は不明であるが、大半を破壊されたS I-9111と過半を未検出のS I-9113をのぞけば大きく東西の2ブロックに分けることができ、西側のブロック（S I-9101～9110）はさらに軸方位をほぼ同じくする大型住居2棟（9107・9108）、中型住居4棟（9101・9105・9106・9110）、小型住居2棟（9103・9109）の住居群と、軸を大きく西に違え、偏平な長方形を呈するS I-9102・9104に2分することができる。この内S I-9106は壁高45cmと深く、東南隅に非常に残りの良い、河原石を芯にして粘土で覆ったカマドを有する。実測し得た遺物を検出したのはS I-9103・04・05を除く8棟であるが、S I-9102・10については判断を保留したい。S I-9101は輪轤成形の小甕（第32図2）、堀（第32図4・5）をもつものの長胴甕（第32図3）については体部上半が不明であるが下半にハケ及びケズリ調整を残しており、8世紀前半に位置付けたい。S I-9106については当ブロック中最も新しいものであり、8世紀末頃の所産であろう。S I-9107については全形を窺えるものは少ないものの、土師器種に多く見られる端部を丸く収める手法から7世紀中頃を考えておきたい。S I-9108は7世紀前半に測るもの（第33図30・35等）を含み少ない中にも8世紀中頃まで下るものが見られ判然としないが、プラン上の確認ではS I-9107に後続しており、7世紀後半以降に置きたい。その他S I-9109・11は共に7世紀中頃であろう。

これに対して東側のブロックでは規模、軸方位、プランのほぼ等しいS I-9115・9116、北側に隣接し、軸をやや東へ振り床面の浅いS I-9114、古墳石室に南接する不定形のS I-9112が見られる。この内、S I-9112は検出当初から住居跡としては疑問があったものの南東角近くに薄い焼土痕を認めたため住居として扱った。旧河川覆土の灰色粘土にかなりの部分を覆われており、地山も非常に粘質の強い土であったためプランの決定にはやや不安を抱くが、南西角にある方形の土坑下層から僅か

に骨片（粒）を検出している。土塊を握れば水が滴るほどの強い湿気を帯びた土であったため、骨片検出後はすぐに溶けてしまい何の骨であったかは確認できていないが、微少な骨片の様子や同時に炭化物等の検出がなかったため火葬骨ではないものと思われる。後に述べる石室破壊時の出来事に関係する施設であろうか。残念ながら時期決定に有効な遺物の出土はなかった。S I-9114については覆土の過半が失われており、実測し得た遺物は僅かに 2 点であり判断を保留する。また、最も端正な形を呈する S I-9115 は火葬住居であり、炭化材とともにほぼ完形の横軸 2 点（第41図220・221）と平瓶 1 点（第41図219）が出土している。とともに通常の集落内住居からはあまり出土しないものであり、上林古墳で催された葬送儀礼に係わる住居と思われる。7世紀初頭に位置付けたい。同時に存在と思われる S I-9116 には平瓶の口縁部と思われる小片 2 点（第43図228・229）や内面にミガキを施した鉢（第43図233・234）が見られる。完形に近い甕（第43図235・236）についても矛盾のないものであろう。

### ② 挖立柱建物

西側調査区で 6 棟、東側調査区で 4 棟確認している。S B-9101・9102 は建物復元が妥当であればともに梁行 2 間に対して桁行 6 間を越える長大な建物であり、特別な機能を持った建物であろう。同一場所での建て替えを通して、機能の継承もおこなわれたものと考えられる。同様に東西棟となる S B-9103・9104 も同一場所での機能を継承した建て替えと思われる。この内 S B-9104 は唯一 S I-9106 と干渉しているが、プラン上での前後関係の確認はできていない。その他、S B-9106 については建物復元が少々強引であったかも知れない。柱穴からの遺物は S B-9102 を形成する S P-9101 から 1 点出土（第35図49）しているが、小片のためここでは積極的に論じることを控える。

これに対して東側調査区での掘立柱建物の在り方は、竪穴住居の分布と等しく北側では見られないようである。柱穴の規模から建物として復元した S B-9107 は、西側に位置する S B-9105 と主軸方位をほぼ等しくする。柱穴からの遺物は、S B-9108 を形成する S P-9128・29 から僅かに出土しているが、図化に耐えるものではなかった。

また、北側の調査区（四十万中林線建設予定地）で確認された S B-9111 は北桁推定で 10 間、南側同じく推定で 12 間と東西方向に 1 間ずつ張り出し、梁行 1 間の特殊な建物であり、門のような施設と考えられる。深さはさほどではないものの、掘り方が他の建物と比べて非常に立派であり、周辺の遺構からは仏器である鉄鉢（土師器）が特徴的に見られる。建物を形成する柱穴から直接出土したものではないが、想定される性格から同時期のものである可能性が高い。8世紀後半頃の所産であろう。この建物については中央部を現在の道路が貫通しており、全容を窺い知れなかつたことが残念である。

### ③ ピット

数多く存在するピットの内、遺物が出土したものは過半数に上るが、遺構の性格を含めその意義を解明し得ないため紙数の制約もありここでは大半を割愛した。上林古墳の西に隣接する S P-9109 は大半を旧河川の覆土により破壊されている。第44図 237 は八日市新保式の丁寧な作りの深鉢である。同様に過半を破壊された S P-9110 からは小型鉢形土器（第44図 238）、底部に網代圧痕をもつ粗製深鉢（第44図 239）が出土している。この内、前者は内面にタール状の油性付着物を掻き取ったような痕跡が認められる。とともに 237 と同一時期の所産であろう。南部地区全域をとおして該期の集落を構成する遺構は確認されていないものの、普遍的に確認される打製石斧の在り方と合わせ縄文時代晩期にも人々の生活の舞台があったことを物語っている。

### ④ 土坑

確認された土坑 71 基に対して遺物を図示し得たものは僅かに 8 基であり、他は小片が僅かに出土した程度に止まる。この内、西調査区の南東壁際に位置する S K-9106 からは須恵器が 3 点図化されて

おり、7世紀初頭に位置付けられる。また、東側調査区の中程西寄りに位置する円形上坑S K-9107からは糸切り底の土師器4点に加え、白磁玉縁碗が2点図化されている。

#### ⑤ 溝

S D-9101は調査区中央を東西に弧を描くようにして位置する溝である。幅員は東側で若干広くなる傾向があるもののほぼ均一(0.8~1.26m)であり、深さは地山の高まりとともに東側へ向かうにつれ徐々に深くなる(14cm~31cm)。図に示した須恵器の甕(第35図62)は旧河川の西側、S D-9102と接する地点の付近から出土している。帰属が確実であれば8世紀末を測らないものであるが、周辺の住居群と古墳との在り方から、集落と墓域とを区画するための溝であった可能性も捨て切れない。また、旧河川の西側に半円状に沿うS D-9102はある程度の遺物が出土しているものの旧河川と同様の灰色シルトを覆土としており、後世のものであろう。その他、旧河川跡については5ヵ所の断ち割りを入れて調査をおこなった。出土した遺物は多岐多量にわたるもの、僅かに中世を含んだ後は近世末から近代までにかけての断絶を看過でき、この地が13世紀前後を境として農地等人々の生活(集落)から離れた用途に供されたことがわかる。

### 遺構一覧表

#### ・ S I (竪穴住居)

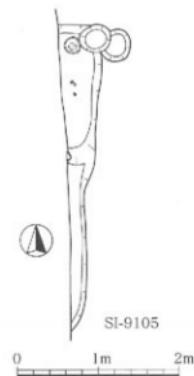
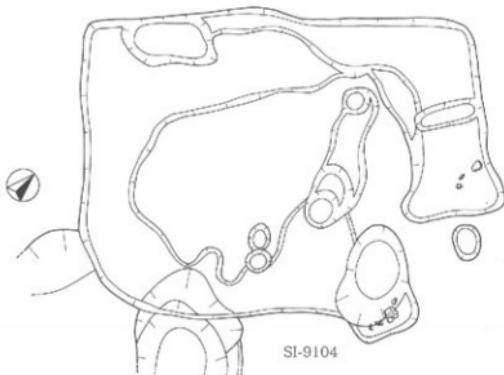
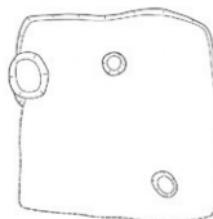
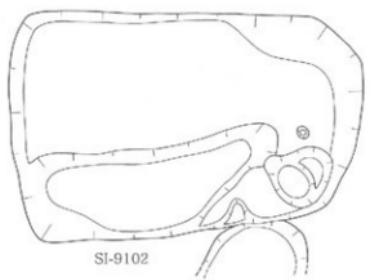
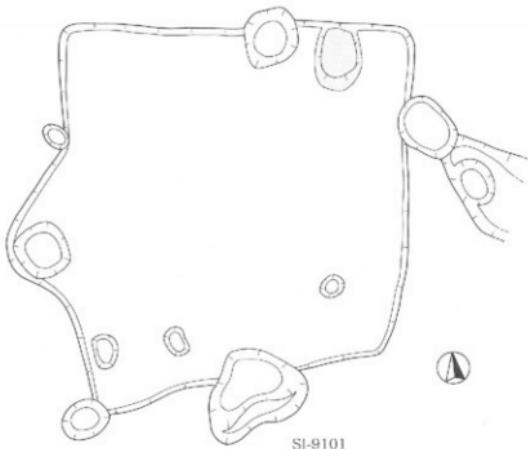
番号	長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)	床面積(m <sup>2</sup> )	形 状	主軸方位	備 考
9101	4.34	4.3	9	18.7	方形	N6°E	III~IV <sub>1</sub>
9102	4.34	2.76	24	10.98	略長方形	N36°E	須恵器・土師器
9103	(2.52)	2.44	7	6.14	方形	N3°E	
9104	5.1	3.8	10	(21.47)	略長方形	N44°W	
9105	(3.8)	—	13	—	—	N1°E	
9106	3.68	3.64	45	13.03	方形	N15°E	IV <sub>2</sub> (新)~V <sub>1</sub>
9107	5.66	5.6	7	29.46	略方形	N17°E	I <sub>2</sub> ~II <sub>1</sub>
9108	6.2	5.84	16	35.38	略方形	N12°E	混入
9109	(2.84)	—	19	—	方形か	N12°E	II <sub>2</sub>
9110	(3.74)	3.5	11	(13.18)	長方形	N0°	土師器
9111	—	—	4	—	—	N0°	II <sub>2</sub> ?
9112	(4.66)	(4.4)	25	(17.87)	略長方形	N3°W	
9113	—	—	24	—	—	N16.5°E	
9114	5.4	(3.9)	5	(20.53)	長方形か	N23°E	
9115	5.9	4.8	24	28.22	略長方形	N8.5°E	火災住居
9116	5.56	5.5	23	31.88	略方形	N10°E	

・ S B (掘立柱建物)

番号	規模	桁行(m)	梁行(m)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方位	備考
9101	(6)×2	(9.32)	5.08	(47.35)	N7°W	
9102	(7)×2	(12.44)	5.08	(63.20)	N4°W	須恵器
9103	4×2	5.28	4.52	23.87	N8°E	
9104	4×2(3)	6.20	4.40	27.28	N12°W	
9105	(5)×2	(7.92)	4.64	(36.75)	N20°W	
9106	—	—	—	—	N46°W	
9107	—	—	—	—	N16°W	
9108	4×2	7.36	3.80	27.97	N10.5°W	土師器小片
9109	3×2	5.20	3.48	18.10	N1.5°W	
9110	5×2	7.08	4.48	31.72	N3°E	
9111	(10)(12)×1	—	4.32	(176.25)	N8°E	

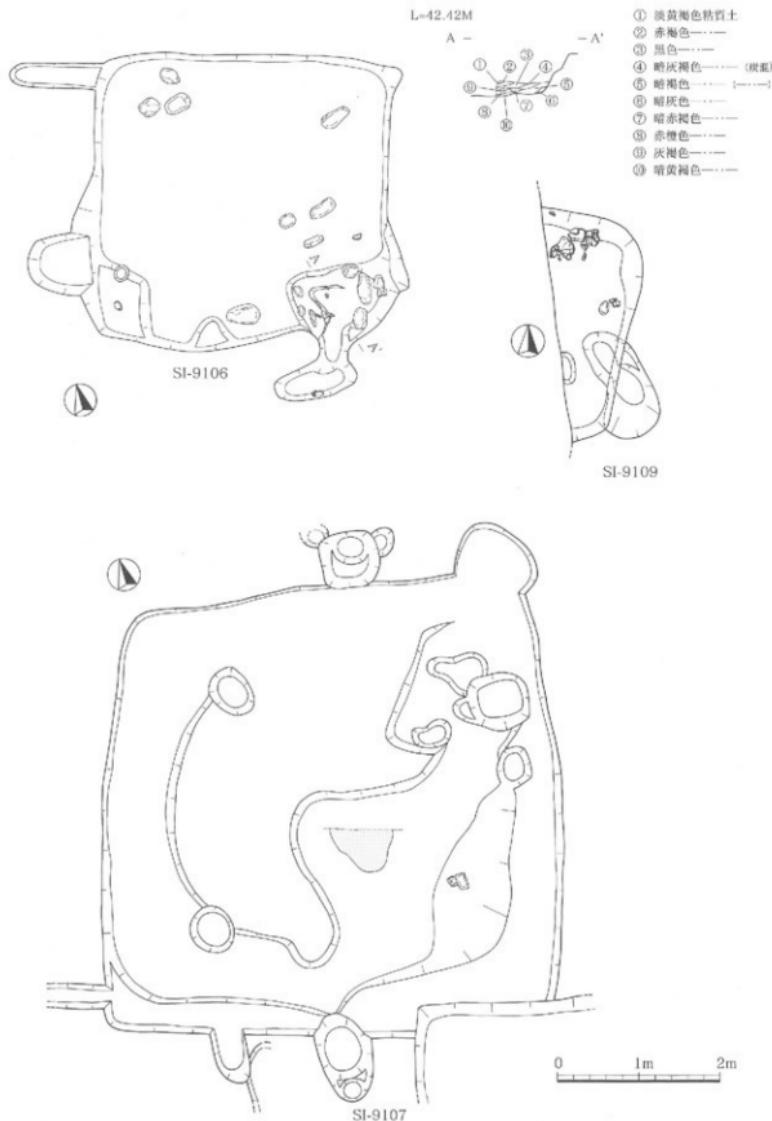
・ S K (土坑)

番号	長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)	形狀	備考
9101	—	0.76	17.5	不定形	
9102	1.38	1.30	14	略円形	赤彩楕
9103	1.38	1.00	—	不定形	土師器 薬
9104	—	1.00	21	不定形	土師器 薬
9105	—	1.22	15	略方形	土師器 薬
9106	(2.60)	—	27	略方形か	須恵器 1 <sub>1</sub> ~I <sub>2</sub>
9107	1.94	1.90	46	略円形	
9108	2.02	1.92	53	略円形	
9109	(1.30)	0.86	34	不定形	
9110	4.96	2.50	44	略長方形	
9111	4.96	1.50	22	略長方形	

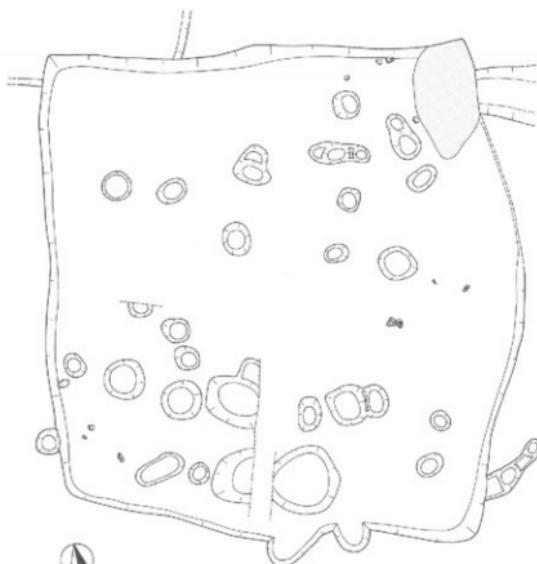


0 1m 2m

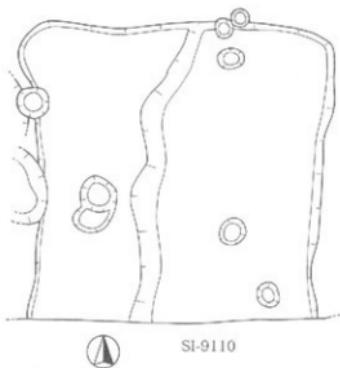
第19図 1991年度 遺構実測図① (S=1/60)



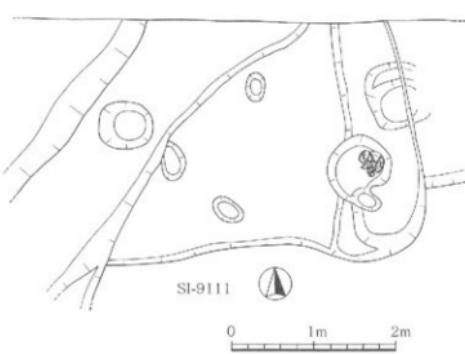
第20図 1991年度 遺構実測図② (S=1/60)



SI-9108



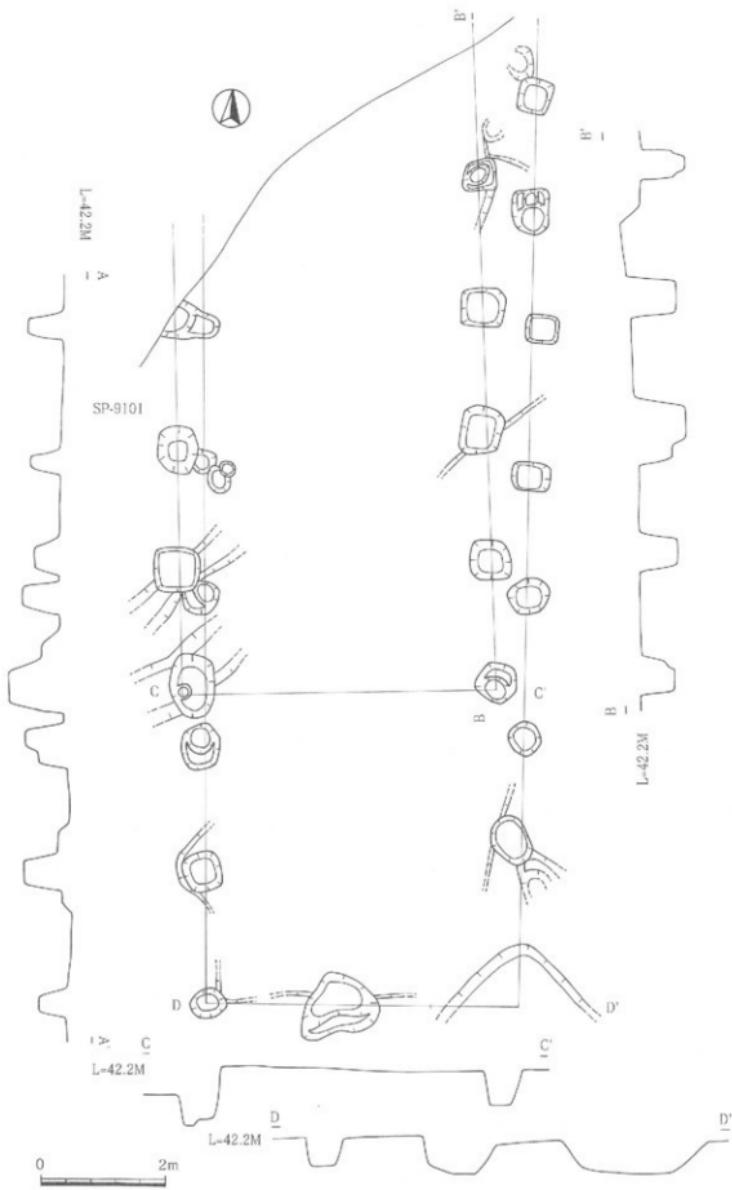
SI-9110



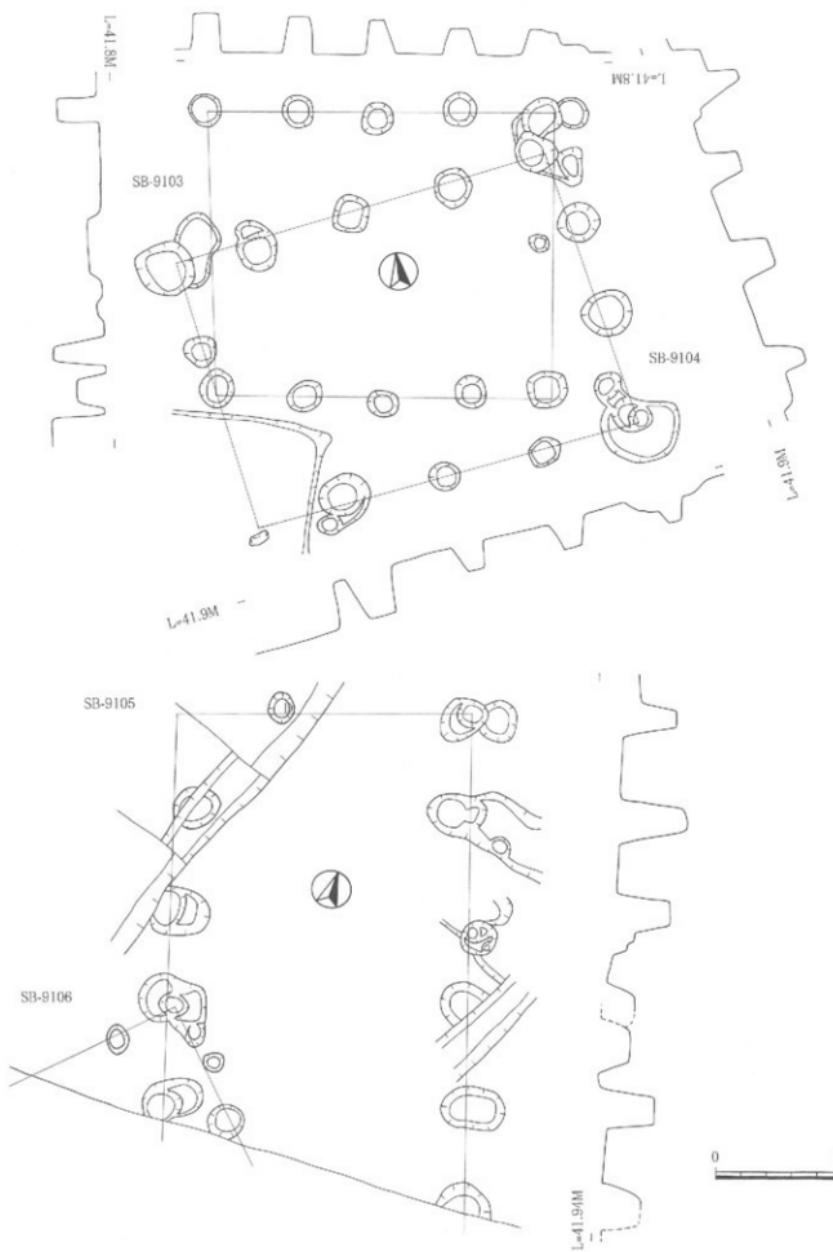
SI-9111

0 1m 2m

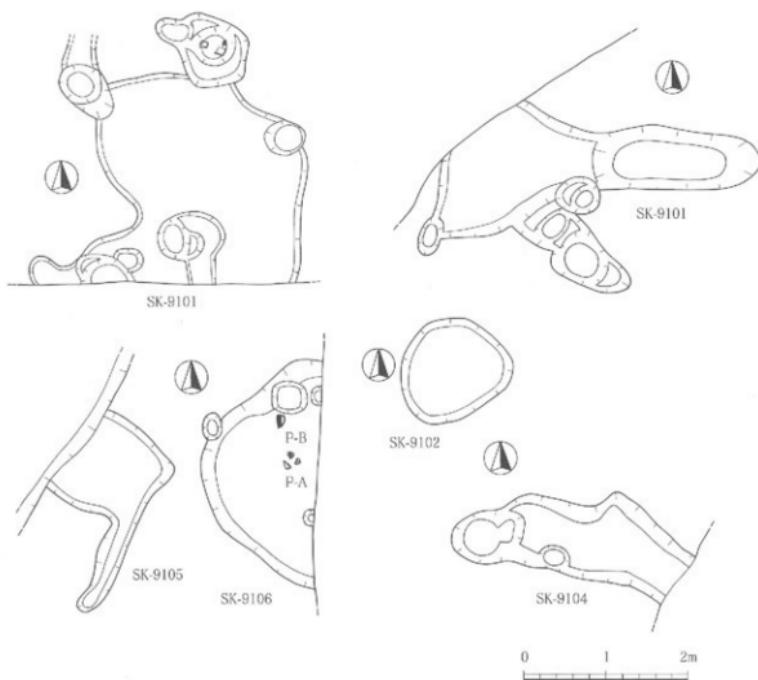
第21図 1991年度 遺構実測図③ (S=1/60)



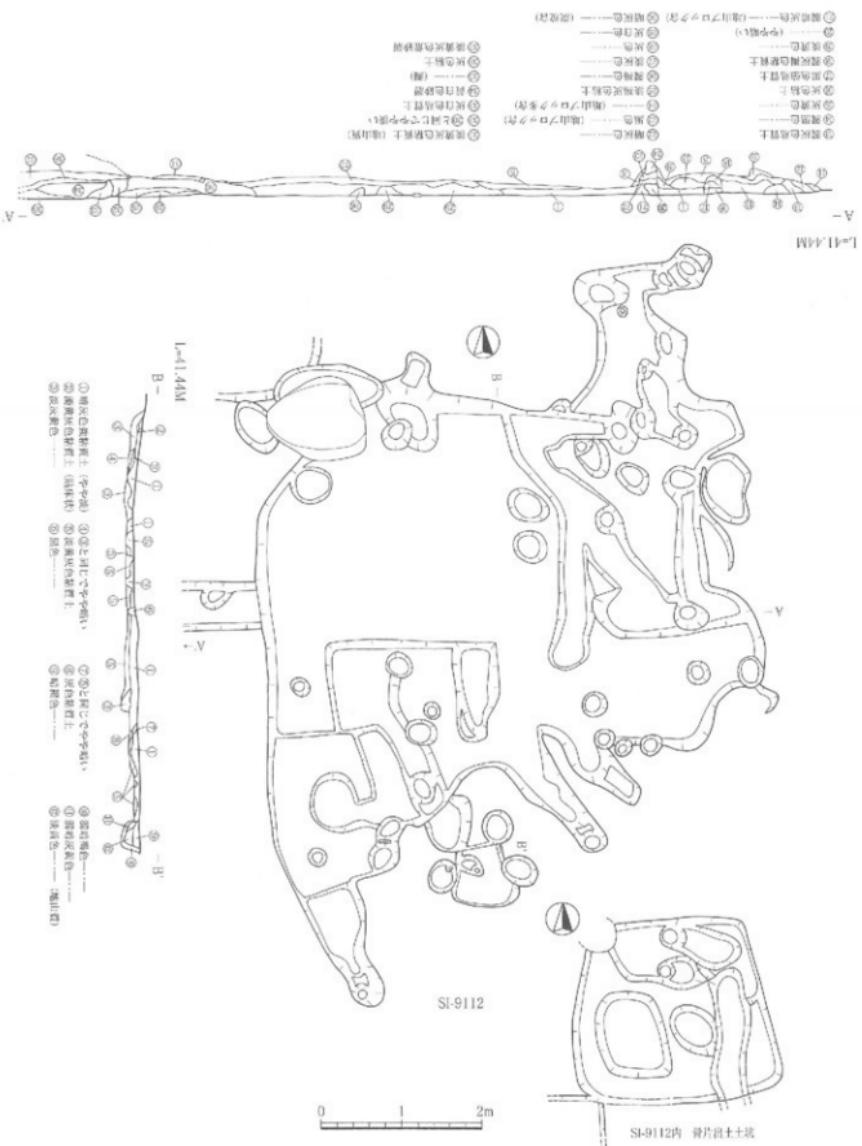
第22図 1991年度 遺構実測図④ (S = 1/80)



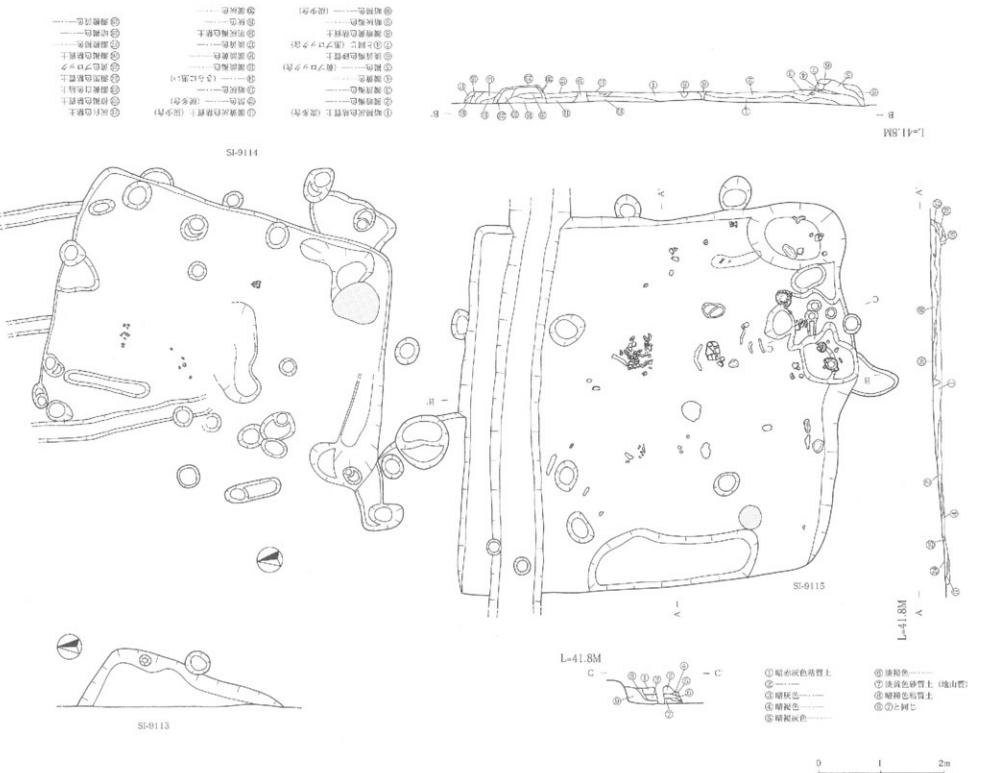
第23図 1991年度 遺構実測図⑤ (S=1/80)



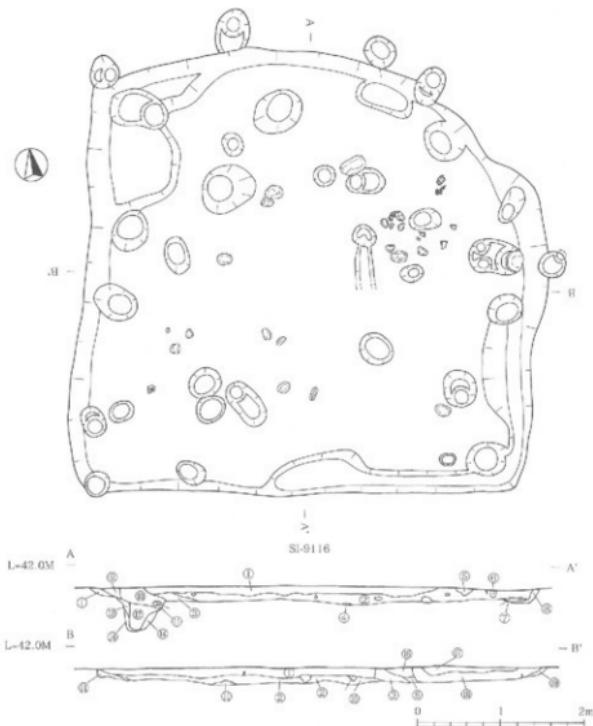
第24図 1991年度 遺構実測図⑥ (S = 1/60)



第25図 1991年度 遺構実測図⑦ (S = 1/60)

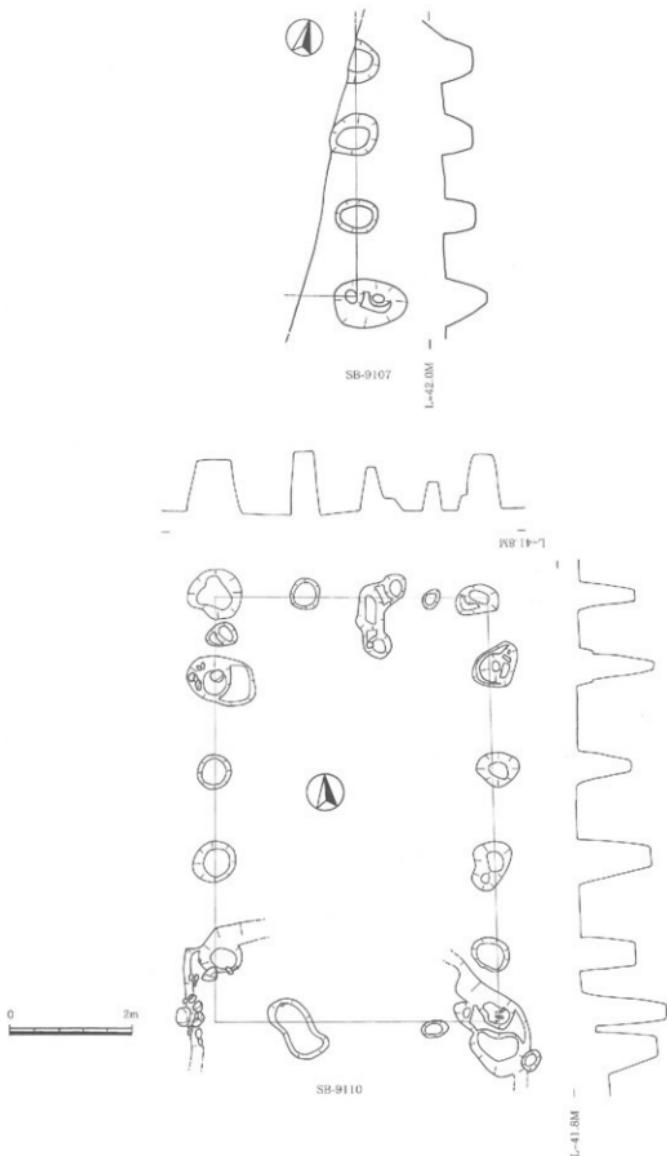


第26図 1991年度 遺構実測図⑧ (S=1/60)

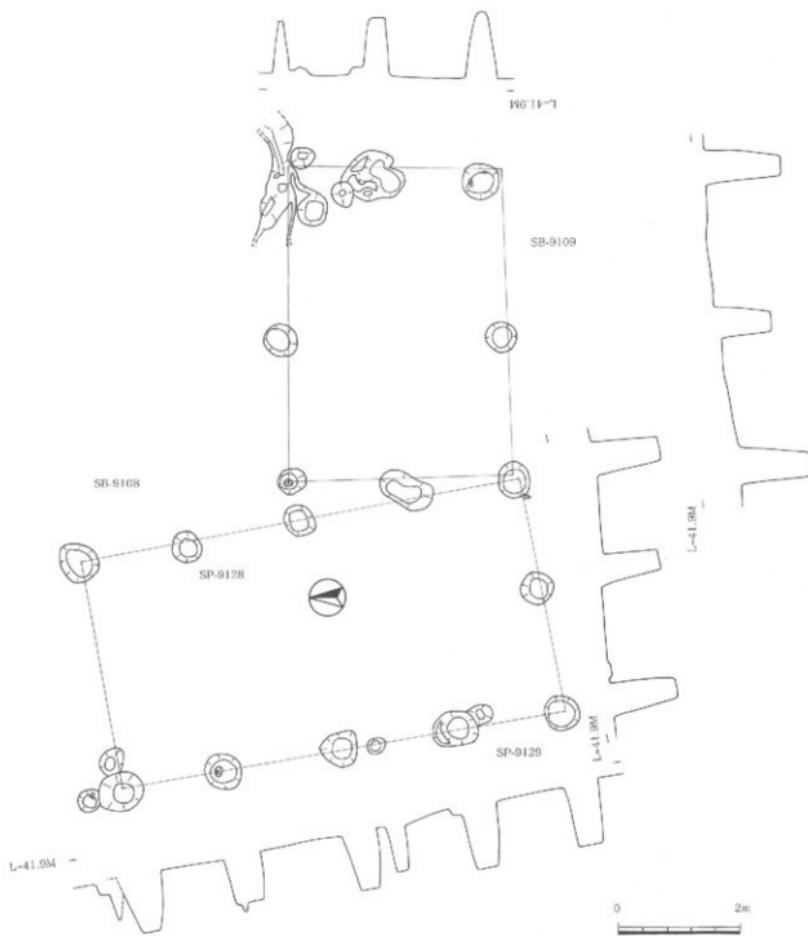


- |                   |                    |
|-------------------|--------------------|
| ① 暗褐色粘質土          | ② 青灰色—— (固状質)      |
| ③ 黄褐色—— (やや混じり)   | ④ 黑色——             |
| ⑤ 岩灰岩             | ⑥ 明淡色—— (油山性)      |
| ⑦ 褐分合粒土           | ⑧ 灰岩細粒岩—— (黄ブロック質) |
| ⑨ 褐帶地化白堺質土        | ⑩ 泥質岩——            |
| ⑪ 岩灰褐色—— (灰ブロック質) | ⑪ 黄褐色——            |
| ⑫ 深褐色——           | ⑫ 黑褐色——            |
| ⑬ ⑪と同じでやや赤みがかる    | ⑬ 黄褐色——            |
| ⑭ 黑色粘質土 (やや黄色がかる) | ⑭ 黄褐色——            |

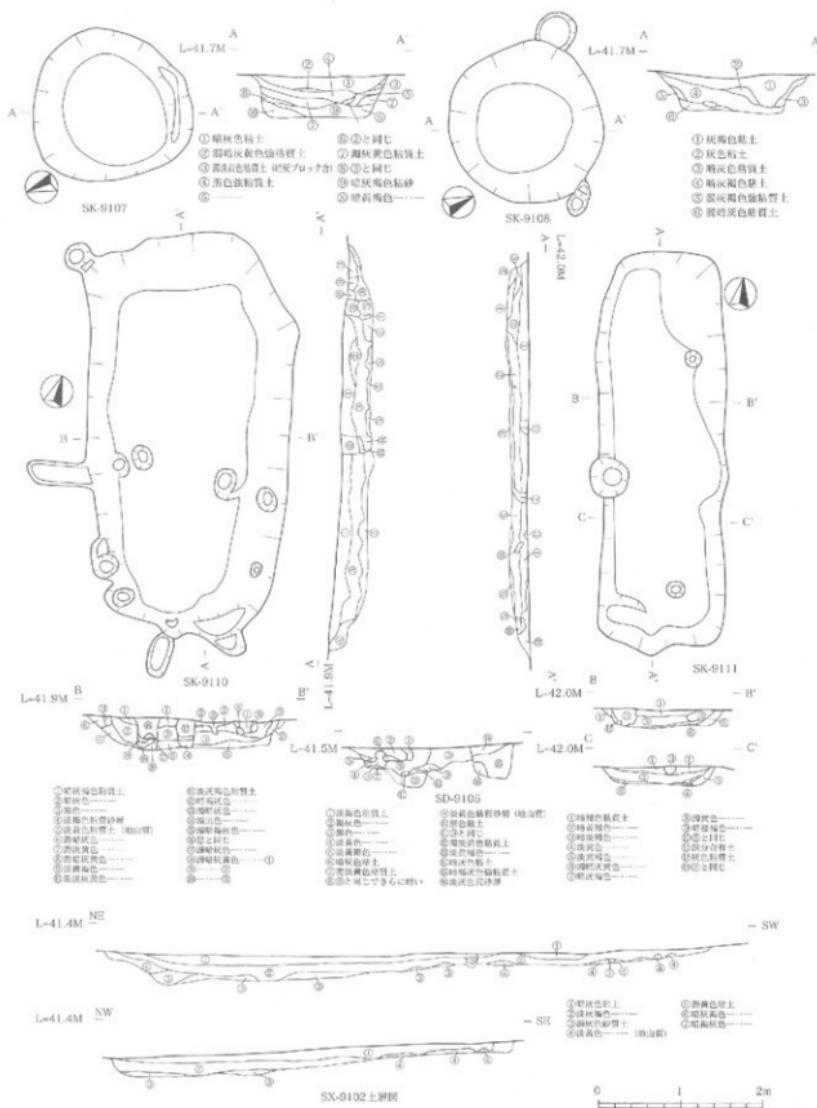
第27図 1991年度 遺構実測図⑨ (S = 1/60)



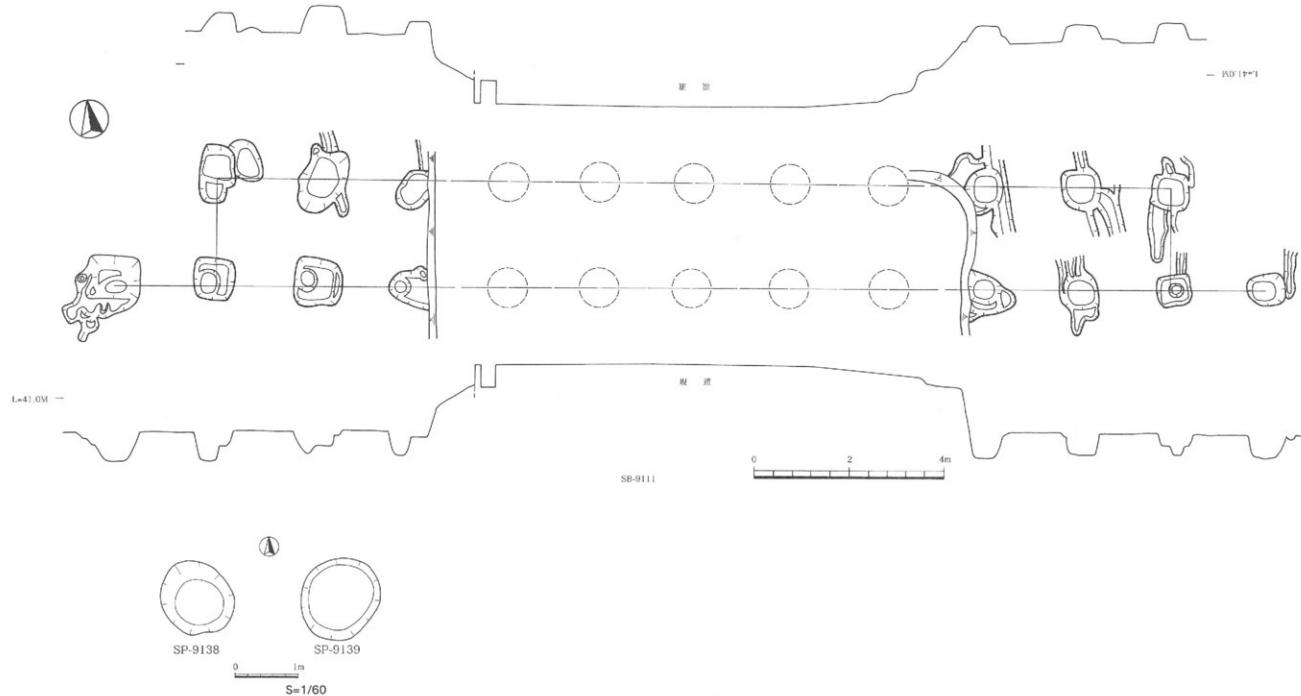
第28図 1991年度 遺構実測図⑩ (S = 1/80)



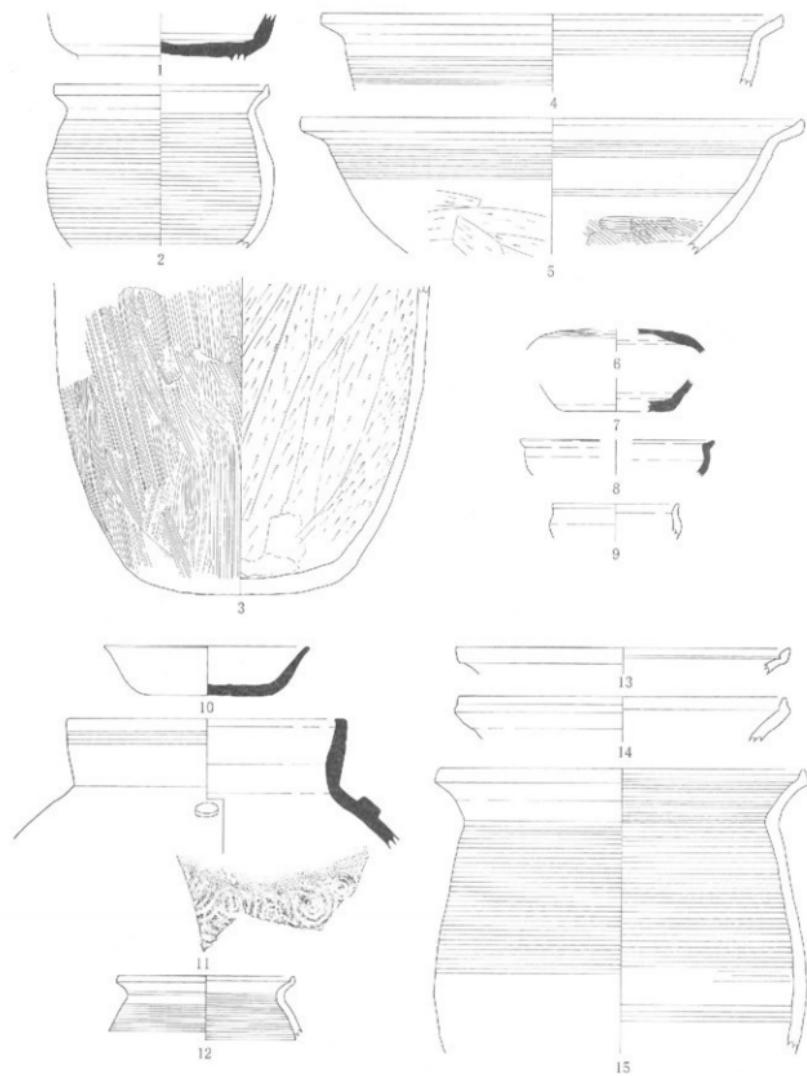
第29図 1991年度 遺構実測図⑪ (S = 1/80)



第30図 1991年度 遺構実測図⑫ (S=1/60)



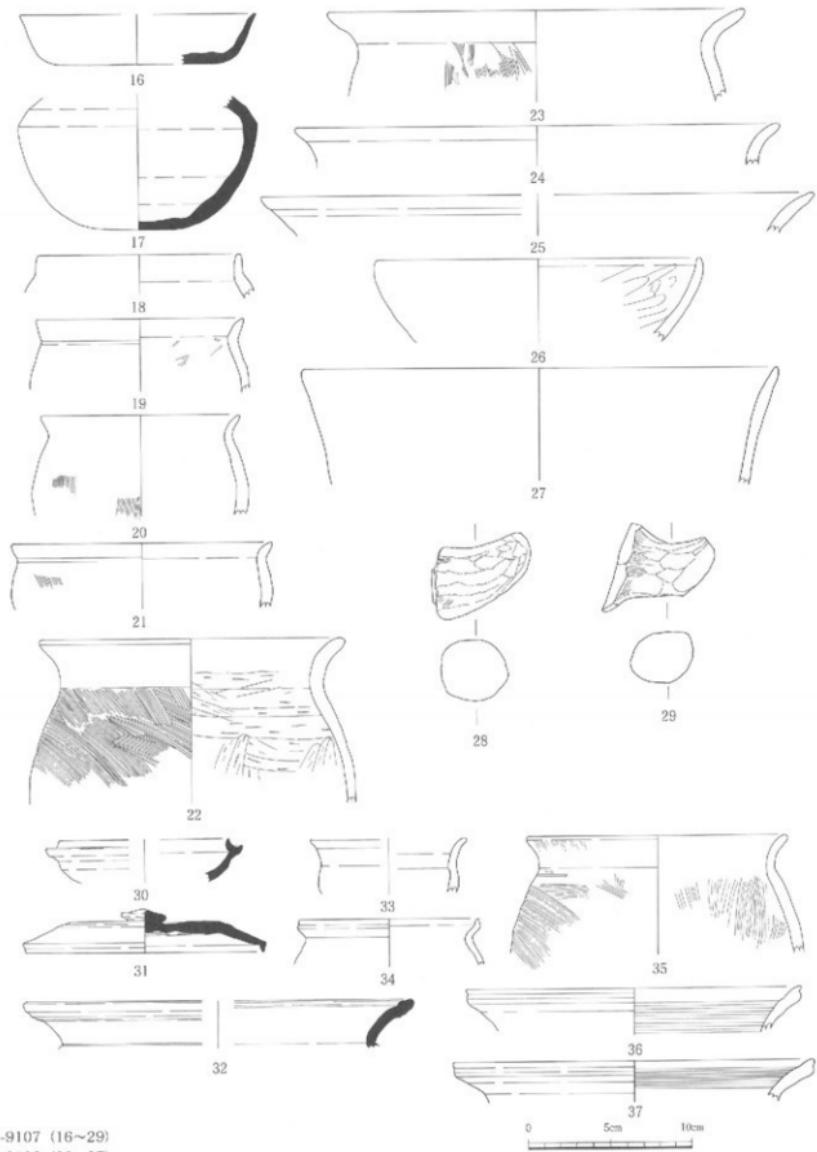
第31図 1991年度 遺構実測図⑬ (S=1/80)



SI-9101 (1~5) · SI-9102 (6~9)  
SI-9106 (10~15)

0 5cm 10cm

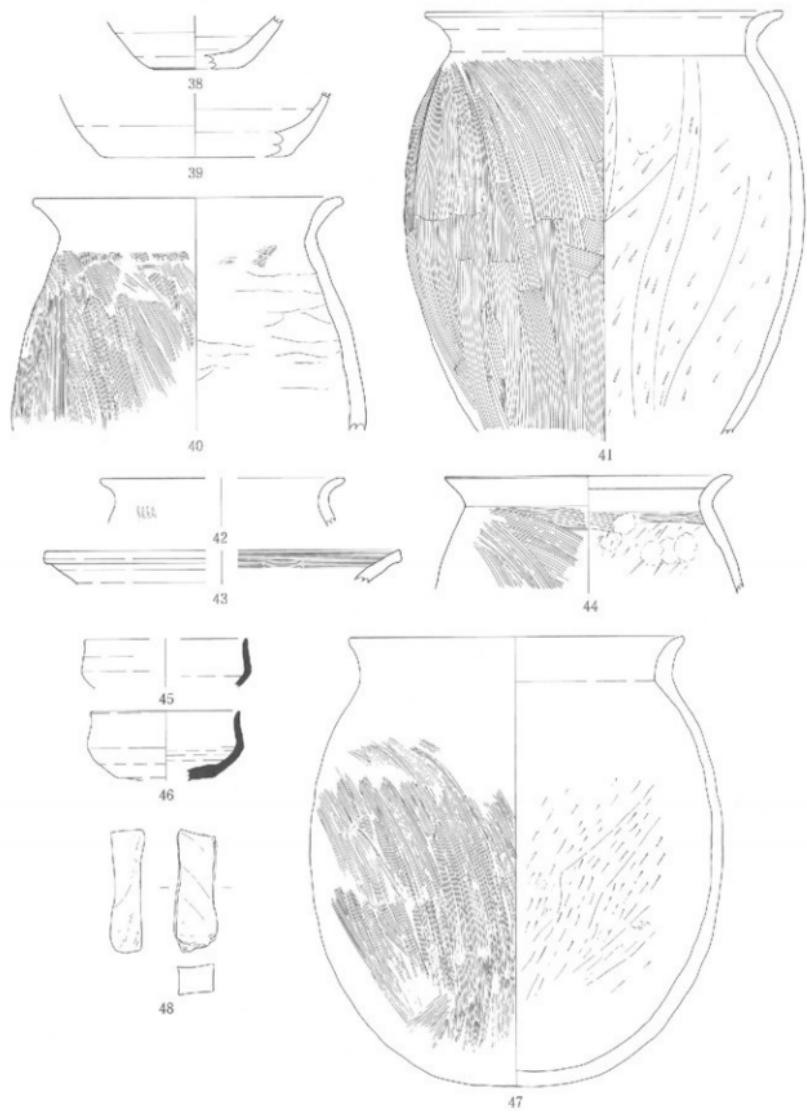
第32図 1991年度 遺物実測図① (S=1/3)



SI-9107 (16~29)

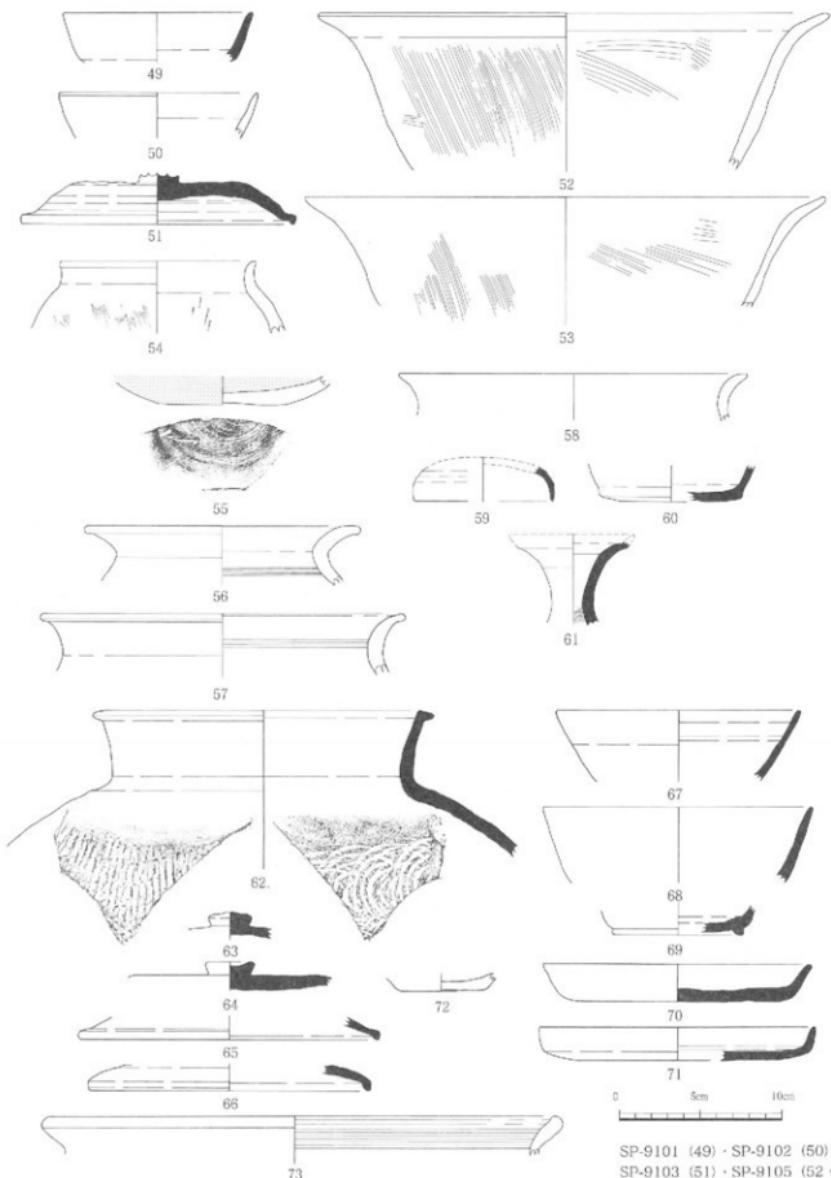
SI-9108 (30~37)

第33図 1991年度 遺物実測図② (S = 1/3)



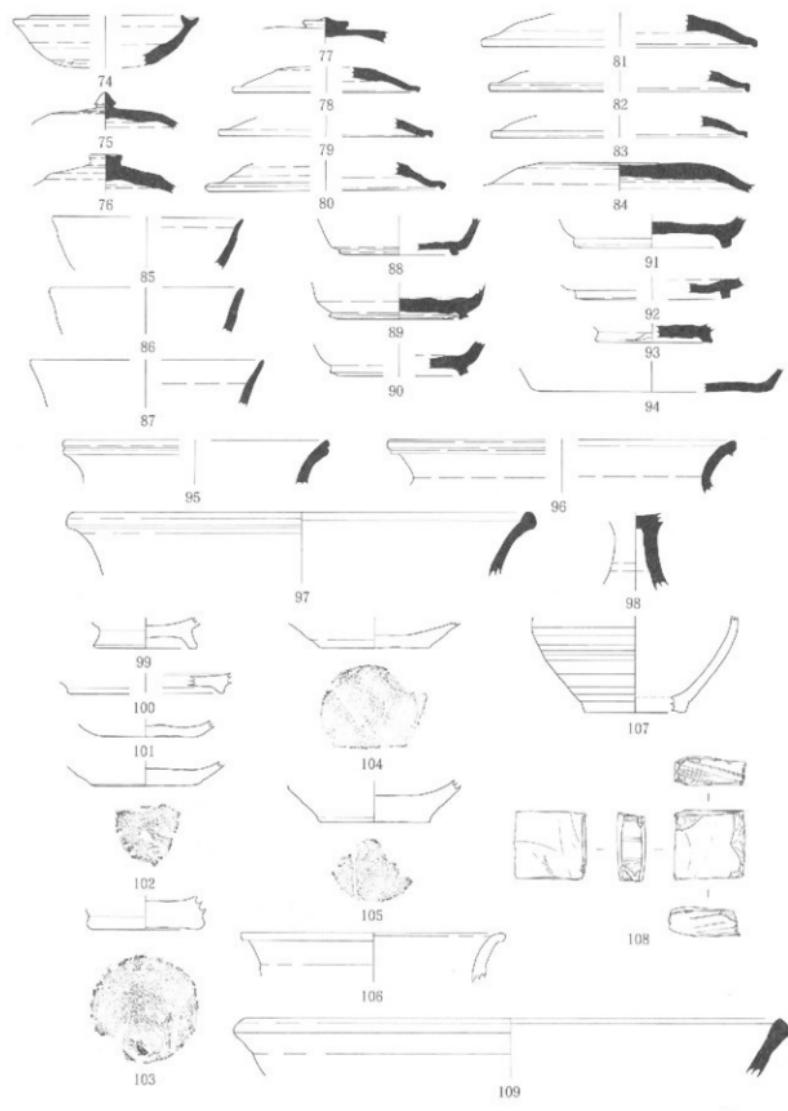
SI-9108 (38・39) · SI-9109 (40・41)  
SI-9110 (42~44) · SI-9111 (45~48)

第34図 1991年度 遺物実測図③ (S = 1/3)



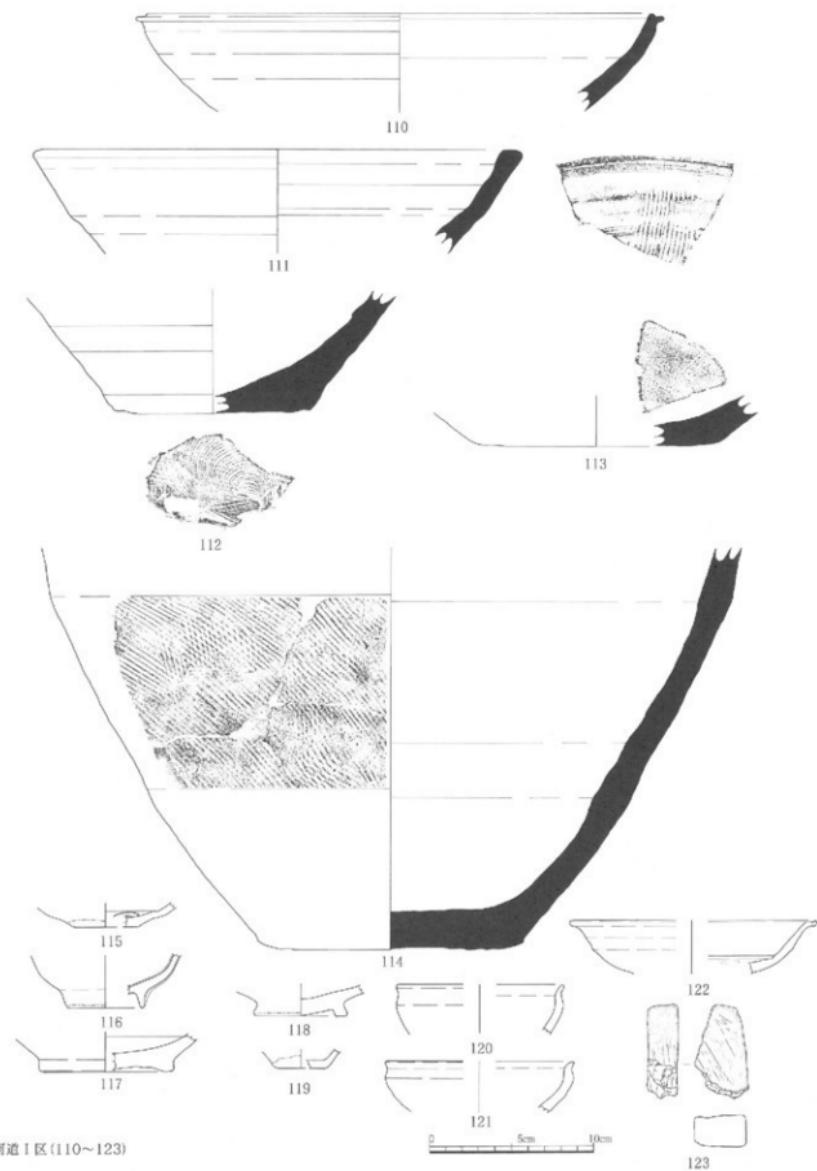
第35図 1991年度 遺物実測図④ (S = 1/3)

SP-9101 (49) · SP-9102 (50)  
 SP-9103 (51) · SP-9105 (52 · 53)  
 SP-9106 (54)  
 SK-9102 (55) · SK-9103 (56)  
 SK-9104 (57) · SK-9105 (58)  
 SK-9106 (59~61)  
 SD-9101 (62) · SD-9102 (63~73)



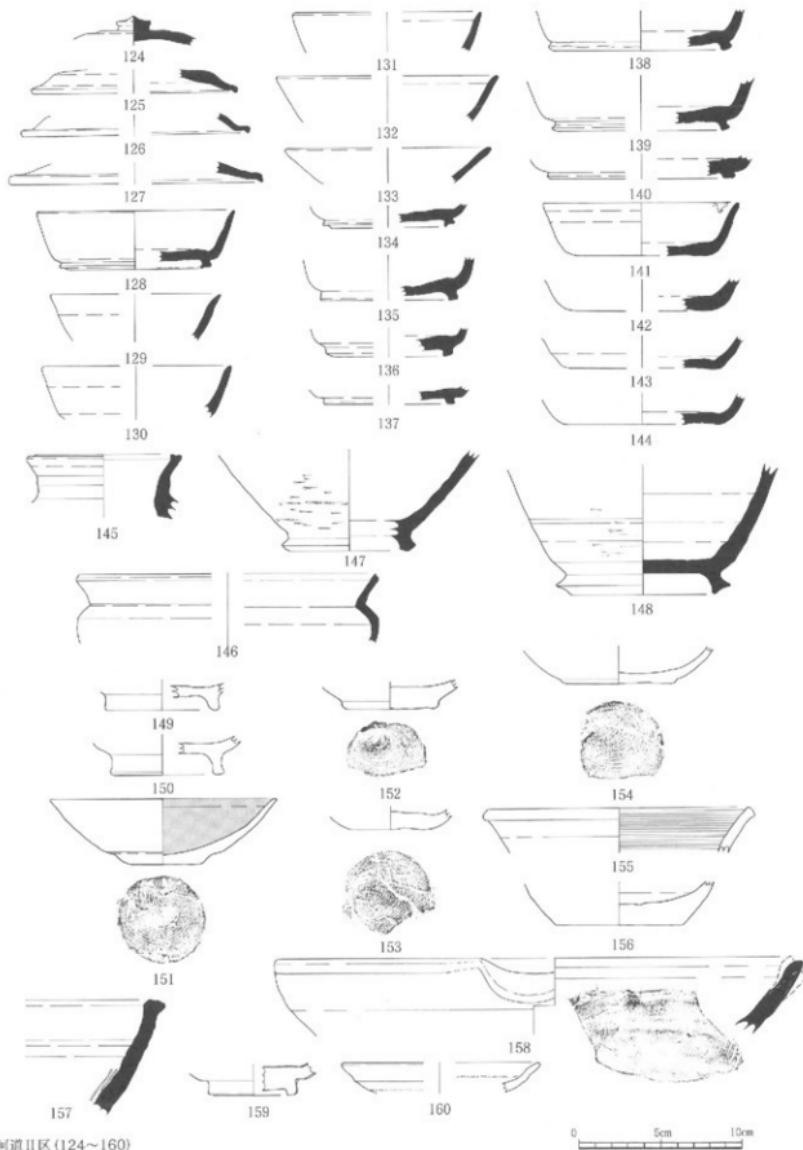
旧河道 I 区 (74~109)

第36図 1991年度 遺物実測図⑤ (S = 1/3)



旧河床Ⅰ区(110~123)

第37図 1991年度 遺物実測図⑥ (S = 1/3)



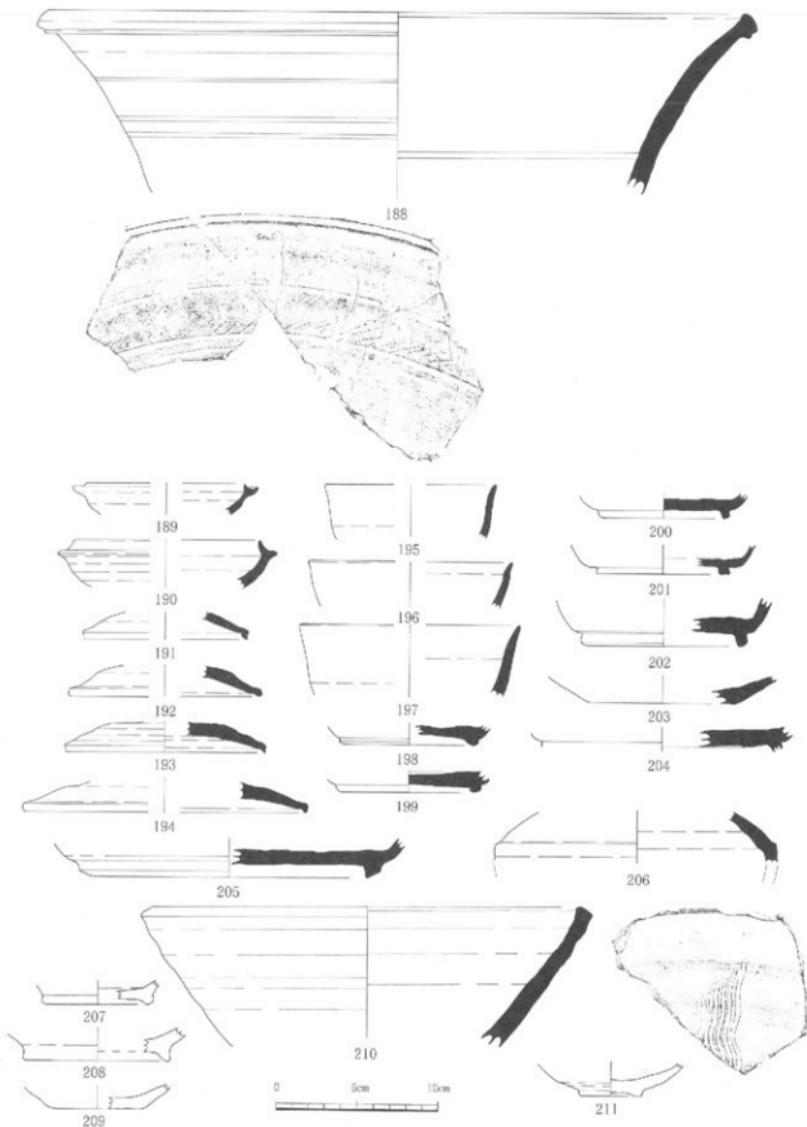
旧河道II区(124~160)

第38図 1991年度 遺物実測図⑦ (S=1/3)



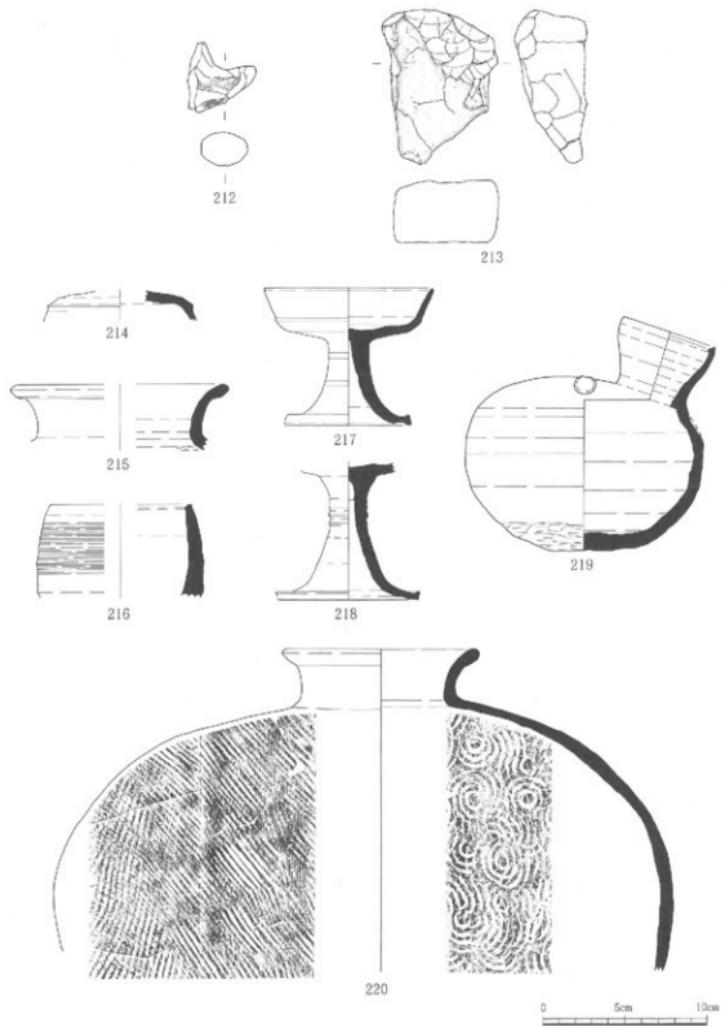
旧河道Ⅲ区(161~172)  
旧河道Ⅳ区(173~187)

第39図 1991年度 遺物実測図⑥ (S = 1/3)



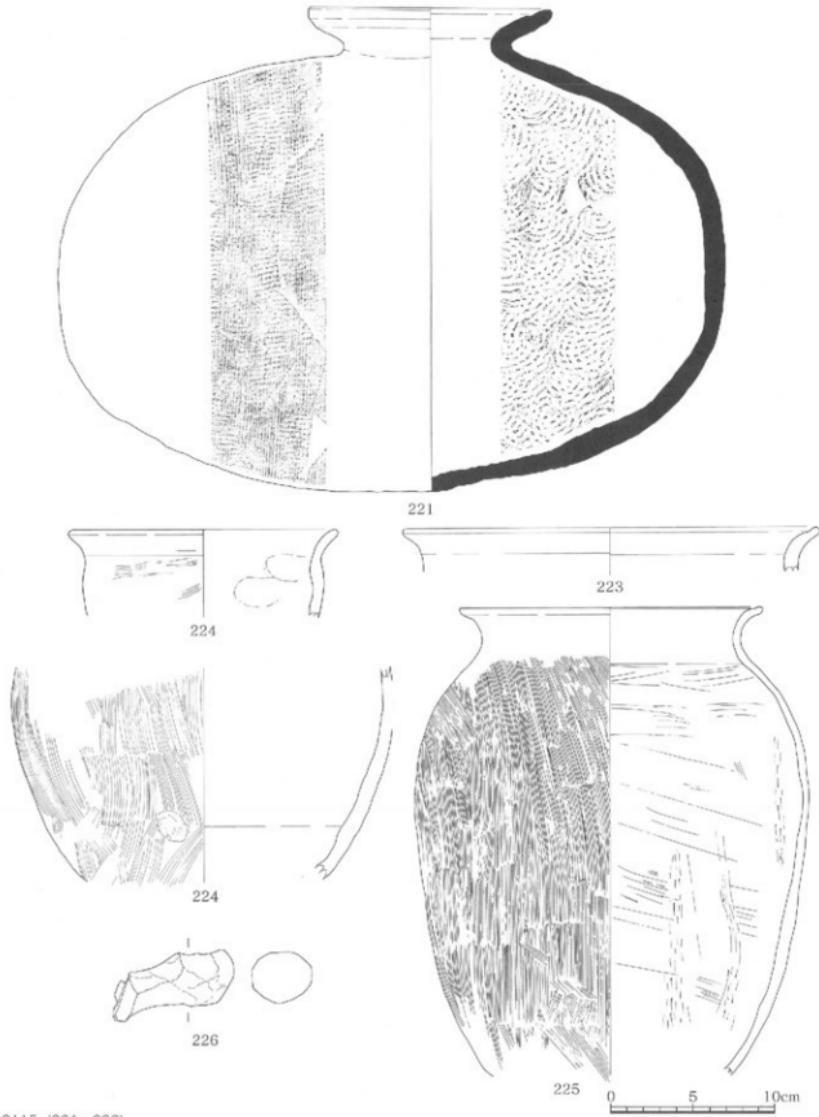
旧河道IV区(188)  
旧河道V区(189~211)

第40図 1991年度 遺物実測図⑨ (S = 1/3)



SI-9114 (212・213)  
SI-9115 (214~220)

第41図 1991年度 遺物実測図⑩ (S = 1/3)



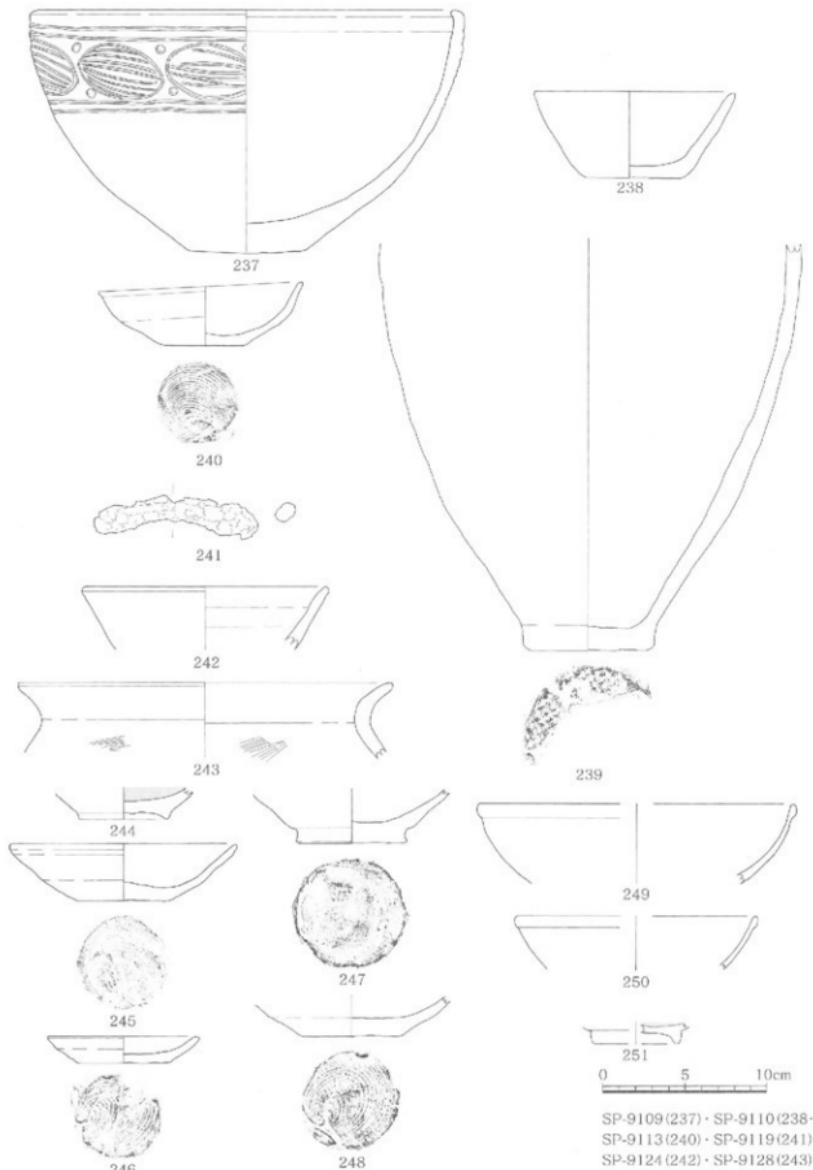
SI-9115 (221~226)

第42図 1991年度 遺物実測図⑪ ( $S=1/3$ )



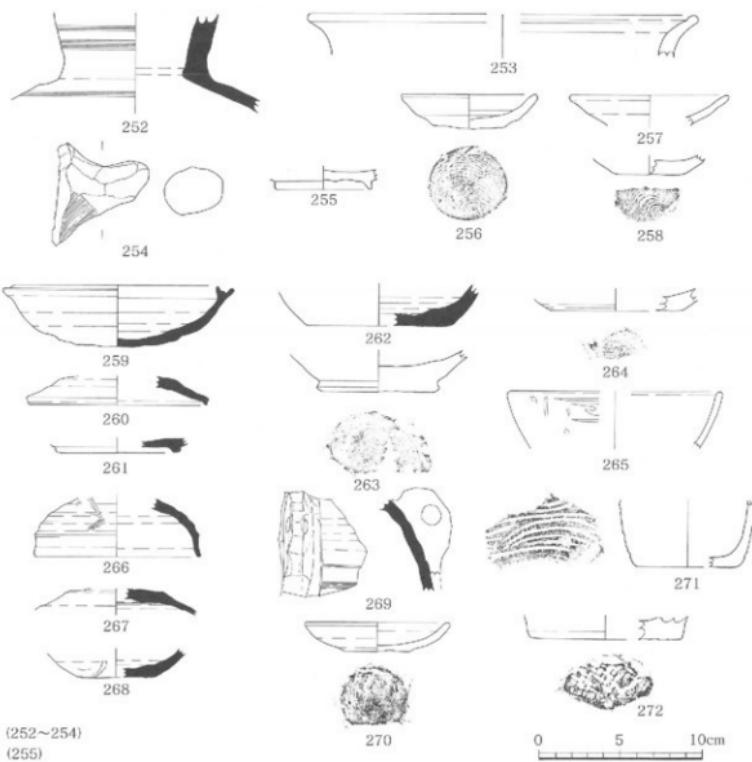
SI-9115 (227)  
SI-9116 (228~236)

第43図 1991年度 遺物実測図⑫ (S=1/3)



第44図 1991年度 遺物実測図⑬ (S=1/3)

SP-9109(237)・SP-9110(238-239)  
 SP-9113(240)・SP-9119(241)  
 SP-9124(242)・SP-9128(243)  
 SK-9107(244~250)・SK-9109(251)



SK-9110 (252~254)

SD-9104 (255)

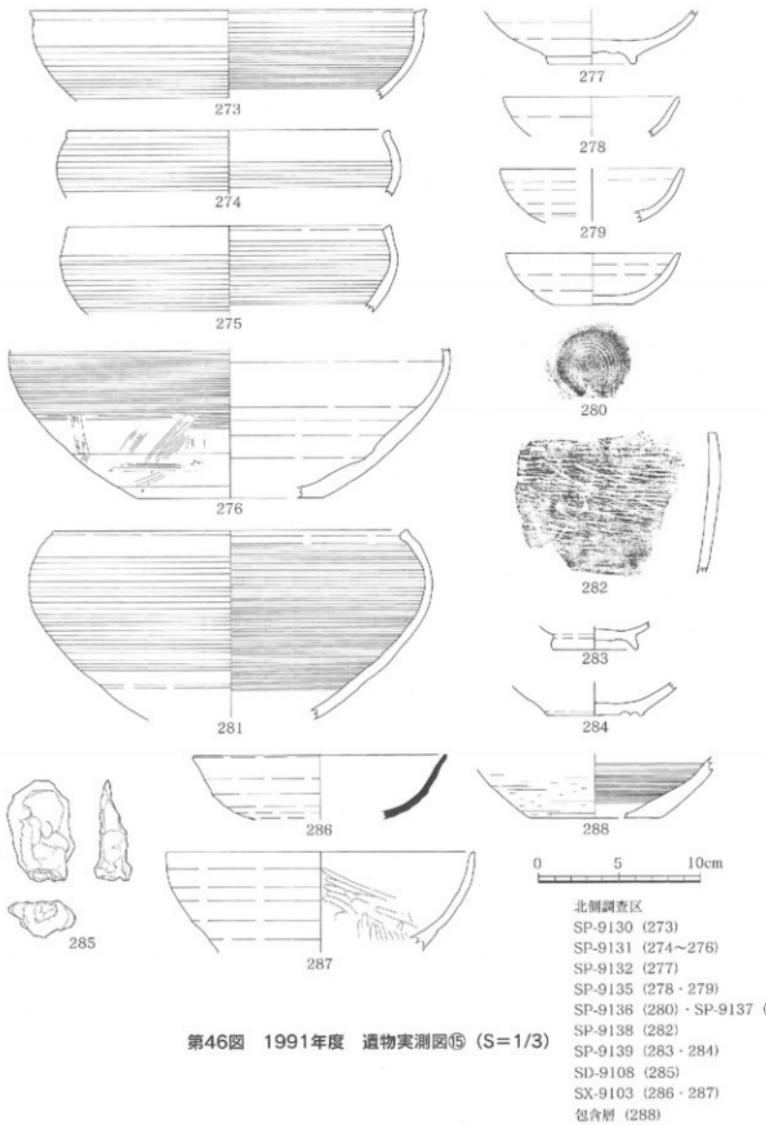
SD-9105 (256)

SD-9106 (257·258)

W区包含層 (259~265)

E区包含層 (266~272)

第45図 1991年度 遺物実測図⑭ (S=1/3)



第46図 1991年度 遺物実測図⑮ (S=1/3)

# 遺物観察表 (1991年度)

番号	器種	法 量	調 整	色 調	焼 成	胎	上	通存	備考
1	有台坪	B:10.0	ナデ	a.暗灰色 b.褐色	並	M-2	1/3		
2	甕	C:11.0 W:13.8	ナデ	a.暗灰色 b.褐色	並	M-1	1/6		
3	甕	W:21.0	カギリ	a.暗灰色 b.褐色	並	M-2	3/4		
4	壺	C:28.4	ナデ	淡褐色	並	M-1	小片		
5	壺	C:28.0 W:17.0	カギリ	淡褐色	並	M-2	小片		
6	蓋	天:7.0	ケズリ ナデ	灰色	良	S-2	1/6		
7	环	B:7.2 C:11.9	ナデ	灰白色	不良	S-1	1/4	撲耗	
8	小型罐	C:11.9	ナデ	灰白色	良	S-2	1/8		
9	小口壺	C:7.2	ナデ	暗褐色	並	M-1	1/6		
10	环	C:12.6 H:3.1	ナデ	暗褐色	並	M-2	1/4		
11	鼎	C:17.2	ナデ	a.暗灰色 b.褐色	並	M-3	1/2	外面 自然釉	
12	甕	C:10.8	ナデ	a.褐色	並	S-2	1/7		
13	甕	C:20.6	ナデ	a.淡褐色 b.淡褐色	並	M-1	小片	カマド	
14	甕	C:20.0	ナデ	淡褐色	並	S-2	小片		
15	甕	C:22.4 W:22.8	ナデ	a.淡褐色 b.褐色	並	S-1	1/8		
16	环	C:14.5 H:3.1	ナデ	灰色	並	S-1	1/8		
17	壺蓋	W:14.7 B:5.0	ナデ	暗褐色	良	S-3	1/2		
18	甕	C:12.4	ナデ	暗褐色	並	S-2	1/7		
19	甕	C:12.8	ナデ	淡褐色	並	S-2	小片		
20	甕	C:12.2	ナデ	a.暗褐色 b.褐色	並	S-1	小片		
21	甕	C:16.0	ナデ	a.淡褐色 b.褐色	並	S-2	1/4	糞堆	
22	甕	C:18.8 W:20.0	ナデ	暗褐色	並	M-3	1/8		
23	甕	C:25.4	ナデ	a.褐色 b.褐色	並	S-M-1	小片		
24	壺	C:29.6	ナデ	暗褐色	並	S-2	小片		
25	甕	C:34.0	ナデ	a.暗褐色 b.淡褐色	並	S-2	小片		
26	鉢	C:19.8 W:14.7	ナデ	a.淡褐色 b.淡褐色	並	S-2	1/8	外面摩耗 盃み	
27	甕	C:29.2	ナデ	暗褐色	並	S-2	1/8		
28	甕	ナデ	暗褐色	並	S-1	完	把手		
29	甕	ナデ	暗褐色	並	S-3	完	把手		
30	环	C:18.5	ナデ	淡褐色	良	S-2	1/4		
31	甕	C:14.7 W:14.7	ナデ	灰色	良	S-1	完	外面自然釉 盃み	
32	甕	C:23.6	ナデ	灰色	良	S-1	小片		
33	甕	C:9.7	ナデ	a.褐色 b.褐色	並	I-3	小片		
34	甕	C:11.1	ナデ	淡褐色	並	S-M-1	1/4		
35	甕	C:16.0	ナデ	a.褐色 b.褐色	並	S-M-1	1/8		
36	甕	C:20.6 W:5.0	ナデ	暗褐色	並	M-2	1/7		
37	甕	C:22.2	ナデ	淡褐色	良	S-2	小片		
38	甕	(底部)	ナデ	淡褐色	並	M-L-1	1/2		

番号	器種	法 量	調 整	色 調	焼 成	胎	上	通存	備 考
39	甕	B:11.6 (底部)	ナデ	a.暗褐色 b.褐色	並	S-1	小片		
40	甕	C:19.0 W:21.7	ナデ	暗褐色	並	S-2	1/2		
41	甕	C:21.8 W:24.6	ナデ	暗褐色	並	M-2	1/3		
42	甕	C:15.0	ナデ	暗褐色	並	S-2	小片		
43	甕	C:21.8	タキ	カ目	暗褐色	並	S-1	小片	
44	甕	C:17.6 W:17.0	ナデ	暗褐色	並	M-1	1/7		
45	甕	C:9.9	ナデ	灰色	並	S-1	1/6	跡か	
46	甕	C:9.2 W:17.0	ナデ	暗褐色	良	S-1	1/2	跡か	
47	甕	C:20.4 W:25.3 H:28.0	ナデ	a.淡褐色 b.粉色	並	S-3	2/3		
48	瓶	L:7.6 W:2.6		淡褐色				69 g	
49	环	C:11.6	ナデ	灰色	並	S-1	1/5		
50	甕	C:12.2	ナデ	a.暗褐色 b.暗褐色	並	M-2	小片		
51	蓋	C:16.7 L:1.0	ナデ	灰色	並	S-M-1 L-2	完		
52	甕	C:30.2 W:30.2	ナデ	淡褐色	並	M-2	1/8	摩耗	
53	甕	C:32.0 W:32.0	ナデ	a.淡褐色 b.暗褐色	並	M-2	1/8	摩耗痕	
54	甕	C:12.0 W:12.0	ナデ	a.暗褐色 b.暗褐色	並	M-2	小片		
55	甕	B:8.2 W:8.2	ナデ	a.暗褐色	並	精良	1/3	内外兩 赤彩	
56	甕	C:27.0 W:27.0	ナデ	a.暗褐色	並	M-2	1/3	玉み	
57	甕	C:22.0 W:22.0	ナデ	暗褐色	並	M-1	小片		
58	甕	C:21.4	ナデ	a.暗褐色 b.暗褐色	並	M-2	小片		
59	蓋	C:8.4	ナデ	暗褐色	良	精良	小片		
60	甕	B:8.8	ナデ	暗褐色	並	I-1	1/4		
61	貝殻類	N:3.1	ナデ	灰色	良	S-1	1/2	脚部か 自然釉	
62	甕	C:19.0	タキ	a.暗褐色 b.暗褐色	並	S-2	1/7		
63	蓋	C:2.6	ナデ	淡褐色	並	S-1	完		
64	蓋	C:3.0	ナデ	淡褐色	並	S-2	1/4	外面 自然釉	
65	蓋	C:18.4	ナデ	灰色	並	S-M-1	小片		
66	蓋	C:17.4	ナデ	淡灰色	並	S-3	1/8		
67	甕	C:15.0	ナデ	a.暗褐色 b.暗褐色	並	S-2	小片		
68	甕	C:16.6	ナデ	淡褐色	不良	S-1	1/8		
69	有台坪	B:8.1	ナデ	a.暗褐色 b.暗褐色	並	S-1	1/5		
70	甕	C:16.5 H:12.4	ナデ	暗褐色	並	S-1	1/7		
71	甕	C:17.0 H:12.1	ナデ	暗褐色	並	S-1	1/8		
72	底盤	H:5.0	ナデ	淡褐色	並	M-L-1	1/2	摩耗	
73	甕	C:32.0 W:32.0	ナデ	暗褐色	並	M-L-1	小片		
74	甕	C:9.4 W:9.4	ナデ	暗褐色	良	S-1	1/3		

番号	品種	法量	調整	色調	潤滑	機成	胎土	混存	備考	番号	品種	法量	潤滑	色調	機成	胎土	通存	備考
75	巻	鉛:1.3		ナデ	灰色	良	S-2	1/2	自然釉	118	編	B:5.6 (白胎)	ナデ	墨地灰白色 ツヤリ+ナ	良	堅織	1/4	
76	巻	鉛:2.0		ナデ	灰色	良	S-1	1/2		119	底部	B:3.0	ナデ	墨地灰白色 ツヤリ+ナ	良	堅織	1/3	淡緑灰色 落戸美濃赤
77	巻	鉛:2.8		ナデ	灰色	良	S-1	完		120	天目各部	C:10.1	ナデ	墨地灰白色	良	堅織	小片	深褐色灰有 済褐色灰有
78	巻	C:11.2		ナデ	灰色	良	S-1	1/5		121	小窓 側面縫隙	C:11.6	ナデ	墨地灰白色	良	堅織	小片	済褐色灰有 大窓?
79	巻	C:13.0		ナデ	灰色	良	S-1	小片		122	溝縫隙 (側面)	C:15.1	ナデ	墨地灰白色	並	堅織	1/6	乳灰白色 内部青目跡
80	巻	C:14.2		ナデ	灰色	良	S-1	小片		123	上製品 端面	I.: (6.8) W:3.3 D:2.0						40 g 弧形有
81	巻	C:17.8		ナデ	灰色	良	M-1	小片		124	蓋 (側面)	C:21.1	ナデ	墨地灰白色 ツヤリ+ナ	灰色	良	S-1	1/6
82	巻	C:16.0		ナデ	a:灰色 b:暗灰色	良	S-1	小片		125	蓋	C:12.5	ナデ	灰色 ツヤリ+ナ	良	精良	小片	
83	巻	C:15.6		ナデ	灰色	良	S-1	小片		126	蓋	C:13.8	ナデ	灰色	良	S-1	小片	
84	巻	天:9.9 地:9.9		a:ナデ b:暗灰色	灰色	並	S-1	1/4		127	蓋	C:15.6	ナデ	灰色	並	S-1	小片	
85	环	C:31.7		ナデ	灰色	並	S-2	小片		128	右台环	C:12.0 H:3.7 ツヤリ+ナ	ナデ	灰色	並	S-2	1/4	
86	环	C:12.0		ナデ	灰色	良	M-1	小片		129	右台环	C:10.5	ナデ	暗青灰色 b:灰色	並	S-2	小片	
87	环	C:14.4		ナデ	灰色	良	S-1	小片		130	环	C:11.5	ナデ	灰色	良	S-2	小片	
88	右台环	B:7.4		ナデ	灰色	良	S-1	1/5		131	环	C:11.5	ナデ	暗灰色	並	S-1	小片	
89	右台环	B:8.6		ナデ	暗青灰色	良	S-3	1/3		132	环	C:13.5	ナデ	暗青灰色 b:灰色	並	S-2	1/3	自然釉
90	右台环	B:8.5		ナデ	暗青灰色	良	S-3	小片	外底面 列点有	133	环	C:12.6	ナデ	灰色	並	精良	小片	
91	右台环	B:9.6		ナデ	灰色	良	S-3	1/3	外底面 平滑	134	右台环	B:7.1 ツヤリ+ナ	ナデ	灰色	良	S-2	1/6	
92	右台环	B:9.6		ナデ	灰色	並	M-1	小片		135	右台环	B:8.5 ツヤリ+ナ	ナデ	灰色	良	S-1	1/6	
93	右台环	B:7.0		ナデ	灰色	並	S-1	1/4	右台环 斜面	136	右台环	B:7.8 ツヤリ+ナ	a:青灰色 b:灰色	良	S-2	1/6		
94	輪	B:34.0		ナデ	灰色	良	S-1	小片		137	右台环	B:36.0	ナデ	灰色	並	S-2	1/6	
95	輪	C:36.0		ナデ	暗灰色	不規	S-1	小片	間隙1条	138	右台环	B:11.3	ナデ	a:暗灰色 b:灰色	良	S-3	1/6	
96	輪	C:21.1		ナデ	a:暗灰色 b:灰色	良	S-1	小片		139	右台环	B:11.0 ツヤリ+ナ	ナデ	灰色	良	S-2	1/6	
97	蓮	C:28.0		ナデ	灰色	並	M-2	小片		140	右台环	B:11.2 ツヤリ+ナ	ナデ	灰色	良	S-1	小片	
98	高环	W:2.7		ナデ	暗灰色	並	M-3	完		141	环	C:12.0 H:3.3 ツヤリ+ナ	ナデ	灰色	不良	S-2	1/3	口縁 油滑
99	高环	H:6.2		ナデ	暗青褐色	並	S-1	1/2		142	环	B:8.4 ツヤリ+ナ	ナデ	灰色	並	S-2	1/5	摩挲痕
100	輪	B:9.5		ナデ	暗青褐色	並	S-1	小片	内底	143	环	B:9.6 ツヤリ+ナ	ナデ	暗青白色 b:灰色	不良	S-1	小片	
101	輪	B:5.4		ナデ	a:暗褐色 b:暗褐色	並	M-1	3/4		144	环	B:9.6 ツヤリ+ナ	ナデ	灰色	良	S-2	小片	
102	輪	B:6.4		ナデ	a:暗青褐色 b:暗褐色	並	M-2	1/4		145	輪	C:9.2 ツヤリ+ナ	ナデ	a:灰色 b:暗褐色	並	S-2	1/4	自然釉
103	輪	B:6.8		ナデ	暗青褐色	並	S-1	完		146	輪	C:17.8 W:18.6	ナデ	暗青灰色 b:灰色	良	S-3	小片	内面 自然釉
104	輪	B:6.6		ナデ	暗青褐色	並	S-1	3/4		147	楕環	B:9.2 (底部)	ナデ	a:暗灰色 b:暗褐色	並	M-2	1/5	
105	輪	B:6.6		ナデ	暗青褐色	並	M-1	1/2		148	楕環	B:5.6 (底部)	ナデ	a:暗灰色 b:暗褐色	並	S-3	1/2	自然釉
106	輪	C:16.2		ナデ	a:暗青褐色 b:暗褐色	並	M-2	1/8		149	楕	B:7.0 ツヤリ+ナ	ナデ	暗褐色	並	S-1	1/2	
107	質	B:6.2 鉛:2.7		ナデ	暗青褐色	並	堅織	1/8	近世	150	楕	B:7.0 ツヤリ+ナ	ナデ	暗褐色	並	精良	1/2	
108	質	W:4.3		ナデ	灰色	良	完	60 g	安山岩	151	楕	B:14.0 H:4.1 ツヤリ+ナ	ナデ	褐色	並	M-2	2/3	内底
109	楕	C:32.6		ナデ	暗青褐色	並	M-2	小片	焼成	152	楕	B:5.4 ツヤリ+ナ	ナデ	a:暗褐色 b:暗褐色	並	M-1	1/2	
110	楕	C:30.4		ナデ	灰色	並	S-2	小片	珠浦	153	楕	B:4.8 ツヤリ+ナ	ナデ	暗褐色	並	M-2	3/4	
111	楕	C:27.6		ナデ	暗青褐色	並	M-2	1/6	珠浦	154	楕	B:6.4 ツヤリ+ナ	ナデ	a:暗褐色 b:暗褐色	並	S-1	2/3	
112	鉢	B:12.0		ナデ	a:灰色 b:暗灰色	並	M-1	1/3	珠浦									
113	鉢	B:14.0		ナデ	暗褐色	並	S-2	1/7	おろし皿									
114	鉢	B:16.4		タタキ	a:暗青褐色 b:灰色	並	M-2	1/2										
115	皿(青組)	B:4.0		ナデ	墨地灰白色	良	堅織	1/5	墨地青龍紋 孤文									
116	皿(青組)	B:4.6		ナデ	墨地灰白色	良	堅織	1/2	青白釉刷毛 明绿色									
117	皿(青組)	B:8.2		ナデ	墨地灰白色	良	堅織	1/3	淡灰蓝色 水玉									

番号	固有種	法量	調査地	色調	焼成	胎土	窯存	備考
155	甕	C:15.8 +7.5付		淡褐色 並	M-2	小片		
				黒雲母				
156	甕 (底部)	B:8.0	ナデ	a:淡褐色 b:淡褐色	S-1 M-3	1/2		
157	擂鉢	-	ナデ	a:灰色 b:褐色	良	M-2	小片	焼成
158	擂鉢 (片口)	C:30.4	ナデ	a:灰色 b:褐色	並	M-L1	小片	侏羅
159	碗 (青磁)	B:5.4	ナデ	淡青白色 粘付灰白	良	堅微 (粘質)	1/2	質付釉面
160	小皿 (青磁)	C:12.2	ナデ	淡青白色	良	堅微	小片	湘戸青磁 下平頭胎
161	环	C:11.7	ナデ	灰色	良	S-3	1/6	
162	盞	C:15.5	ナデ	灰色	並	M-2	小片	
163	有台环	B:9.0	ナデ	青褐色	良	S-1	小片	
164	有台环	B:9.6 +7.5付+7.5	ナデ	暗褐色	良	S-1	1/4	外底面 例点巡る
165	有台环	B:11.6	ナデ	灰白色	不良	S-1	1/8	等耗
166	环	C:12.9 +7.5付+7.5	ナデ	淡灰色 H:3.4	不良	S-2	1/2	
167	环	B:8.3 +7.5付+7.5	ナデ	灰色	良	S-1	小片	
168	甕	C:39.6	ナデ	暗褐色	並	M-3	1/6	波状文 斜突文
169	桶	B:4.0	ナデ	淡褐色	並	S-M1	2/3	摩耗
170	甕	-	ナデ	暗青灰色	不良	M-1	小片	侏羅
171	甕 (青磁)	C:11.4	ナデ	淡青白色	良	堅微	小片	湘戸青磁 体部剥離
172	小皿 (青磁)	C:8.8 H:1.7付	ナデ	淡青白色	良	堅微	小片	
173	环	C:14.6	ナデ	灰色	良	S-2	小片	
174	环	C:13.2	ナデ	灰色	良	S-2	小片	
175	有台环	B:10.1	ナデ	a:暗灰色 b:灰色	良	S-3	1/6	外底面 例点巡る
176	有台环	B:9.8	ナデ	灰色	良	S-3	1/5	
177	环	B:8.6 +7.5付+7.5	ナデ	淡灰色	不良	S-2	1/5	
178	甕	C:15.4	ナデ	灰色	良	S-2	小片	
179	甕	C:18.2	ナデ	a:灰色 b:淡灰色	良	S-2	小片	
180	甕	C:20.0	ナデ	暗褐色	良	S-2	小片	侏羅
181	甕	C:21.0 +7.5付+7.5	ナデ	灰色	良	S-2	1/8	内外面 自然胎
182	桶	B:6.9	ナデ	暗褐色	並	M-1	1/3	
183	桶	B:6.0	ナデ	淡褐色	並	M-1	1/3	
184	桶	B:5.4 糸切	ナデ	淡藍褐色	並	S-2	1/2	摩耗
185	环	B:6.2	ナデ	淡褐色	並	S-M1	1/2	赤色胎
186	环	B:5.6	ナデ	a:褐色 b:淡粉色	並	S-L1	1/3	赤色胎
187	模耳皿 (青磁)	C:13.2	ナデ	淡青灰白色	良	堅微	1/4	縫刻粗薄 灰綠色
188	甕	C:42.4	ナデ	a:暗褐色 b:淡灰色	並	M-L1	1/8	開窓 斜付削文
189	环	C:9.7	ナデ	灰色	良	S-1	小片	
190	环	C:11.5	ナデ	灰色	良	S-3	小片	
191	甕	C:10.1	ナデ	灰色	良	S-1	小片	外面自然胎
192	甕	C:11.6	ナデ	灰色	良	S-1	小片	
193	盖	C:12.2 +7.5付+7.5	ナデ	灰色	良	M-L1	1/4	
194	盖	C:17.4	ナデ	灰色	良	S-M1	小片	
195	环	C:10.6	ナデ	a:淡褐色 b:灰色	良	S-2	小片	
番号	器種	法量	調査地	色調	焼成	胎土	窯存	備考
196	环	C:12.3	ナデ	灰色	良	細良	小片	
197	环	C:13.6	ナデ	a:淡褐色 b:灰色	良	S-1	小片	
198	有台环	B:7.8	ナデ	灰色	並	M-1	1/4	摩耗
199	有台环	B:8.6	ナデ	a:淡褐色 b:灰色	並	M-2	1/4	
200	有台环	B:7.8 +7.5付+7.5	ナデ	灰色	並	M-1	1/2	
201	有台环	B:8.0	ナデ	淡灰色	並	M-1	1/3	
202	有台环	B:9.5 +7.5付+7.5	ナデ	灰色	並	M-1	1/5	
203	桶	B:9.0	ナデ	淡灰色	並	S-1	1/5	周雲母
204	有台环	B:13.8 +7.5付+7.5	ナデ	a:灰色 b:淡青灰色	並	M-L1	1/6	
205	有台环	B:18.6 +7.5付+7.5	ナデ	淡灰色	並	M-2	1/4	周雲母
206	腹鉢 (肩部)	W:17.2	ナデ	a:暗灰色 b:灰色	良	S-1	小片	
207	桶	B:7.0	ナデ	淡褐色	並	S-2	1/4	
208	桶	B:9.1	ナデ	淡褐色	並	S-2	1/7	
209	桶	B:6.0 糸切	ナデ	淡型褐色	並	S-1	1/3	赤色胎
210	擂鉢	C:26.0	ナデ	淡青灰色	並	S-1	1/6	侏羅
211	环	B:3.7 (前)	ナデ	淡褐色	良	外輪輪 輪分	元	外輪輪 輪分(灰胎)
212	甕	-	ナデ	a:淡褐色 b:淡褐色	並	S-3	元	把手
213	石製器	L:(9.7) W:7.1 D:4.4	面取り	-	-	-	元	130g 碎石
214	蓋	T:7.6 +7.5付+7.5	ナデ	灰色	不良	S-1	1/3	
215	蓋	C:13.4	ナデ	暗灰色	良	S-1	1/6	
216	鉢	C:9.0 +7.5付	ナデ	暗灰色	良	S-2	小片	小輪脚 コップ型土器
217	高环	C:10.4 H:8.6 +7.5付+7.5	ナデ	a:青褐色 b:暗青色	並	S-L1 M-2	2/3	環脚 降灰
218	高环 (肩部)	B:8.6	ナデ	暗灰色	良	S-2	3/4	下垂 降灰
219	平盤	C:5.9 W:14.6 B:4.0 H:14.7	ナデ	灰色	並	S-M1	元	外輪降灰 羽根多
220	横瓶	C:12.2 W:38.1 +7.5付+7.5	ナデ	a:暗灰色 b:灰色	良	S-2	1/2	側面 降灰
221	横瓶	C:14.7 W:48.0 H:30.0	ナデ	灰色	並	S-M1	元	外輪降灰 (一部輪化)
222	甕	C:16.6 W:14.9 +7.5付+7.5	ナデ	b:暗褐色	並	S-M1	1/7	
223	甕	C:25.0	ナデ	暗褐色	並	S-1	小片	黒雲母
224	甕	W:23.4 +7.5付+7.5	ナデ	暗赤褐色	並	S-M2	1/8	
225	甕	C:18.6 W:24.2 +7.5付+7.5	ナデ	暗褐色	並	S-2	4/5	カマド
226	把手	W:4.3	ナデ	淡褐色	並	S-M2	完	
227	荪	C:23.0 W:26.0 +7.5付+7.5	ナデ	a:暗褐色 b:暗褐色	並	M-L2	1/3	

番号	器種	法量	調整	色調	焼成	胎土	過存	備考	番号	器種	法量	調整	色調	焼成	胎土	過存	備考
228	平瓶	C: 7.8		ナデ a:灰色	良	S - 2	完	重み	258	底部	B: 4.2		ナデ a:淡褐色 b:淡褐色	並	S - 1	1/2	
229	平瓶	C: 9.3		ナデ a:灰色	良	S - 2	1/8	内面降灰	259	平	C:12.2	H: 3.8	ナデ a:淡黃褐色	不良	M - 2	1/4	外底面 内口状具付
230	鉢	W:19.2	目付	灰色	良	S - M-1	2/5	外底面 ケズリ	260	盞	C:10.9		ナデ a:灰色 b:赤色	並	S - 1	1/8	
231	皿	B: 7.0		ナデ a:淡褐色 b:淡褐色	並	M - 1	1/3		261	舟形	B: 7.0		ナデ a:灰色	並	S - 1	小片	摩耗
232	把手	W: 3.6	D: 2.5	ナデ a:淡黃褐色	並	S - 2	完		262	笠型	B: 9.0		ナデ a:灰色 b:赤色	並	S - 2	1/3	摩耗
233	鉢	C:20.0		ナデ a:淡黃褐色 b:淡褐色	並	M - 2	1/6		263	楕	B: 6.8		ナデ a:淡褐色 b:赤褐色	並	M - 2	1/2	
234	鉢	C:22.6		ナデ a:淡褐色 b:淡褐色	並	M - L-1	小片		264	楕	B: 8.2		ナデ a:淡褐色 b:赤褐色	並	S - 2	1/6	
235	甕	C:17.7		ナデ W:22.4 H:25.5	並	S - 2	3/4		265	瓶 (青瓶)	C:13.2		ナデ a:淡褐色 b:白色	良	堅密	1/8	雷文帶 (崩れ) 淡褐色
236	甕	C:17.2		ナデ W:21.6 H:26.6	並	S - 3	2/3	摩耗 カマド	266	盞	C:10.2		ナデ a:淡褐色 b:灰色	良	S - 1	1/5	天井部 内側剥離
237	浅鉢 (藏文)	C:26.6 B: 7.0		ナデ ミガキ	並	S - M-2	1/2	八日市形状	267	盞	F: 5.8	切口→打	ナデ a:灰色	並	S - 1	1/3	無疵
238	鉢 (藏文)	C:12.2 B: 5.8		ナデ 指揮	並	L - 2	完	内面 条件付着物 採取り痕	268	环	B: 4.5		ナデ a:灰色	並	S - 1	1/5	摩耗
239	深鉢 (藏文)	W:26.0 B: 8.0		ナデ 指揮	並	M - L-1	1/7	粗製無紋	269	双耳瓶			ナデ a:灰色 b:淡褐色	良	S - 2	1/8	外面部 自然釉
240	碗	C:12.5 B: 4.6 H: 4.0		ナデ 赤褐色	並	M - 1	1/2		270	皿	C: 9.0		ナデ a:淡褐色 b:赤色	並	M - L-1	1/3	
241	鉢	L:10.1 W: 2.7 D: 1.2					完	30g 鉢状	271	小型盞 (藏文)	B: 6.2		ナデ a:淡褐色	並	S - 2	1/3	
242	楕	C:15.2		ナデ a:淡褐色 b:淡褐色	並	M - 2	小片	内面 液化物	272	深形 (藏文)	B: 8.0		ナデ a:淡褐色 b:淡褐色	不良	L - 1	1/3	側代痕痕
243	甕	C:23.0		ナデ ハケ	並	M - L-1	小片		273	鉄鉢	C:24.6		ナデ a:淡褐色	並	S - M-2	1/6	
244	楕	B: 5.4		ナデ a:淡褐色 b:褐色	並	M - 1	1/3	内墨	274	鉄鉢	C:20.0 W:21.3		ナデ a:淡褐色	並	S - 1	小片	
245	楕	C:14.0 B: 5.8 H: 3.6		ナデ a:淡褐色 b:淡褐色	並	M - 2	1/3		275	鉄鉢	C:20.0 W:21.0		ナデ a:淡褐色 b:赤褐色	並	S - M-1	1/8	
246	皿	C: 9.4 B: 5.8		ナデ 糸切	並	M - 2	1/3		276	鉄鉢	W:27.4 B:11.4		ナデ a:淡褐色 b:褐色	並	S - M-1	1/6	
247	楕	B: 6.4		ナデ 糸切	並	M - L-1	完		277	楕	B: 5.4		ナデ a:淡褐色	並	S - 1	1/2	摩耗
248	楕	B: 6.0		ナデ 糸切	並	M - 2	完		278	楕	C:11.0		ナデ a:淡褐色	並	S - 1	1/7	
249	玉緑柄	C:19.3 (白船)		ナデ a:淡褐色	良	堅密	小片		279	楕	C:11.4		ナデ a:淡褐色	並	S - 1	小片	
250	玉緑柄	C:14.6 (白船)		ナデ a:淡褐色	良	堅密	小片		280	楕	C:10.8 B: 4.8 H: 3.2		ナデ 糸切	並	S - 1	1/3	
251	楕	B: 5.1		ナデ 糸切	並	M - 2	小片	内墨 厚	281	鉄鉢	C:22.0 W:25.0		ナデ a:淡褐色	並	S - 2	1/4	
252	盞	N: 8.8	目付	a:灰色 b:褐色	並	S - 2	1/3		282	深鉢 (藏文)	C:(28.2)		ナデ a:淡褐色	並	S - 2	小片	柔軟
253	甕	C:(23.6)		ナデ a:淡褐色	並	S - 1	小片		283	楕	B: 5.4		ナデ a:淡褐色 b:淡褐色	並	S - M-2	1/2	摩耗
254	把手	W: 3.6		ナデ a:淡褐色	並	L - 1	完		284	楕	B: (6.2)		ナデ 糸切	並	S - 1	1/4	高台剥離
255	楕	B: 6.0		ナデ 糸切	良	堅密	小片	内墨 厚	285	鉄斧	L:(6.3) W: 4.2 D: 2.3						53.5g 本質残る
256	皿	C: 8.2 B: 4.4 H: 2.2		ナデ 糸切	並	S - 2	完		286	棱鏡	C:15.6		ナデ a:淡褐色 b:淡褐色	良	S - 1	1/3	
257	皿	C: 9.8		ナデ a:淡褐色 b:淡褐色	並	S - 2	1/4		287	鉢	C:19.1		ナデ a:淡褐色 b:淡褐色	並	S - 1	1/8	

## 第3節 1993年度の調査

### 1. 調査の経過と概要

当年度の調査区は上林新庄遺跡のいわば中軸部分にあたり、夥しい数の遺構、遺物が出土している。11,650m<sup>2</sup>という広大な調査予定面積に対し、担当者1人で4月13日から調査に着手したもの、結果的にすべての調査を終えたのは年も改まっての翌年3月23日、年度内ぎりぎりの調査であった。区画道路建設予定地から調査を優先し、終わり次第工事業者に引き渡していたため冬の積雪期間には未記録の部分にまで工事残土を積まれてしまい、結果として5区の一部に擾乱を受けることとなってしまったことが残念である。

調査の概要としては、遺跡推定地の中心部分にふさわしく多種多岐にわたる遺構、遺物が出土している。特に集落の根幹を成す居住関係の施設は調査区の南側部分に集中し、それに伴う長方形の船形をした土坑とともに多量の製鉄関連遺物を出土しており、当地が南部地区一帯に広がる大規模な集落の中の製鉄者集団の居住地であったことを示している。

### 2. 遺構と遺物

当年度調査区では、竪穴住居43棟、掘立柱建物37棟、柵列8条、土坑は代表的なもので37基、その他ピット、溝等多数の遺構を検出している。この内掘立柱建物及び柵列についてはさらに増加する可能性を多く含んでいる。また、居住施設については大半が主軸を10度前後西に振る状態で存在しており、非常に高い計画性をもって営まれていたことを窺わせる。内容の検討については、全城にわたって遺構密度が非常に高く、それぞれの在り方が錯綜しているためプランでの確認や遺物の帰属など不確かな部分が多いが、全体の中での時間幅の補足的な意味合いを持って見ていただきたい。以下、それぞれの遺構については検出された数が多く、混乱を避けるためにもここでは便宜的に各区ごとに解説を加えていく。

#### 1) 1区

当年度調査区の西端に当たり、区画道路建設予定地である南北に細長い調査区である。

##### ・竪穴住居

9棟確認されている。この内北側に位置する2棟(S I-9301・02)については当調査区の主体を成す中央～南ブロックとは異質のものと思われる。同一世帯の建て替えとしてとらえられよう。それに対してS I-9303から南に位置する7棟は主グループの成員と考えられ、やや小型のS I-9303には床面に激しく火を受けた痕跡が認められる。他の住居には見られない北壁側のテラス状施設も特異なものであり、遺物は北東側のやや窪んだ地点より集中して出土している。また、西壁際に見られる方形の土坑南肩に接して鉄滓ではないものの大量的鉄分が認められる。土坑内の覆土そのものからは焼土等の確認はなかったが粘性の強い灰層が含まれており、何らかの形で鉄生産に関わった住居の可能性が高い。その他、南壁際に集中する4棟は各々が建て替えられたものと思われ、出土した遺物(第83・84図)から窺える様相はS I-9306・09を保留するが僅かな時間差ながら8世紀半ばを挟んでS I-9308→07という変遷が考えられる。おそらくS I-9306・08→S I-9307・09の小グループに対応するのである。また、S I-9307~09の3棟は覆土が薄く、いずれも黒色土の単層である。

##### ・掘立柱建物

南半のみに分布し、5棟確認している。規模的には中程度の建物であり、主軸を等しくするS B-

9302・03とS B-9301・04はそれぞれ同時に存在した可能性が高い。柱穴の規模から建物として復元したS B-9305は、妥当であれば主軸方位より後述する2区のa群建物に含まれる可能性がある。図示した遺物はS B-9301のS P-aより2点（第99図243・244）、S B-9303のS P-bより1点（第99図245）のみであり、時期を決定するには至らないものであるが、プランからの確認ではS B-9302の南端柱穴がS I-9303を確実に切って掘られている。

#### ・ピット

無数のピットを検出しているが、遺物を図示したものに限り遺構番号を付し、遺構としては竪穴住居に干渉するもの及び掘立柱建物を形成するもの以外は図示しなかった。1区からは5基のピットより遺物を出土している。この内、S P-9301より出土した須恵器壺蓋（第100図264）は当遺跡の中でも最も古相を示す一群に属するものであり、7世紀前半に位置付けられる。他は明確には確定し難いものの概ね8～9世紀前半に収まるものである。

#### ・土坑

図示したものは8基を数え、遺物を図示したものは4基に止まる。この内S K-9303から出土した3点はいずれも小片であり、特に擁とした第103図318は口径を定め難いものの鉢である可能性も残す。また、S K-9304より出土した3点（第103図319～321）については窓口縁部の形態及び調査より8世紀末から9世紀初頭に位置付けられ、30gの鉄滓を伴う。S K-9305から出土した一群はいずれも古相を示し、7世紀末から8世紀初頭に位置付けたい。S I-9305に北接するS K-9307からは248gの鉄滓1個が出土している。第103図329はS K-9307及び08より出土した細片が接合したものである。

#### ・その他

中央北寄りに位置するS X-9301はプランの崩れが著しいためここでは竪穴住居とは扱わなかった。焼土等カマドの存在を窺わせるものも確認されていない。底面までの深さは最大で31cmを測る。遺物の出土はなかつた。

### 2) 2区

中央北半に伸びる調査区であり、西側1/3程を近代の旧河川で破壊されている。南半に比べて北半では竪穴住居、掘立柱建物とともに数が多く、特に北端では遺構密度を極端に減じる傾向が認められる。

#### ・竪穴住居

20棟検出されている。一見全域にわたって分布しているように見えるが、南側の一群の方が密集度が高く、規模の大きなものが多い。北側で干渉する3棟（S I-9313・14・15）はプランがやや弛緩しており、規模も当遺跡の中では中程度のものである。遺物の様相から窺える推移は、煮炊具が井輪軸成形で占められるS I-9313（第84図34～37）が最も古く、次いでS I-9315（第85図42～46）→14（第85図38～41）となろう。具体的には8世紀初頭から同後半にかけて行われた同一世帯の建て替えと思われる。また、中央に位置するS I-9317は、検討資料が僅かであるものの丁寧に井輪軸成形し、口縁端部に面取りを施す甕（第85図50）はやや新相を示しており、8世紀末に位置付けたい。S I-9319はやや先行するものであろう。S I-9316・18については判断を保留する。

これに対して、南半のグループでは床面積30m<sup>2</sup>前後の比較的大型の住居を核とし、それぞれ中型の住居1棟ないし数棟で構成される遺物小群の移動を検出することが可能である。看過できる遺物の様相からは、大型住居としてはまず4本主柱の痕跡が顕著に残るS I-9323が最も古相を示し、次いでS I-9321が営まれる。S I-9325・26については判断に苦慮するが、プランからの確認ではS I-

9325が先行しており、S I - 9321とほぼ同時期に位置付けておきたい。S I - 9326は僅かな時間差をもって後続するものであろう。この内S I - 9323については火災住居であり、床面に多くの炭化材が確認された。配置から見て、1区のS I - 9305・09の群と関係する可能性もあるがS I - 9308との間にはやや時間差が認められる。次に、中型住居では南東隅に展開するS I - 9328がやや古相を示し、S I - 9329に建て変わる。S I - 9324についてはS I - 9329とほぼ同時期と思われる。これらの対応関係を表に示すと、

		… II <sub>1</sub>	II <sub>2</sub>	II <sub>3</sub>	III	IV <sub>1</sub>	IV <sub>2</sub> (古)	IV <sub>2</sub> (新)…
北 側	大型住居				9310			
	中型住居				…9311…			
中 央	大型住居				9313→9315	9314		9317
	中型住居							…9319…
南 側	中型住居				9324			
	大型住居		9323	9321	9326→9325			
	中型住居				9328 → 9329			

のように表される。これらの内南半の住居群は、後述する4区の竪穴住居群との間に一定の距離を保って営まれていることから、別個のものとして展開したものであろう。なお、S I - 9320・22・27については判断を保留する。同様に、北側の小群についてもS I - 9310を核として存在していたものと考えられる。

#### ・掘立柱建物

中央やや南寄りを中心に展開し、8棟確認しているが柱穴状のビットも多数見られさらに増加する可能性を含む。東西棟であるS B - 9306を除けば主軸方位をやや西に振る南北棟で構成されており、S B - 9313及び倉庫と思われるS B - 9312以外はすべて5×2間の規模である。この内S B - 9308は桁行の柱間が広く、想定される面積は他に比べて大きい。また、S B - 9311は規模こそ通有のそれであるが、個々の柱穴掘り方は一辺80cm、深さ48cmを越える立派なものであり、一線を画している。竪穴住居との前後関係については柱穴から出土した遺物が乏しく、積極的に時間差を窺えるものはないが、ただ1棟S I - 9321と干渉するS B - 9311の柱穴は、S I - 9321の床が浅く、覆土のほとんどが削平された状態での検出であったものの竪穴住居に後続する様相を示している。それぞれの建物の在り方としては、S B - 9306以外の主軸方位は概ね西に振れており、その中でもa:3~5度程度振るもの(S B - 9307・10・11・12)とb:7~9度程度振るもの(S B - 9308・09・13)の2群に大別される。これらの内遺物の様相から直接比較できるものとしては、S B - 9307を形成するS P - aより出土した甕口縁部片(第99図249)と、S B - 9309を形成するS P - aより出土した甕口縁部片(第99図251)がある。ともに1点ずつの比較であるため判断には慎重を要するが、端部内面に稜をもたせ鋭角的に仕上げる249と、強く外反し端部を丸く仕上げる251では後者の方が若干先行する可能性をもつ。これらの建物群の推移は、隣接する1区の建物群の在り方と密接に関係しているものと考えられる。

#### ・柵列

調査区中央で 2 列確認している。S A - 9301は柱間 2 間、長さ芯間で4.29mを測る。主軸方位を 5 度西に振っており、上記の a 群に対応するものと思われる。柱穴よりの遺物の出土はなかった。S A - 9302は同じく柱間 2 間、長さ芯間で3.93mを測る。主軸方位を11度西に振っており、上記 b 群に対応するものであろう。遺物は S P - a より須恵器 2 点が出土している。8世紀前半代のものであろう。

#### ・土坑

図示したものは 9 基であり、不定形なプランを呈するものが多い。S K - 9313は略方形を基本としながら内部に円筒形の掘り込みを複数有するものであるが、土層の観察からは 2 次的な破壊を受けていないことが知られる。遺物は 7 点図化している(第104図331~337)。この内 331はやや占相を示すものであるが、土師器壺類は体部にハケ調整痕を残すものの橢円成形を基本としている。口縁端部の形態より多少の幅は看過できるものの 8 世紀末頃を下限と考えたい。S K - 9315は S I - 9326の南に位置する略長方形の土坑である。図化し得た遺物(第104図338~341)は少ないものの S K - 9313とほぼ同時期に溝きたい。S K - 9317は調査区南端に位置する瓢箪形を呈する土坑である。図化し得た遺物は 5 点(第104図342~346)であり、7世紀末から 8 世紀初頭のものであろう。

#### ・その他

S K - 9315と干渉する S X - 9303は不定形の落ち込み状を呈するものであり、深さは最深で13cmを測る。遺物は法量のほぼ等しい土師器壺 2 点が出土しているが、種々の遺構が錯綜しており判別し難い。また、多数見られるビットについては出土した遺物がそれぞれ 1 ~ 2 点程度であり、ここでは割愛する。その他、調査区西寄りには南北に長く続く遺構密度のやや薄い部分が伸びているが、弱い輪郭部によるものである。

### 3) 3 区

南西側に位置する扇状の調査区である。西辺では遺構密度が徐々に薄くなり、遺跡推定地の終焉に近いことを思わせるが、一部掘立柱建物が調査区外へ伸びており、若干の広がりがあるものと思われる。中央部分一帯に地山堆積時に残された自然礫が大きく広がっており、遺構検出にはかなりの困難を伴った。

#### ・竪穴住居

東壁に沿って 3 棟検出している。S I - 9330は基幹となる生活農道の下へ伸びており、全容を知ることはできなかった。遺物は 1 点(第89図105)出土している。図上下半を欠損している T 字状の土製品であり、弧を描く上部に剥離痕が認められる。瓶等の底部に水平に取り付くものであろうか。S I - 9331は床面積では大型に含め得るものであり、プランでの確認では S K - 9319に先行する。遺物は須恵器 4 点、土師器の壺底部 1 点(第89図106~110)を図示している。全体的に占相を示し、7世紀後半から末に位置付けられる。また、この住居からは鉄滓が 2,092 g 出土しており、製鉄に関連する施設であったことが想定される。また、S I - 9332は全体を知ることはできなかったものの形状的にはバランスの良い中型住居である。図示し得る遺物の出土はなかったが、主軸方位を S I - 9331とほぼ等しくする。

#### ・掘立柱建物

東半で 8 棟確認しており、2 × 2 間の倉庫 2 棟(S B - 9314・16)を含む。それ以外で全体が確認されたものはすべて 4 × 2 間の南北棟であり、S B - 9315は北梁で 3 間となる。また、S B - 9317は北側に庇をもつものであろう。S I - 9320・21の 2 棟は南北棟となる。これらを主軸方位により大別

すると、a：西へ5～7度程度振るグループ（S B-9315・16・17・18）とb：ほぼ磁北を向くグループ（S B-9319・20・21）、c：西へやや大きく振るS B-9314の3グループを抽出することができる。実測し得る遺物が出土しておらずS B-9318と9319の新古は俄には決定し難いが、S B-9314は別にして、ここでは中央に展開する倉庫1棟を含む4棟からなる建物の在り方（a群）と、南側に見られる南北棟、東西棟1棟ずつからなる在り方（b群）の2つの姿が浮かび上がってくる。竪穴住居との関係（時期的・機能的）は言及し難いものの、いずれの主軸方位も前者とほぼ等しいことには注目される。

#### ・上坑

図示したものは4基である。北西側に位置するS K-9318からは鉄滓165gが検出されており、重複するS P-9322からも僅かではあるが出土している。内部に多数切り合うピットとの前後関係を詳しく検証したわけではないが、出土した遺物（第105図347～356）の様相からは8世紀末頃に位置付けられる。S P-9322から出土した鍋（第101図294）も同時期である。また、中央東側にある不定形なS K-9320からもある程度（340g）の鉄滓が出土しているが、図化し得た遺物は須恵器1点（第105図357）のみであり、判断を保留する。これらの上坑はS I-9331との間にはかなりの時間差を有するものの、周辺で行われた製鉄に関連するものと思われ、その初現は7世紀末までは遡るものであろう。

#### ・その他

S Xとしたものは内部に多くのピットが錯綜しており、S X-9304・05とともに深さ13cm程度を測る浅い窓みのようなものである。ともに図化に耐える遺物は出土していない。

### 4) 4区

中央南側の調査区であり、当年度の調査で最も多くの遺構・遺物を検出している。調査時の状況はまさに「足の踏み場もない」といったものであり、工期に追われながらの担当者1人での調査では、とてもすべての遺構の前後関係を検討しながら進めることは不可能であった。

#### ・竪穴住居

中央部分を中心に10棟検出している。この内S I-9335は上林新庄遺跡全体では最大の規模をもつものであり、周辺でも平成8年度に調査された下新庄アラチ遺跡S I-43（『下新庄アラチ遺跡』野々市町南部上地区画整理事業に係る緊急発掘調査報告書Ⅱ 1999年3月刊）に次ぐものである。アラチS I-43が、集落の長クラスの政治的性格をも合わせ持つ住居と考えられるのに対して、S I-9335は周辺の製鉄従事集団を束ね指揮した人物の住居であったのではないか。検出時の状況は、南東隅に重複するS I-9336よりも床面が浅いため結果的にはカマド部分を掘り下げたが、S I-9336の覆土上に焼土が広がっており、9336→9335の時間列で考えられる。出土した遺物の様相からもこのことは肯首でき、S I-9335で確認されたもの（第90図114～123）は概ね8世紀初頭に比定されるのに対して、S I-9336より出土したもの（第90～92図124～155）は若干の時間幅を有するものの概ね7世紀中頃から後半にかけてのものであり、針状の鉄製品を伴う。この内S I-9336で注目されるのは、図化したもの以外にも多くの轍羽口片が検出されていることと併せ、格子口押きの残る平瓦の小片1点（150）の存在である。すでに終了した南部地区全体の調査の中でも唯一の確認であり、埋没時の混入品であろうか。周辺では7世紀末の建立とされる末松庵寺跡より大量に出土している。また、S I-9335の検出時の状態は中央部分が床面を露出するほどのものであり、上層観察のための帶を設定するべくもなかったが黒色土の单層であった。北西側に隣接するS I-9333は竪穴住居としたもののプランが今ひとつ

曖昧であり、S X-9306と重複する南東角の状況も判別し難いほど弛緩したものである。図化した遺物（第90図111～113）は少量であるが、S I-9335に若干後続するものと思われ、韁羽口片も確認されている。この他、S I-9334からは明確な遺物の出土はなかったが、プランの確認ではS I-9335に切られていることは確定である。これに対して、東側では大型のS I-9340を中心として中（S I-9338・39）・小型住居（S I-9337・42）が展開する。これら5棟に遺物の様相から序列をとると、8世紀前半に比定されるS I-9340を筆頭に以下S I-9339→42（→）37-38となり、8世紀末をもって堅穴住居は姿を消す。この内、S I-9340・39・38の3棟からは韁羽口片が出土しており、やはり製鉄に関係した住居であったことを示している。これらのことを総合すると、3区のS I-9331までを含め上林新庄遺跡の中心部南半では同時に存在した堅穴住居は1～2棟程度であり、僅かな時間差をもって推移していたことがわかる。その他、S I-9341については2点（第97図227・228）図化しているが、帰属する時間幅が大きく判断を保留する。

#### ・掘立柱建物

倉庫1棟（S B-9323）を含む11棟が確認されており、南半を中心として展開しているが、欄列としたものや他に多数見られる柱穴状のピットを詳細に検討すれば、さらに増加する可能性を多分に含む。南西隅に位置するS B-9326・27は特別な機能を持った長大な建物であり、過半を知り得たS B-9326は7×2間の大型建物である。同一場所での機能をも継承した建て替えがおこなわれたものであろう。南端に並列して存在するS B-9329・30、S B-9331・32の4棟の建物もそれに呼応する形でそれぞれ建て替えられたものと考えられる。S B-9328はS B-9327が存在した時点の建物であろうか。柱筋の芯間で2mという距離は、建物として復元した場合軸を接する距離であり少々不安が残る。出土した遺物はいずれも小片であり、積極的に時期差を論じられるものはないが、各々の距離を重視して配置の復元を試みた場合、上記7棟の建物はa、S B-9326・9329・9331とb、S B-9327・（9328）・9330・9332の2グループに大別し得る。これらどちらかにS B-9324・25が付随するのであろうか。同じ論拠から言えばS B-9325がaグループに、S B-9324がbグループに帰属するものと考えられるが、bグループの内S B-9332は主軸方位の面からはS B-9325に近く、この2棟で別のグループを形成する可能性も残す。S B-9322・23は互いに主軸方位をほぼ等しくするものの、上記2グループとは異質であり、第3（4）の時間幅で捉えられるものであろう。ここで扱う建物群より出土した遺物は微小であり、時期決定の参考となるものは少ないが、S B-9325のS P-aより鉄斧状鉄製品が1点（第99図255）出土している。

#### ・柵列

5列確認しているが、柱穴の掘り方は掘立柱建物として復元したものを規模、質共に越えるものも見られ再考を要する。中央西寄りに位置するS A-9303は柱間2間、長さ芯間で3.69m、軸方位N9°Wを測る。東に隣接するS A-9304は柱間2間、長さ同じく4.05m、軸方位15°Wを測る。S B-9322に南接し、唯一S P-aより遺物（第99図263）が出土したS A-9305について全體を検出し切れていないものと思われ、建物として復元した方が妥当かも知れない。現状で北辺柱間3間、東辺同じく2間、4.35×3.69mの規模をもち、軸方位はS B-9322にほぼ等しい。南半西側に位置するS A-9306は柱間3間、長さ6.07m、軸方位N12°Wを測る。調査区南西隅に位置するS A-9307は柱間2間、長さ3.27m、軸方位N13°Wを測る。

#### ・土坑

図示したものは15基を数え、その内8基が竪穴住居の分布において空白となっている中央部分に集中している。S I-9339に隣接する楕円形のSK-9324(第105図359~362)は、362においてやや新相を示すものの8世紀中頃を考えたい。362については重複して掘り込まれたピットに帰属するものであろう。調査区中央東壁際に位置し、S I-9339・40と重複するSK-9325は9世紀中頃の所産と思われ、両住居跡の後代のものである。中央に位置するSK-9327はまとまった量の遺物(第106~107図368~390)を出土しており、9世紀中頃から後半と思われる周辺では最も新相を示すものである。図示したもの以外にも輪羽口片が多く見られ、釘状鉄製品2点を含む。SB-9326の東に位置し、略長方形のSK-9333は製鉄関連の遺物は見られないが、8世紀前半のものであろう。その他、土器の出土は僅かであるが、SK-9328~32からはいずれも輪羽口片が確認されている。これらの中略長方形を呈するSK-9323・25・27・28・30・35などは壁などに強く火を受けた痕跡は確認されないものの製鉄作業に密接に関連した土坑と思われ、主軸方位を竪穴住居及び掘立柱建物群とほぼ等しくし、計画的に掘られたことを窺わせる。また、SK-9334は北側に伸びる溝とともに製鉄炉を形成する上坑と思われる。土器の出土は僅かであるが、溝とともに輪羽口片及び鉄滓を一定量検出しておらず、西側の一端高い部分に火床が見られ、東側のピット状掘り込みには焼土粒とともに多量の炭・灰が充填されていた。

#### ・その他

S I-9335の東に位置するSP-9325より底部に墨書きされた須恵器坏1点が出土している。上半を欠いており、全体は不明であるがしっかりと筆跡で「成」一文字が確認される。その他、調査区南西隅に位置し、SK-9336と重複するSP-9337からは輪羽口が出土している。

#### 5) 5区

最も東側に位置する調査区であり、東辺を現木呂川に接する。検出作業時の状況は、北半帯に自然疊が多数表出しておらず、また南半は鞍部と思われる湿気を含んだ暗い色調の地山であったためやや難航した。冒頭で述べたように、南西側一帯が調査を終えて記録作業を残す段階であったにも拘わらず、工事業者の破壊によって失われたことが残念であるが、過半が近代の旧河川によって占められていたことが不幸中の幸いである。

#### ・竪穴住居

北端に位置する1棟だけの検出であるが、実際には破壊を受けた部分の南側にも中型の端正な住居がもう1棟存在した。S I-9343の在り方は他の住居群とは隔離されており、もう少し広がる北及び東方向に小群を形成していた可能性がある。出土した遺物からは9世紀前半に位置付けられ、周辺の竪穴住居群が減少していく時期に当たるものである。また、破壊された住居については4区のSI-9340を中心としたグループに含まれたものであろう。

#### ・掘立柱建物

北半に5棟確認されている。SB-9333は本来は総柱の倉庫棟であろう。南接するSB-9334は全体を確認できていないが、地山の色調が暗褐色を呈する中で、畝溝状遺構と錯綜した状況にあったためあり建物としての復元は妥当と考えている。その他SB-9335~36の3棟は主軸方位が一定せず区分し難い。遺物はSB-9336・37が共有するSP-aより2点(第99図259・260)確認されているが、その帰属は明らかでない。

・その他

当調査区で確認された遺構からの遺物出土は僅かであるが、調査区南側に位置し、略方形を呈すると思われる S K-9337 は 8 世紀前半と思われる。また、中央東側に位置し、不定形な浅い落ち込み状を呈する S X-9308 は 8 世紀後半から 9 世紀前半のものが混在している。

### 遺構一覧表

#### ・S I (竪穴住居)

番号	長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)	床面積(m <sup>2</sup> )	形 状	主軸方位	備 考
9301	4.10	—	27	—	方形か	N1°W	IV <sub>1</sub> ~IV <sub>2</sub> (古)
9302	3.20	—	18	—	略方形か	N5°E	
9303	4.04	3.34	24	12.9	略方形	N3.5°E	IV <sub>1</sub> ~IV <sub>2</sub> (古)
9304	4.84	—	17	—	方形か	N4°W	
9305	(4.72)	(2.94)	23	(13.18)		N0°	
9306	4.58	3.82	22	16.40	長方形	N3°W	須恵器・土師器
9307	4.76	4.18	15	19.89	方形	N2°E	III~IV <sub>1</sub>
9308	3.38	2.84	14	9.30	長方形	N7°E	III
9309	3.08	2.78	17	8.40	略長方形	N13°E	
9310	6.80	—	41	—	長方形か	N0°	III
9311	3.24	2.14	13	6.93	長方形	N5°W	II <sub>3</sub> ~III
9312	4.20	—	29	—	方形か	N0°	
9313	4.16	2.90	26	10.94	略長方形	N21°W	II <sub>3</sub>
9314	3.56	2.76	33	9.82	略長方形	N7°W	IV <sub>1</sub>
9315	3.40	3.10	26	10.46	長方形	N15°W	II <sub>3</sub> ~III
9316	2.66	2.40	41	5.94	略方形	N10°E	須恵器
9317	5.76	4.42	10	25.45	長方形	N0°	IV <sub>2</sub> (古)
9318	4.90	4.60	12	22.54	方形	N1°W	鉄製品
9319	3.30	3.24	33	10.36	方形	N2°W	III~IV <sub>1</sub>
9320	5.76	(4.90)	22	(26.02)	長方形か	N0°	
9321	5.90	5.40	5	31.86	方形	N6°W	II <sub>3</sub>
9322	2.84	2.70	28	7.55	略方形	N4.5E	
9323	6.86	(5.28)	10	(36.02)	長方形か	N3°E	II <sub>2</sub>
9324	4.40	3.68	38	16.19	長方形	N1°E	III
9325	6.02	4.30	16	27.43	長方形	N3°W	II <sub>3</sub> ~III?
9326	6.50	5.10	27	33.89	長方形	N2°E	II <sub>3</sub> ?
9327	4.48	3.84	7	12.31	長方形	N8.5°E	
9328	(4.60)	4.42	17	(19.98)	長方形か	N4°W	II <sub>2</sub> ~II <sub>3</sub>
9329	4.28	4.20	26	17.87	略長方形	N8°E	II <sub>3</sub> ~III

番号	長幅(m)	短軸(m)	深さ(cm)	床面積(m <sup>2</sup> )	形状	主軸方位	備考
9330	3.80	—	31	—	—	N1°E	土製品
9331	5.56	4.94	20	27.20	略方形	N7°W	II <sub>2</sub>
9332	3.82	—	27	—	方形か	N8.5°W	
9333	(5.60)	—	22	—	(略長方形)	N18°W	II <sub>3</sub> ?
9334	—	4.06	7	—	—	N11°W	
9335	8.46	7.24	9	57.97	略長方形	N13°W	II <sub>3</sub>
9336	5.34	5.20	37	26.20	略方形	N26°W	II <sub>1</sub> ~II <sub>2</sub> ·III?
9337	3.24	2.74	18	8.70	略長方形	N5.5°W	IV <sub>1</sub> ~IV <sub>2</sub> (古)
9338	4.60	(2.90)	29	(13.06)	長方形	N6.5°W	IV <sub>2</sub> (古)~(新)
9339	5.10	4.30	22	22.14	長方形	N15°W	III~IV <sub>1</sub>
9340	7.16	5.44	16	36.78	長方形	N13.5°W	II <sub>3</sub> ~III
9341	3.50	(2.10)	14	(7.32)	略方形か	N11°W	II <sub>1</sub> ~II <sub>2</sub> ·IV <sub>2</sub> 古
9342	4.06	3.10	26	13.06	略長方形	N6°W	IV <sub>1</sub>
9343	3.60	3.18	12	11.06	略方形	N4°E	IV <sub>2</sub> (新)?

・ S B (掘立柱建物)

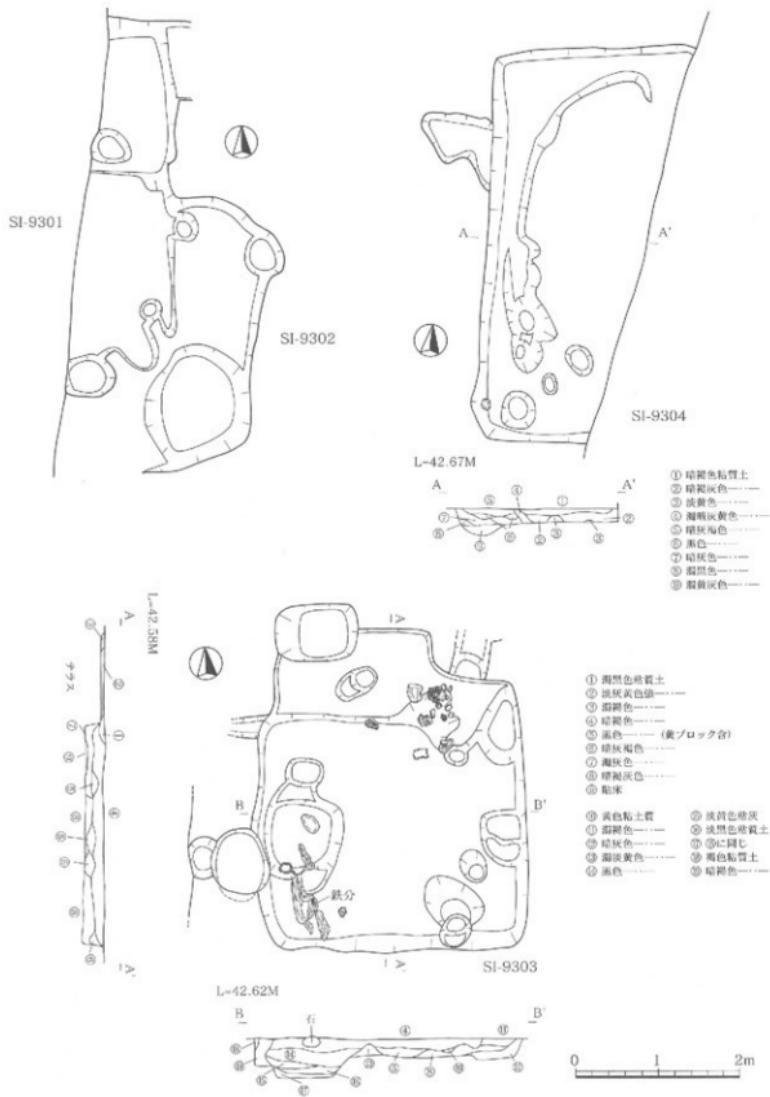
番号	規 模	桁行(m)	梁行(m)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方位	備 考
9301	5×3	8.56	4.94	42.29	N13°W	須恵器
9302	3×?	4.20	—	—	N1°E	
9303	4×?	6.14	—	—	N1°E	土師器
9304	3×2	6.16	4.44	27.35	N12°W	
9305	3×?	4.12	—	—	N3°W	
9306	?×2	—	4.72	—	N6°E	須恵器
9307	5×?	8.84	—	—	N3°W	須恵器
9308	5×?	12.26	—	—	N7°W	
9309	5×2	9.68	4.76	46.08	N9°W	須恵器
9310	5×2	8.68	4.96	43.05	N5°W	
9311	5×2	8.80	4.84	42.59	N2.5°W	
9312	2×2(縦)	3.72	3.52	13.09	N4.5°W	
9313	4×?	6.04	—	—	N7°W	
9314	2×2(縦)	4.00	3.16	12.64	N13°W	
9315	4×2(3)	6.72	4.32	29.03	N5°W	
9316	2×2(縦)	3.76	3.56	13.39	N5.5°W	
9317	3×2(身)	7.66	5.08	38.91	N6.5°W	
	(合院)	9.92	5.08	50.39		
9318	3×2	6.92	4.48	31.00	N7°W	
9319	3×2	7.32	4.44	32.50	N2°E	
9320	?×2	—	4.10	—	N0°	

番号	規模	桁行(m)	梁行(m)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方位	備考
9321	? × 2	—	3.48	—	N0°	
9322	4 × 2	8.12	4.36	35.40	N19°W	須恵器
9323	2×2(縦)	4.28	4.20	17.98	N17°W	
9324	3 × 2	5.76	4.12	23.73	N12°W	
9325	3×2(3)	6.16	4.80	29.57	N8°W	須恵器・鉄斧?
9326	7 × 2	13.4	5.98	80.13	N11°W	須恵器
9327	—	—	—	—	N13°W	
9328	3 × 2	7.68	4.12	31.64	N10°W	
9329	3 × 2	7.56	4.96	34.50	N11°W	
9330	4 × 2	7.28	4.68	34.07	N13°W	
9331	4 × 2	8.06	4.76	38.37	N11°W	須恵器
9332	4 × 2	8.34	4.98	41.53	N6°W	
9333	2×2(縦)	4.56	3.72	16.96	N1°W	
9334	3×2(?)	5.40	5.20	28.08	N9°W	
9335	3 × 2	4.44	3.88	17.23	N3°W	
9336	3 × 2	7.52	4.86	36.55	N11°W	須恵器
9337	4 × 2	9.16	5.28	48.36	N8°W	同上

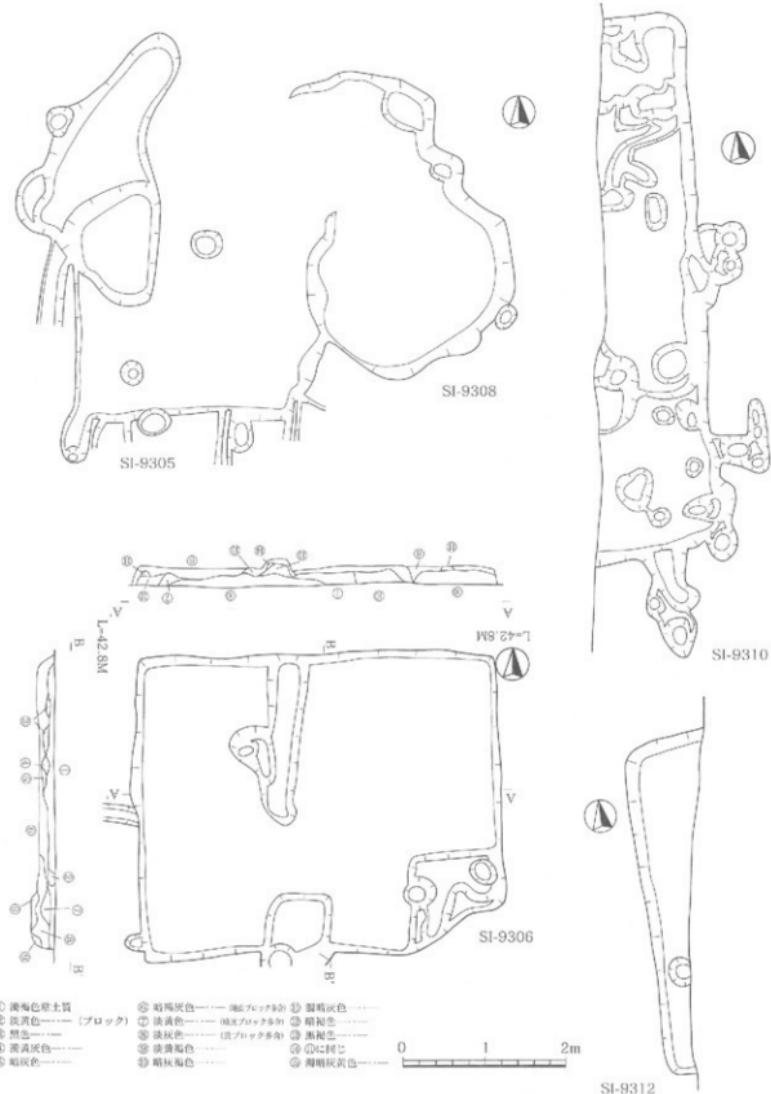
・ SK (土坑)

番号	長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)	形狀	備考
9301	2.16	1.24	31	略楕円形	
9302	2.80	1.90	8	略長方形	
9303	4.14	—	49	不定形	須恵器、土師器
9304	1.34	1.08	20	不定形	IV <sub>2</sub> (古) ~ IV <sub>2</sub> (新)
9305	3.30	—	23	長方形か	II <sub>2</sub> ~II <sub>3</sub>
9306	2.00	1.44	23	長方形か	
9307	3.40	1.54	32	略楕円形	須恵器、鉄滓
9308	3.74	2.24	51	不定形	須恵器
9309	2.10	1.84	22	略方形	須恵器
9310	1.30	1.20	19	略円形	
9311	2.50	0.92	17	不定形	
9312	3.20	2.20	14	略長方形	
9313	3.80	3.04	72	複合	~IV <sub>2</sub> (古)
9314	4.30	1.68	9	不定形	
9315	1.68	1.48	19	略長方形	IV <sub>2</sub> (古)?
9316	2.88	2.80	15	不定形	
9317	2.08	1.02	18	略楕円形	II <sub>2</sub> ~II <sub>3</sub>
9318	2.44	2.42	14	略方形	IV <sub>2</sub> (古)

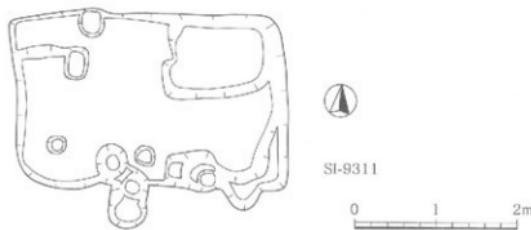
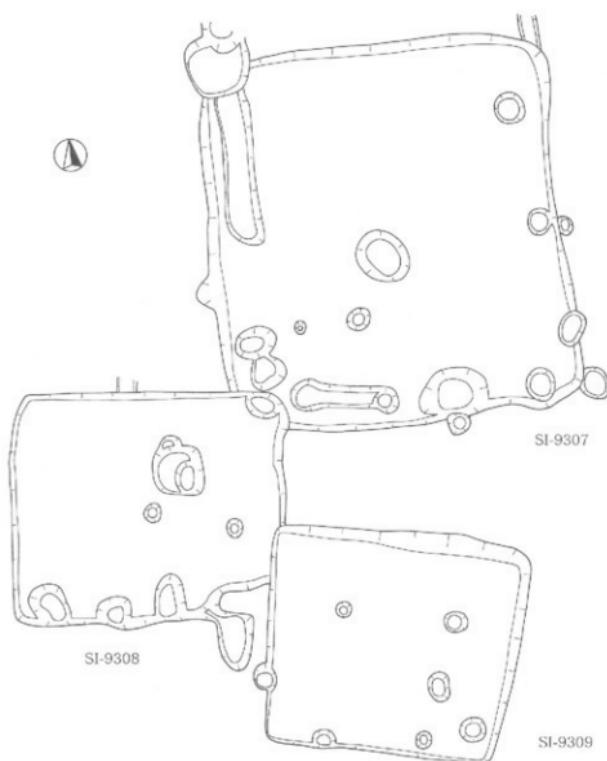
番号	長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)	形 状	備 考
9319	3.43	1.91	27	略長方形	
9320	3.28	1.56	20	不定形	須恵器
9321	2.30	—	46	複合	
9322	1.98	0.86	31	略長方形	中世
9323	4.92	1.16	11	略長方形	
9324	1.80	1.34	24	楕円形	IV <sub>1</sub> ・V <sub>1</sub> ～V <sub>2</sub> ?
9325	3.80	1.80	7	略長方形	V <sub>1</sub> ?
9326	2.38	1.96	18	不定形	
9327	3.44	2.08	25	略長方形	V <sub>1</sub> ～V <sub>2</sub>
9328	5.14	2.30	14	略長方形	IV <sub>1</sub> ～IV <sub>2</sub> (古)
9329	1.88	1.74	18	不定形	
9330	4.96	2.10	14	略長方形	II <sub>2</sub> ?
9331	2.40	2.30	20	略方形	
9332	1.84	1.76	8	略方形	轡羽口
9333	2.40	1.54	14	長方形	II <sub>3</sub> ～III?
9334	1.52	0.44	28	複合	IV <sub>1</sub> ～IV <sub>2</sub> (古) ?
9335	5.70	1.24	9	略長方形	
9336	2.66	1.92	14	略長方形	
9337	2.14	—	22	略方形	II <sub>3</sub> ～III?



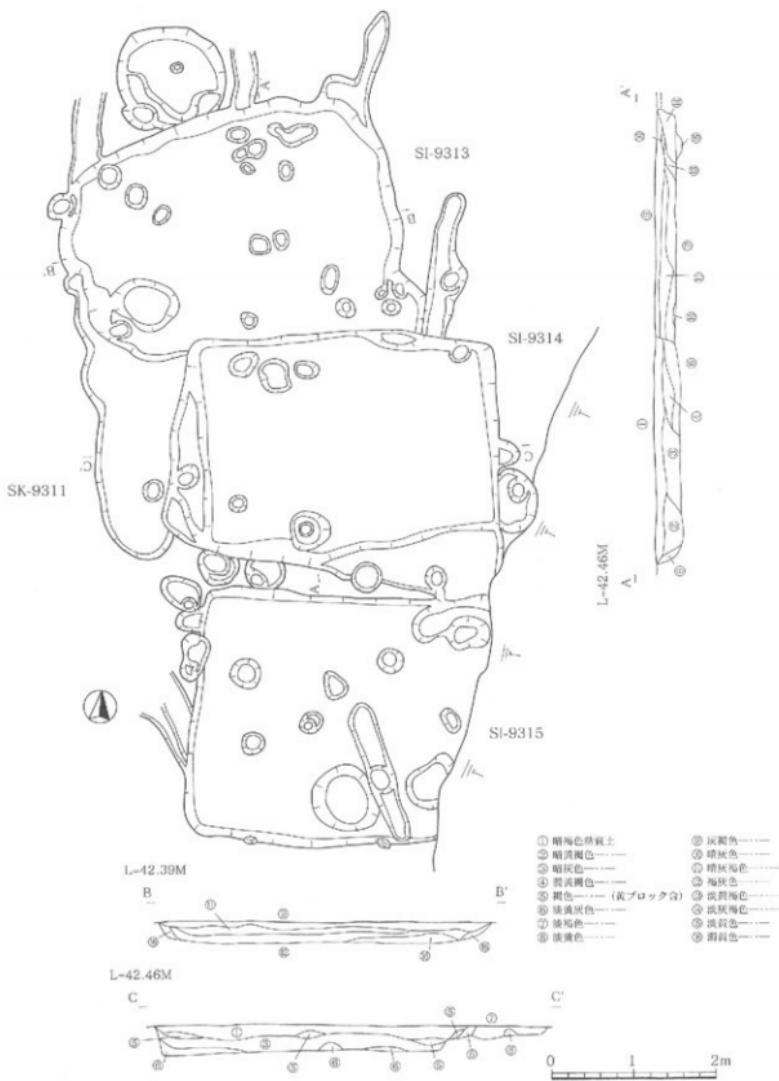
第47図 1993年度 遺構実測図① (S=1/60)



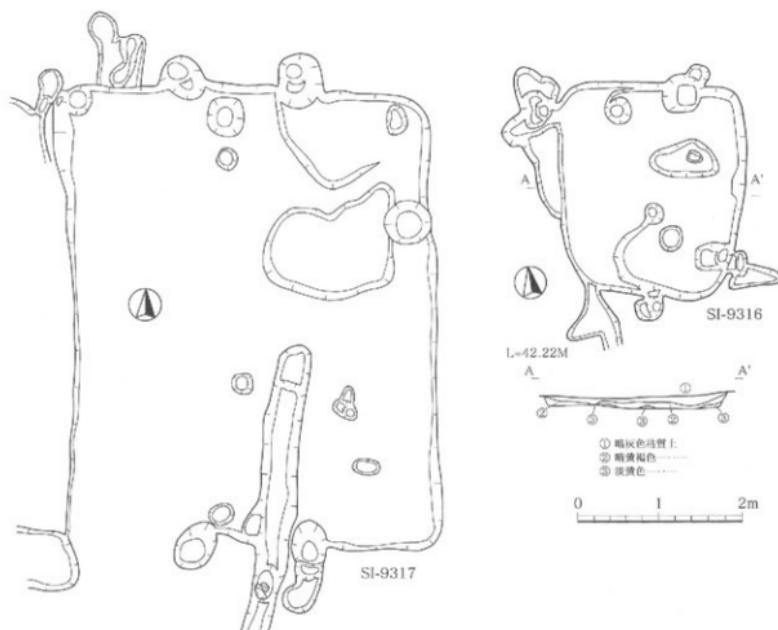
第48図 1993年度 遺構実測図② (S=1/60)



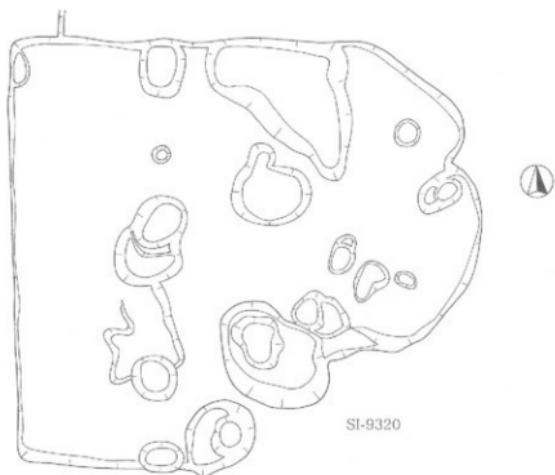
第49図 1993年度 遺構実測図③ (S=1/60)



第50図 1993年度 遺構実測図④ (S=1/60)



第51図 1993年度 遺構実測図⑤ (S=1/60)



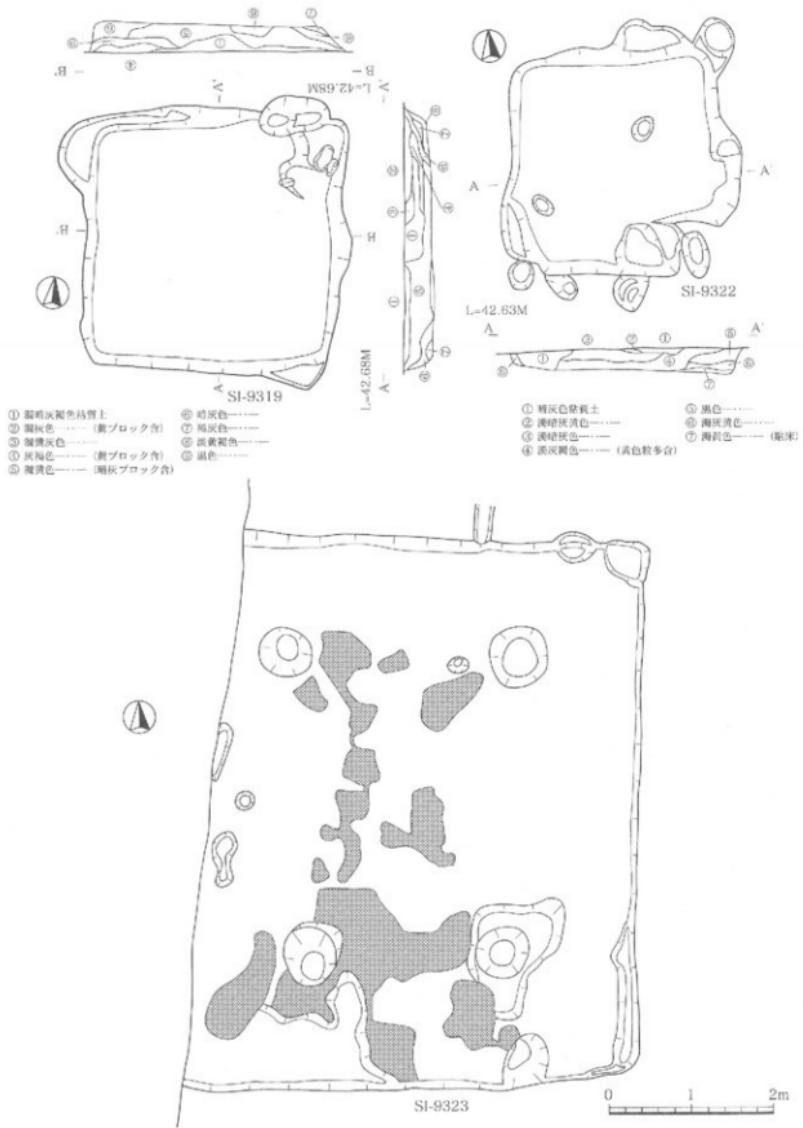
SI-9320



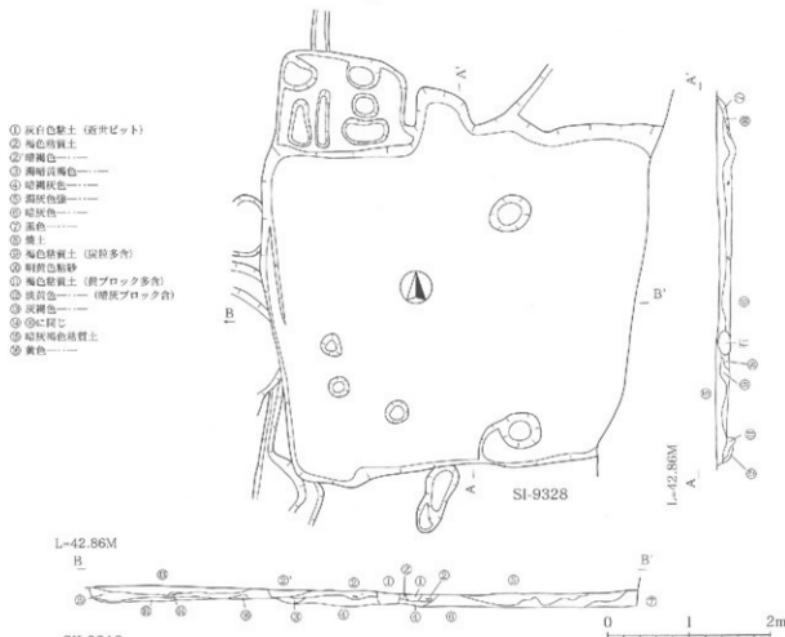
SI-9321

0 1 2m

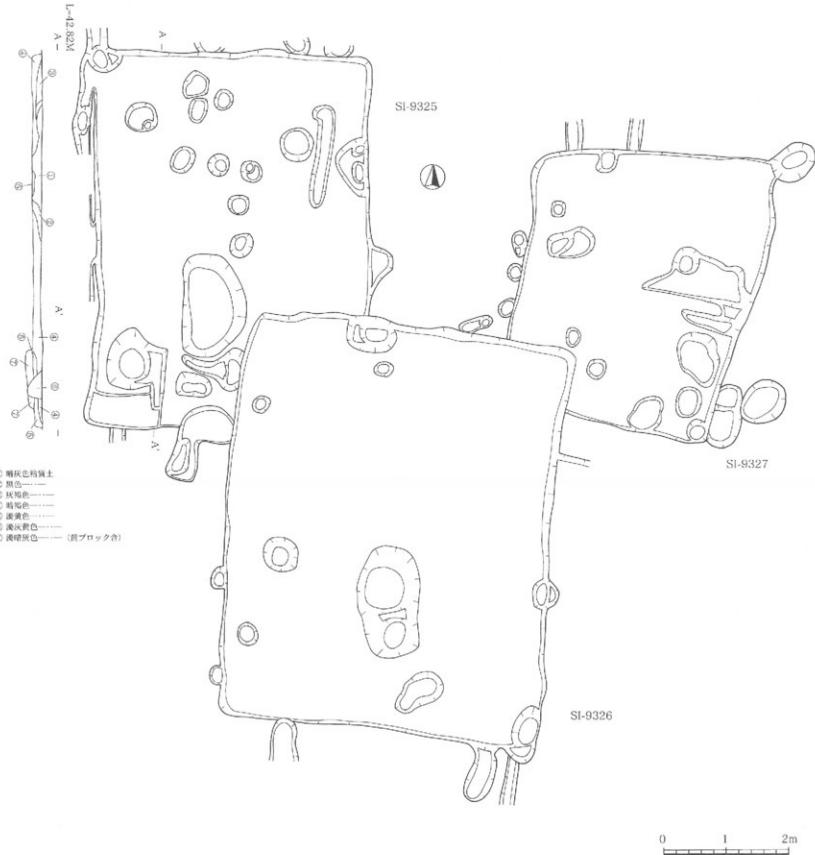
第52図 1993年度 遺構実測図⑥ (S=1/60)



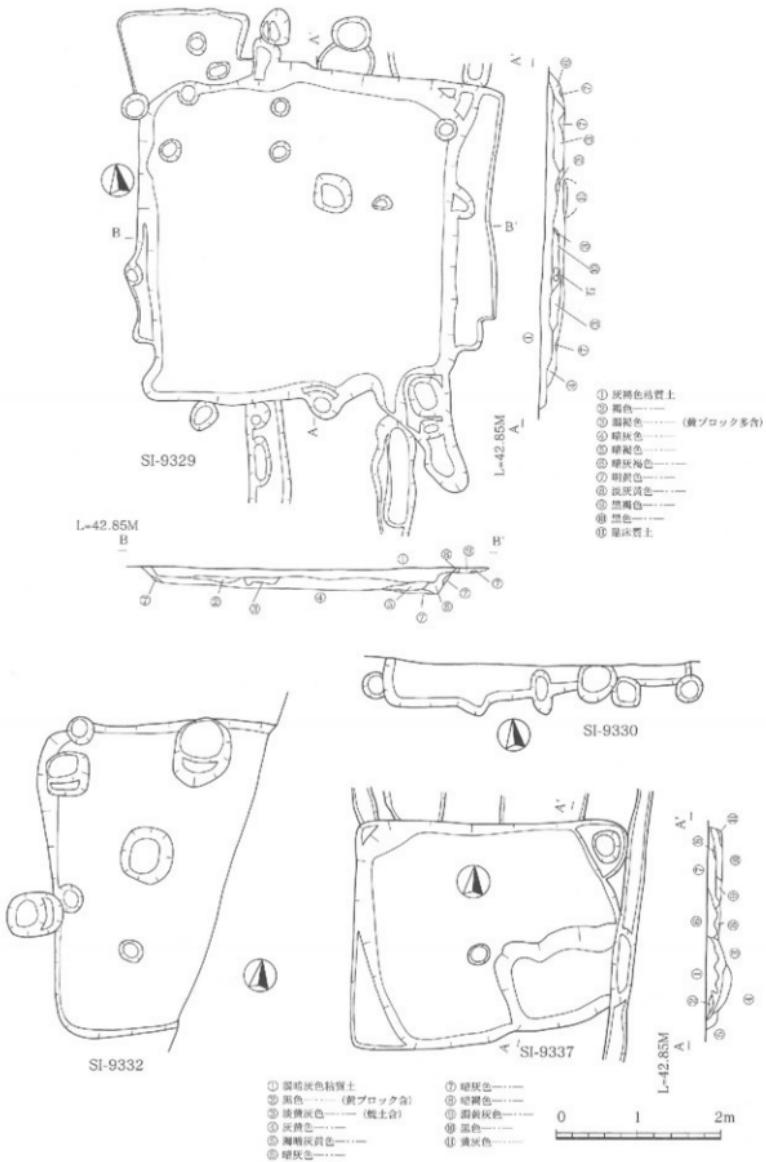
第53図 1993年度 遺構実測図⑦ (S=1/60)



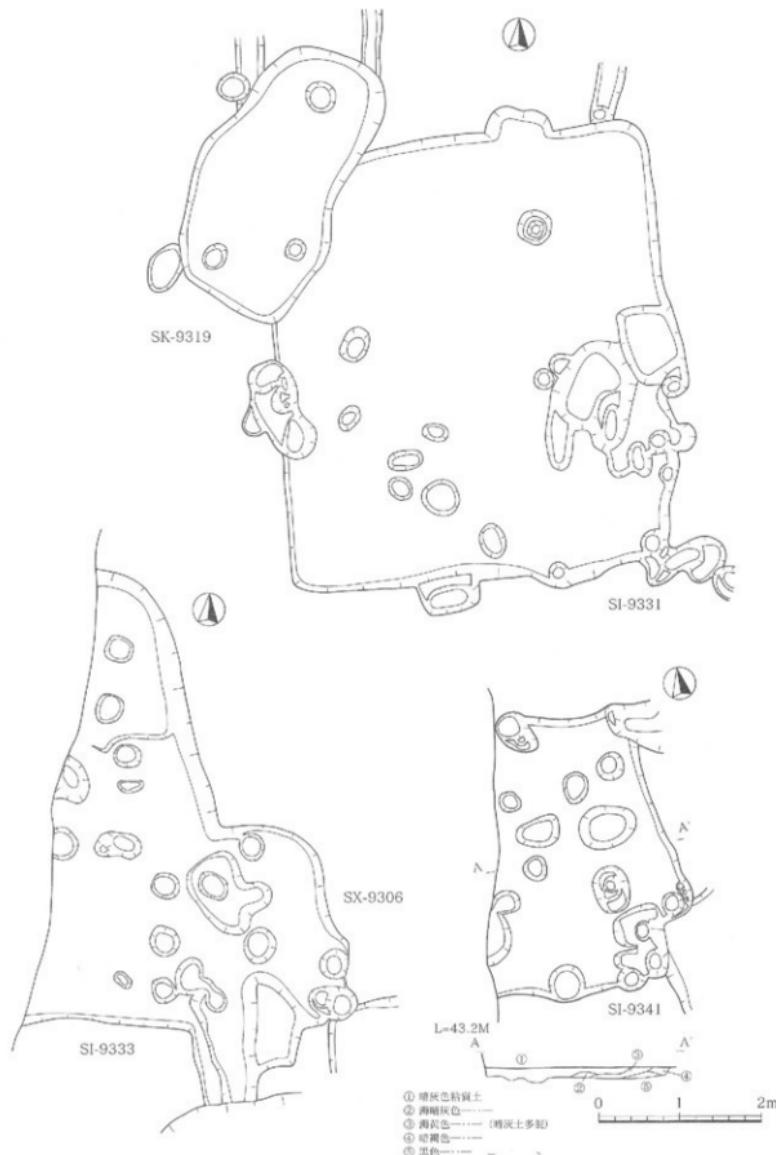
第54図 1993年度 遺構実測図⑧ (S=1/60)



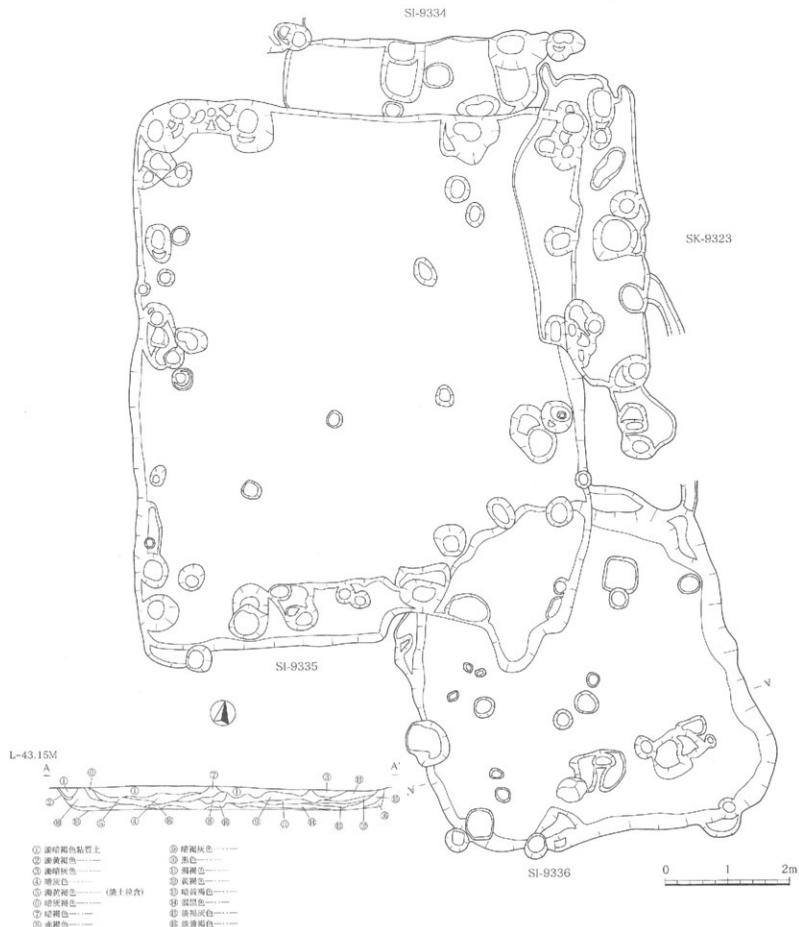
第55図 1993年度 遺構実測図⑨ (S=1/60)



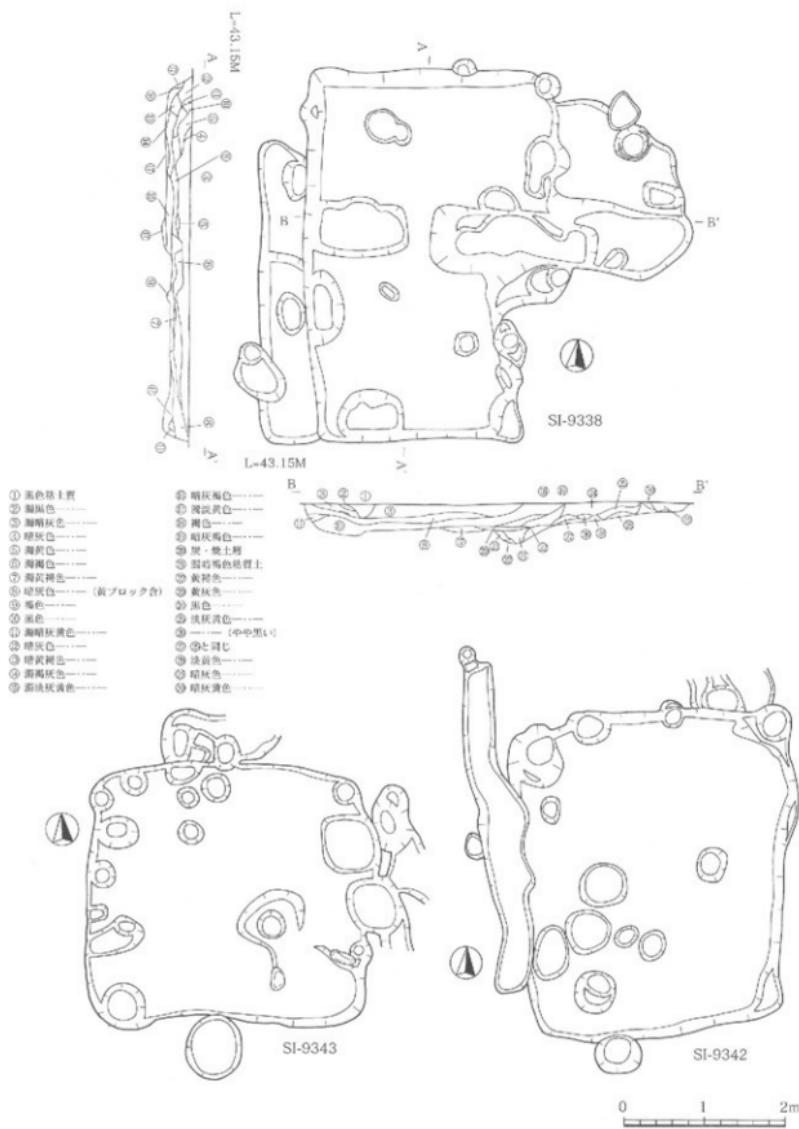
第56図 1993年度 遺構実測図⑩ (S=1/60)



第57図 1993年度 遺構実測図⑪ (S=1/60)

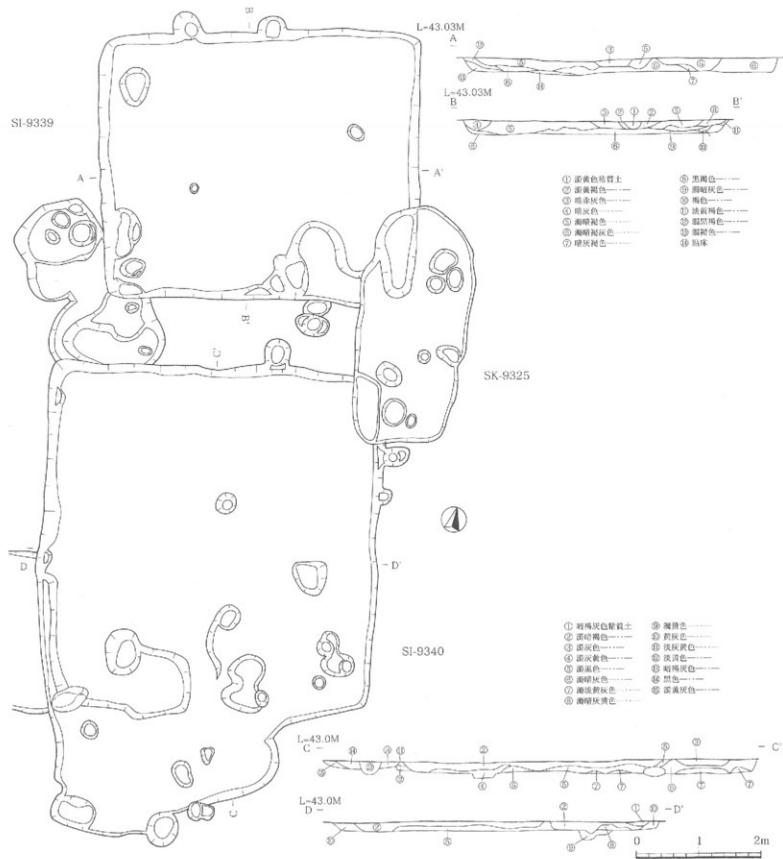


第58図 1993年度 遺構実測図② (S=1/60)

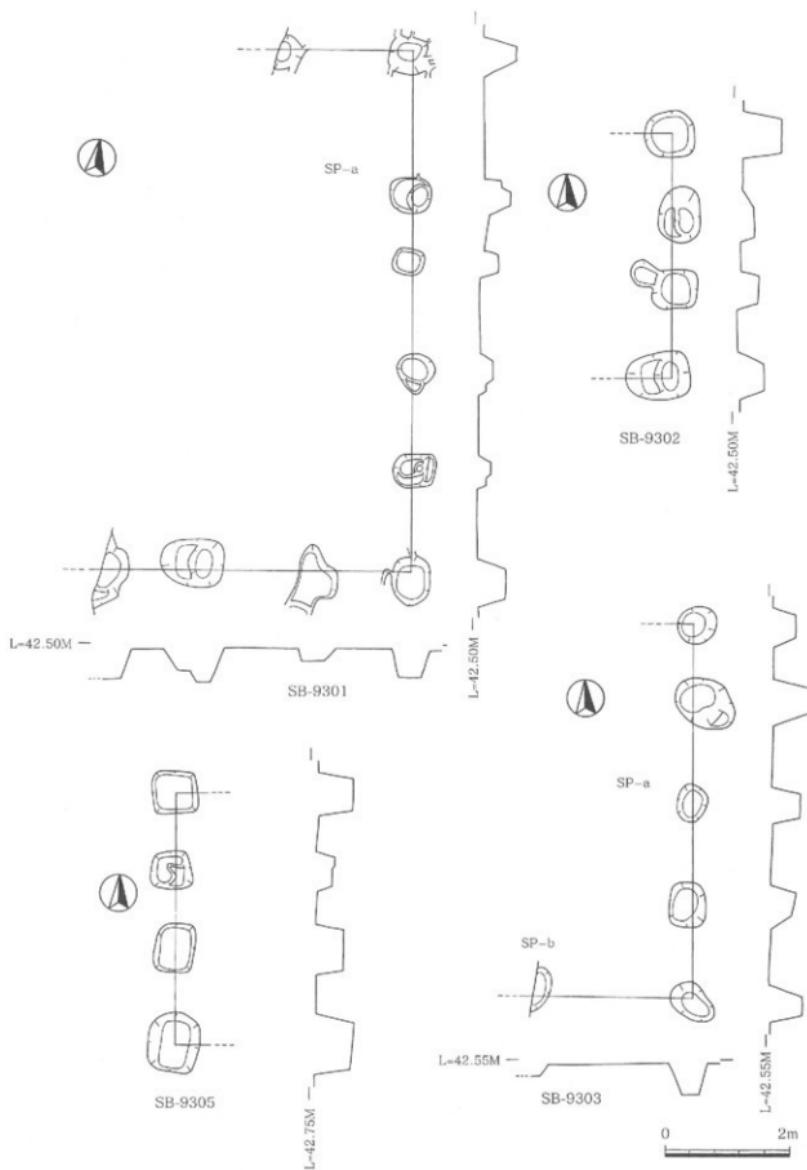


第59図 1993年度 遺構実測図⑬ (S=1/60)

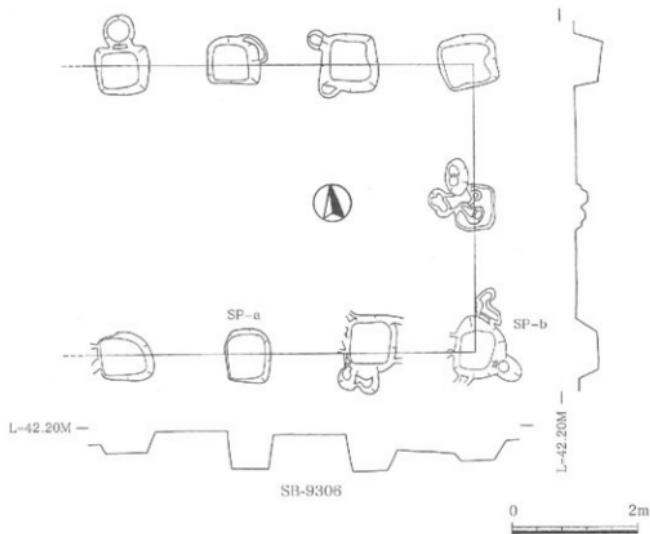
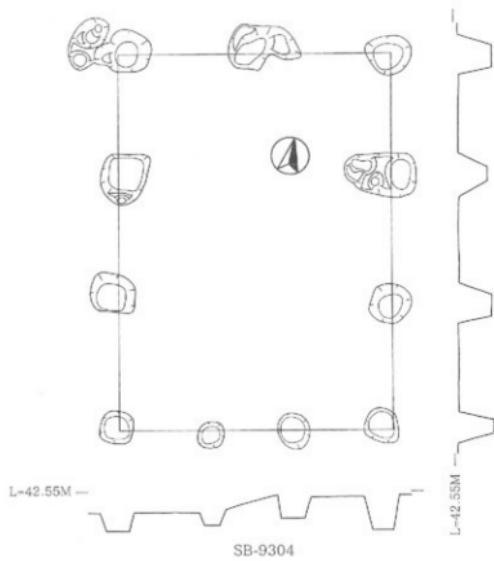




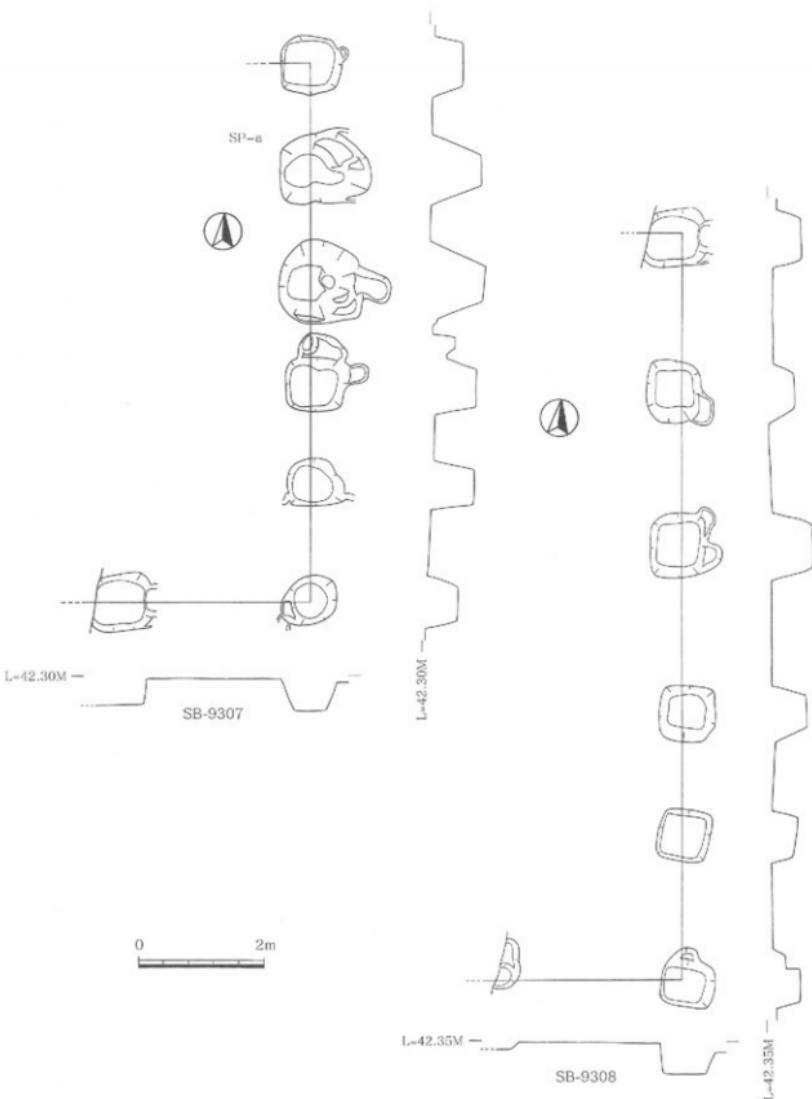
第60図 1993年度 遺構実測図⑭ (S=1/60)



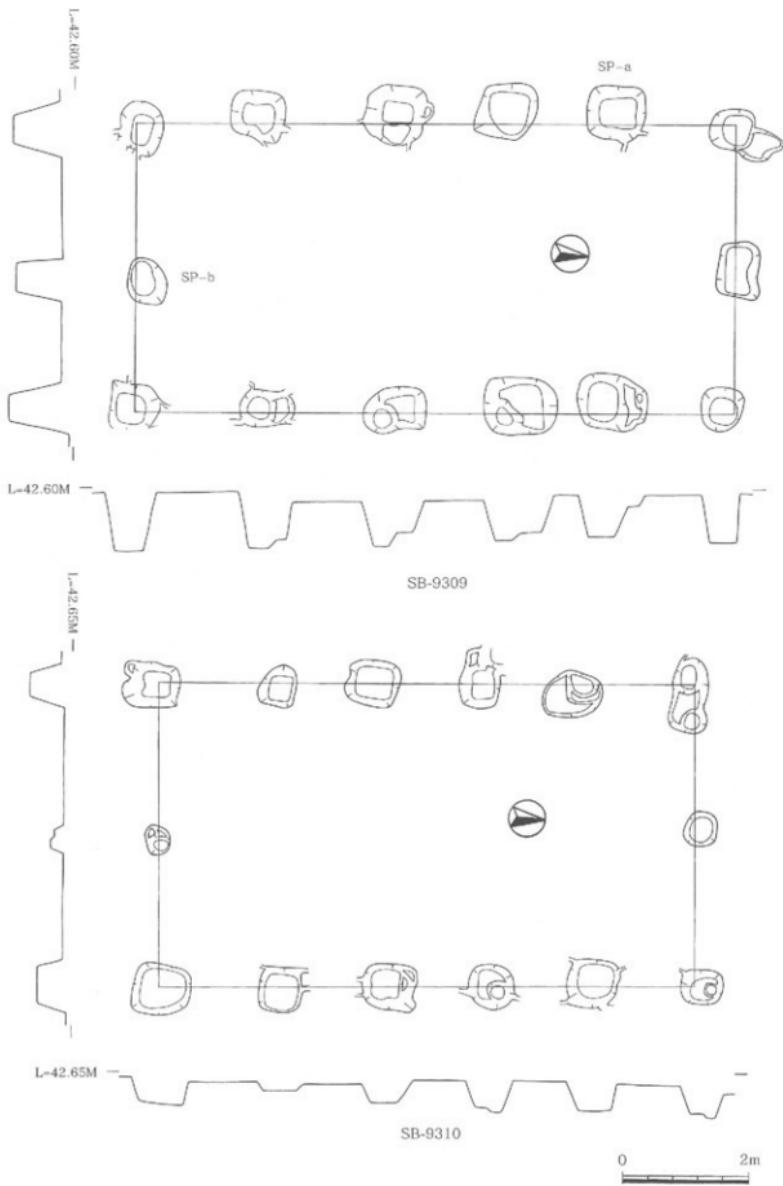
第61図 1993年度 遺構実測図⑯ (S=1/80)



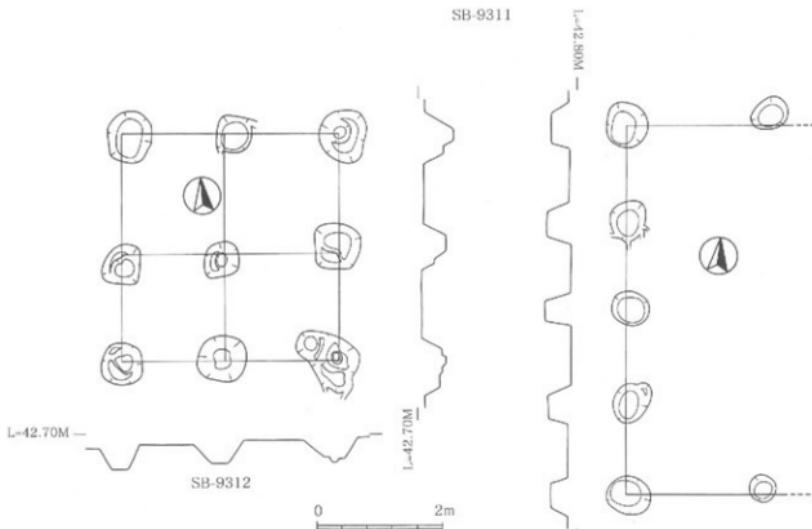
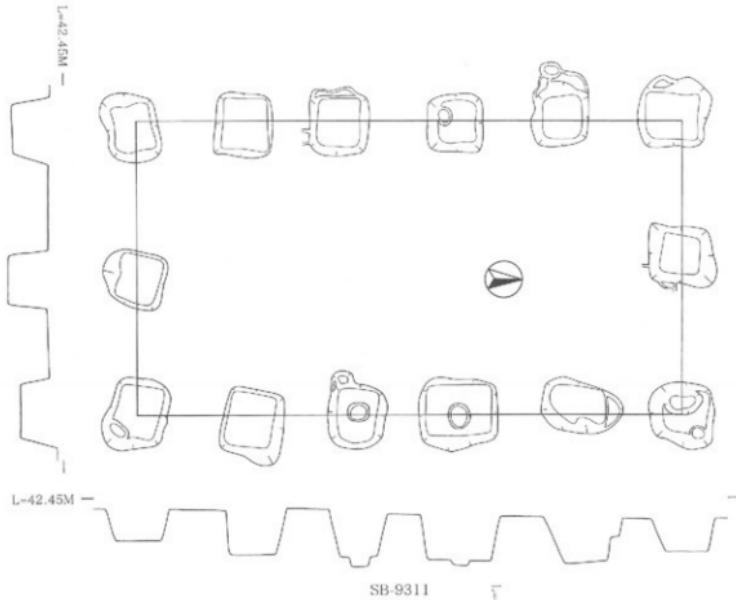
第62図 1993年度 遺構実測図⑯ (S=1/80)



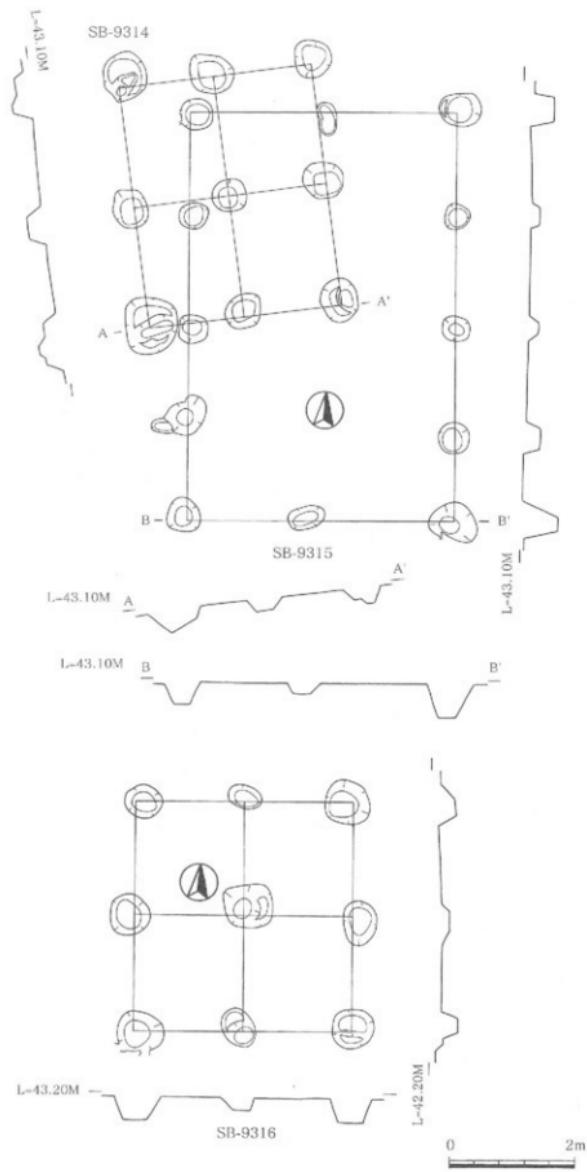
第63図 1993年度 遺構実測図⑯ (S=1/80)



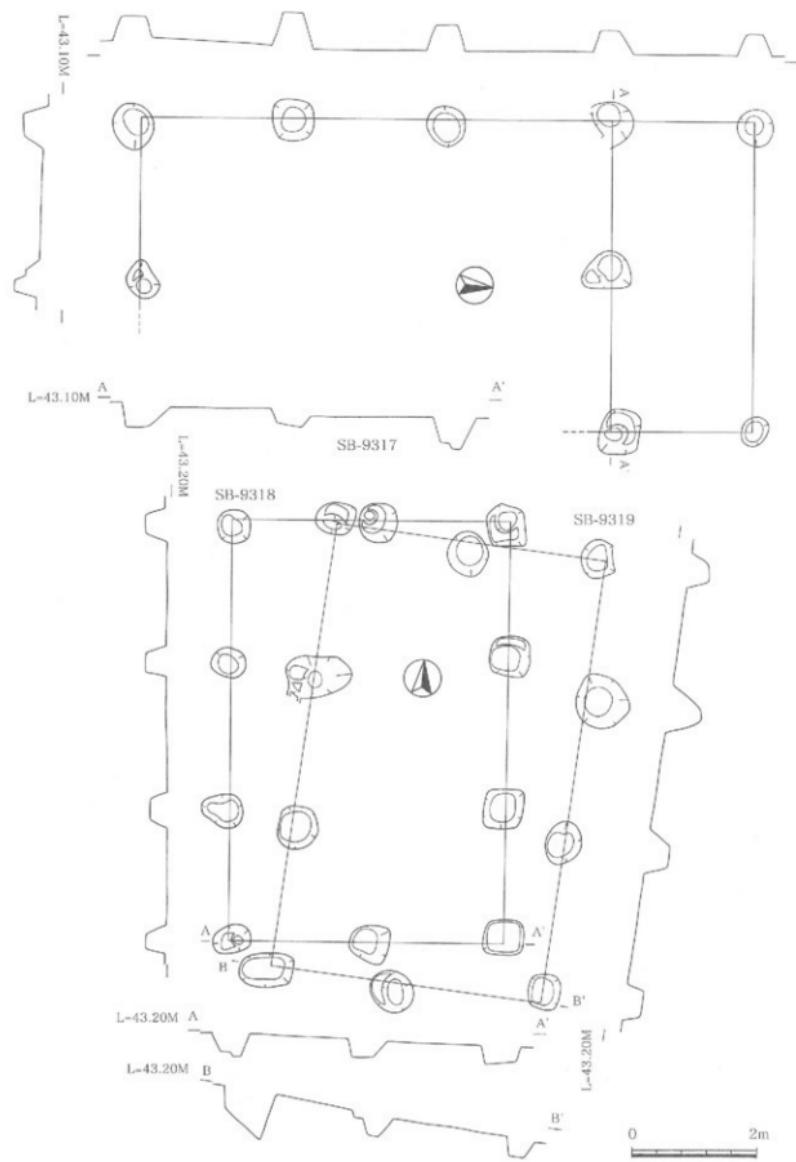
第64図 1993年度 遺構実測図⑯ (S=1/80)



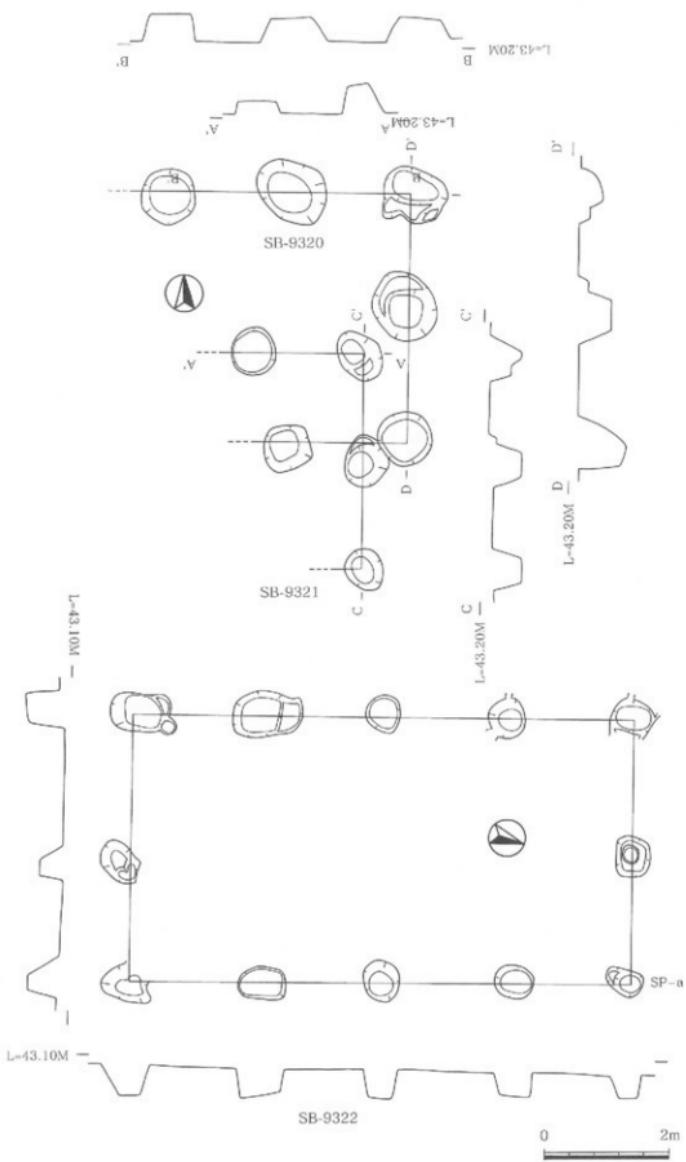
第65図 1993年度 遺構実測図⑯ (S=1/80)



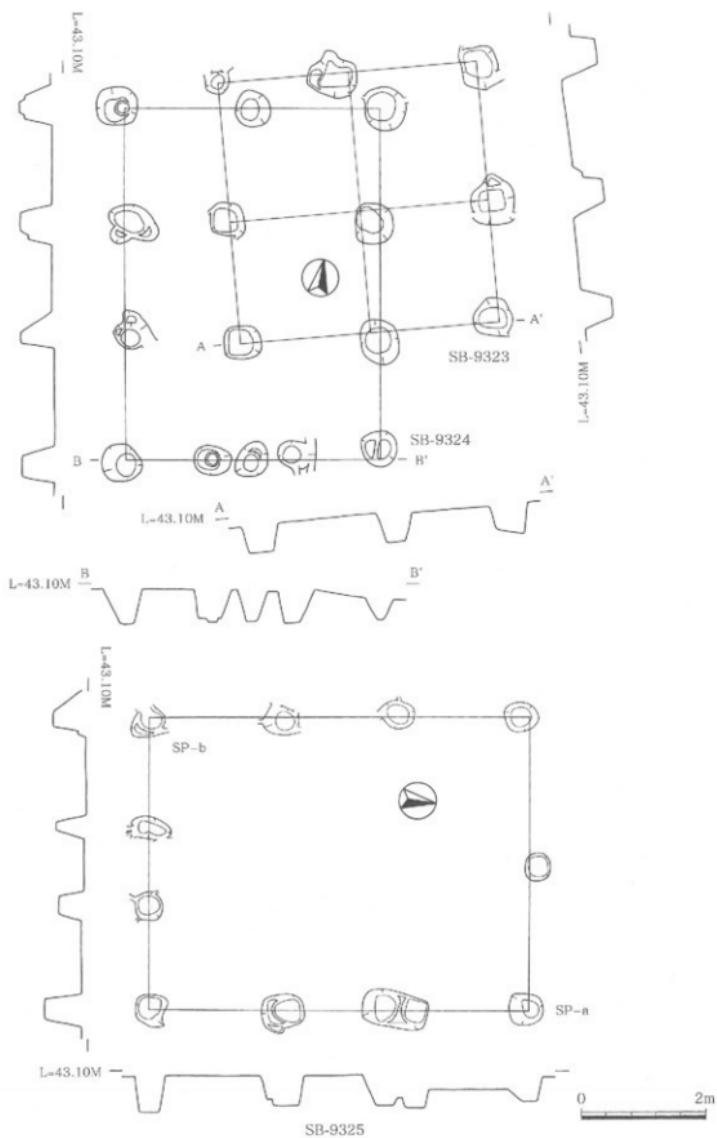
第66図 1993年度 遺構実測図② (S=1/80)



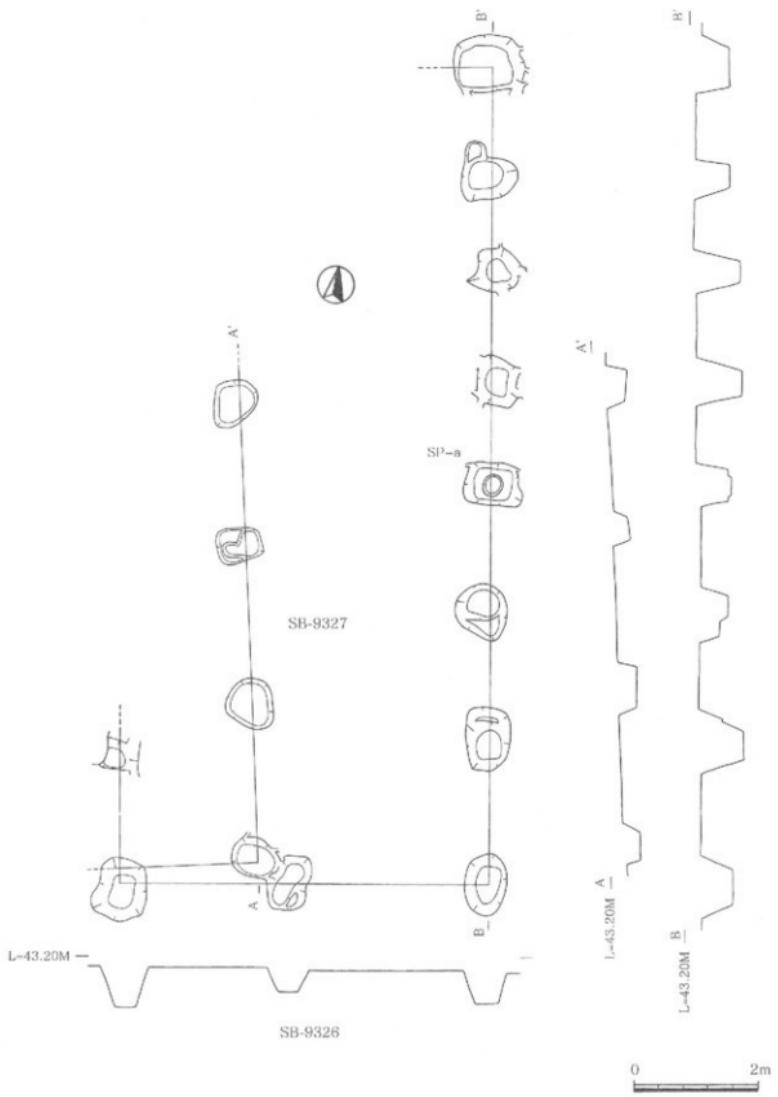
第67図 1993年度 還構実測図② (S = 1/80)



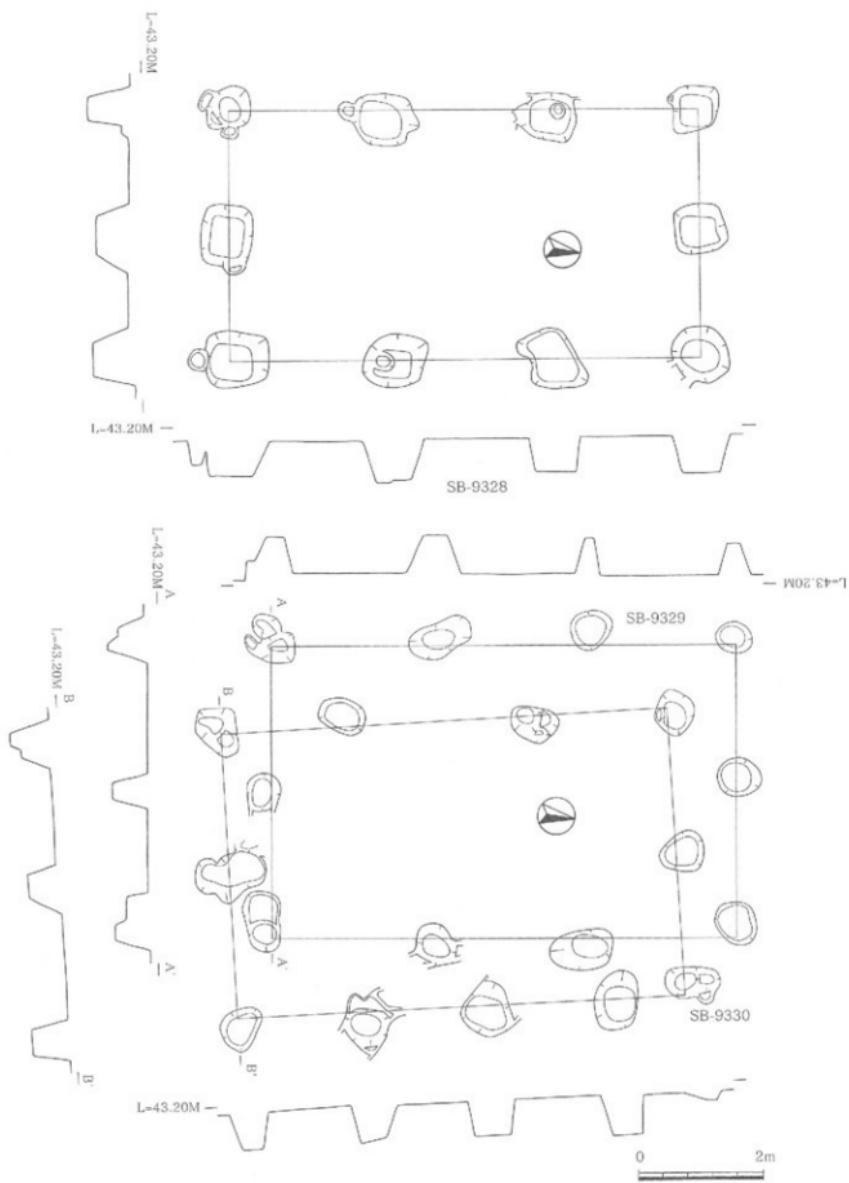
第68図 1993年度 遺構実測図② (S=1/80)



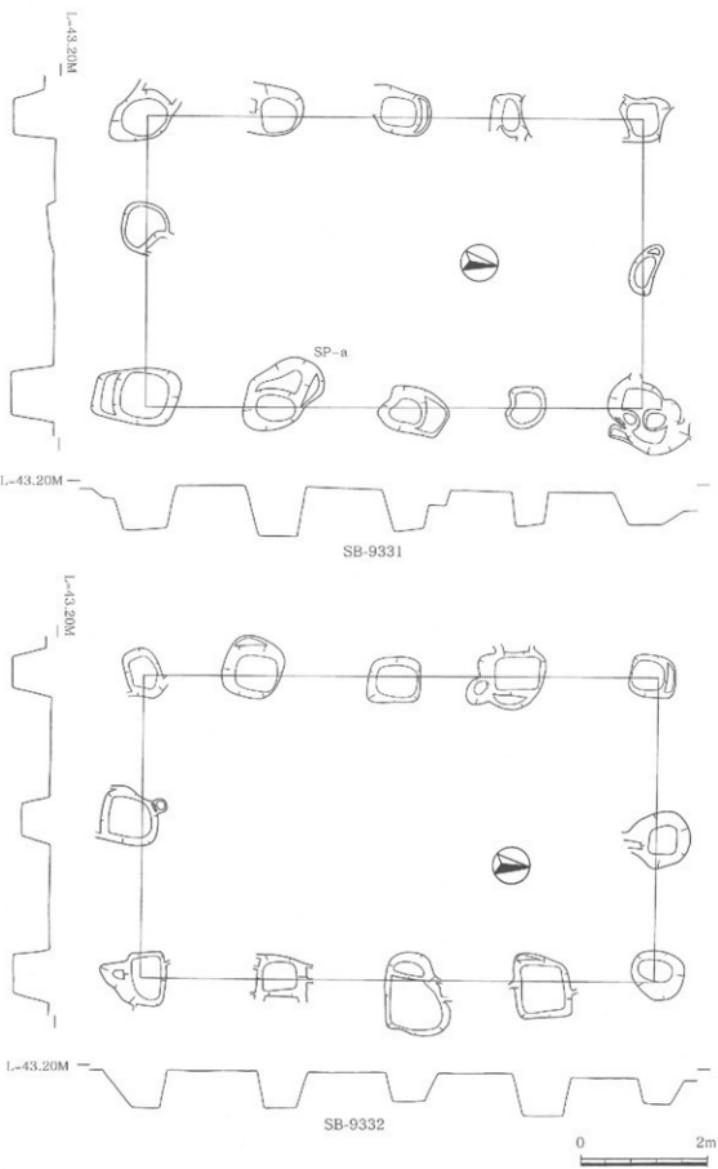
第69図 1993年度 遺構実測図② (S=1/80)



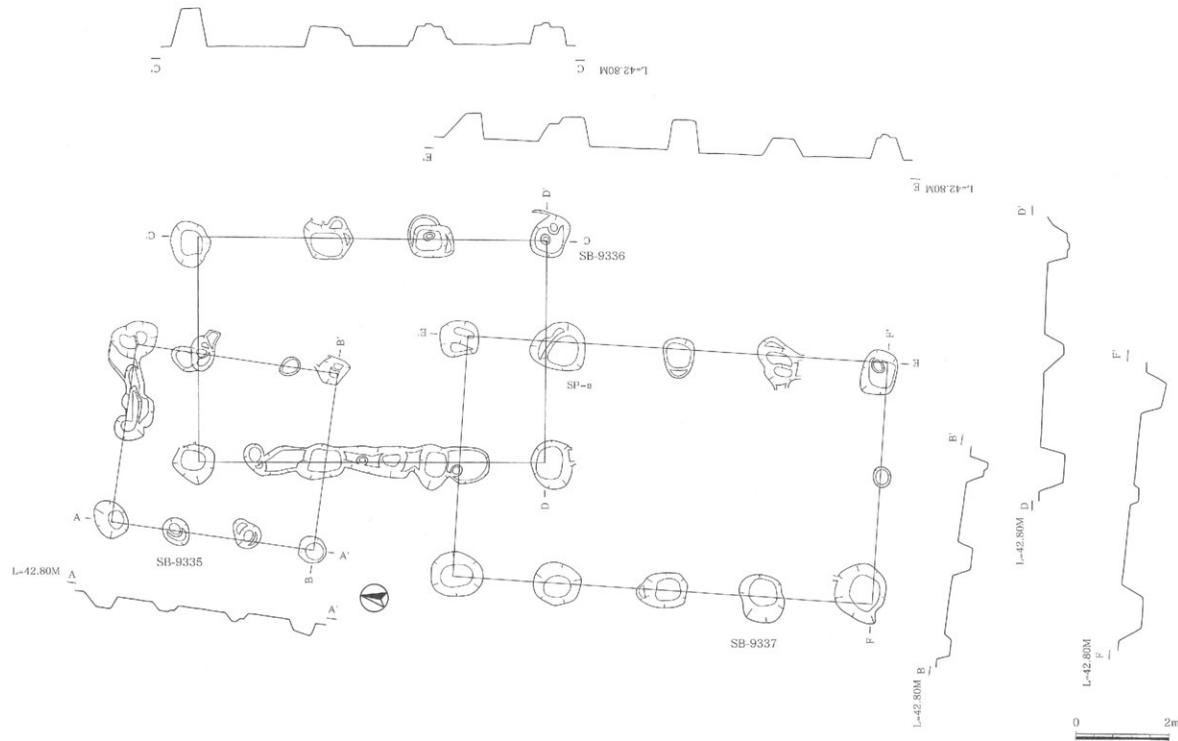
第70図 1993年度 遺構実測図② (S=1/80)



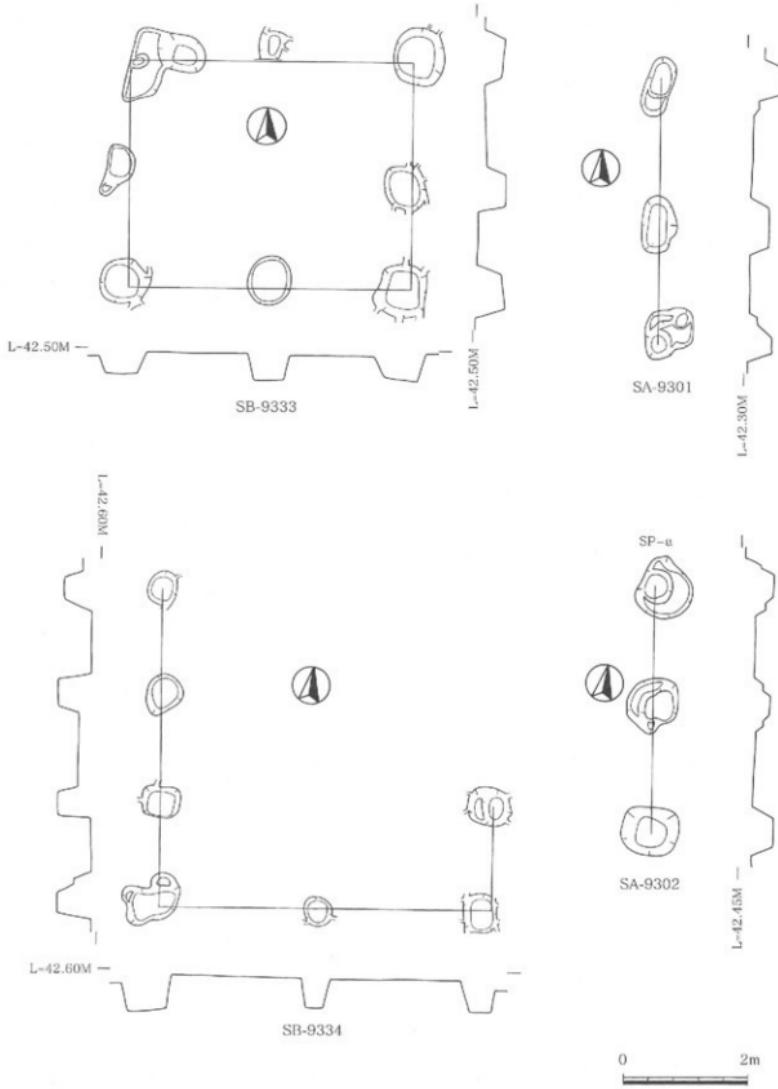
第71図 1993年度 遺構実測図② (S=1/80)



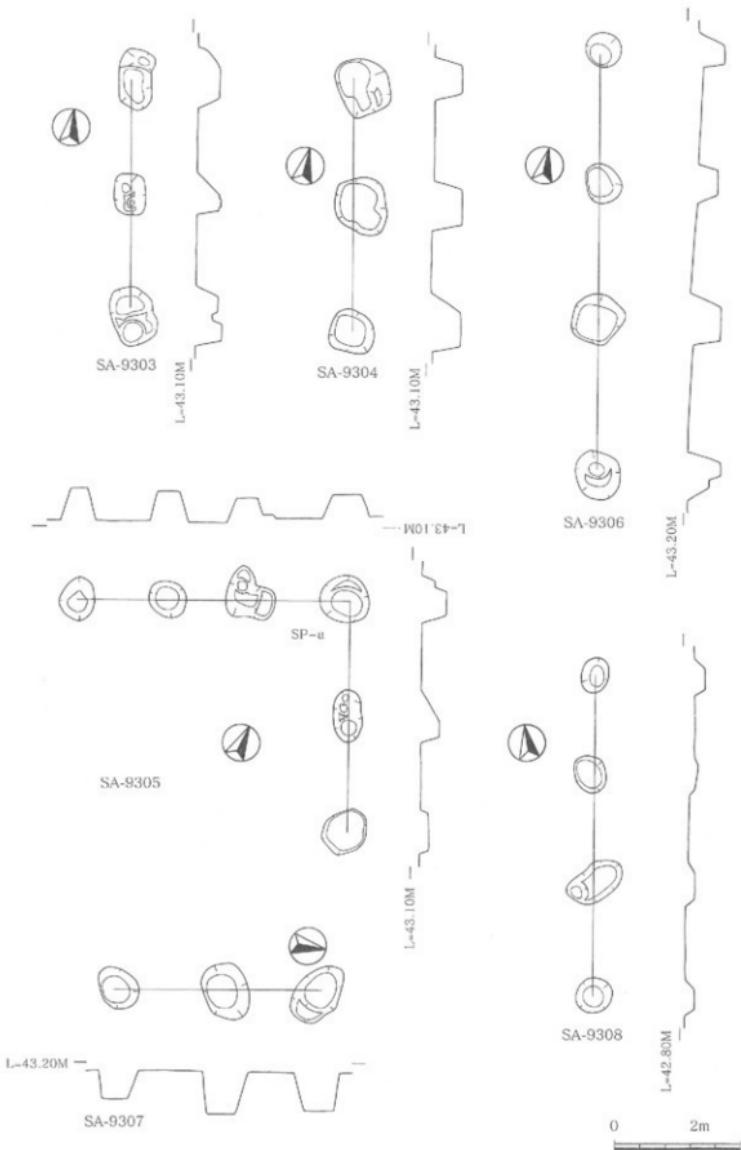
第72図 1993年度 遺構実測図② (S=1/80)



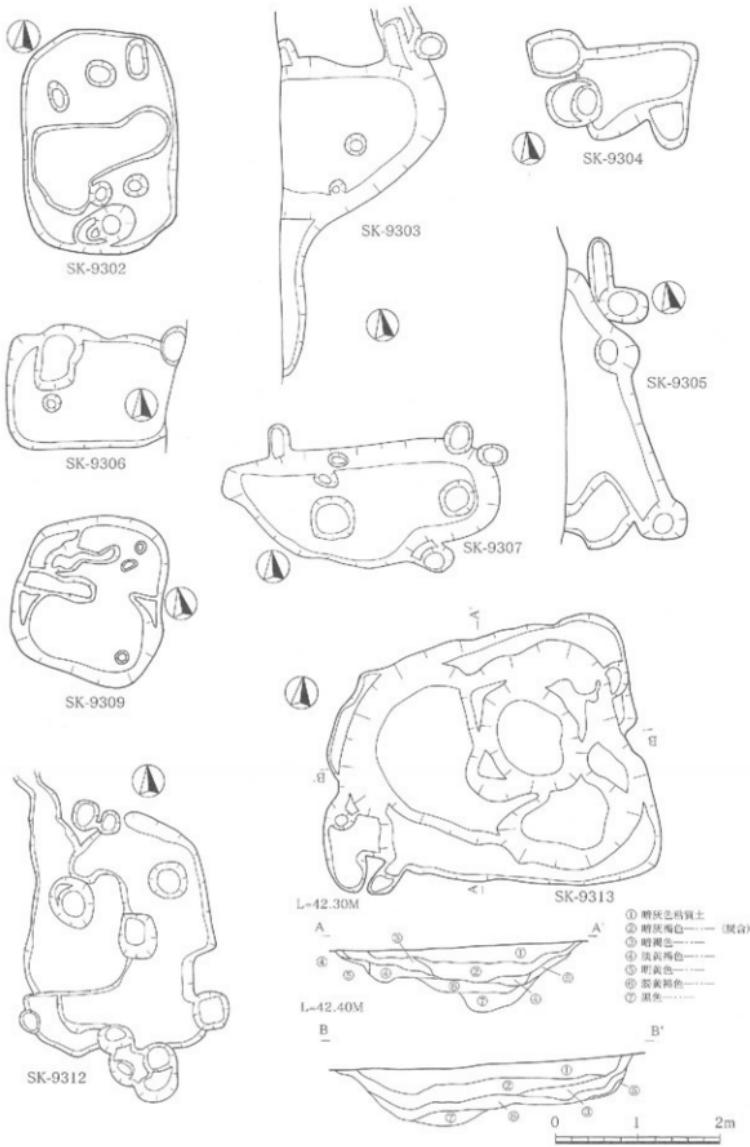
第73図 1993年度 遺構実測図② ( $S=1/80$ )



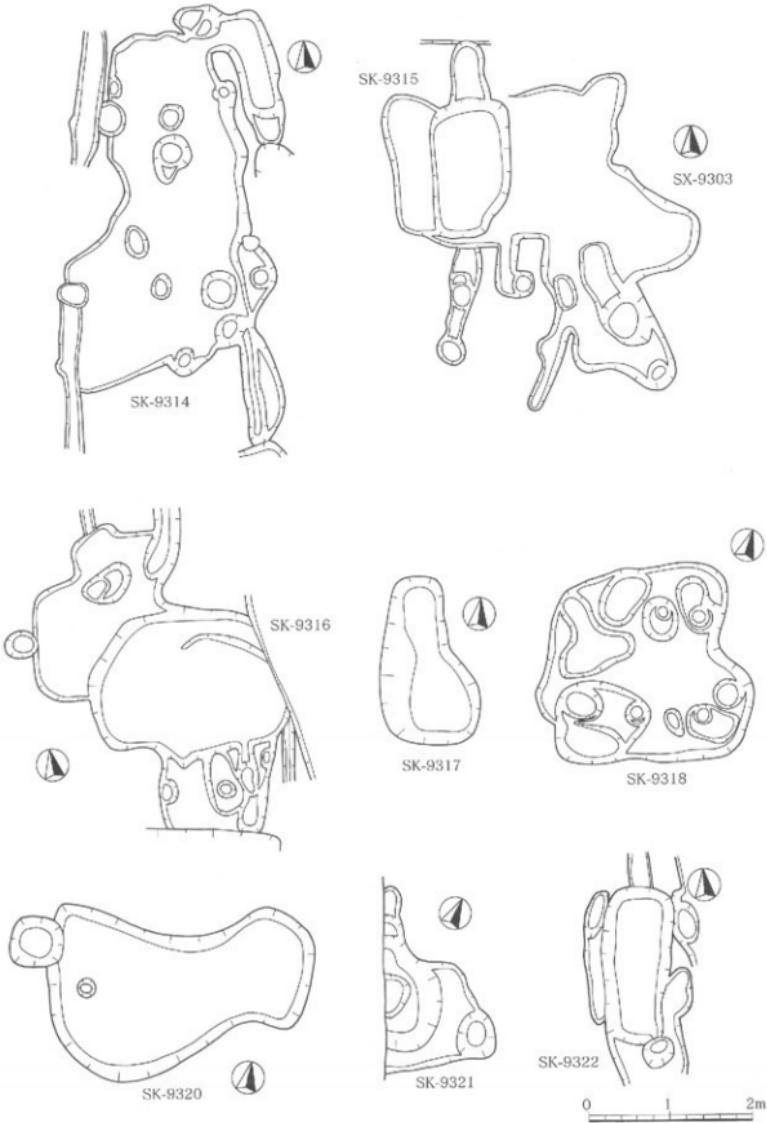
第74図 1993年度 遺構実測図⑧ (S=1/80)



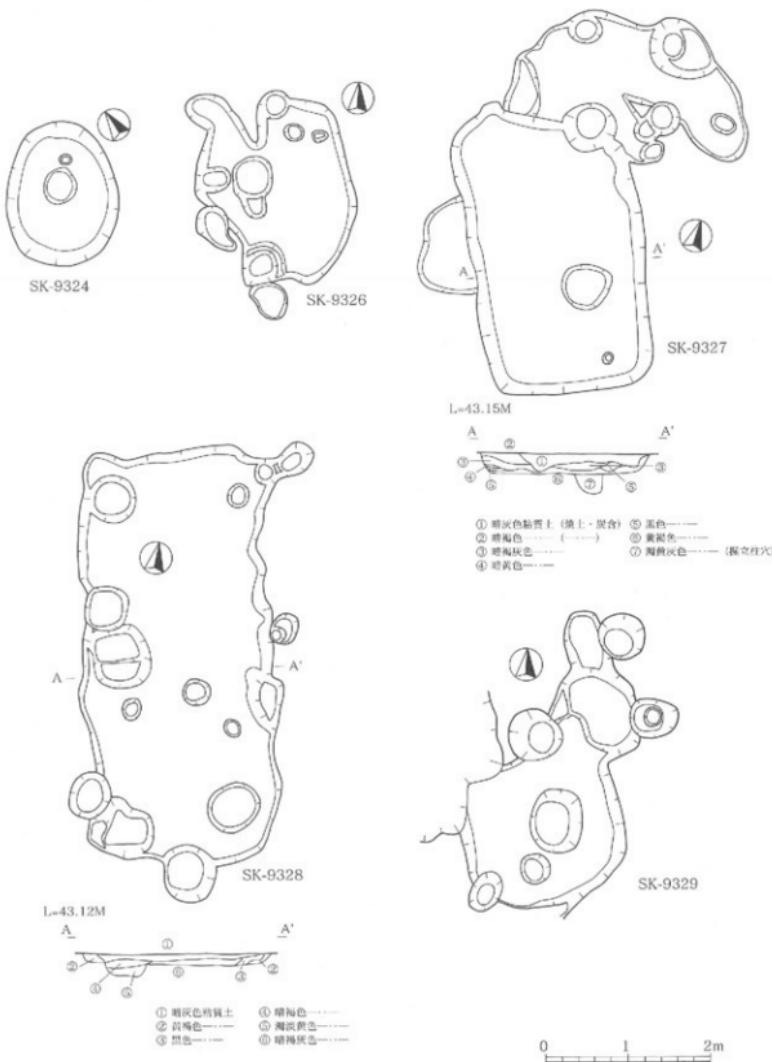
第75図 1993年度 遺構実測図② (S=1/80)



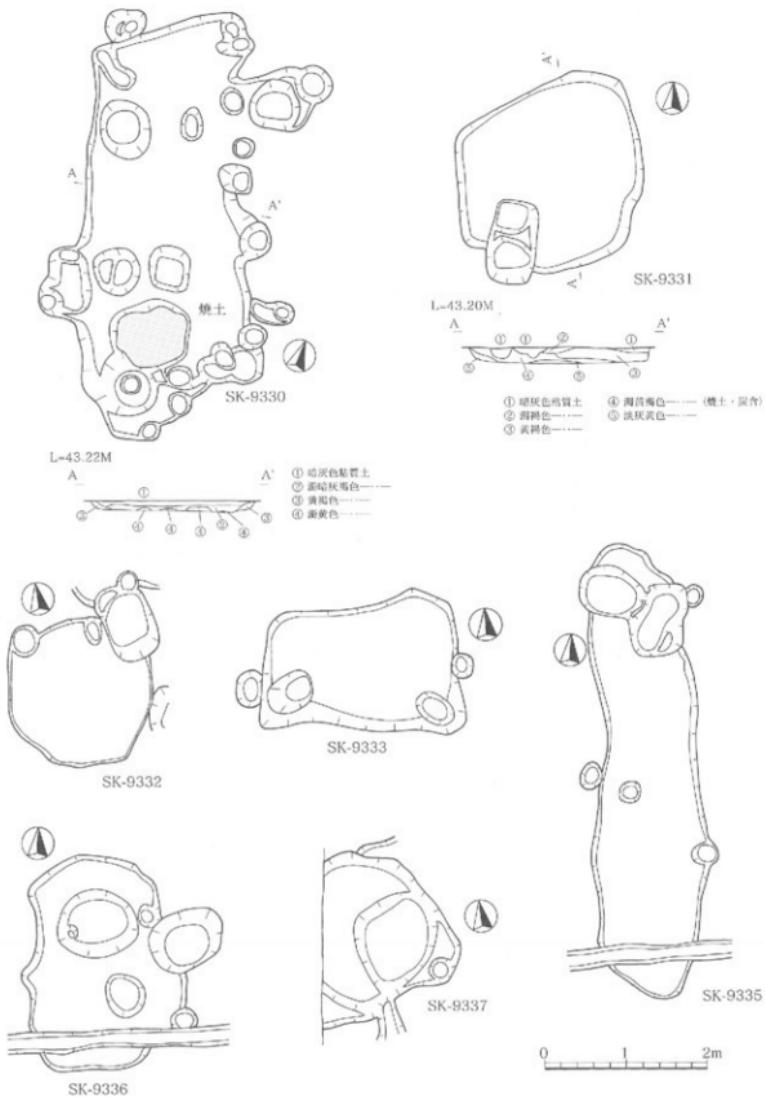
第76図 1993年度 遺構実測図⑩ (S=1/60)



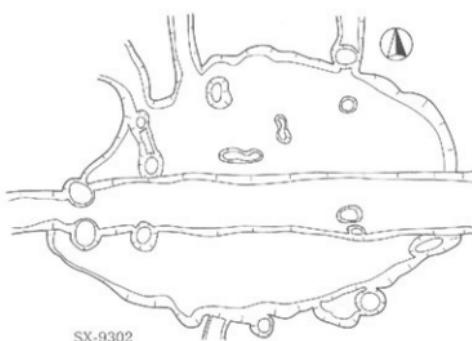
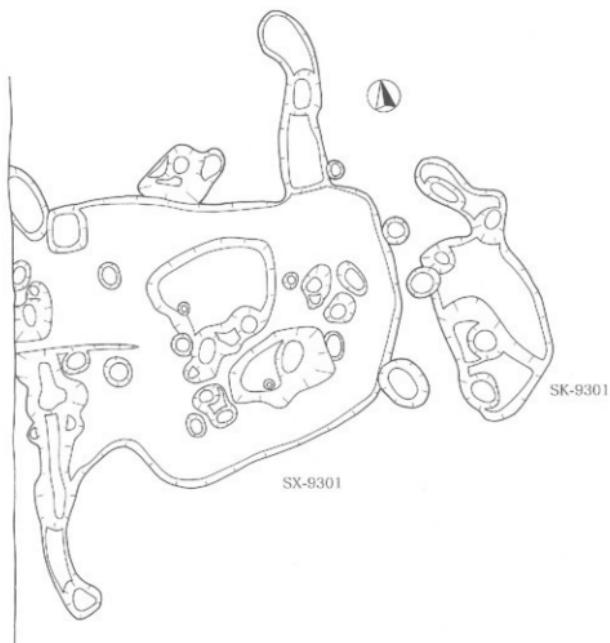
第77図 1993年度 遺構実測図③ (S=1/60)



第78図 1993年度 遺構実測図⑩ (S=1/60)

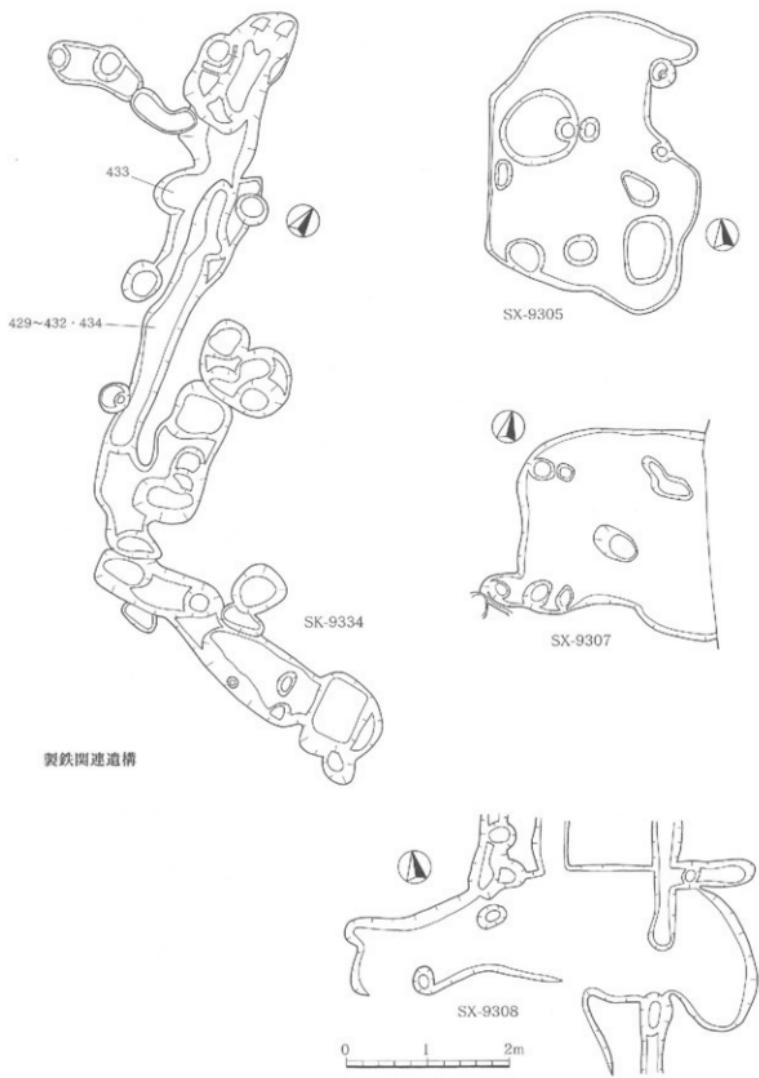


第79図 1993年度 遺構実測図㊯ (S=1/60)

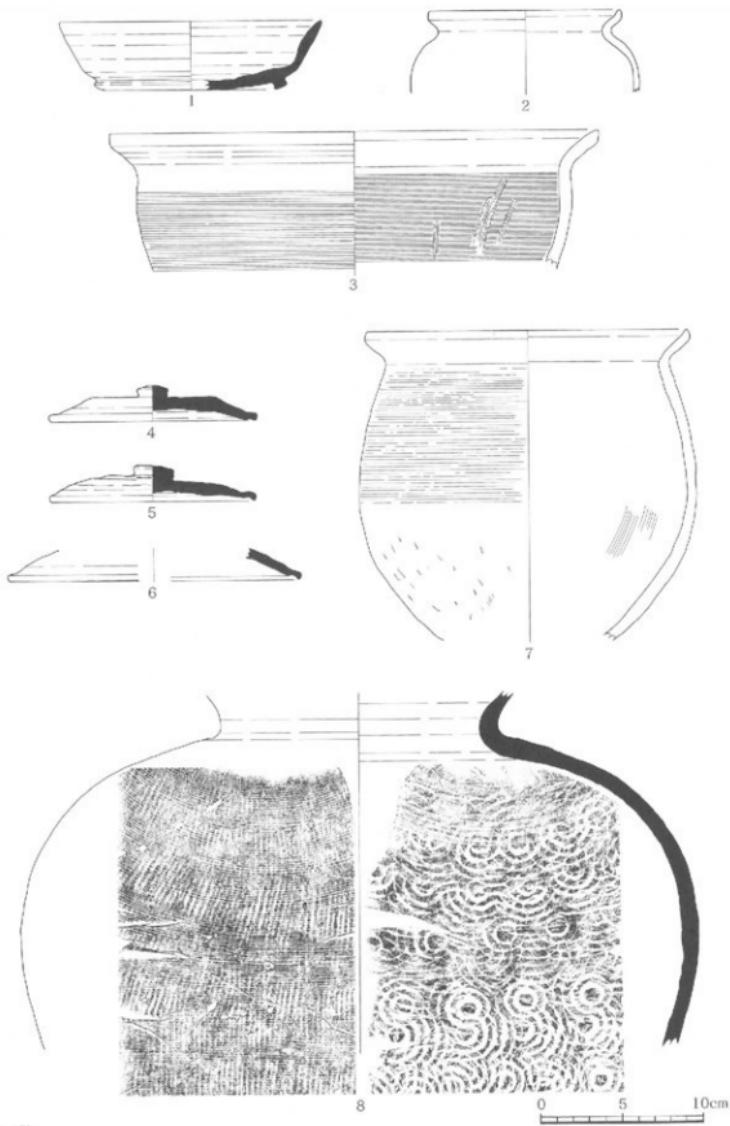


0 1 2m

第80図 1993年度 遺構実測図④ (S=1/60)

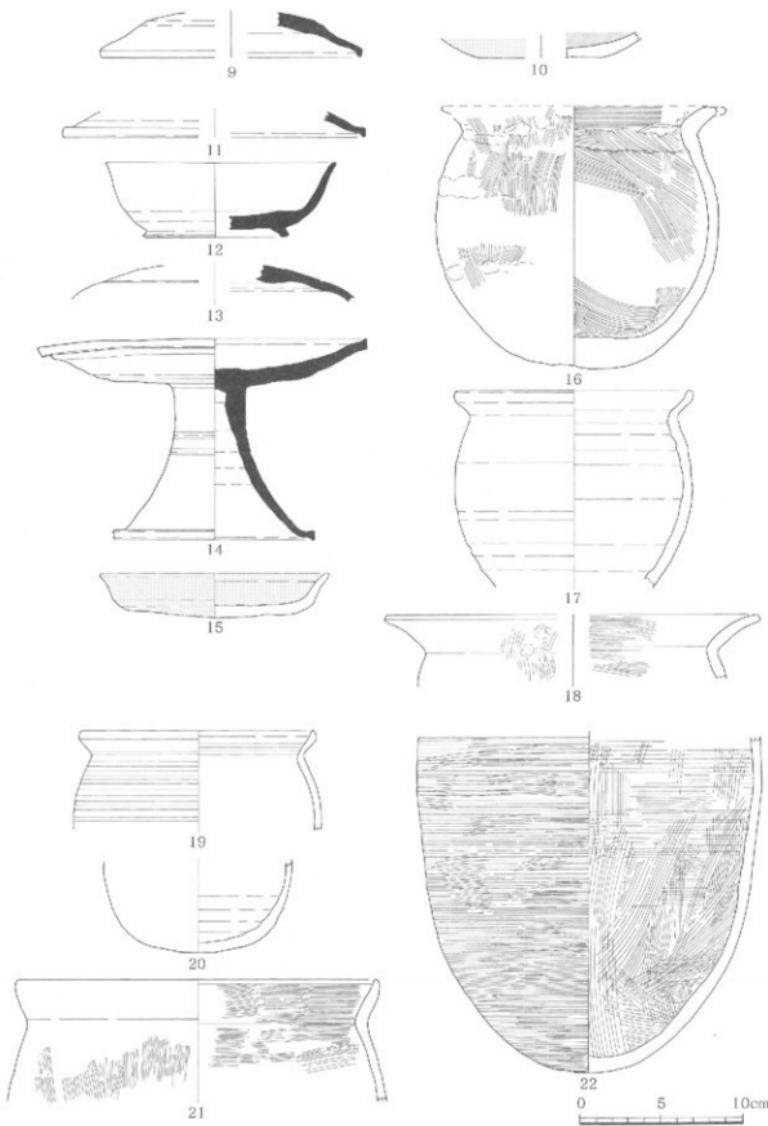


第81図 1993年度 遺構実測図③ (S=1/60)



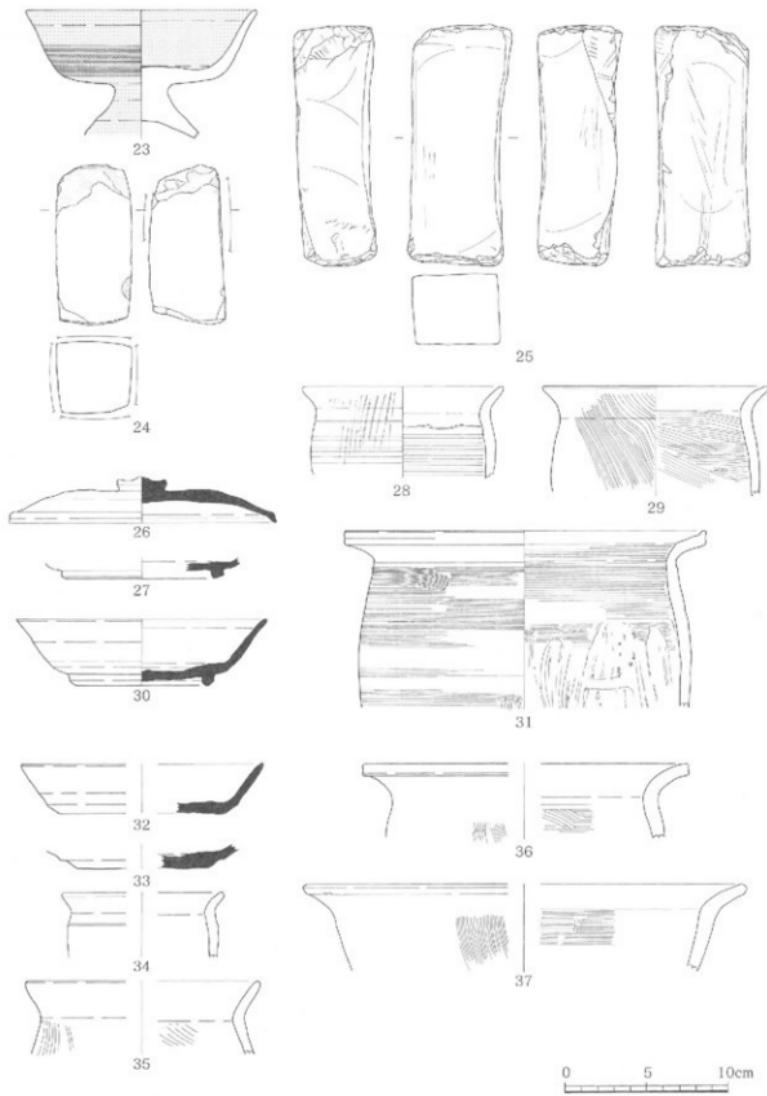
SI-9301 (1~3)  
SI-9303 (4~5)

第82図 1993年度 遺物実測図① (S=1/3)



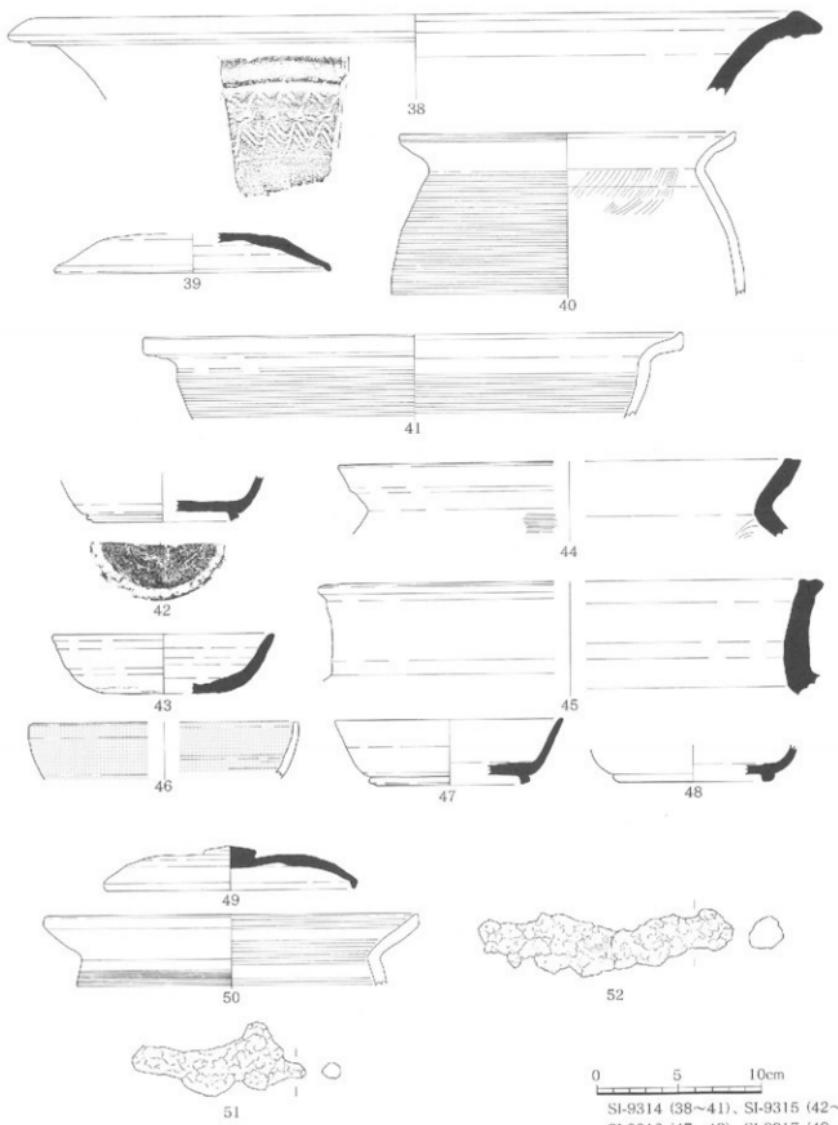
第83図 1993年度 遺物実測図② (S=1/3)

SI-9306 (9・10)  
SI-9307 (11~18)  
SI-9308 (19~22)



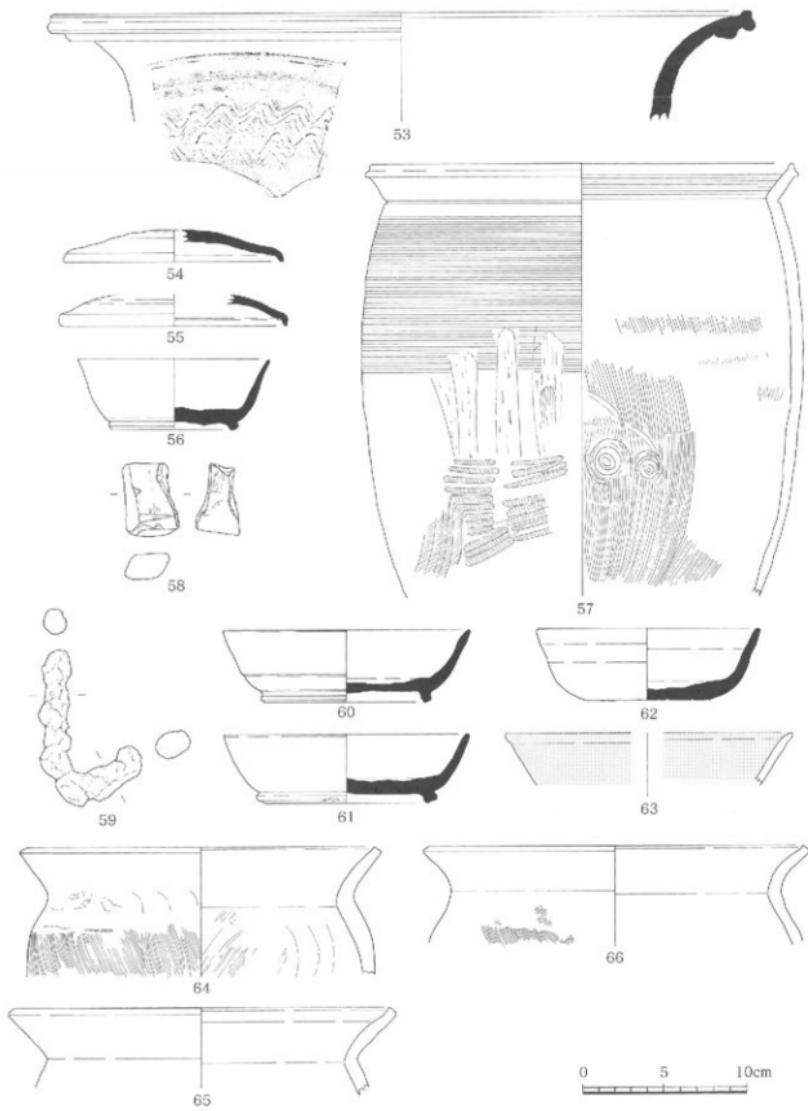
SI-9308 (23~25)、SI-9310 (26~29)  
SI-9311 (30~31)、SI-9313 (32~37)

第84図 1993年度 遺物実測図③ (S=1/3)



SI-9314 (38~41)、SI-9315 (42~46)  
 SI-9316 (47~48)、SI-9317 (49~51)  
 SI-9318 (52)

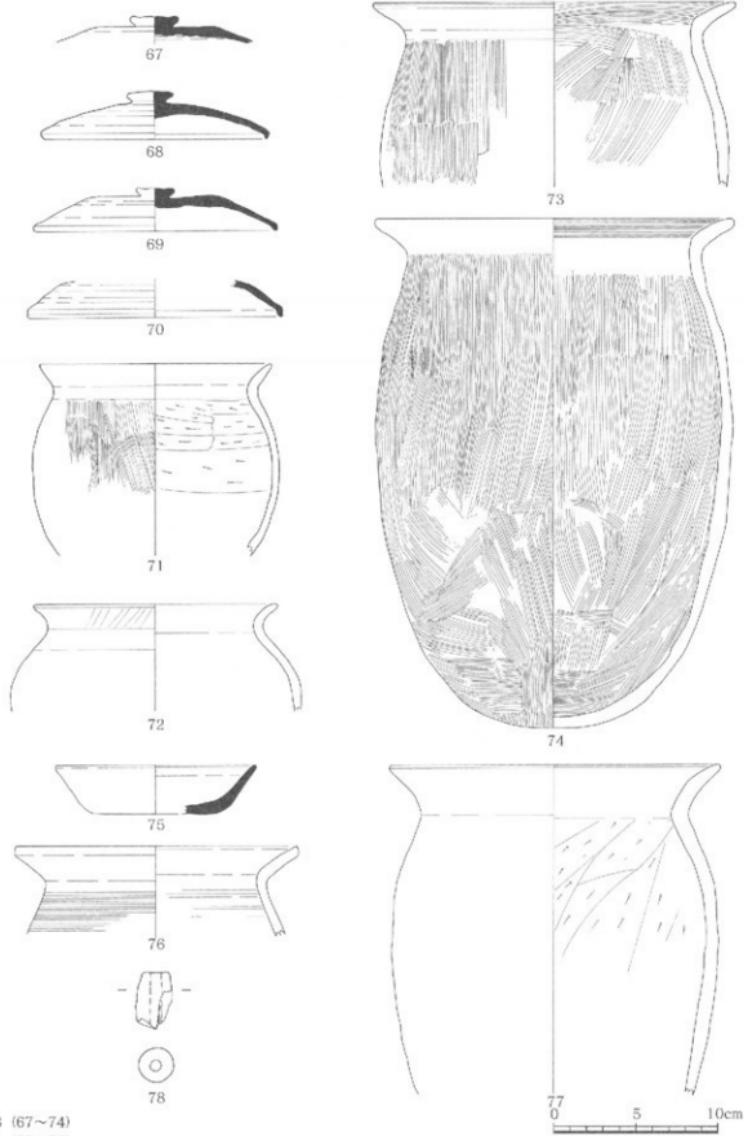
第85図 1993年度 遺物実測図④ (S=1/3)



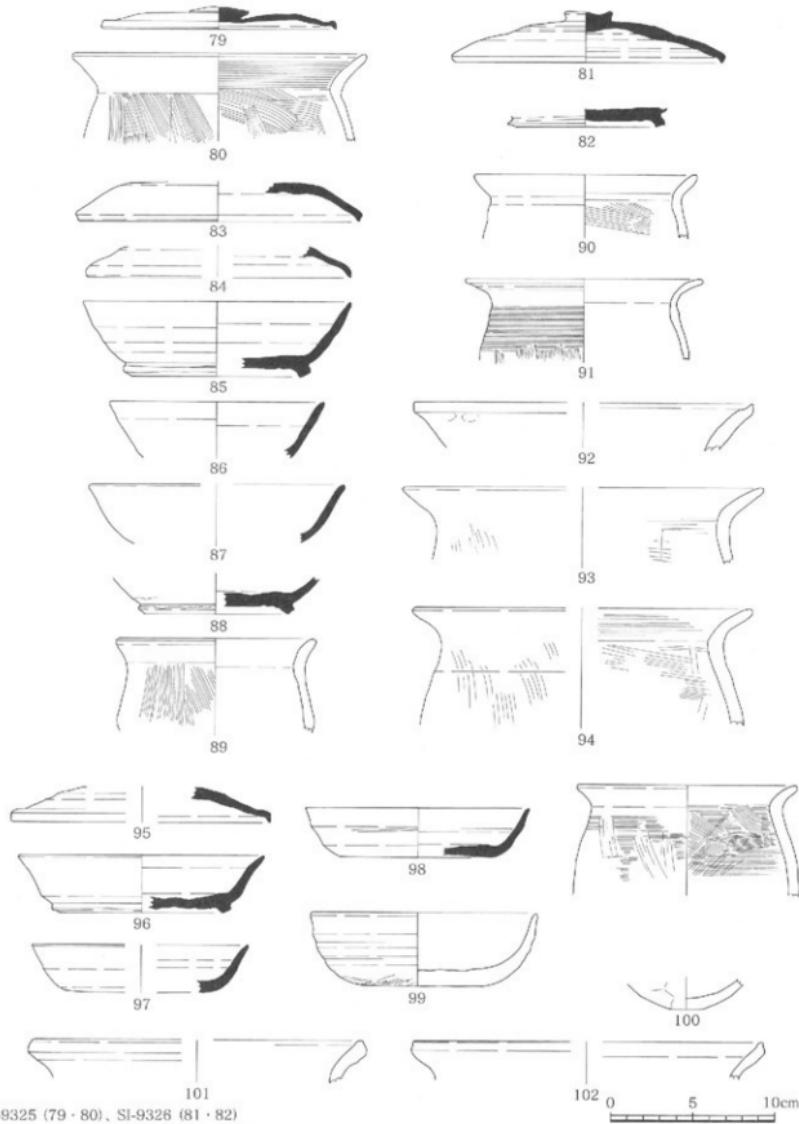
SI-9319 (53~59)

SI-9321 (60~66)

第86図 1993年度 遺物実測図⑤ (S=1/3)

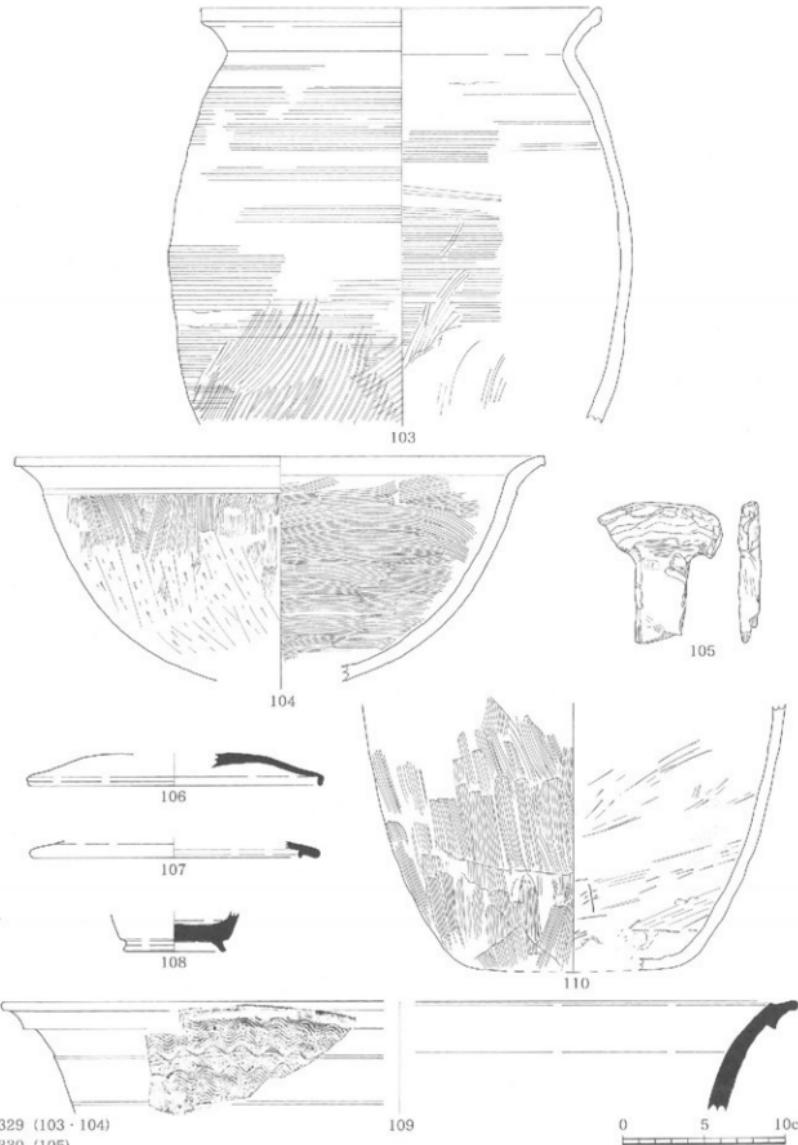


第87図 1993年度 遺物実測図⑥ (S=1/3)

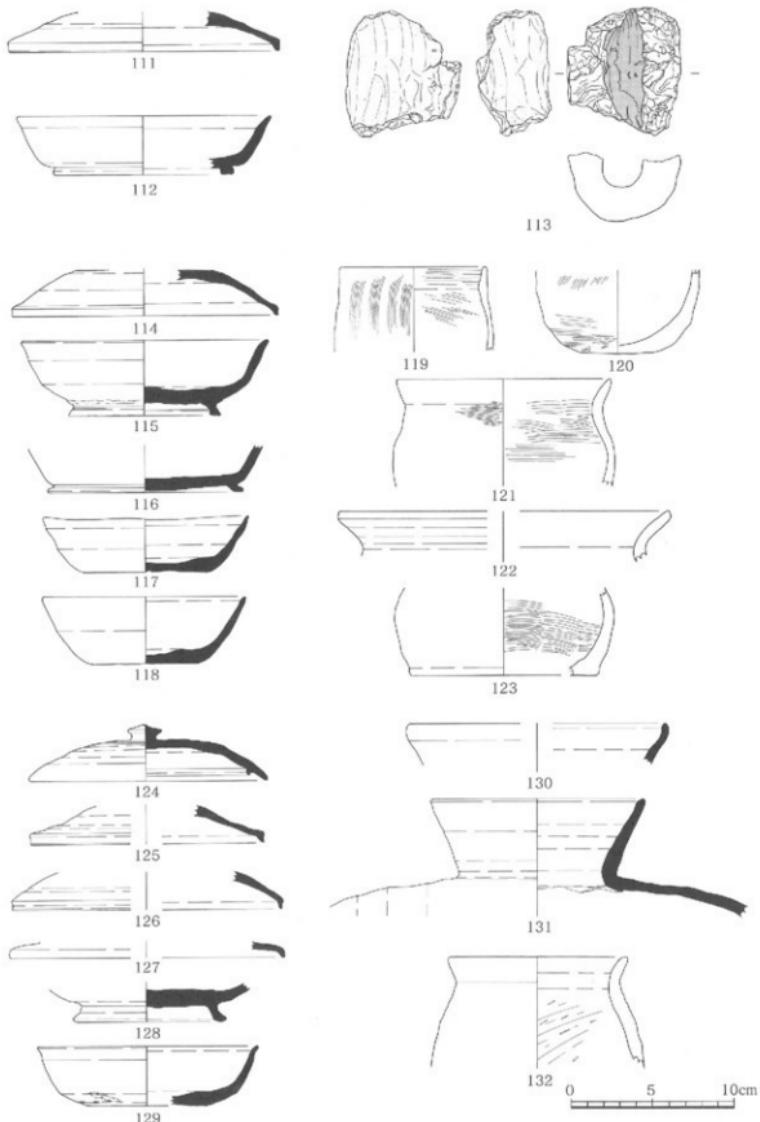


SI-9325 (79・80)、SI-9326 (81・82)  
SI-9328 (83~94)、SI-9329 (95~102)

第88図 1993年度 遺物実測図⑦ (S=1/3)

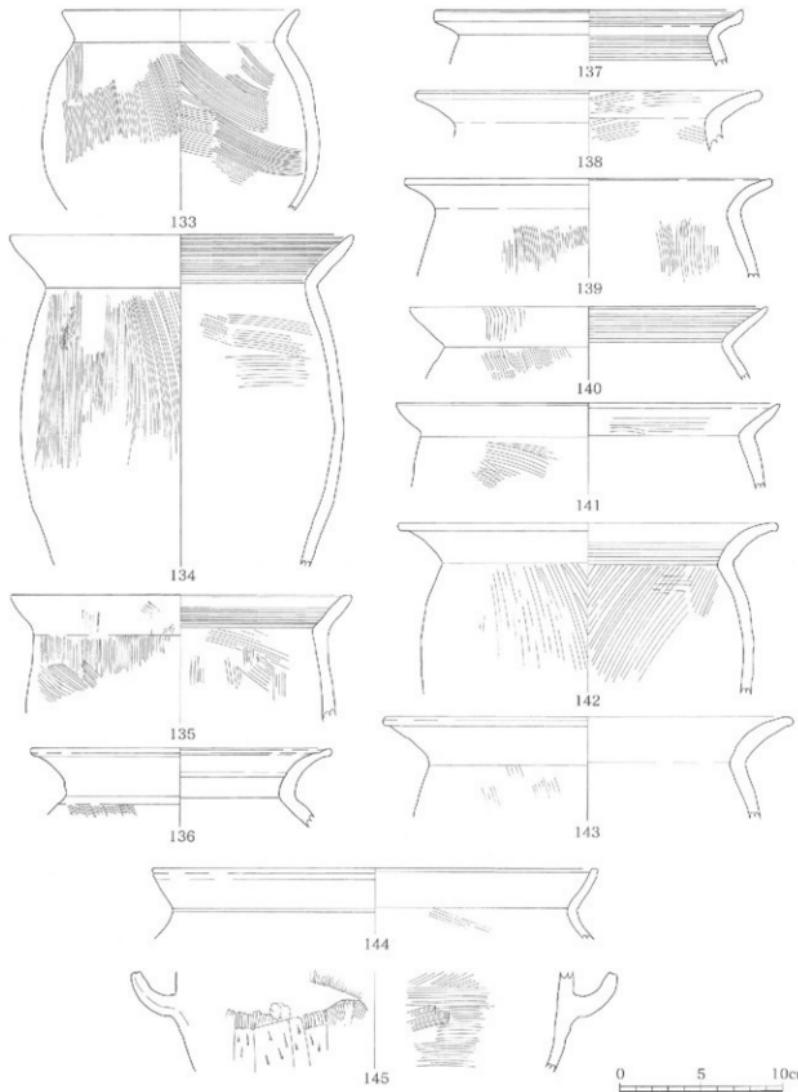


第89図 1993年度 遺物実測図⑧ (S=1/3)



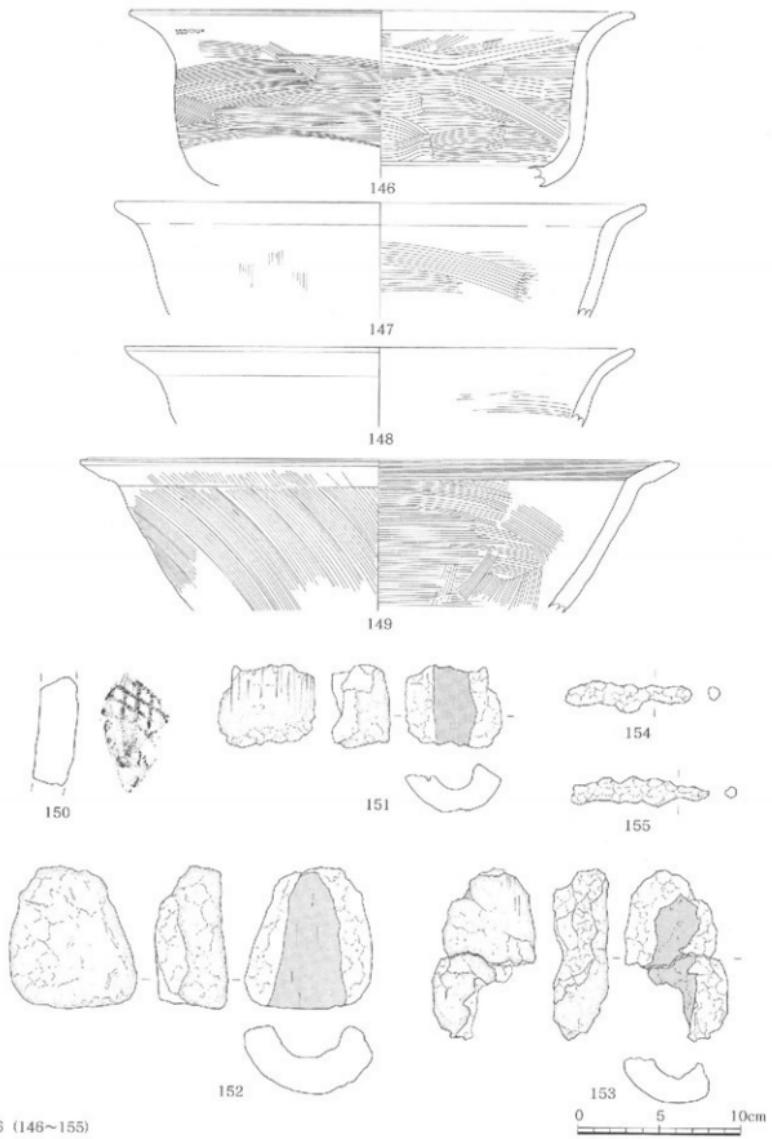
SI-9333 (111~113)  
SI-9335 (114~123)  
SI-9336 (124~132)

第90図 1993年度 遺物実測図⑨ (S=1/3)

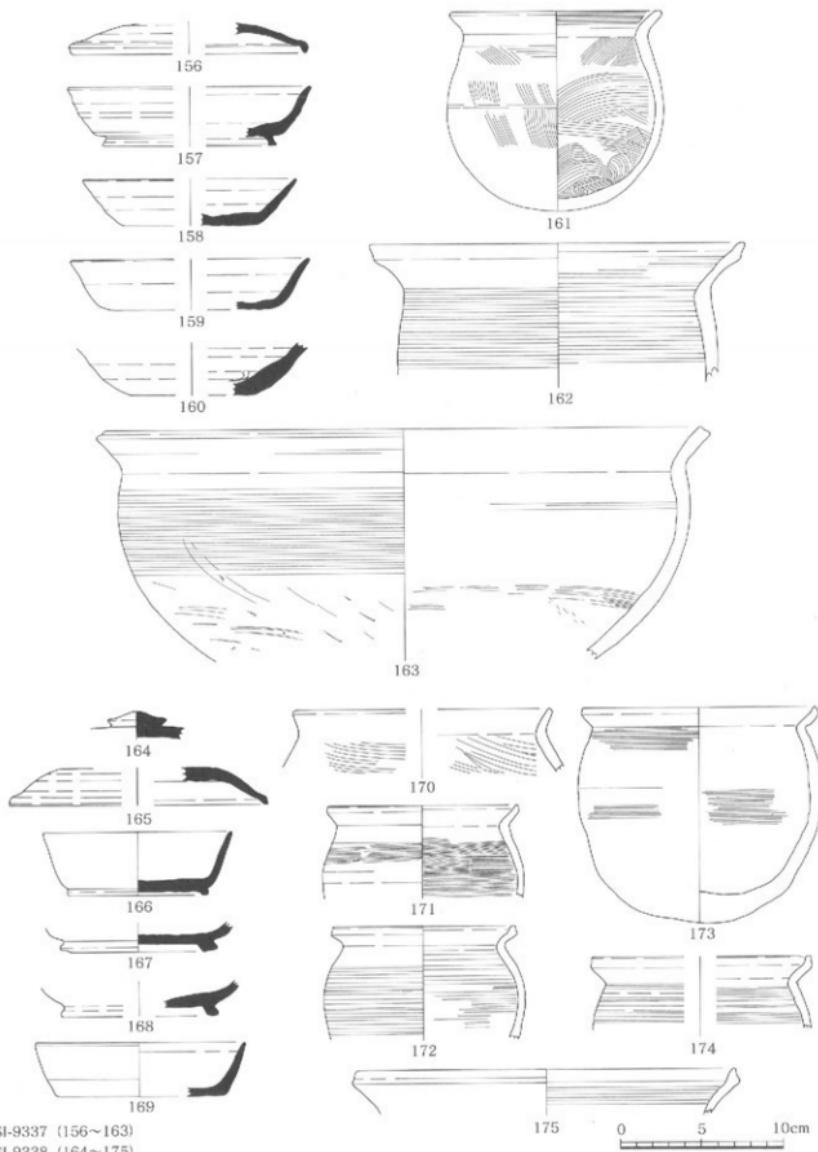


SI-9336 (133~145)

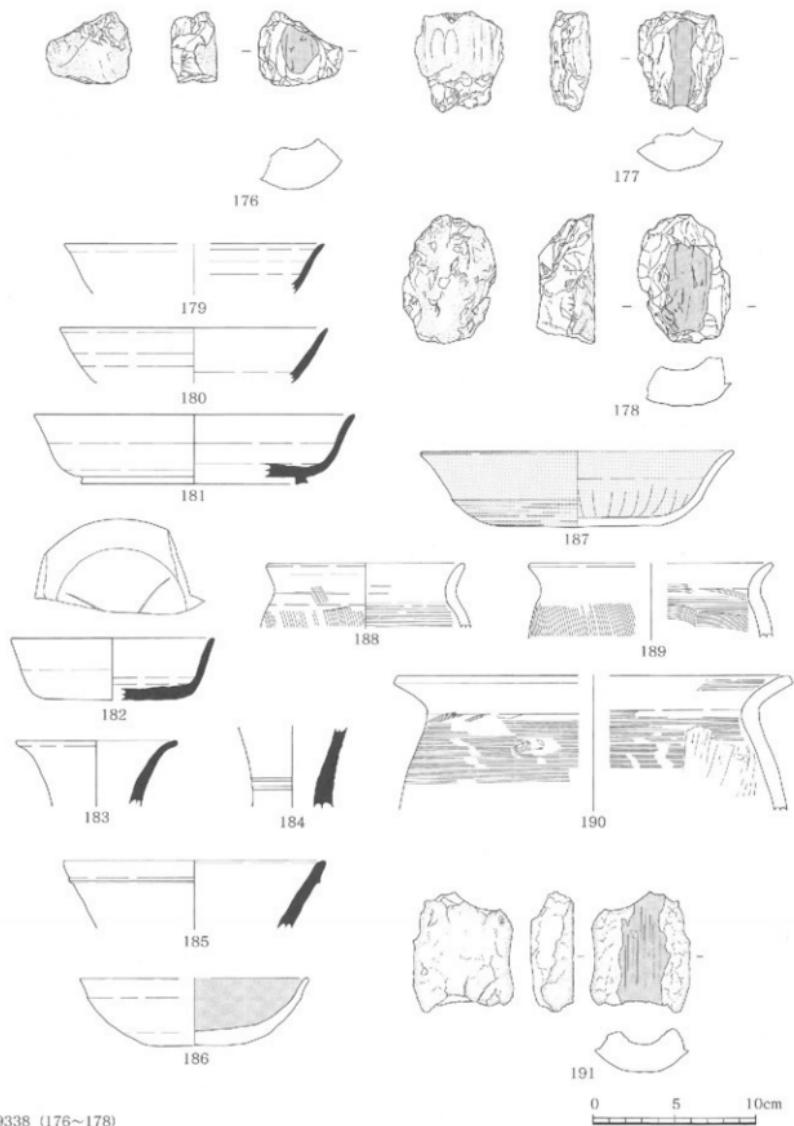
第91図 1993年度 遺物実測図⑩ (S=1/3)



第92図 1993年度 遺物実測図⑪ (S=1/3)

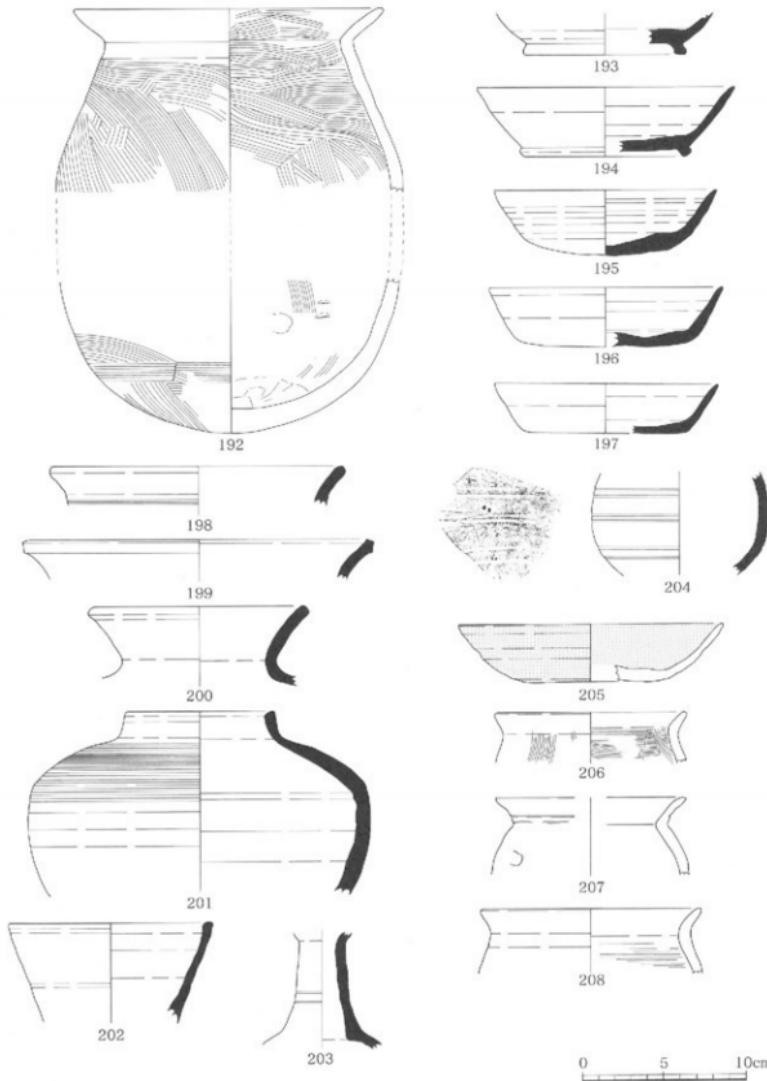


第93図 1993年度 遺物実測図⑫ (S=1/3)



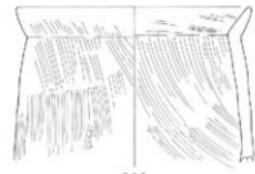
SI-9338 (176~178)  
SI-9339 (179~191)

第94図 1993年度 遺物実測図⑬ (S=1/3)

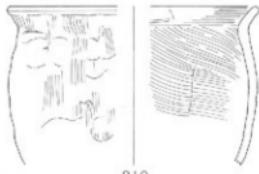


SI-9339 (192)  
SI-9340 (193~208)

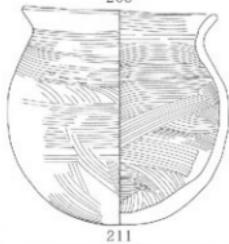
第95図 1993年度 遺物実測図⑭ (S=1/3)



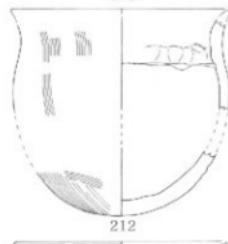
209



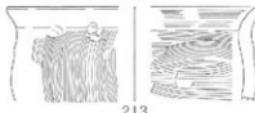
210



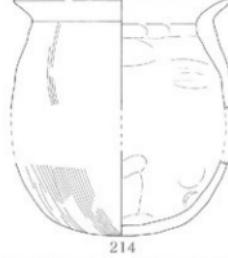
211



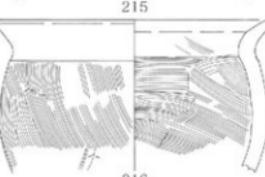
212



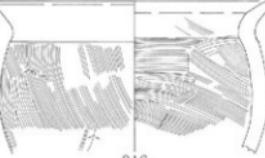
213



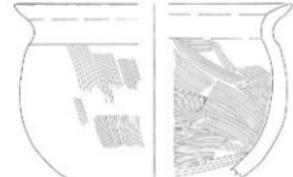
214



215



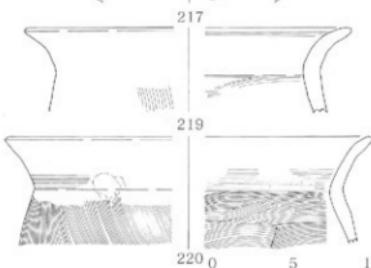
216



217



218

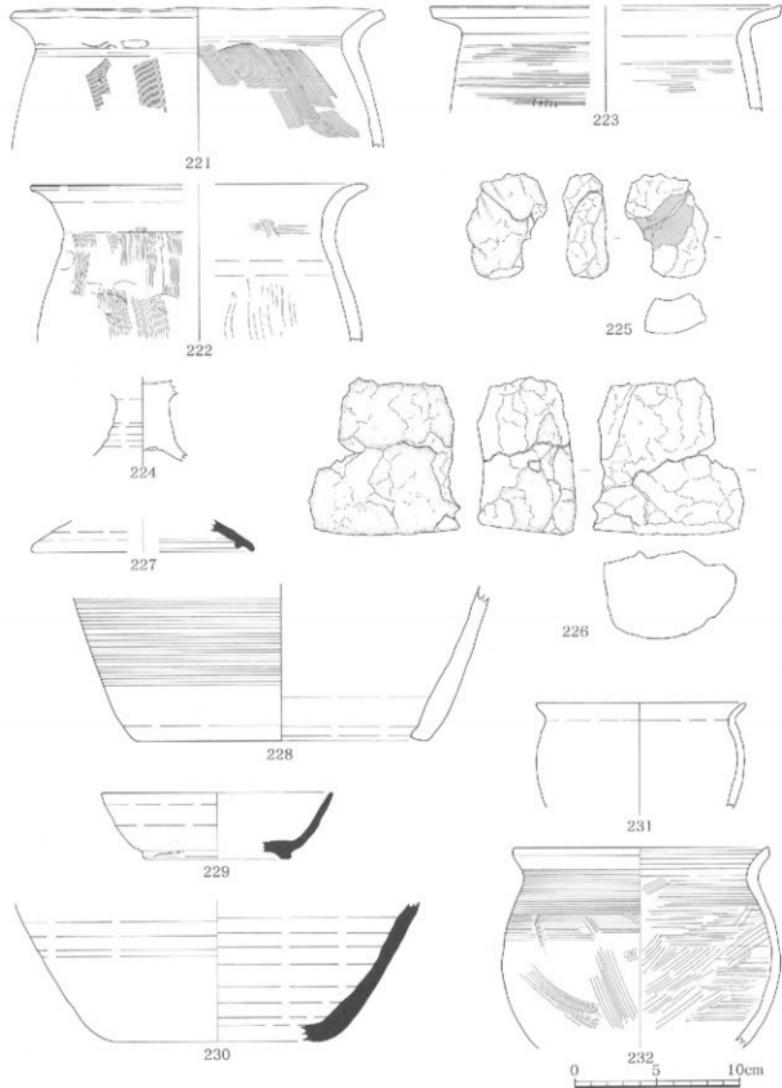


219

220 0 5 10cm

SI-9340 (209~220)

第96図 1993年度 遺物実測図⑮ (S=1/3)

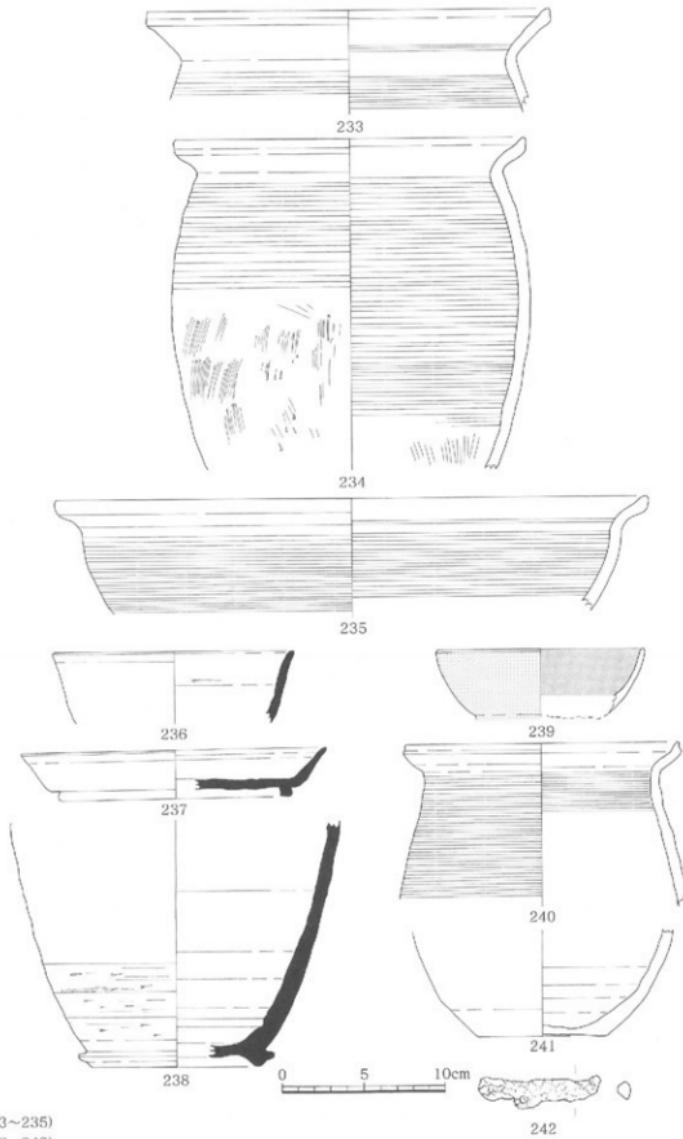


SI-9340 (221~226)

SI-9341 (227・228)

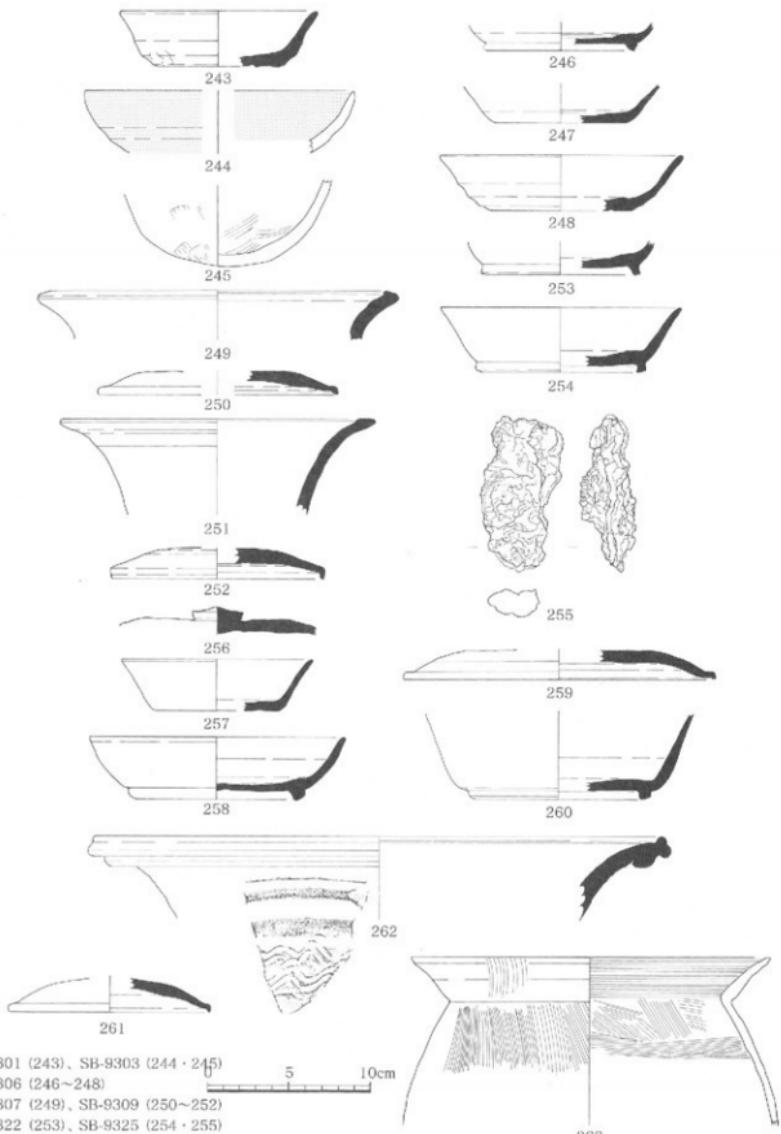
SI-9342 (229~232)

第97図 1993年度 遺物実測図⑯ (S=1/3)



SI-9342 (233~235)  
SI-9343 (236~242)

第98図 1993年度 遺物実測図⑰ (S=1/3)



SB-9301 (243)、SB-9303 (244・245)

SB-9306 (246～248)

SB-9307 (249)、SB-9309 (250～252)

SB-9322 (253)、SB-9325 (254・255)

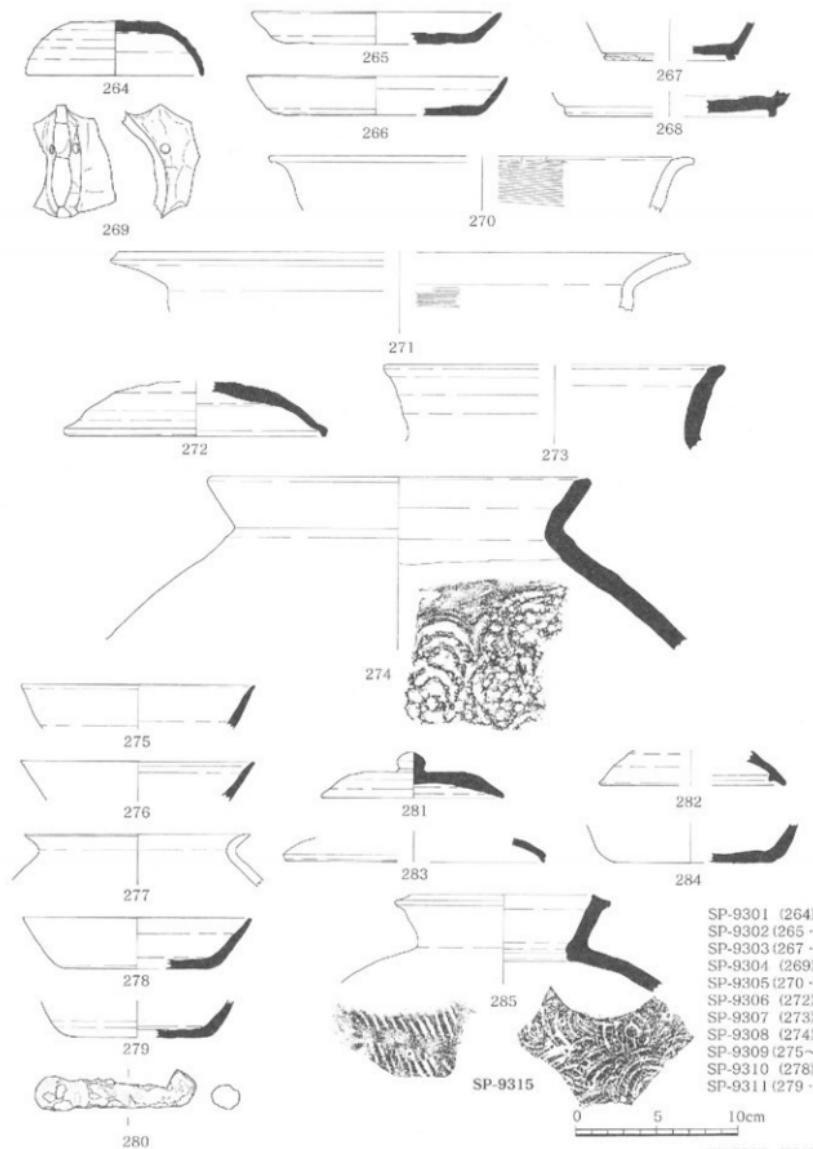
SB-9326 (256・257)、SB-9331 (258)

SB-9336 (259・260)

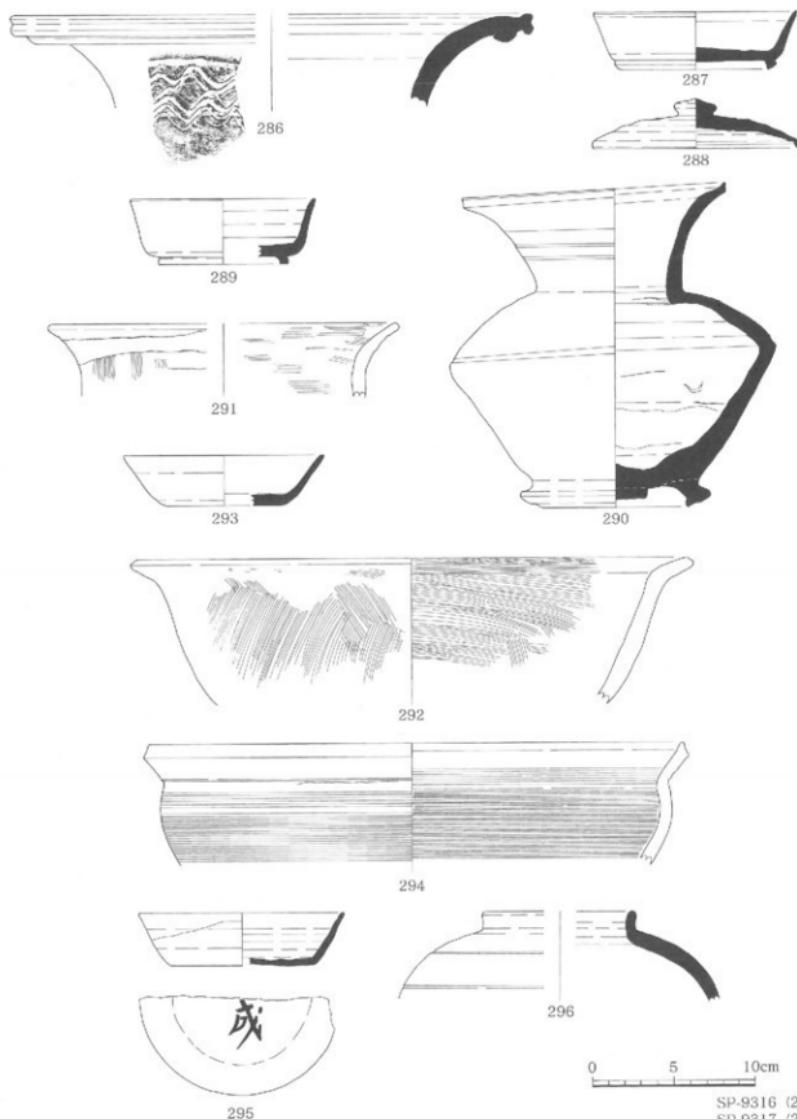
SA-9302 (261・262)

SA-9305 (263)

第99図 1993年度 遺物実測図⑩ (S=1/3)

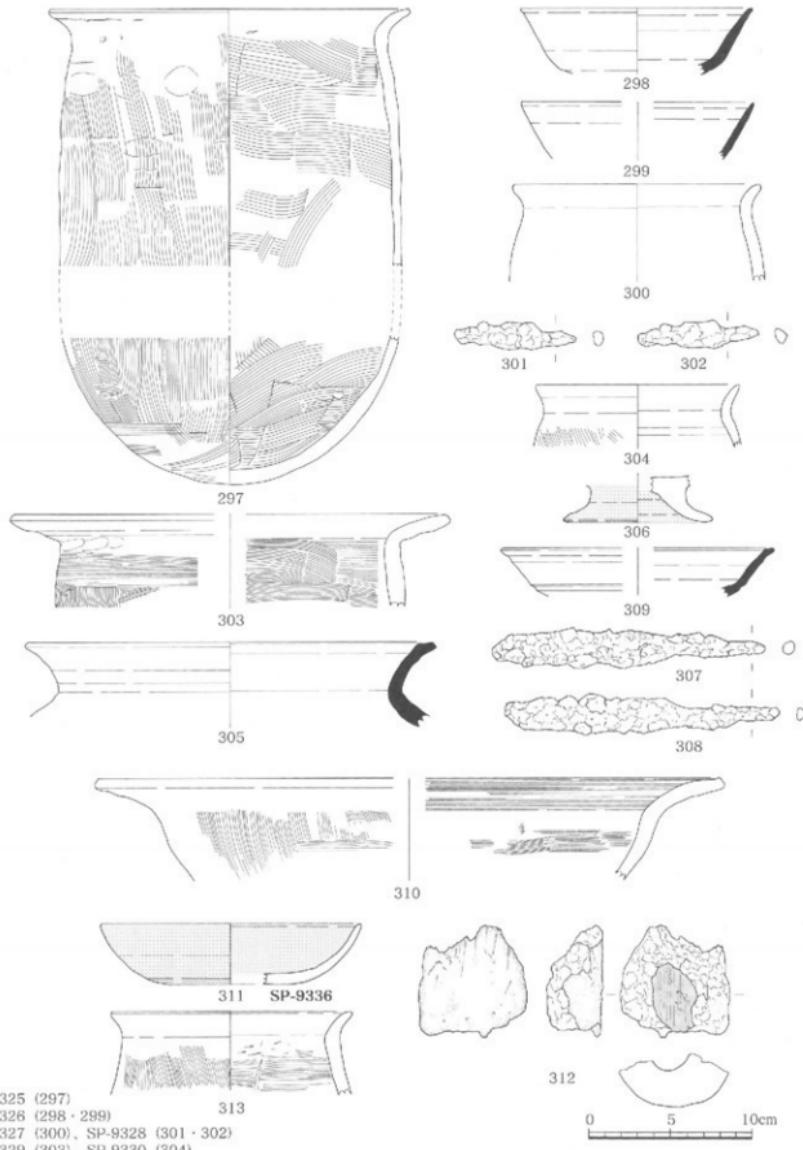


第100図 1993年度 遺物実測図⑩ (S=1/3)

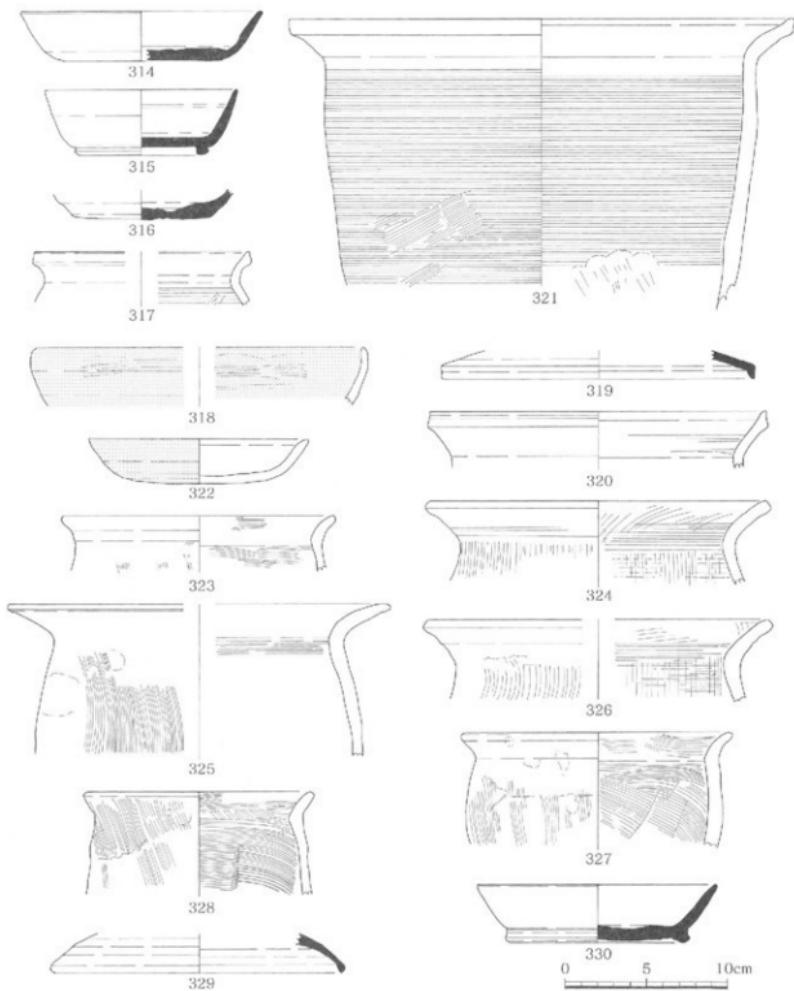


第101図 1993年度 遺物実測図② (S=1/3)

SP-9316 (286)  
 SP-9317 (287)  
 SP-9318 (288)  
 SP-9319 (289)  
 SP-9320 (290)  
 SP-9321 (291・294)  
 SP-9322 (293・294)  
 SP-9323 (295)  
 SP-9324 (296)

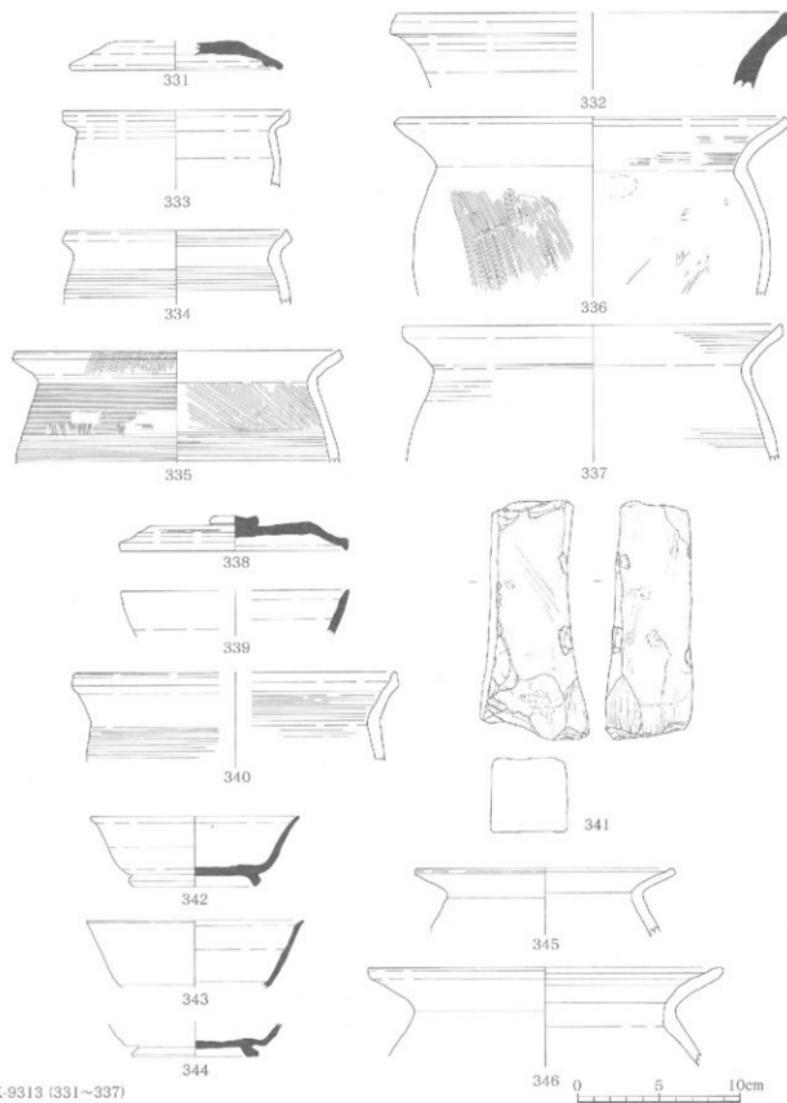


第102図 1993年度 遺物実測図② (S=1/3)



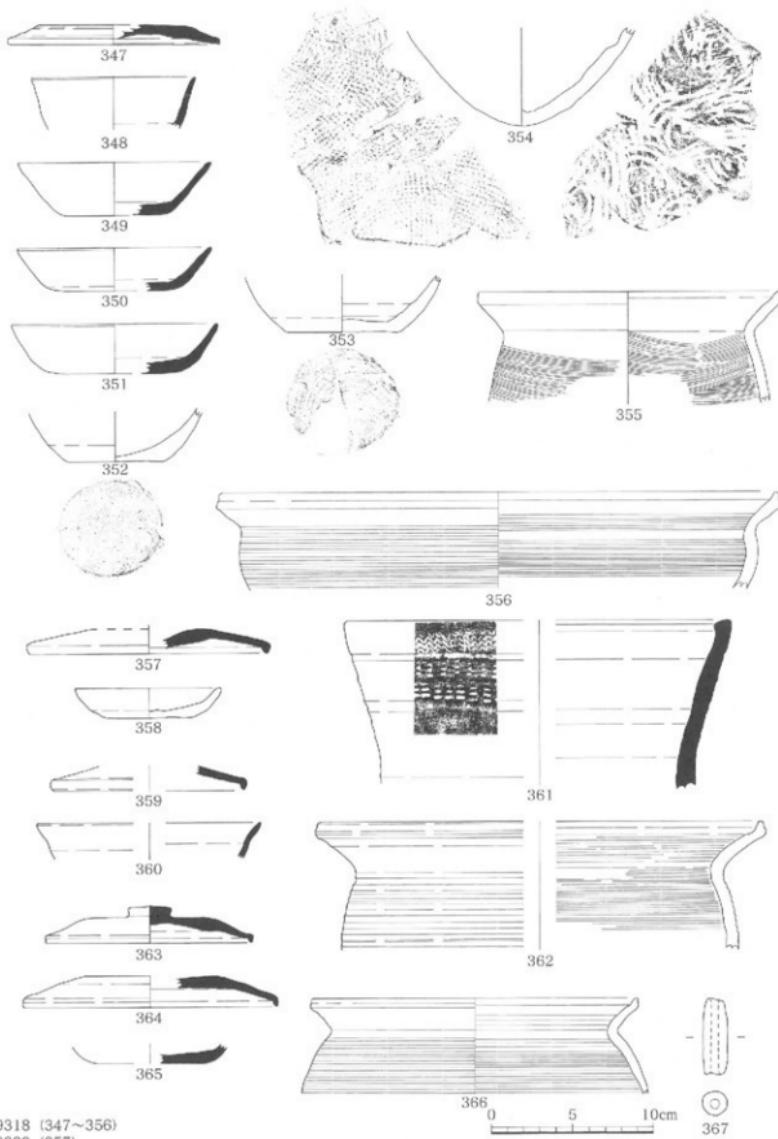
SP-9339 (314), SP-9340 (315)  
 SK-9303 (316~318), SK-9304 (319~321)  
 SK-9305 (322~328), SK-9307 (329)  
 SK-9309 (330)

第103図 1993年度 遺物実測図② (S = 1/3)



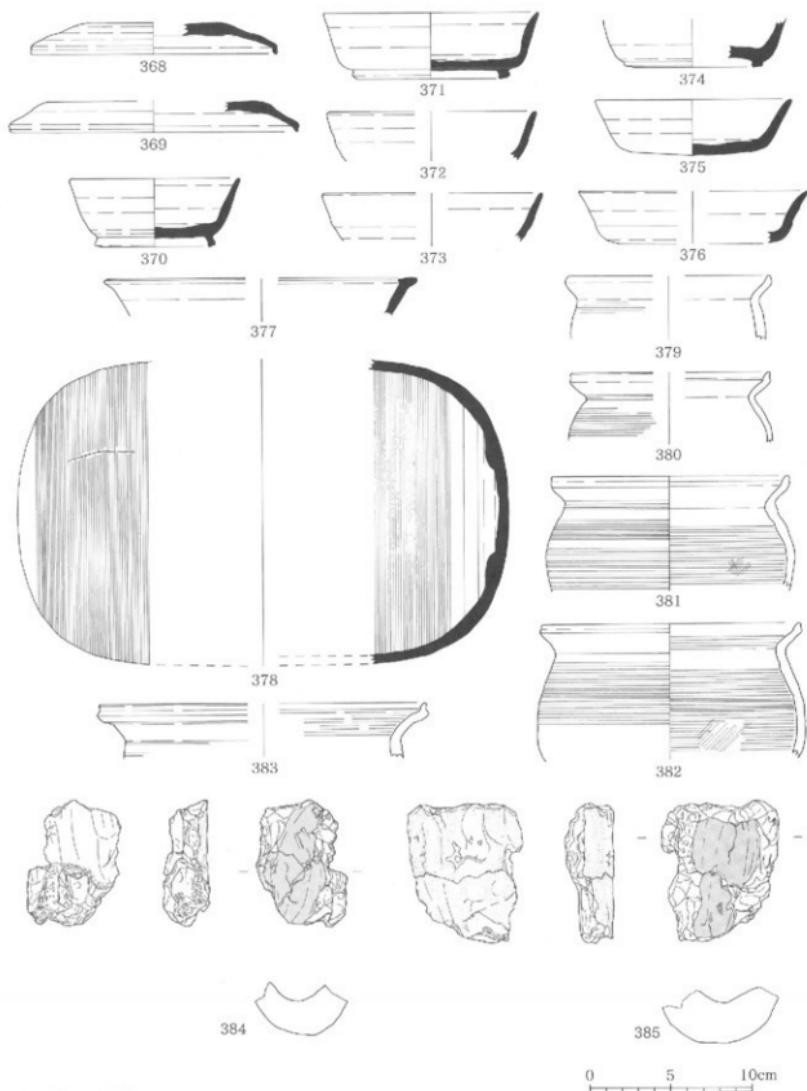
SK-9313 (331~337)  
SK-9315 (338~341)  
SK-9317 (342~346)

第104図 1993年度 遺物実測図② (S = 1/3)



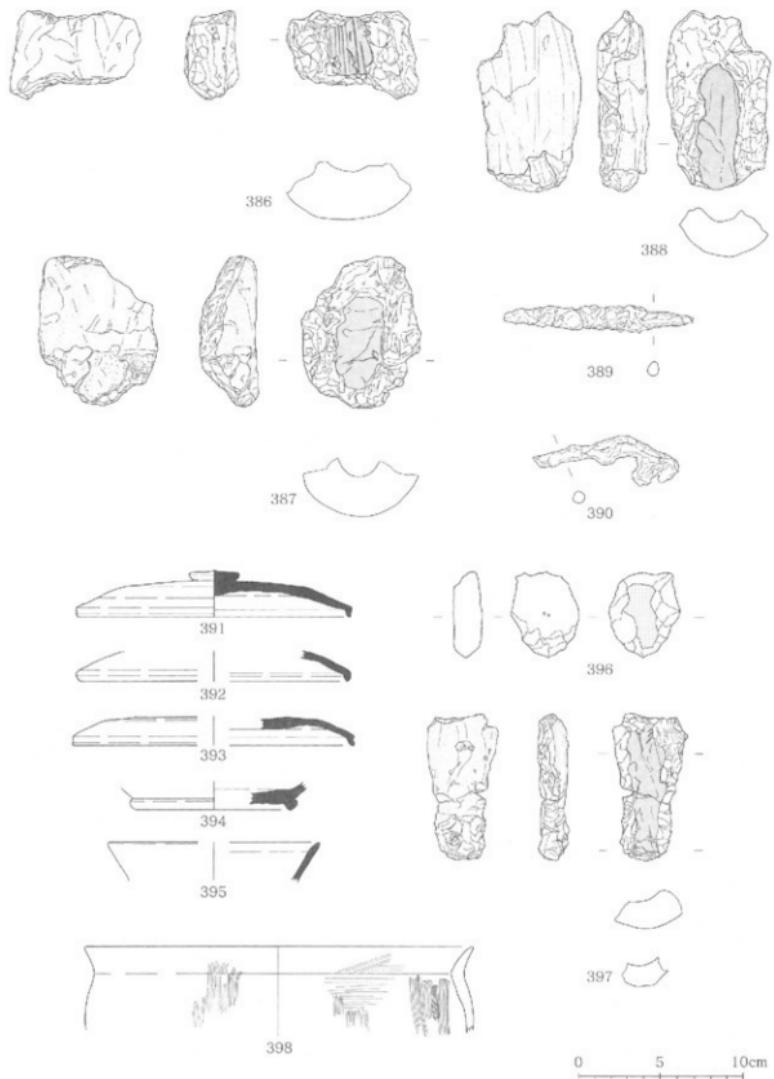
SK-9318 (347~356)  
 SK-9320 (357)  
 SK-9322 (358)  
 SK-9324 (359~362)  
 SK-9325 (363~367)

第105図 1993年度 遺物実測図② (S = 1/3)



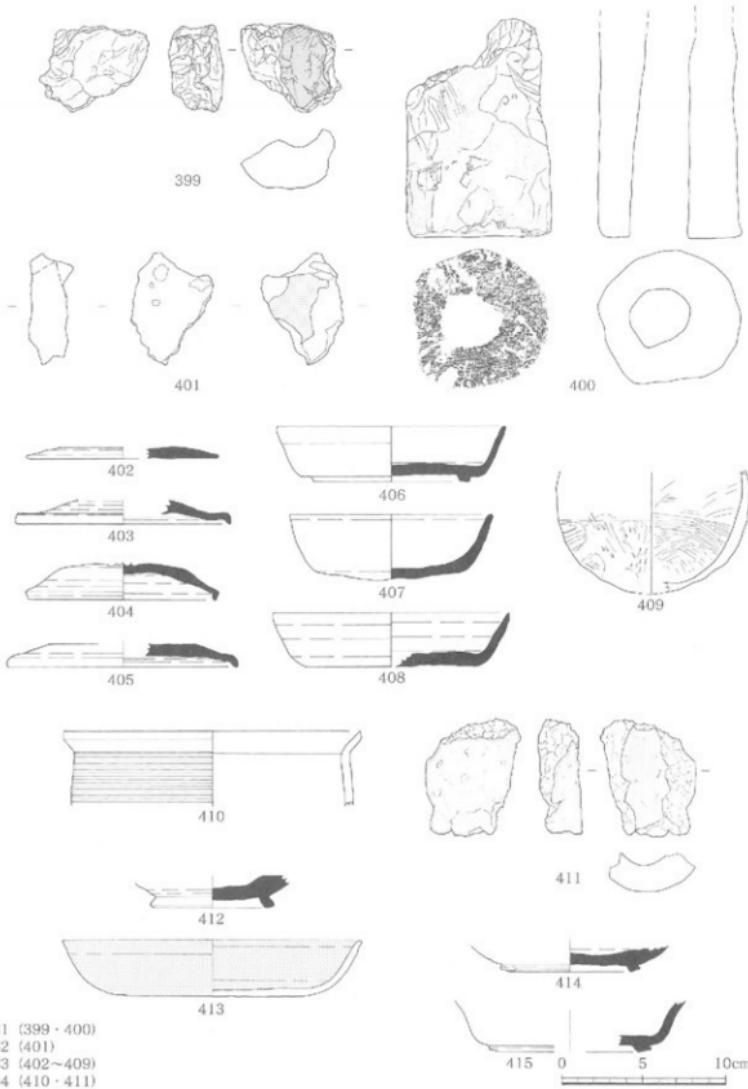
SK-9327 (368~385)

第106図 1993年度 遺物実測図② (S=1/3)



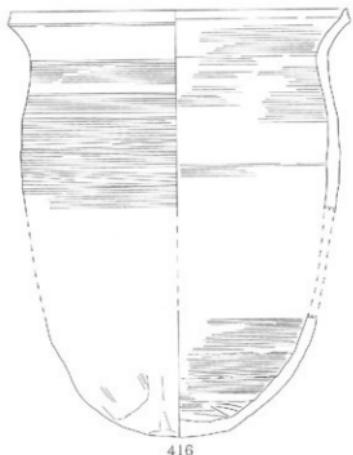
SK-9327 (386~390)  
SK-9328 (391~397)  
SK-9331 (398)

第107図 1993年度 遺物実測図② (S=1/3)

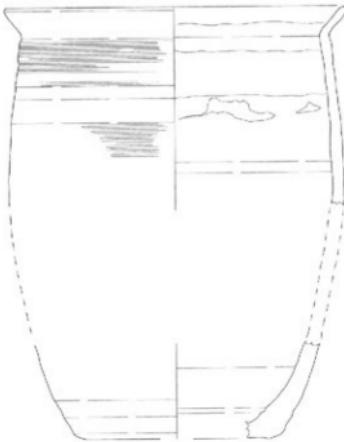


SK-9331 (399・400)  
SK-9332 (401)  
SK-9333 (402～409)  
SK-9334 (410・411)  
SK-9337 (412・413)  
SX-9302 (414・415)

第108図 1993年度 遺物実測図② (S = 1/3)



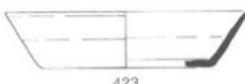
416



417



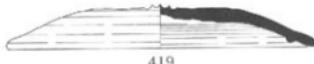
418



423



424



419



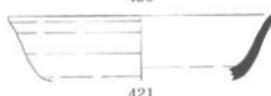
425



420



426



421



427



422



428

0 5 10cm

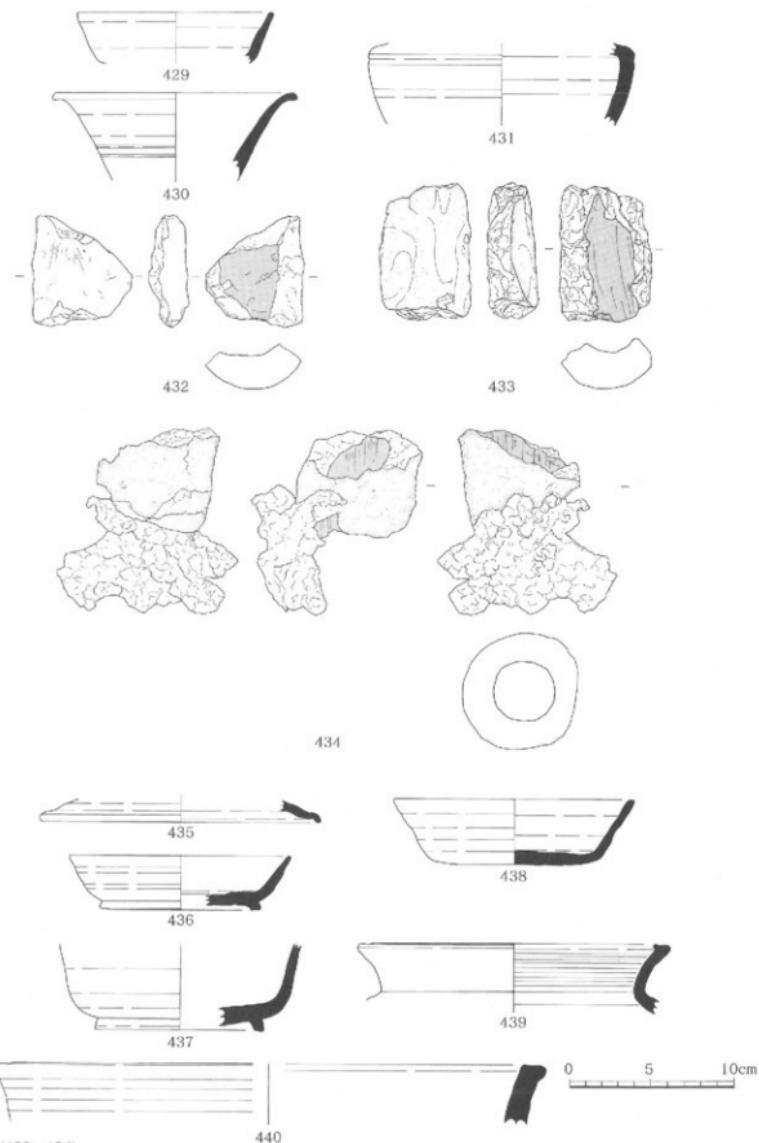
SX-9303 (416・417)

SX-9306 (418)

SX-9307 (419~421)

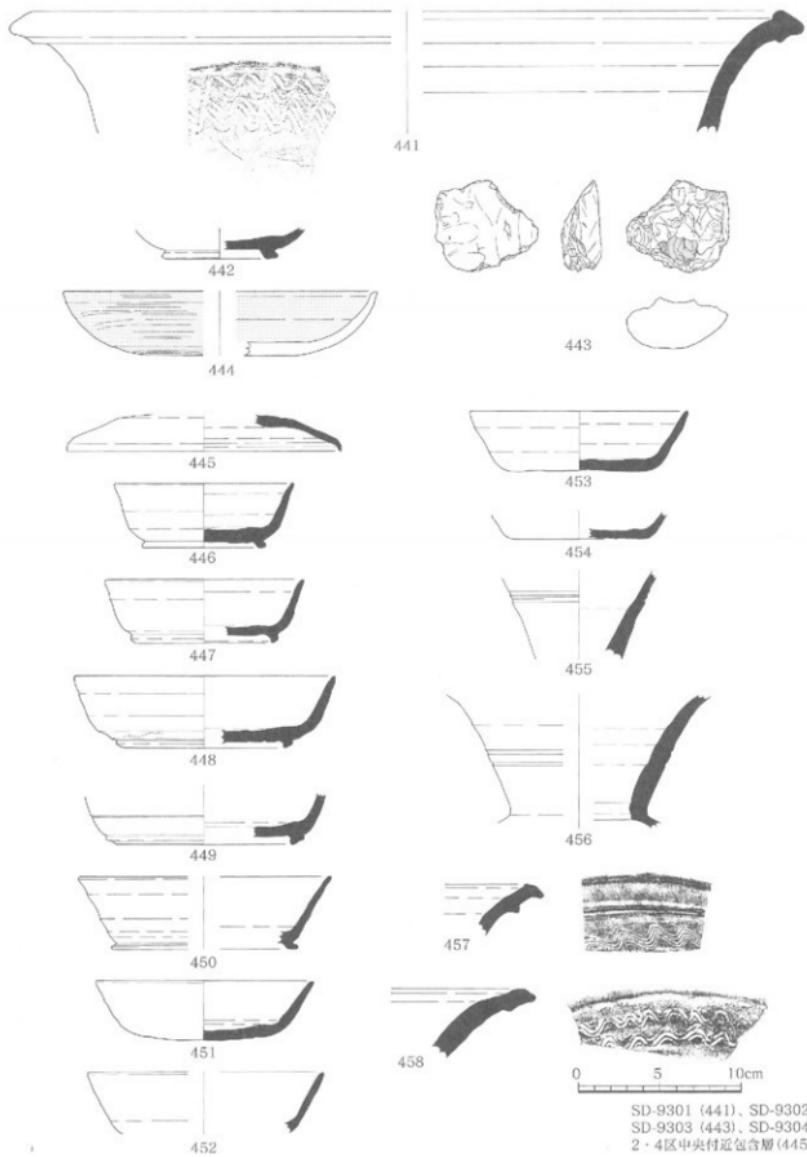
SX-9308 (422~428)

第109図 1993年度 遺物実測図② (S = 1/3)



製鉄関連器 (429~434)  
SD-9301 (435~440)

第110図 1993年度 遺物実測図② (S = 1/3)



第111図 1993年度 遺物実測図⑩ (S = 1/3)

SD-9301 (441), SD-9302 (442)  
SD-9303 (443), SD-9304 (444)  
2・4区中央付近包含層 (445~458)

## 遺物觀察表 (1993年度)

番号	器物名	法	地	調	整	色	斑	疵	胎	上	底	存	備考
1	有台座	C: 15.0 H: 4.3	ナデ a: 滅失 b: 清灰	並	S・M・L・I	1/2	重み						
2	甕	C: 11.6 W: 14.0	ナデ a: 滅失 b: 清灰	良	S・M・2 L・1	1/2	厚耗 剝離						
3	瓶	C: 29.8	ナデ a: 滅失 b: 清灰 カ目・ハケ	良	S - 3	1/8							
4	瓶	C: 12.6 H: 2.3	ナデ a: 滅失 b: 清灰	良	S・M・L・I	3/4							
5	蓋	C: 12.4 H: 2.3	ナデ 灰色	良	S - 1	完							
6	蓋	C: 17.8	ナデ a: 滅失 b: 清灰	良	S - 2	小片							
7	甕	C: 19.6 W: 20.6	ナデ a: 滅失 b: 清灰 カ目・ハケ	並	S - 3 M・L・2	1/6	厚耗						
8	甕	N: 17.0 W: 41.6	ナデ a: 滅失 b: 清灰 カ目・ハケ	良	M・L・2	1/4							
9	蓋	C: 15.8	ナデ a: 滅失 b: 清灰	並	S・L・I	1/3	厚耗						
10	甕	B: 7.4	ケズリ a: 清灰	良	S - 1	小片	外面部 内壁						
11	蓋	C: 18.6	ナデ 灰色	良	S・L・I	小片							
12	有台座	C: 14.1 H: 4.8	ナデ a: 滅失 b: 清灰	灰色	S - 1	2/3	降低						
13	瓶類 (灰)	ナデ 灰色	良	S - 2	1/2								
14	高环	C: 20.1 H: 12.4 W: 12.6	ナデ a: 滅失 b: 清灰 →ハケ	並	S - 2	4/5	重み						
15	甕	C: 14.1 H: 2.8	ナデ a: 清灰 b: 清灰 ケズリ	並	S - 1	完	暗文 (燃焼灰)						
16	甕	C: (17.5) W: 17.4	ナデ a: 清灰 b: 清灰	並	S - 3	完	剝離						
17	甕	C: 14.8 W: 14.8	ナデ a: 清灰 b: 清灰	並	S・M・1	1/3							
18	甕	C: 23.0	ナデ a: 清灰 b: 清灰	良	S - 1	小片							
19	甕	C: 14.2 W: 15.2	ナデ カ目	並	S - 2	1/6							
20	甕	W: 11.6	ナデ a: 清灰 b: 清灰 (灰)	並	S・M・2 L・1	4/5	厚耗 剝離						
21	甕	C: 22.0	ナデ ハケ	並	S - 3	1/7	厚耗						
22	甕	W: 21.0	ナデ a: 清灰 b: 清灰	並	S - 2	完							
23	高环	C: 14.2 N: 3.3	ナデ カ目	並	S・M・2 L・1	8/9	内外面 赤彩						
24	陶石	L: (10.0) W: 4.7 D: 4.7				完	395 g						
25	甕	L: (15.0) W: 5.4 D: 5.0				完	820 g						
26	甕	C: 16.3 H: 2.9	ナデ a: 清灰 b: 清灰	灰色	並	S・M・2 L・1	小片						
27	有台座	B: 8.8	ナデ a: 清灰 b: 清灰	並	M - 2	1/4							
28	甕	C: 12.4 W: 11.4	ナデ カ目 a: 清灰 b: 清灰	並	S - 2	1/7	厚耗						
29	甕	C: 13.8 W: 12.8	ナデ a: 清灰 b: 清灰 ハケ	並	M - 2	1/8							
30	有台座	C: 15.4 H: 4.1	ナデ a: 清灰 b: 清灰	並	S・L・I	2/3	剝離						
31	甕	C: 22.1 W: 20.4	ナデ カ目 a: 清灰 b: 清灰	並	M - 2	1/5							

番号	器物名	法	地	調	整	色	斑	疵	胎	上	底	道存	備考
32	甕	C: 15.0 H: 3.1	ナデ a: 清灰 b: 清灰	並	S - 1	1/8	器形平滑						
33	甕	C: 8.2 H: 2.7	ナデ a: 清灰 b: 清灰	並	S - 3	1/2							
34	甕	C: 10.0	ナデ ハケ	並	S - 1	1/8	摩耗						
35	甕	C: 14.4	ナデ ハケ	並	M・L・I	1/8	摩耗						
36	甕	C: 20.0	ナデ ハケ	並	M・L・I	小片							
37	甕	C: 27.3	ナデ ハケ	並	S - 2 M - 1	小片							
38	甕	C: 46.6	ナデ a: 清灰 b: 清灰	並	M - 1	小片	波状纹 自然釉						
39	甕	C: 17.0	ナデ a: 清灰 b: 清灰	並	S - 3 L - 1	1/7	外表面 凹凸刻						
40	甕	C: 20.6	ナデ a: 清灰 b: 清灰 カ目	並	S - L - 1	1/3	赤色						
41	甕	C: 33.0	ナデ a: 清灰 b: 清灰 カ目	並	S - M - 1	小片	赤色						
42	有台座	B: 9.3	ナデ a: 清灰 b: 清灰	並	S・M・L・I	1/2	外表面 凹凸刻						
43	甕	C: 13.6 H: 3.7	ナデ タマキ	並	S - L - 1	1/2							
44	甕	C: (26.4)	ナデ タマキ	並	S - 2	小片							
45	甕	C: 30.9	ナデ a: 清灰 b: 清灰	並	S - 2	小片							
46	甕	C: 16.5	ナデ 清灰	並	S - 1	小片	外表面 赤彩						
47	有台座	C: 14.0 H: 4.1	ナデ a: 清灰 b: 清灰	並	S・M・2 L - 1	1/6							
48	有台座	B: 9.8	ナデ a: 清灰 b: 清灰	並	S - 3	小片							
49	甕	C: 15.2 H: 2.7	ナデ a: 清灰 b: 清灰	並	M・L・1	2/3	外表面 灰						
50	甕	C: 22.8 H: 2.7	ナデ a: 清灰 b: 清灰	並	M・L・1 赤色	1/7							
51	灰陶器	L: (10.7) W: 1.1									完	85 g	针孔
52	灰陶器	L: (15.6) W: 2.1									完	165 g	
53	甕	C: 42.8	ナデ 暗灰	並	M - 2 L - 1	1/7	波状纹						
54	甕	C: 13.6 H: 2.7	ナデ a: 清灰 b: 清灰	並	S - 2	1/4							
55	甕	C: 14.0	ナデ 灰	並	S - M - 2	1/8							
56	有台座	C: 11.8	ナデ a: 清灰 b: 清灰	並	S - 2 M - 1	1/4							
57	甕	C: 25.8 H: 4.4	ナデ a: 清灰 b: 清灰	並	M - 2 L - 1	1/8	上半部 下半部						
58	甕	L: (4.6) W: 3.5 D: 2.7									完	40 g	
59	灰陶器	L: 9.7 D: 2.4									完	50.5 g	
60	有台座	C: 15.3	ナデ a: 清灰 b: 清灰	並	S - 2	3/4	カマド						
61	有台座	C: 15.1	ナデ a: 清灰 b: 清灰	並	S - 2	1/4	カマド						
62	甕	C: 13.7 H: 4.5	ナデ a: 清灰 b: 清灰	並	S - 2	1/2	カマド						
63	甕	C: 17.6	ナデ 明淡粉色	良	S - 1	1/8	内面部 赤彩						
64	甕	C: 22.1 H: 2.7	ナデ a: 清灰 b: 清灰	並	S - 3 M - 1	1/3	カマド						

番号	器	種	法	量	調整	色調	焼	成	貯	土	塵	存	備考
65	甕	C: 23.2	ナデ	a: 清褐色 b: 淡褐色	並	S-2	小片						
66	甕	C: 23.6	ナデ	a: 清褐色 b: 淡褐色	並	S-2	1/6						
67	蓋	天: 6.8 C: 14.0	ナデ ナデ	a: 清灰色 b: 清褐色	並	M-1	1/2						
68	蓋	H: 3.0	ナデ	a: 清灰色 b: 清褐色	並	M-2	1/3						
69	蓋	C: 14.8 H: 2.7	ナデ	a: 清灰色 b: 黄灰色	不良	S-3	1/4						
70	蓋	C: 15.6	ナデ	a: 清灰色 b: 淡褐色	並	S-3	1/3						
71	甕	C: 14.2 W: 15.0	ナデ	a: 清褐色 b: 淡褐色	並	M-2	2/3						
72	甕	C: 15.0 W: 17.8	ナデ	a: 清褐色 b: 淡褐色	並	M-L-1	1/8	口縁外面 斜線文					
73	甕	C: 22.2 W: 21.4	ナデ ハケ	a: 清褐色 b: 淡褐色	並	S-2	1/7						
74	甕	C: 22.2 W: 22.0 H: 31.8	ナデ	a: 清褐色 b: 淡褐色	良	S-2	4/5						
75	甕	C: 12.2 H: 3.1	ナデ	a: 清褐色 b: 淡褐色	並	S-2	1/3						
76	甕	C: 17.2	ナデ	a: 清褐色 b: 黄白色	並	S-2	小片						
77	甕	C: 20.0 W: 20.1	ナデ ケズリ	a: 黄褐色 b: 本白粉	並	M-L-2	2/3	摩耗					
78	上鉢	L: (4.0)		a: 清褐色 b: 淡褐色	並	M-2	完	15g					
79	蓋	C: 14.6 H: 1.9	ナデ	a: 清灰色 b: 清褐色	並	L-2	1/2	重み					
80	蓋	C: 18.0 H: 1.9	ナデ	a: 清褐色 b: 淡褐色	並	S-M-2	1/5	摩耗					
81	蓋	C: 16.3 H: 3.2	ナデ	a: 黄灰色 b: 清褐色	良	S-2	完	外面部灰					
82	有台环	B: 8.6	ナデ	a: 清褐色 b: 清灰色	並	M-2	完						
83	蓋	C: 17.6	ナデ	a: 清褐色 b: 清褐色	良	S-1	1/3	摩耗					
84	蓋	C: 16.4	ナデ	a: 清黄色 b: 清褐色	並	S-1	小片						
85	有台环	C: 16.5 H: 4.7	ナデ	a: 清灰色 b: 清褐色	良	S-1	1/2						
86	甕	C: 13.2	ナデ	a: 清褐色 b: 黄灰色	良	S-2	1/6						
87	甕	C: 15.6	ナデ	a: 黄褐色 b: 清褐色	並	S-2	1/8						
88	有台环	B: 9.6	ナデ	a: 黄褐色 b: 清褐色	並	S-2	1/3	瓶詰					
89	甕	C: 12.0 W: 12.1	ナデ ハケ	a: 清褐色 b: 淡褐色	並	M-2	1/2						
90	甕	C: 13.6	ナデ	a: 清褐色 b: 淡褐色	並	S-1	1/5						
91	甕	C: 14.6	ナデ	a: 清褐色 b: 淡褐色	並	M-L-1	小片						
92	甕	C: 20.6	ナデ	a: 清褐色 b: 淡褐色	並	S-2	1/8						
93	甕	C: 22.2	ナデ	a: 清褐色 b: 淡褐色	並	M-3	小片	摩耗					
94	甕	C: 20.5	ナデ	a: 清褐色 b: 淡褐色	並	S-M-2	1/8	摩耗					
95	蓋	C: 15.8	ナデ	a: 黄灰色 b: 清褐色	良	S-1	1/6						
96	有台环	C: 15.2 H: 3.6	ナデ	a: 清灰色 b: 清褐色	良	S-2	1/2						
97	甕	C: 13.4 H: 3.0	ナデ	a: 清灰色 b: 清褐色	並	S-3	小片						

番号	器	種	法	量	調整	色調	焼	成	貯	土	塵	存	備考
98	甕	C: 13.8	ナデ	a: 清褐色 b: 淡褐色	良	S-2	1/3						
99	甕	C: 13.8	ナデ	a: 清黃色 b: 淡黃色	不良	M-2	2/3	重い					
100	甕	C: 13.3	ナデ	a: 清褐色 b: 淡褐色	並	M-1	1/4						
101	甕	C: 20.2	ナデ	a: 清褐色 b: 淡褐色	並	M-1	小片						
102	甕	C: 21.4	ナデ	a: 清褐色 b: 淡褐色	並	S-M-1	小片						
103	甕	C: 24.4	ナデ	a: 清褐色 b: 淡褐色	並	S-L-1	石英						
104	甕	C: 32.4	ナデ	a: 清褐色 b: 淡褐色	並	S-M-2	1/4						
105	上鉢	L: (8.8)	ナデ	a: 清褐色 b: 淡褐色	並	S-M-1	完	瓶詰部か 摩耗					
106	蓋	C: 18.0	ナデ	a: 清灰色 b: 淡褐色	並	S-1	1/8	外面部灰					
107	蓋	C: 17.8	ナデ	a: 清灰色 b: 淡褐色	並	S-1	小片						
108	有台环	B: 6.3	ナデ	a: 清灰色 b: 淡褐色	良	S-M-L	1/2	内面部灰					
109	甕	C: 49.2	ナデ	a: 清褐色 b: 淡褐色	並	S-M-2	小片	外面部自然 色					
110	甕	B: 15.2	ナデ	a: 清褐色 b: 淡褐色	良	S-2	1/4						
111	蓋	C: 16.4	ナデ	a: 清褐色 b: 淡褐色	並	S-2	1/4	外面部灰					
112	有台环	C: 15.6	ナデ	a: 清褐色 b: 淡褐色	並	S-3	1/6						
113	瓶詰口	W: (7.2)	ナデ	a: 清褐色 b: 淡褐色	並	S-2	完						
114	蓋	C: 16.2	ナデ	a: 清褐色 b: 淡褐色	並	S-1	1/4						
115	有台环	C: 14.9	ナデ	a: 清褐色 b: 淡褐色	並	S-1	完						
116	有台环	B: 12.1	ナデ	a: 清褐色 b: 淡褐色	並	S-2	1/4						
117	甕	C: 12.7	ナデ	a: 清褐色 b: 淡褐色	並	S-2	1/2						
118	甕	C: 12.5	ナデ	a: 清白色 b: 淡褐色	不良	S-2	2/3						
119	甕	C: 9.0	ナデ	a: 清褐色 b: 淡褐色	並	S-1	1/6						
120	甕	B: 4.5	ナデ	a: 清褐色 b: 淡褐色	並	S-M-2	1/3	摩耗					
121	甕	C: 13.0	ナデ	a: 清褐色 b: 淡褐色	並	M-L-1	1/6	摩耗					
122	甕	C: 20.0	ナデ	a: 清褐色 b: 淡褐色	並	S-M-1	1/8						
123	底部か	B: 11.4	ナデ	a: 清褐色 b: 淡褐色	並	S-M-L	1/3	摩耗					
124	蓋	C: 14.6	ナデ	a: 清褐色 b: 淡褐色	良	M-L-1	完	外面部灰					
125	蓋	C: 14.4	ナデ	a: 清褐色 b: 淡褐色	良	S-2	小片						
126	蓋	C: 16.5	ナデ	a: 清褐色 b: 淡褐色	良	S-2	1/8	外面部自然 色					
127	蓋	C: 16.8	ナデ	a: 清褐色 b: 淡褐色	良	S-2	小片	外面部灰					
128	有台环	B: 9.3	ナデ	a: 清褐色 b: 淡褐色	並	S-2	完						
129	甕	C: 13.6	ナデ	a: 清褐色 b: 淡褐色	良	M-1	1/2						
130	底か (口)	C: 15.7	ナデ	a: 清褐色 b: 淡褐色	良	S-1	1/8	内外面部 摩耗					
131	橋瓶	C: 13.4	ナデ	a: 清褐色 b: 淡褐色	良	M-L-1	1/2	体部外側					

番号	品種	法量	調整	色調	成形	粘土	通存	備考
132	甕	C: 11.0 ケズリ	ナデ	暗褐色	並	L-1	2/3	摩耗 削難
133	甕	C: 14.6 W: 17.0	ナデ	棕褐色	並	M-2 L-1	1/6	
134	甕	C: 20.8 W: 20.0	ナデ	a: 淡褐色 b: 深褐色	並	M-L1 赤色粒	1/3	摩耗
135	甕	C: 21.0 ナデ	ナデ ハケ	a: 淡褐色 b: 深褐色	並	M-2 L-1	1/5	
136	甕	C: 18.6 ナデ	ナデ ハケ	棕褐色	並	S-2 M-1	1/7	
137	甕	C: 19.0 ナデ	ナデ ハケ	褐色	並	M-2 赤色粒	1/6	
138	甕	C: 21.2 ナデ	ナデ ハケ	淡褐色	並	S-2 M-3	1/6	
139	甕	C: 22.4 ナデ	ナデ	棕褐色	並	S-M-1 石英	1/6	
140	甕	C: 22.0 ナデ	ナデ ハケ	a: 淡褐色 b: 深褐色	並	M-L1 晶雲母	1/4	摩耗
141	甕	C: 23.6 ナデ	ナデ ハケ	淡褐色	並	S-3 M-L2	小片	摩耗
142	甕	C: 23.2 W: 20.4	ナデ	淡褐色	並	M-2 石英	1/3	摩耗
143	甕	C: 25.2 ナデ	ナデ ハケ	棕褐色	並	M-L3 海骨	1/3	摩耗
144	甕	C: 27.4 ナデ	ナデ ハケ	淡褐色	並	M-2 赤色粒	小片	摩耗
145	甕	W: (24.4) ナデ	ナデ ハケ	a: 淡褐色 b: 深褐色	並	M-1 赤色粒	小片	把手 三角板状
146	甕	C: 30.6 ナデ	ナデ ハケ	a: 淡褐色 b: 深褐色	並	M-L1 口端下部 鉄分付着	1/3	口端下部 鉄分突文
147	甕	C: 32.6 ナデ	ナデ ハケ	淡褐色	並	M-L1 赤色粒	1/8	摩耗
148	甕	C: 31.2 ナデ	ナデ ハケ	a: 淡褐色 b: 深褐色	並	M-L1 赤色粒	1/8	摩耗
149	甕	C: 36.6 ナデ	ナデ ハケ	棕褐色	並	M-L1 赤色粒	小片	摩耗
150	平瓦	D: 2.8 ナデ	ナデ ハケ	淡褐色	不良	L-1	完	摩耗
151	輪羽J		ナデ	a: 淡褐色 b: 深褐色	並	M-3 L-1	完	下部 鉄分付着
152	輪羽C		ナデ	a: 淡褐色 b: 深褐色	並	M-L2 赤色粒	完	端部 全形
153	輪羽C		ナデ	a: 淡褐色 b: 深褐色	並	S-1 赤色粒	完	
154	鉄製品	L: (7.8) W: 2.0					完	鉄状 15g
155	鉄製品	L: (8.5) W: 1.9					完	鉄状 16g
156	甕	C: 14.4 ナデ	ナデ ナデ	a: 淡褐色 b: 深褐色	良	S-M-1 ナデ	小片	外側隣灰
157	有台研	C: 14.8 H: 3.7 ナデ	ナデ	灰色	良	S-1	1/4	
158	甕	C: 13.0 H: 2.9	ナデ	淡褐色	並	S-1	1/4	
159	甕	C: 14.7 H: 3.2	ナデ	灰色	並	S-2	1/6	内面隣灰
160	甕	B: 7.7 C: 13.0 W: 13.3 H: 12.5	ナデ	灰色	良	S-2	1/6	内面自然施
161	甕	ナデ	ナデ ナデ ケズリ	淡褐色	並	S-M-1	1/3	
162	甕	C: 23.0 W: (19.6)	ナデ	淡褐色	並	S-1 M-2	1/4	
163	甕	C: 37.6 ナキ	ナデ ナキ ケズリナキ	棕褐色	並	S-2 M-1 赤色粒	1/5	
164	甕	W: 3.6	ナデ	淡褐色	並	S-M-1	完	外側隣灰

番号	品種	法量	調整	色調	焼成	粘土	通存	備考
165	蓋	C: 15.9	ナデ	a: 淡褐色 b: 深褐色	並	S-2	小片	外面部自然施
166	有台研	C: 11.6 H: 4.0	ナデ	灰白色	並	S-1	1/3	外底面 平滑
167	有台研	B: 9.6 ナシナシ	ナデ	a: 淡灰褐色 b: 深灰褐色	並	S-2	小片	
168	有台研	B: 9.7 ナシナシ	ナデ	淡灰褐色	並	S-2	1/3	
169	甕	C: 12.8 H: 3.4 ナシナシナシ	ナデ	淡褐色	不良	S-M-1	小片	
170	甕	C: 15.8 ナデ ハケ	ナデ	棕褐色	並	S-2	小片	
171	甕	C: 11.6 W: 12.4	カキ目	a: 淡褐色	並	S-1	1/4	摩耗
172	甕	C: 11.2 W: 12.4	カキ目	カキ目	淡黃褐色	並	S-2	1/4
173	甕	C: 14.2 W: 14.9 H: 13.5	ナデ	a: 淡褐色 b: 深褐色	並	M-2 石英	2/3	二次被無部 剥離
174	甕	C: 13.3 カキ目	ナデ	褐色	並	M-1	1/8	
175	甕	C: 23.2 ナシナシ	ナデ	a: 淡褐色 b: 深褐色	並	S-2	小片	志色粒
176	輪羽口		輪ナデ	a: 淡褐色 b: 深褐色	並	S-2	完	
177	輪押口		輪ナデ	a: 淡褐色 b: 深褐色	並	S-3	完	
178	輪押口		輪ナデ	a: 淡褐色 b: 深褐色	並	S-2	完	
179	甕	C: 16.0	ナデ	a: 灰色 b: 深白色	並	S-M-L-1	1/8	外面部自然施
180	甕	C: 16.4	ナデ	a: 灰色 b: 深白色	不良	S-3	1/7	
181	甕	C: 19.6 H: 4.4 ナシナシ	ナデ	淡青灰褐色	並	S-2	1/3	外底面 列点
182	甕	C: 12.4 H: 3.9 ナシナシ	ナデ	灰白色	不良	S-M-L-1	1/4	内底面 擦划
183	瓶頸	C: 10.0	ナデ	a: 淡褐色 b: 深褐色	不良	S-2	1/6	内面部自然施
184	瓶頸		ナデ	淡青灰褐色	不良	S-1	1/3	外面部自然施
185	甕	C: 16.0	ナデ	深灰色	並	S-M-1	1/7	金剛目自然施
186	甕	C: 14.0 H: 4.2	ナデ ケズリ	黃褐色	並	M-2	1/8	内底面 石斑
187	甕	C: 19.2 H: 4.4 ナシナシ	ナデ	赤褐色	並	S-1	1/2	内外赤彩 擦划
188	甕	C: 12.1	ナデ ハケ	a: 淡褐色 b: 深褐色	並	S-M-1 石英	1/4	
189	甕	C: 15.0	ナデ ハケ	淡褐色	並	S-1	1/4	
190	甕	C: 23.9 ナシナシ	ナデ	淡褐色	並	M-1	1/6	
191	輪押口		輪ナデ	a: 淡褐色 b: 深褐色	並	S-1	完	
192	甕	C: 18.8 W: (21.2) H: (26.5)	ナデ	黃褐色	良	S-1	1/3	
193	有台研	H: 10.0	ナデ	a: 淡褐色 b: 深白色	並	S-M-1	1/5	
194	有台研	C: 15.8 H: 4.3 ナシナシ	ナデ	a: 淡褐色 b: 深褐色	並	S-2	1/5	外面部自然施
195	甕	C: 13.8 H: 4.3 ナシナシ	ナデ	淡青灰褐色	並	S-3	3/4	
196	甕	C: 14.3 H: 3.7 ナシナシ	ナデ	淡青灰褐色	並	S-2	1/2	
197	甕	C: 13.8 H: 3.1 ナシナシ	ナデ	淡青灰褐色	並	S-M-1	1/4	

番号	名稱	法	種別	型色	調	焼成	施	土	清	備	考
198	亞	C: 17.8 カキ目	淡青灰色	並	S - 3	1/7					
199	甕	C: 21.6 ナデ	淡灰色	並	S - 2	1/7	内外面 自然釉				
200	燒瓶	C: 13.6 ナデ	淡青灰色	並	S - M - 2 L - 1	1/3	内外面 自然釉				
201	甕	C: 9.0 W: 21.0 カキ目	a: 淡白色 b: 淡青色	不良	S - 2	1/5	外表面 自然釉				
202	瓶	C: 12.4 ナデ	a: 灰色 b: 淡青色	並	S - 2 L - 1	1/3	内侧面 自然釉				
203	高环 (脚部)	ナデ	a: 淡灰色 b: 淡青色	不良	S - 2	2/3	外表面 自然釉				
204	瓶	W: 10.8 ナデ	a: 灰色 b: 灰色	並	S - M - L - 1	1/4	凹面6条 割文				
205	瓶	C: 16.3 II: 3.6 ナデ	淡青灰色	並	S - 1	1/4	内外面 赤錆				
206	甕	C: 11.9 ナデ ハケ	a: 棕褐色 b: 淡青色	並	S - 1 H: 5.5 厚	1/3	摩耗				
207	甕	C: 11.7 ナデ	a: 淡白色 b: 淡青色	並	S - 3	小片	摩耗				
208	甕	C: 13.6 ナデ ハケ	淡棕黄色	並	S - M - 1	1/3	摩耗				
209	甕	C: 14.2 W: 14.6 ナデ ハケ	棕褐色	並	S - M - 2 海骨	1/7	歪み				
210	甕	C: 15.5 W: 15.9 ナデ ハケ	a: 黄褐色 b: 淡青色	並	M - 1	1/4	摩耗				
211	甕	C: 11.9 W: 13.1 II: 13.6 ナデ ハケ	a: 淡青色 b: 淡青色	並	S - 2	完	摩耗				
212	甕	W: 13.4 ナデ ハケ	a: 黄褐色 b: 淡青色	並	S - 2	1/3	摩耗				
213	甕	C: 15.6 W: 15.1 ナデ ハケ	淡黄褐色	並	S - M - 1	小片					
214	甕	C: 12.5 W: (13.7) ナデ H: (15.0) ナデ ハリ	暗褐色	並	M - 2 石英 滑骨	1/4	摩耗				
215	甕	C: 15.8 W: 15.6 ナデ ハケ	a: 淡青色 b: 淡青色	並	M - 2	1/4					
216	甕	C: 17.0 W: 16.6 ナデ ハケ	淡黄褐色	並	M - 2	1/3					
217	甕	C: 17.0 W: 16.4 ナデ ハケ	淡黄褐色	並	M - L - 1 厚	1/3	摩耗				
218	甕	C: 14.9 W: 15.9 ナデ ハリ	淡黄褐色	並	S - 2 L - 1	1/5	新発				
219	甕	C: 20.0 ナデ ハケ	淡棕褐色	良	S - M - 1 厚	1/8					
220	甕	C: 22.4 ナデ ハリ	淡青褐色	良	S - M - 1 厚	1/8					
221	甕	C: 22.8 ナデ ハケ	a: 淡青色 b: 淡青色	並	M - 2 L - 1	3/4	摩耗				
222	甕	C: 20.2 ナデ ハリ	淡褐色	並	S - 1	1/6					
223	甕	C: 21.5 ナデ カキ目	棕褐色	並	S - M - 1	1/8	摩耗 石英				
224	高环 (脚部)	W: 3.3 ナデ	黄褐色	並	S - 1	完	环部 内黑				
225	輪付口	輪ナデ	淡棕褐色	並	M - 2	完					
226	輪付口	輪ナデ	淡青褐色	並	S - M - 2	完					
227	甕	C: 13.6 ナデ	灰色	良	S - 2	1/4	外侧面 降灰				
228	瓶	B: 17.8 ナデ	特目 竹	淡青褐色	並	S - 3	1/3				
229	有台座	B: 14.3 H: 4.2 ナデ	淡灰色	良	S - 2	1/4					
230	鉢	B: 12.8 ナデ	a: 刻灰色 b: 淡色	並	S - 3	1/3	外侧面 自然釉				

番号	器種	法	種別	型色	調	焼成	施	土	清	備	考
231	甕	C: 12.8 ナデ	a: 淡青色 b: 淡青色	並	S - M - 2	1/2	摩耗				
232	甕	C: 15.6 ナデ	a: 棕褐色 b: 淡青色	並	S - M - 2	1/4					
233	甕	C: 24.6 ナデ	淡棕褐色	並	S - M - 2	1/4					
234	甕	C: 21.6 ナデ	a: 淡青色 b: 淡青色	並	S - M - 4	3/4	赤色粒				
235	甕	C: 36.4 ナデ	棕褐色	良	S - M - 2	1/8	石英				
236	坏	C: 15.0 ナデ	淡青灰色	並	M - 2	1/2	外侧面 自然釉				
237	甕	C: 18.6 ナデ	淡棕褐色	不良	M - L - 1	1/3					
238	風鈴 (底部)	B: 10.4 ナデ	a: 淡青色 b: 淡青色	並	M - 1	1/3	外侧面 自然釉				
239	甕	C: 12.6 ナデ	淡青色	並	S - M - 1	1/3	外侧面 内黑				
240	甕	C: 16.8 ナデ	褐色	並	M - 1	1/4					
241	甕	B: 8.0 ナデ	a: 淡青色 b: 淡青色	並	S - M - 1	完					
242	鉢製品	T: (7.6) W: 1.1								完	15 g 鉄状
243	坏	C: 12.1 ナデ	灰色	良	S - 2	1/6	SP-a				
244	甕	C: 16.5 ナデ	淡棕褐色	並	S - 2	小片	SP-a 内外赤彩				
245	甕	B: 1.4 ナデ	a: 淡青色 b: 淡青色	並	S - M - 1 厚	SP-b	厚足 20mm				
246	有台座	B: (8.0) ナデ	淡青灰色	不良	S - M - 1	1/3	SP-a				
247	坏	B: 8.0 ナデ	暗褐色	不良	S - 2	1/3	SP-a M - 1				
248	坏	C: 15.0 ナデ	灰色	並	S - 1	1/4	SP-b 内面降灰				
249	甕	C: 22.2 ナデ	灰色	並	S - 1	1/4	SP-a				
250	甕	C: 14.8 ナデ	灰色	並	S - L - 1	小片	SP-a				
251	甕	C: 19.4 ナデ	灰色	並	M - 3	1/7	SP-a 内面(黒)				
252	甕	C: 13.0 ナデ	灰色	並	S - 2 M - 1	1/2	SP-b 柔らか				
253	有台座	B: 9.8 ナデ	灰褐色	並	S - M - 1	1/4	SP-a 外侧面 自然釉				
254	有台座	C: 14.8 ナデ	a: 淡灰色 b: 淡青色	並	S - 2	1/6	SP-a 自然釉				
255	乳製品	L: 9.8 W: 4.7 ナデ					SP-b 鐵斧等				
256	蓋	3.1 ナデ	灰色	並	M - 1	完	SP-a				
257	坏	C: 11.8 ナデ	a: 淡青色 b: 淡青色	並	M - 2	1/7	SP-a L - 1				
258	有台座	C: 15.8 ナデ	淡青灰色	良	S - 2 L - 1	1/2	SP-a 内面降灰				
259	甕	C: 19.2 ナデ	淡灰色	並	S - 3	1/3	SP-a				
260	有台座	B: 10.2 ナデ	淡灰色	並	M - 3 L - 1	1/3	SP-a				
261	甕	C: 12.4 ナデ	青灰色	良	M - 2	1/3	SP-a 自然釉(黒)				
262	甕	C: 35.4 ナデ	暗褐色	並	S - 3	小片	SP-a L - 1				
263	甕	C: 22.4 ナデ	a: 淡青色 b: 淡青色	並	S - 2	1/4	SP-a 座器皿				
264	甕	C: 10.7 ナデ	灰色	良	S - 2	1/3					

番号	器種	法	基面	顔色	調	焼成	胎	上	通存	備考
265	盤	C: 15.4 H: 2.0	ナデ ハラフチ→ナ	淡灰褐色	不良	M-L-1	1/3			
266	盤	C: 16.0	ナデ	灰色	良	S-1	1/4			
267	有内环	B: 8.0	ナデ ハラフチ→ナ	灰色	良	M-2	1/3			
268	有内环	B: 12.5	ナデ	灰色	良	S-2	小片	内面降灰 外面自然		
269	双内环 (外脚)	L: 6.5	ナデ ハラフチ→ナ	灰色	良	S-2	完	内面自然		
270	塔	C: 26.2	ナデ ハラフチ 時日	a:淡褐色 b:灰色	並	S-2	小片	摩耗 剥離		
271	塔	C: 34.8	ナデ カキ日	a:褐色 b:褐色	良	M-2	小片			
272	盞	C: 15.8 ナデ	ハラフチ→ナ	灰色	良	S-M-1	1/4			
273	盞	C: 20.9 ナデ	灰色	良	S-2	1/6	外盒自然			
274	要	C: 23.4 ナデ	灰色	良	S-2	1/4	摩耗 剥離			
275	坏	C: 14.3	ナデ ハラフチ	a:淡褐色 b:褐色	並	S-3 M-1	1/7			
276	坏	C: 14.4	ナデ ハラフチ	a:淡褐色 b:褐色	並	M-2	1/8	外面降灰 摩耗		
277	要	C: 13.8	ナデ	褐色	並	M-3 I-1	1/8	摩耗		
278	坏	C: 14.0 H: 3.2	ナデ ハラフチ→ナ	暗灰色	不良	M-1	1/6			
279	坏	C: 9.0	ナデ ハラフチ	淡黄褐色	並	S-1	1/4			
280	波浪品	L: (9.8) W: 2.1					完	44.9g 直角		
281	盞	C: 11.2 H: 2.9	ナデ	灰色	良	S-1	完			
282	盞	C: 11.4	ナデ	灰色	良	S-1	小片			
283	盞	C: 16.0	ナデ	暗青灰色	良	S-2	1/7			
284	坏	B: 9.7	ナデ ハラフチ→ナ	淡灰色	不良	S-1	1/4	摩耗		
285	盞	C: 11.0	ナデ	灰色	良	M-1	1/4	内面自然		
286	要	C: 31.8	ナデ ハラフチ	a:褐色 b:灰色	良	S-2	小片	内面降灰 状況		
287	有内环	C: 12.6 H: 3.6	ナデ ハラフチ→ナ	淡青灰色	並	M-1 L-1	2/3	外盒降灰		
288	盞	C: 12.7 H: 3.1	ナデ ハラフチ	灰色	良	S-1	2/3	外盒降灰		
289	有内环	G: 11.2	ナデ H: 4.1	灰色	良	S-L-1	1/2			
290	J/L環	C: 16.1 (附衝)	ナデ W: 19.8 H: 20.2	暗灰色	良	M-2	3/4	西高百日 高み 北部十日付		
291	盞	C: 21.6 H: 3.1	ナデ ハラフチ	a:褐色 b:褐色	並	S-M-2 済	1/3	摩耗		
292	塔	C: 34.4	ナデ ハラフチ	a:褐色 b:褐色	並	S-2 M-L-1	1/8			
293	坏	C: 12.2	ナデ ハラフチ	淡褐色	不良	S-M-1	1/8	摩耗		
294	塔	C: 33.2	ナデ カキ日	淡褐色	良	S-1 石英	1/2			
295	坏	C: 12.6 H: 3.3	ナデ ハラフチ	a:灰色 b:褐色	良	S-2	1/2	外底面黒 口成		
296	加颈	C: 9.3	ナデ	灰色	良	S-2	1/8	内面自然		
297	盞	C: 22.2 H: 21.0 H: (29.6)	ナデ ハラフチ	淡黄褐色	並	M-1	1/3	摩耗		
298	有内环	C: 14.2	ナデ	淡灰褐色	不良	S-1	1/7			
299	坏	C: 14.2	ナデ	暗灰色	並	S-2	小片			

番号	器種	法	基面	顔色	調	焼成	胎	上	通存	備考
300	盞	C: 15.0 W: 15.6	ナデ W: 0.9	淡褐色	並	M-3 W: 0.9	ホワイト		2/3	摩耗
301	頭製品	L: (7.5)							12g 削状	光
302	頭製品	L: (7.4)							12g 削状	光
303	盞	C: 26.6 ハケ	ナデ ハケ	淡褐色	良	M-3 石英	小片			
304	要	C: 12.4 ハケ	ナデ ハケ	淡褐色	並	S-2 M-1	1/4			
305	盞	C: 25.0	ナデ ハケ	淡褐色	不良	S-3 M-1	小片	内面自然		
306	白粉杯	B: 9.1	ナデ	淡黃褐色	並	S-1	1/2	内外赤彩 摩耗		
307	頭製品	I: (16.8) W: 2.5							60g 刀子状	光
308	頭製品	L: (16.9) W: 2.6							60g 刀子状	光
309	坏	C: 16.8	ナデ ハケ	暗灰色	良	S-2 L-1	1/8	高环か		
310	塔	C: 38.2 ハケ	ナデ ハケ	暗褐色	並	S-L-1	1/8			
311	桶	C: 16.0 H: 3.8	ナデ ハケ	棕褐色	並	M-2 M-2	1/7	内外赤彩 摩耗		
312	桶羽口		ナデ ハケ	a:褐色 b:褐色	並	S-1 M-2	1/7			
313	盞	C: 14.8 ハケ	ナデ ハケ	淡褐色	並	M-L-1 ホワイト	1/3			
314	坏	C: 14.8 H: 3.1	ナデ ハラフチ→ナ	淡灰色	並	M-2 L-1	1/5			
315	有内环	C: 11.6	ナデ H: 4.2	a:褐色 b:褐色	並	S-3 S-3	2/3			
316	坏	B: 8.0	ナデ ハラフチ	淡灰色	不良	S-1	完			
317	盞	C: 13.2	ナデ カキ日	棕褐色	良	S-1 L-1	1/8			
318	桶	C: 20.2	ナデ ミガキ	赤褐色	良	S-1	小片	内外赤彩		
319	盞	C: 19.1 H: 2.8	ナデ ハラフチ	暗灰色	良	S-1	1/7			
320	盞	C: 20.6	ナデ	棕褐色	良	S-1	1/7			
321	盞	C: 30.8 W: 26.5	ナデ カキ日	棕褐色	良	M-2 L-1	1/8			
322	碗	C: 13.5	ナデ H: 2.8	暗褐色	並	S-M-1 骨石磨	1/3	内外赤彩 芯み		
323	盞	C: 16.6	ナデ ハケ	a:淡褐色 b:淡褐色	並	S-M-L-1	1/7			
324	盞	C: 20.5	ナデ ハラフチ	淡褐色	並	S-2 M-L-1	1/4			
325	盞	C: 23.5	ナデ W: 19.7	暗褐色	並	S-2 石膏滑溜	1/6	摩耗		
326	盞	C: 21.4	ナデ ハケ	淡黄褐色	並	S-2 M-L-1	1/6			
327	盞	C: 16.7 W: 15.9	ナデ ハケ	淡黄褐色	並	M-L-1 石英	1/4			
328	盞	C: 14.1 H: 3.6	ナデ ハラフチ	a:褐色 b:褐色	並	S-2 海苔	1/4	摩耗		
329	盞	C: 17.6	ナデ ハケ	a:灰褐色 b:淡褐色	並	S-2 M-L-1	1/3			
330	有内环	C: 14.7 H: 3.6	ナデ ハラフチ	灰色	良	S-2	1/3			
331	盞	C: 13.0	ナデ ナデ	暗褐色	不良	S-2 M-1	1/4	外盒自然 (溝)		
332	盞	C: 24.0	ナデ ナデ	暗灰色	並	S-2 小片	内面降灰			
333	盞	C: 13.9	ナデ W: 12.7	a:淡褐色 b:淡褐色	並	S-M-1	1/8	摩耗		
334	盞	C: 13.4	ナデ W: 13.8	a:淡褐色 b:淡褐色	並	S-1 M-2	1/4			

番号	基準法	基調	顔色	調	焼成	胎	土	焼存	備考
335	甕 C:19.8 カキ目	ナガ・ナガ	淡褐色	良	S-M-1 1/3				
336	甕 C:23.6 W:21.9 ナガ・ナガ	ナガ・ナガ	a:暗褐色 b:淡褐色	並	S-M-L-2 1/8				
337	甕 C:23. カキ目	ナガ・ナガ	粉褐色	不良	S-3 M-1 TG無	1/5	摩耗		
338	甕 C:13.8 H: 2.2 ナデ	ナガ・ナガ	灰褐色	良	M-L-2 3/4				
339	甕 C:14.0 カキ目	ナデ	淡灰色	並	S-2 小片				
340	甕 C:19.4 カキ目	ナデ	a:暗褐色 b:淡褐色	良	S-3 M-1 TG無	小片	摩耗		
341	鷲石 L:(14.9) W: 6.7 D: 5.4					完	680 g		
342	有台坪 C:12.8 H: 4.4 ナデ	ナデ	a:淡褐色 b:淡灰色	並	S-3 L-1	1/2			
343	甕 C:13.4 B: 9.7	ナデ	淡青灰色	並	M-2 L-1	1/5			
344	有台坪 B: 7.5	ナデ	淡青灰色	並	M-2 L-1	完			
345	甕 C:15.6 カキ目	ナデ	粉褐色	並	S-2 M-L-1	小片			
346	甕 C:21.8 ナガ・ナガ	ナデ	褐色	並	S-2 M-L-1	1/3			
347	甕 C:13.0 ナデ	ナガ・ナガ	淡青灰色	並	M-1 内面平滑	1/3			
348	甕 C:10.0 (有台)	ナデ	淡灰色	並	S-M-1	1/3			
349	甕 C:11.8 H: 3.3 ナガ・ナガ	ナデ	淡黄褐色	不良	S-1	1/8	摩耗		
350	甕 C:11.8 H: 2.7 ナガ・ナガ	ナデ	淡黄褐色	不良	S-L-1	1/6	鉢弱		
351	甕 C:12.6 H: 3.1 ナガ・ナガ	ナデ	淡青褐色	不良	S-1 ナガ・ナガ	1/3 外側 鉄分付着			
352	甕 B: 6.0 系切	ナデ	a:淡褐色 b:淡褐色	並	M-2 L-1 TG無	完	摩耗		
353	甕 B: 9.0 系切	ナデ	a:淡褐色 b:淡褐色	並	M-2	2/3			
354	甕 精子面切 B: ナガ・ナガ	ナデ	a:淡褐色 b:淡褐色	並	M-1	2/3			
355	甕 C:18.2 ナガ・ナガ	ナデ	a:淡褐色 b:淡褐色	並	M-1	1/6			
356	甕 C:34.0 カキ目	ナデ	淡青褐色	並	M-1 TG無	1/7			
357	甕 C:14.6 ナガ・ナガ	ナガ・ナガ	a:灰色 b:淡褐色	並	S-2 M-1	1/4 重み			
358	甕 C: 9.0 H: 1.9 静止柔切	ナデ	褐色	並	S-M-1 赤色粒	1/4 摩耗 中世			
359	甕 C:11.7 ナデ	ナデ	灰色	良	S-2 赤色粒	2/2 小片			
360	甕 C:13.7 ナデ	ナデ	a:灰色 b:淡褐色	並	S-2 小片				
361	甕 C:23.4 ナデ	ナデ	a:淡褐色 b:灰色	良	M-2	1/4	波状文 脚突文 内面降灰		
362	甕 C:26.8 W:24.4 カキ目	ナデ	粉褐色	良	S-2	1/8			
363	甕 C:14.6 H: 2.3	ナデ	灰色	不良	S-M-L-1	1/4	外側 自然釉		
364	甕 C:15.7 ナデ	ナガ・ナガ	淡青褐色	不良	S-2	1/6	外側降灰		
365	甕 B:(8.0) ナガ・ナガ	ナデ	淡灰褐色	不良	S-1	1/4			
366	甕 C:20.2 カキ目	ナデ	褐色	並	M-L-1 赤色粒	1/5			
367	土鍋 L: 4.8 W: 1.5	ナデ	淡褐色	並	S-1	完	11 g		
368	甕 C:15.0 ナデ	ナガ・ナガ	a:暗灰色 b:灰色	並	S-1	1/6			
369	甕 C:17.6 ナガ・ナガ	ナデ	a:灰色 b:淡灰色	並	S-1	小片	外側降灰		
370	有台坪 C:16.4 H: 4.3 ナガ・ナガ	ナデ	灰色	並	S-M-L-1 S-L-1	5/6	内側 自然釉		
371	有台坪 C:13.2 H: 4.2 ナガ・ナガ	ナデ	灰色	並	S-1	4/5	外側 内側		
372	甕 C:12.8 ナデ	ナガ・ナガ	淡灰白色	不良	S-1	小片			
373	甕 C:13.4 ナデ	ナデ	a:灰色 b:淡灰色	並	S-L-1	1/8			
374	有台坪 B: 8.5 ナガ・ナガ	ナデ	a:青灰色 b:灰色	並	S-2	1/5			
375	甕 C:12.1 C:13.5 ナデ	ナデ	灰白色	不良	S-M-L-1	1/3			
376	甕 C:34.1 H:(3.3)	ナデ	灰色	良	S-1	小片			
377	甕 C:19.2 ナデ	ナガ・ナガ	a:暗灰色 b:灰色	不良	S-2	小片			
378	楕円 R:(19.2) カキ目	ナデ	淡灰色	並	M-L-1	小片	外側 内側		
379	甕 C:12.5 ナガ・ナガ	ナデ	a:褐色 b:淡褐色	並	S-M-1 カキ目	小片	摩耗		
380	甕 C:12.1 W:12.7 ナデ	ナデ	a:淡褐色 b:淡褐色	並	S-M-2 カキ目	小片	摩耗		
381	甕 C:14.4 W:15.0 ナガ・ナガ	ナデ	褐色	並	S-L-1 カキ目	1/8	摩耗 剥離		
382	甕 C:15.8 W:16.4 カキ目	ナデ	褐色	並	S-2 L-1 カキ目	1/3	摩耗 剥離		
383	甕 C:20.0 ナガ・ナガ	ナデ	淡褐色	並	S-2	1/6			
384	楕円口 鈴ナデ	ナデ	a:暗灰色 b:淡褐色	並	S-2 海骨	完			
385	楕円口 鈴ナデ	ナデ	a:暗灰色 b:淡褐色	並	S-M-1 海骨	完			
386	楕円口 鈴ナデ	ナデ	a:淡白色 b:淡褐色	並	S-1 海骨	完			
387	楕円口 鈴ナデ	ナデ	a:淡褐色 b:棕色	並	S-2 海骨	完			
388	楕円口 鈴ナデ (波打付)	ナデ	a:淡褐色 b:淡褐色	並	S-1 L-1 カキ目	完			
389	瓦製品 L: (11.5) W: 0.9						完	20 g 小刀子状	
390	瓦製品 L:(9.0) W: 0.8							完 20 g	
391	甕 C:16.8 H: 2.9 ナデ	ナガ・ナガ	a:淡褐色 b:淡褐色	並	S-2 M-1	1/2			
392	甕 C:16.4 ナデ	ナデ	a:褐色 b:淡褐色	並	S-2	小片			
393	甕 C:17.4 ナデ	ナガ・ナガ	淡灰褐色	並	S-2	小片	孟み		
394	有台坪 B: 9.2 ナガ・ナガ	ナデ	淡褐色	並	S-2	1/4			
395	甕 C:13.0 ナデ	ナデ	灰色	並	S-2	小片			
396	楕円口 鈴ナデ	ナデ	a:暗灰色 b:淡褐色	並	S-2	完	鉄滓付着		
397	楕円口 鈴ナデ	ナデ	a:黃褐色 b:淡褐色	並	S-2	完	鉄滓付着		
398	甕 C:(24.0) W:(24.0) ハゲ	ナデ	a:棕褐色 b:褐色	並	M-L-3 カキ目	小片	摩耗		
399	楕円口 鈴ナデ	ナデ	a:淡褐色 b:淡褐色	並	S-2	完			

番号	品種	法量	測定	色調	乾成	胎土	適合	参考	番号	品種	法量	測定	色調	乾成	胎土	適合	参考
400	柳羽C		緑ナデ	a:黄褐色 b:赤褐色	良	S-1	完	穴径3.7	430	楓	C:14.6	ナデ	a:暗褐色 b:灰褐色	並	S-1	小片	内外自然釉
			灰葉ハサワ	並	M-1				431	楓葉	W:16.2	ナデ	灰褐色	並	S-M-1	1/6	外面 自然釉
401	柳羽C		緑ナデ	a:暗褐色 b:褐褐色	並	S-1	完	既満付着	432	楓羽I		緑ナデ	暗褐色	並	S-M-1	完	
			灰葉ハサワ	b:褐褐色					433	楓羽L		緑ナデ	a:淡黃褐色 b:淡褐色	並	S-2	完	
402	森 C:11.8	△切+ナデ	淡灰色	良	M-1	1/3		外側自然釉 並み	434	楓羽L	W: 7.1	緑ナデ	a:暗褐色 b:深褐色	並	M-2	完	既満付着 穴径3.7
403	森	C:13.2	ナデ	灰白色	不良	S-2	小片		435	森	C:17.2	ナデ	暗青灰色	並	S-M-1	小片	
404	森	C:11.4	△切+ナデ	a:暗褐色 b:暗褐色	並	S-1	1/3		436	有台环	C:13.6	ナデ	暗灰色	並	S-2	1/6	外側 自然釉
			△切+ナデ	b:暗褐色		M-2			437	楓	B:10.4	ナデ	a:暗灰色 b:深褐色	並	S-1	1/4	
405	森	C:12.1	△切+ナデ	暗灰色	並	S-2	1/6		438	坏	C:14.8	ナデ	淡青灰色	並	S-1	3/5	全体解灰
			△切+ナデ	a:暗褐色 b:深褐色					439	楓葉	C:19.2	ナデ	淡青灰色	並	S-1	1/7	
406	有台环	C:14.0	△切+ナデ	a:青灰色 b:深褐色	並	S-M-L1	5/6	外側自然釉 既満付着	440	要	C:34.0	ナデ	a:暗灰色 b:深褐色	並	S-2	1/8	外側自然釉 剥離
407	坏	C:12.4	ナデ	灰白色	不良	S-L-1	5/6	否み	441	森	C:49.0	ナデ	a:青灰色 b:深褐色	並	S-2	小片	波状文 外側自然釉 内降灰
		H: 4.2	△切+ナデ	b:深褐色					442	有台环	B: 7.0	ナデ	暗灰色	不良	S-1	1/7	
408	坏	C:14.4	ナデ	a:灰褐色 b:灰褐色	不良	S-2	1/8		443	楓羽I		ナデ	a:暗褐色 b:褐色	並	S-2	%	
		H: 3.4	△切+ナデ	b:深褐色		M-L-1			444	楓	C:19.2	ナデ	淡青灰色	良	S-1	1/4	内外赤彩
409	森	W:11.8	△切+ナデ ナデ	a:暗褐色 b:深褐色	並	S-2	1/3		445	森	C:16.7	ナデ	a:灰黄色 b:灰色	良	S-M-1	1/4	外側自然釉
			△切+ナデ	b:深褐色		M-L-1			446	有台环	C:11.0	ナデ	灰色	良	S-2	1/2	
410	要	C:18.2	ナデ	a:暗褐色 カキ目	並	M-1	小片	摩耗	447	有台环	C:12.2	ナデ	暗灰色	良	S-1	1/4	
			b:深褐色	赤色斑		I-1			448	有台环	C:16.0	ナデ	a:青灰色 II: 4.5 △切+ナデ	不良	S-2	1/4	
411	楓羽I		緑ナデ	a:灰褐色 b:暗褐色	並	M-L-1	完		449	楓	B:12.2	ナデ	灰色	良	S-2	1/4	
			△切+ナデ	b:暗褐色		赤色斑			450	有台环	C:16.6	ナデ	灰色	良	S-2	1/6	
412	底部	B: 7.0	ナデ	暗褐色	並	M-3	1/2	内外自然釉 摩耗	451	坏	C:14.5	ナデ	a:暗灰色 H: 3.7 △切+ナデ	並	S-M-1	1/3	摩耗
	(楓葉)		△切+ナデ	b:深褐色		L-1			452	坏	C:13.3	ナデ	暗灰色	並	S-2	1/2	
413	楓	C:18.4	ナデ	淡褐色	並	S-1	1/2	内外赤 色	453	坏	B: 8.0	△切+ナデ	灰色	並	S-1	1/4	
		H: 3.5	△切+ナデ	b:深褐色					454	楓	B: 8.0	△切+ナデ	灰色	並	S-1	1/4	
414	有台环	B: 8.8	ナデ	灰色	並	M-1	1/2		455	楓葉	N: 8.4	ナデ	a:暗褐色 b:深褐色	良	S-1	1/4	内面 自然釉
			△切+ナデ	b:深褐色					456	楓葉	N: 8.4	ナデ	暗灰色 黄灰色	良	S-3	1/6	内面 自然釉
415	有台环	B:10.0	ナデ	暗灰色	良	S-2	1/8	外側降灰	457	要	ナデ	暗灰色	良	S-1	小片	波状文	
			△切+ナデ	b:深褐色					458	要	ナデ	a:暗褐色 b:深褐色	良	S-2	小片	波状文 内外赤 色	
416	要	C:20.6	ナデ	a:暗褐色 W:19.6 II: (26.7)	カキ目	S-3	1/2	摩耗									
			△切+ナデ	b:深褐色	赤色	M-1											
417	要	C:21.0	ナデ	a:深褐色	並	S-M-1	1/3	摩耗									
		W:20.5	カキ目	b:暗褐色													
		H: (27.0)	ナデ														
418	はそN: 2.2	△切+ナデ	灰褐色	並	S-1	完	注H:1.3										
	W: 8.8																
	B: 3.3																
419	森	C:19.0	△切+ナデ	淡褐色	不良	S-M-L1	1/2	盃み									
420	森	C:16.0	△切+ナデ	a:灰色	不良	S-3	1/4										
				b:深褐色													
421	坏	C:16.4	ナデ	淡灰色	並	S-M-1	1/6										
	B: (11.4)																
422	森	C:12.0	△切+ナデ	淡青灰色	並	L-1	1/8										
	H: 2.3																
423	坏	C:14.8	ナデ	灰白色	並	S-1	小片										
	H: 3.5																
424	坏	C:13.0	ナデ	灰白色	不良	M-2	3/4	剥離									
	H: 3.5																
425	底部	B: (7.1)	ナデ	暗褐色	並	M-2	小片										
			△切+ナデ	b:暗褐色		L-1											
426	底部	B: 6.0	ナデ	淡褐色	並	M-L-2	1/3										
	(地)																
427	要	C:13.6	ナデ	a:褐色 b:暗褐色	並	M-L-1	小片	摩耗									
428	森叶か		ナデ	淡褐色	並	M-2	2/3	内外赤彩									
			△切+ナデ	b:暗褐色		I-1											
429	坏	C:12.0	ナデ	灰色	並	S-1	1/6	外側自然釉									
	B: 9.2																

## 第4節 1994年度の調査

### 1. 調査の経過と概要

1990年度調査区と93年度調査区の間に挟まれた部分を主体とし、北端に残された四十万巾林線北側の半円状溝査区及び南に接続する歩行者専用道路建設予定地を加えた範囲である。上林新庄遺跡としては4,200m<sup>2</sup>の調査であるが、下新庄アラチ遺跡・下新庄タナカダ遺跡の調査と平行して実施したため区画整理事業に係る発掘調査全体としては10,000m<sup>2</sup>を越える調査量であった。主たる調査区の着手前の状況は、すでにかなりの進展を見せる区画整理事業により完成した都市計画道路及び区画街路により孤立した状態にあり、搬出した耕土を仮置きする場所の確保が難しいことから北側調査区、南側調査区に2分して調査する手法を取った。

### 2. 遺構と遺物

遺跡の状況は、調査の主体を占める南側調査区については中央を北流する大溝及びそれに平行する近代の旧河川によって調査面積の半分近くを占められているものの高い遺構密度を示しており、竪穴住居11棟（竪穴状遺構含む）、縦柱の掘立柱建物1棟を確認している。北端調査区については掘立柱建物2棟が主なものである。

#### ① 竪穴住居

東壁に沿って8棟、中央北寄りの西側に3棟分布する。この内前者は建物群としてS I-9401・02がS I-9301・02に、S I-9409・10がS I-9303・04に、S I-9411がS I-9305・09にそれぞれ対応するものである。S I-9404・08については竪穴住居として扱ったもののや妥当性を欠く。後者はS I-9403が核として存在しており、S I-9405はS I-9008と同一の住居である。これらの内、図化し得る遺物を出土したものはS I-9403・05・06・08・10・11の6棟である。S I-9403（第120図1～5）は3にやや古相を残すものの、比較的大きな破片として出土した4・5は糖鍊成形のものであり、端部の形態等から8世紀末ごろのものであろう。S I-9405（第120図6～第121図13）はハケ調整痕を頬著に残す非鍊成形の煮炊具で占められており、7世紀末から8世紀初頭に位置付けたい。同様にS I-9406もS I-9405にやや先行する7世紀後半のものであろう。S I-9410（第121図19～第122図37）は若干幅があるものの、9世紀中頃の所産と思われる。S I-9411（第122図38～41）については流動的であるものの概ね8世紀後半に位置付ける。なお、S I-9408（第121図18）については判断を保留する。

#### ② 掘立柱建物

主たる調査区である南側調査区南東端で1棟、北端調査区で2棟確認している。S B-9403は3×3間の縦柱建物であり、柱穴の掘り方ではS B-9311に匹敵するほどの規模をもつ。倉庫棟としては当遺跡の中でも最大クラスである。柱穴からは図示し得るほどの遺物は出土しておらず、時期的なことは明らかにできないが、隣接するS B-9301・04・05及びS B-9302・03の建物群とは主軸方位を若干違えており、むしろS I-9410・11に近い。北端調査区に位置するS B-9402は3×2間の縦柱倉庫建物である。遺物はS P-9408・09から出土しており（第125図109・110、111）、91年度北端調査区に見られる特徴的な鉄鋤の在り方に等しい。8世紀中頃から後半のものであろう。また、S B-9401は全体を検出していないものの高質な掘り方の柱穴で構成されており、南側に位置する門状遺構S B-9111と建物方位を揃える。関連する施設である可能性が高い。

### ③ 土坑

図示したものはすべて主体となる南側調査区に位置する12基であり、この内SK-9403~05の3基は93年度4区に特徴的な長方形の舟形を呈する土坑である。遺物はSK-9401・02・04・05・07・11の6基より出土している。調査区北端のSD-9402右岸に位置するSK-9401は、全体を知り得ないものの偏平な楕円形を呈する土坑と思われ、出土した遺物（第122図48・49）は僅かであるが、比較的特徴的捉えやすい49から8世紀後半のものと思われる。やや東に位置するSK-9402（第122図50）もやはり偏平な楕円形の土坑と思われ、SK-9401に若干後続するものであろう。舟形長方形のSK-9404（第122図51）・05（第122図52・53）はSK-9403及び93年度4区に見られる同種の土坑よりもかなり小振りであり、主軸方位を揃えて平行に位置している。遺物の様相は当遺跡の中でも最も古い一群であり、7世紀前半代の所産であろう。同時に存在していたものと思われる。その他、SI-9406の北東側に位置する略円形のSK-9407（第122図54~57）は小彫55・56の特徴から7世紀後半と思われる。SK-9411については判断を保留する。

### ④ 溝

調査区中央を北流する大溝は少なくとも4条の大小の溝が錯綜しており、全体として幅約7~8mの流路を形成していたものと思われ、掘進時の確認ではそれら古代の溝で埋んだ地形の上全面に灰色粘土を主体とする近代の旧河川が被さる状況を示していた。さらに西側を北流する近代の旧河川との関係は不明であるが、2条の位置関係から同時に機能していたことはなさそうである。遺物はSD-9402とした流路中最も東側に位置する溝より主体的に確認しており、第123図60~74が調査区ほぼ中央、同じく75~第124図94が南側をそれぞれ中心として出土している。一見して土師器が少なく、須恵器のみで占められているように思えるが、前者については摩耗、摩滅の度合いが高く図化しにくい個体が多かったことに起因している。これらの内南側から出土した瓶類の底部と思われる86は、中心に径7mmの穿孔をもつ径約5.4cmの円盤状の土器片が焼成時と思われる状態で内底面に付着しており、周辺には多くの自然釉が付着している。焼成中の破損であろう。また、外面に赤彩を施し、内面を墨色処理する碗93は外底面に比較的明瞭な墨書が認められる。過半を欠いており全容は知れないが、「利」である可能性が高い。その他、輪羽口片（94）が1点出土している。このSD-9402は中央部分で並流するSD-9403とともに機能していたものと思われ、第123図74を保留するが概ね9世紀中頃までを下限とするものであろう。

### ⑤ その他

SI-9410の南西約7mに位置し、SD-9402の遺物を集中して出土した南側に近いSX-9403は、複数の土坑、ピットが切り合った遺構であり、外底面に墨書を施した須恵器2点（第124図100・105）が確認されている。前者は焼成の甘い有台坏底部であり、「□麻（ ）」と記されているものと思われる。「麻」の上に記された文字は墨痕が薄く判別し難いが、後者（105）に記された文字と同じである可能性が高い。「□麻（呂）」と統く人名であろう。後者についても墨痕が薄く、（財）石川県埋蔵文化財センターの柿田・安岡氏の協力を得て赤外線照射による確認をおこなったが明らかにすることはできなかった。「梅」もしくは「海」であろうか。上部及び下部にも墨痕は確認できなかった。全体としては9世紀初頭から前半のものであろう。

## 遺構一覧表

### ・ S I (竪穴住居)

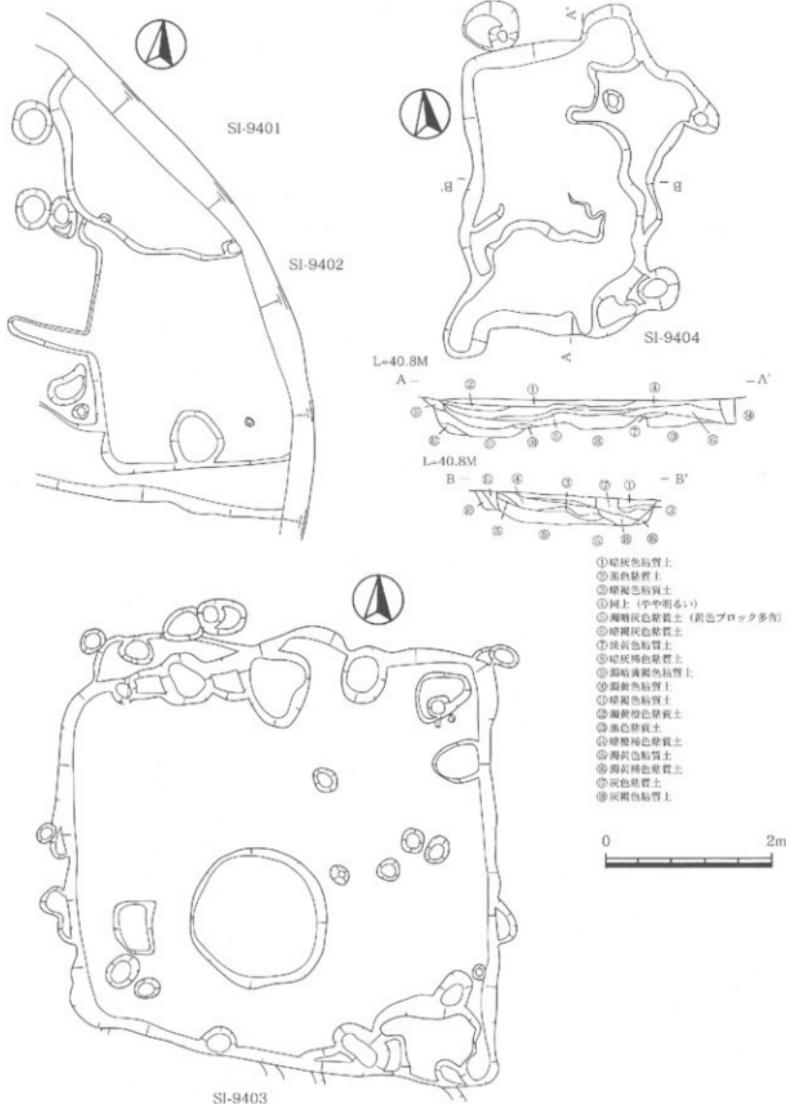
番号	長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)	床面積(m <sup>2</sup> )	形 状	主軸方位	備 考
9401	—	—	22	—	略方形か	?	
9402	—	—	23	—	方形か	N9°W	
9403	5.80	5.2	17	27.28	方形	N5°W	IV <sub>2</sub> (古)～(新)
9404	3.64	2.6	31	9.44	不定形	N8°E	
9405	5.56	5.44	37	28.64	略方形	N15°W	II <sub>2</sub> ～II <sub>3</sub>
9406	4.32	3.52	12	15.26	長方形	N4.5°W	II <sub>1</sub> ～II <sub>2</sub>
9407	(4.40)	—	52	—	?	N2°W	
9408	(3.80)	—	16	—	不定形	N1°E	土師器
9409	4.42	—	27	—	長方形か	N7°W	
9410	3.42	3.18	40	11.75	略方形	N0°	V <sub>1</sub> ～V <sub>2</sub>
9411	3.68	3.52	36	12.88	方形	N0°	IV <sub>1</sub> ～IV <sub>2</sub> (古)

### ・ S B (掘立柱建物)

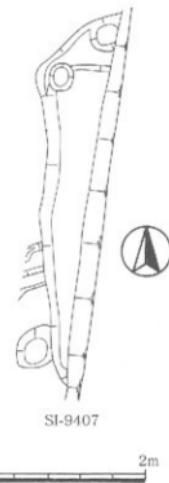
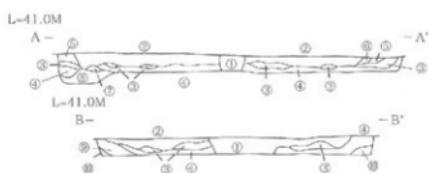
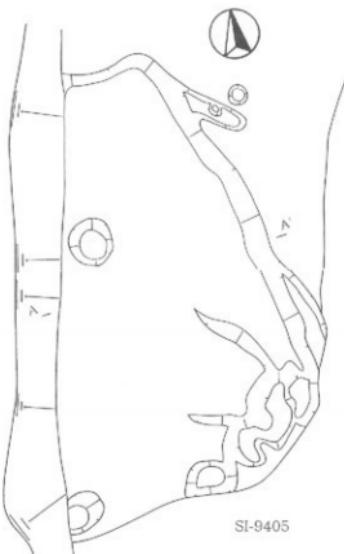
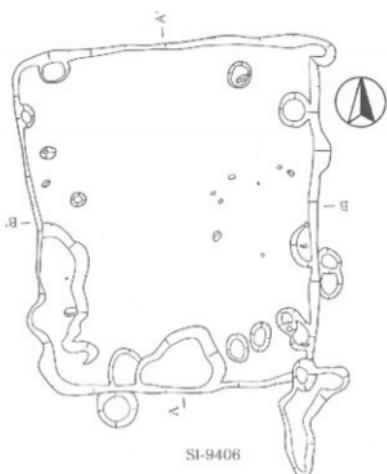
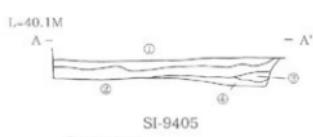
番号	規 模	桁行(m)	梁行(m)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方位	備 考
9401	—	—	—	—	N8°E	
9402	3×2(総)	4	3.43	13.72	N0°	IV <sub>1</sub> ～IV <sub>2</sub> (古・新)
9403	3×3(総)	4.25	3.25	13.81	N2.5°E	

### ・ S K (土坑)

番号	長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)	形 状	備 考
9401	—	2.08	32	略橢円形	IV <sub>1</sub> ～IV <sub>2</sub> (古)
9402	3.28	—	18	略長方形	IV <sub>2</sub> (新)か
9403	4.20	1.80	19	略長方形	
9404	2.36	0.88	21	長方形	I <sub>2</sub>
9405	2.76	1.04	20	長方形	I <sub>1</sub> ～I <sub>2</sub>
9406	3.60	1.36	40	不定形	
9407	2.64	2.12	52	略円形	I <sub>1</sub> ～I <sub>2</sub>
9408	2.92	—	15	不定形	
9409	3.20	1.88	21	略橢円形	
9410	1.96	1.48	27	略長方形	
9411	—	1.71	35	橢円形か	須恵器
9412	2.88	2.76	26	略円形	

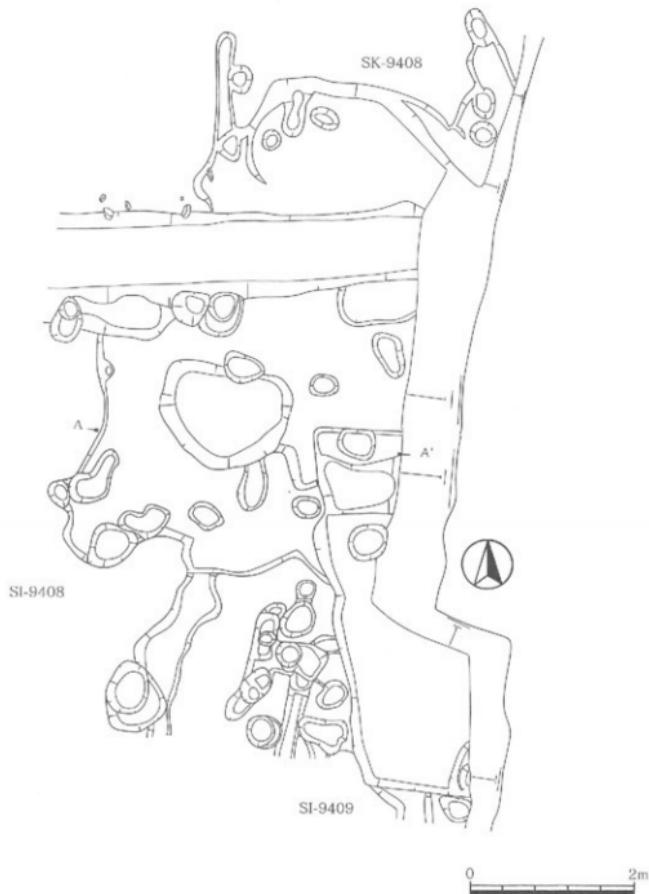
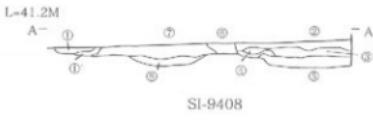


第112図 1994年度 遷構実測図① (S=1/60)

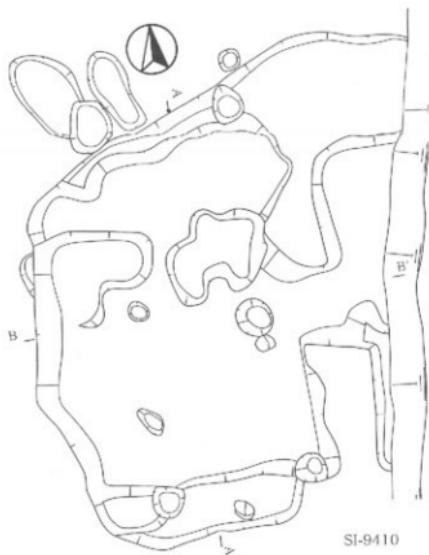


第113図 1994年度 遺構実測図② (S=1/60)

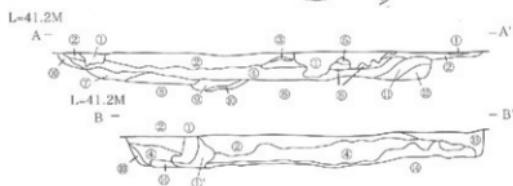
- ① 黄白粘土  
 ② 黄色粘土  
 ③ 黄灰褐色粘质土  
 ④ 灰褐色粘质土  
 ⑤ 深灰褐色粘质土  
 ⑥ 浅灰褐色粘质土  
 ⑦ 块状灰褐色粘质土  
 ⑧ 黑色粘质土



第114図 1994年度 遺構実測図③ (S=1/60)



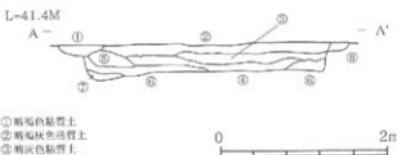
SI-9410



- |          |           |
|----------|-----------|
| ① 灰色粘土   | ⑧ 喷灰色粘土   |
| ① 淡灰色粘土  | ⑨ 淡黄褐色粘土  |
| ② 暗褐色粘土  | ⑩ 深暗褐色粘土  |
| ③ 淡灰褐色粘土 | ⑪ 淡赤褐色粘土  |
| ④ 暗褐色灰粘土 | ⑫ 棕褐色粘土   |
| ⑤ ⑦と同じ   | ⑬ 黑色粘土    |
| ⑥ 褐暗褐色粘土 | ⑭ 深暗灰褐色粘土 |
| ⑦ 暗褐色灰粘土 |           |

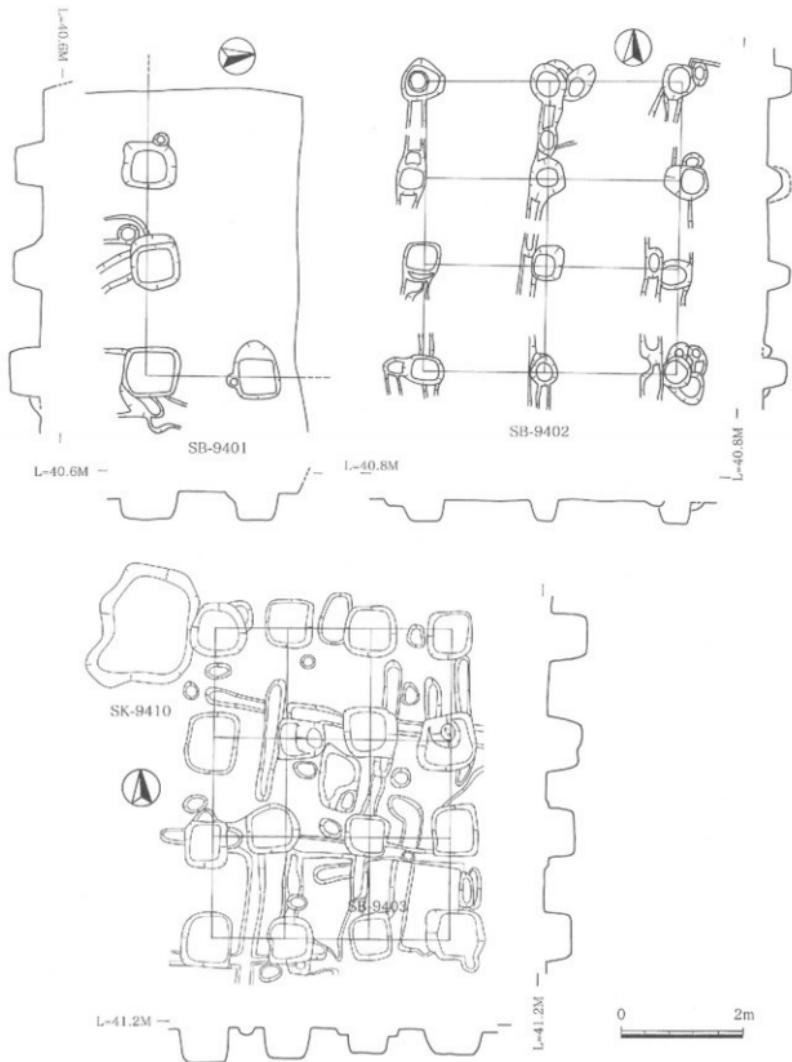


SI-9411

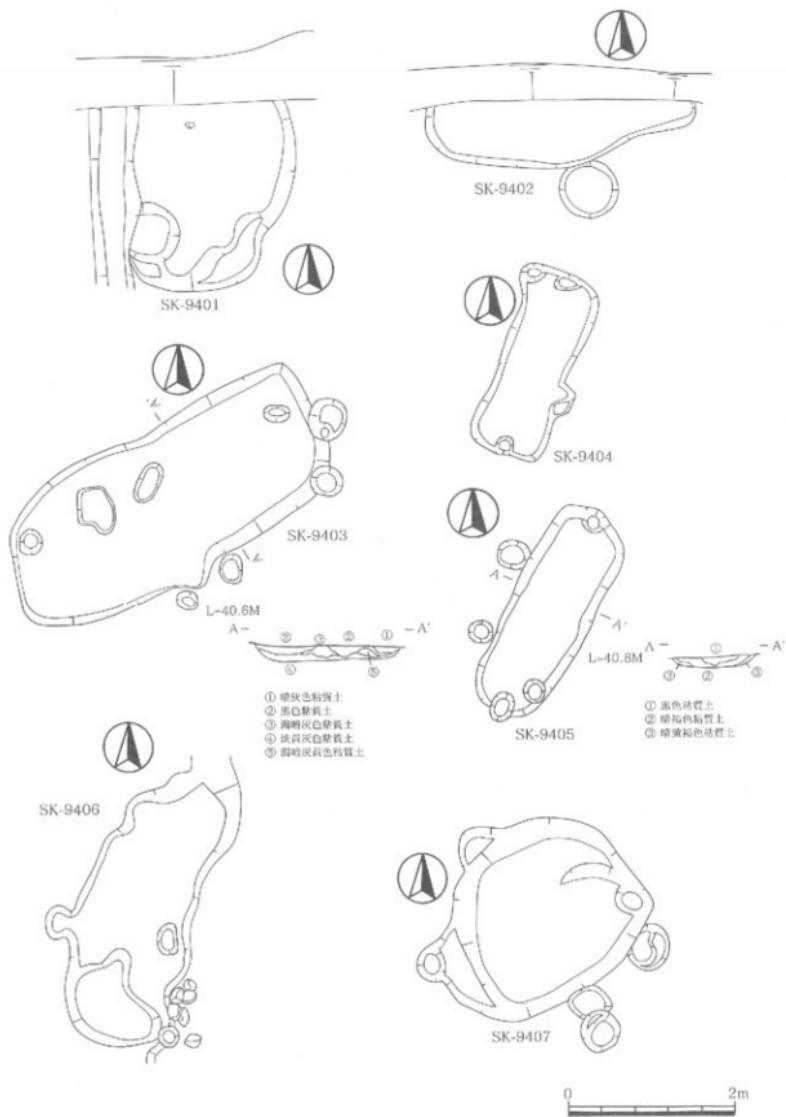


- ①暗褐色粘質土
- ②暗褐色粘質土
- ③暗灰色粘質土
- ④深暗褐色粘質土
- ⑤深暗灰色粘質土(黄色ブロック合)
- ⑥黑色粘質土
- ⑦深暗灰黄色粘質土
- ⑧浅灰褐色粘質土

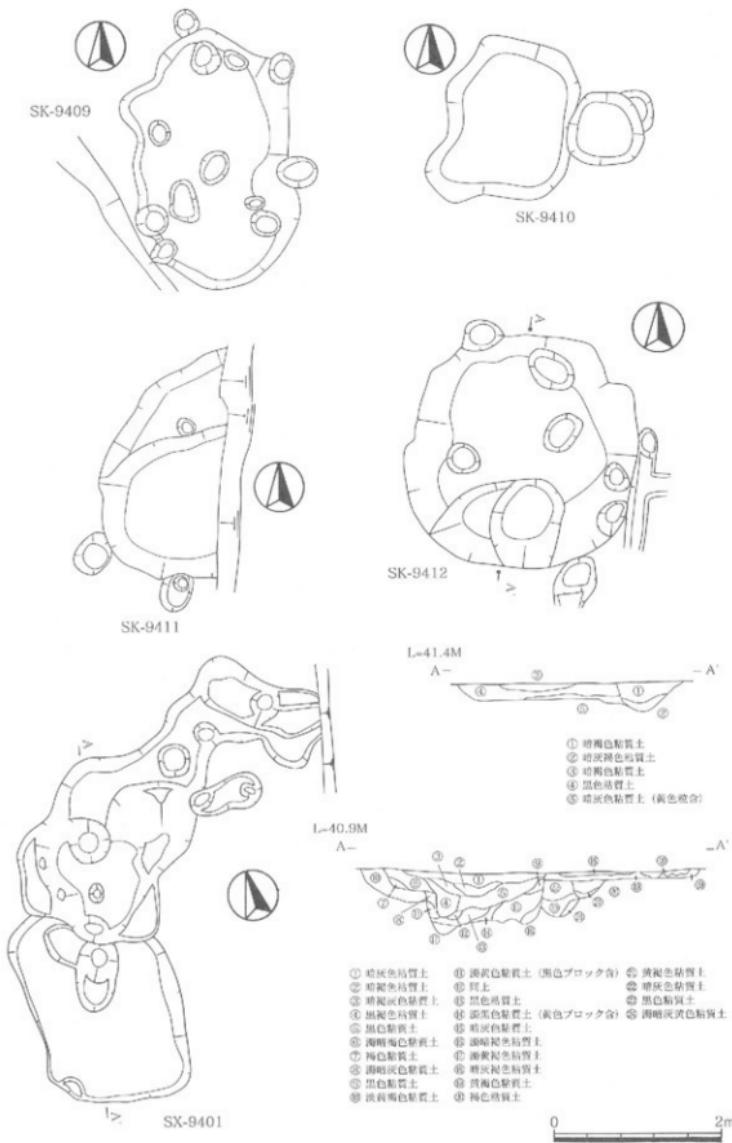
第115図 1994年度 遺構実測図④ (S=1/60)



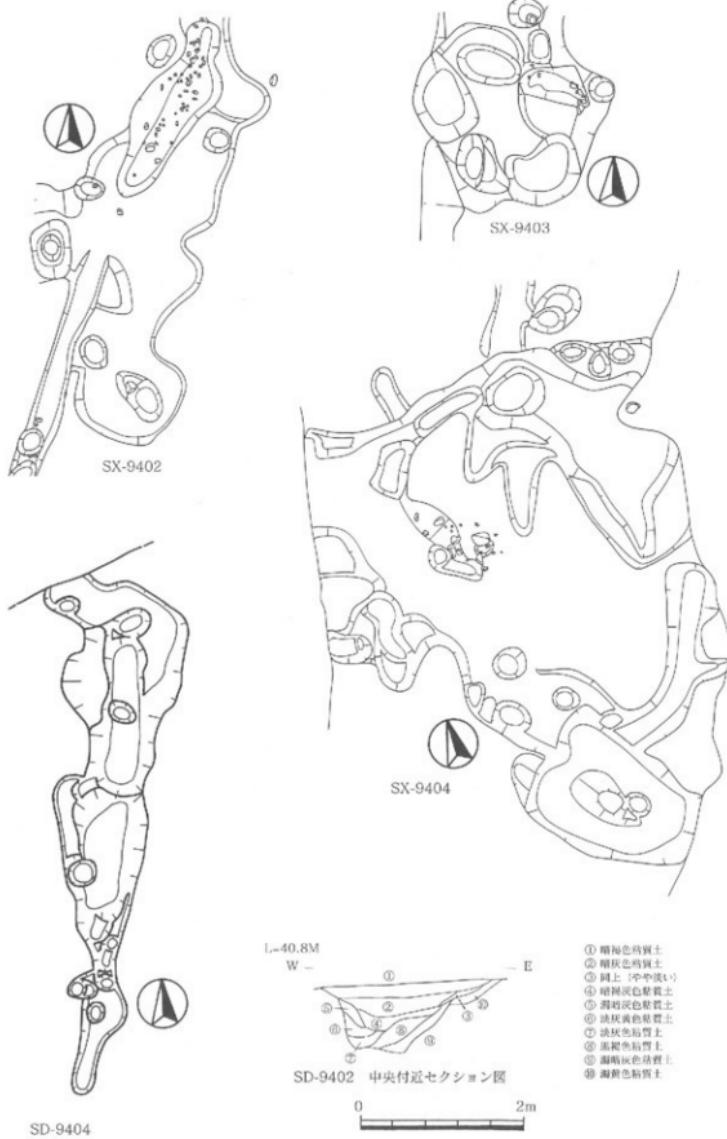
第116図 1994年度 遺構実測図⑤ (S = 1/80)



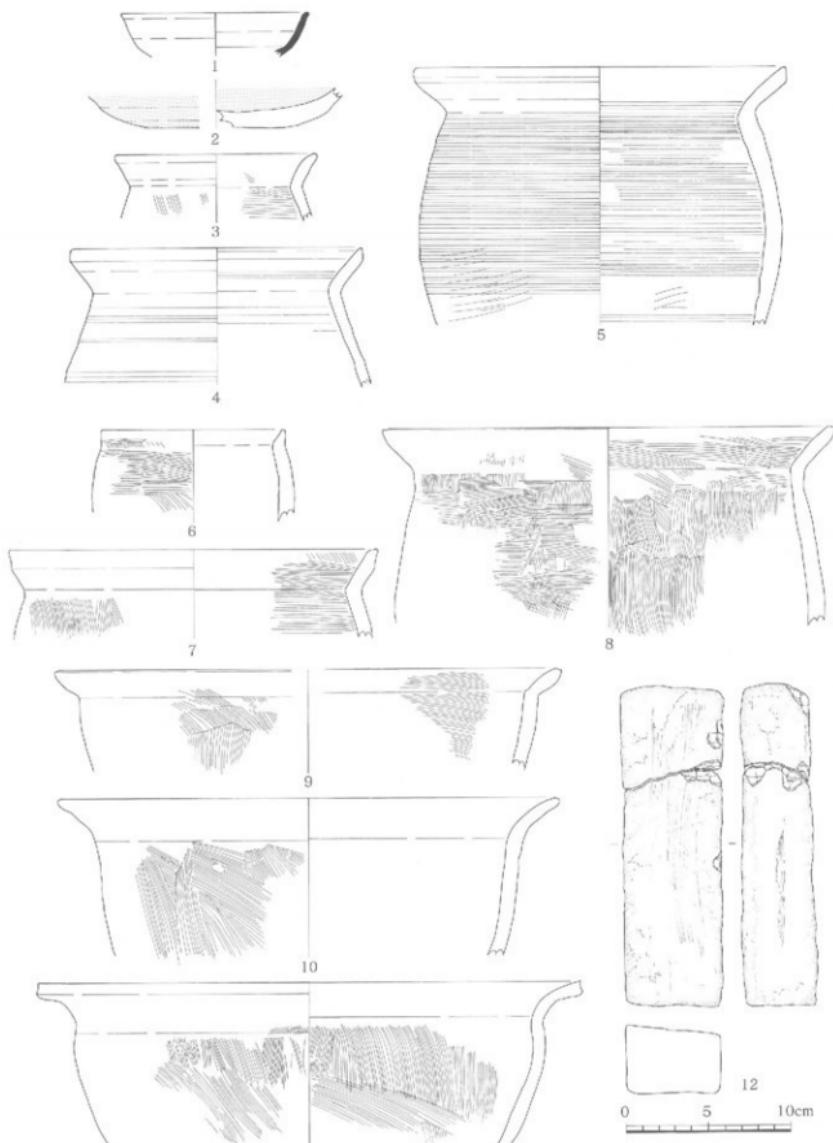
第117図 1994年度 遺構実測図⑥ (S=1/60)



第118図 1994年度 遺構実測図⑦ (S=1/60)

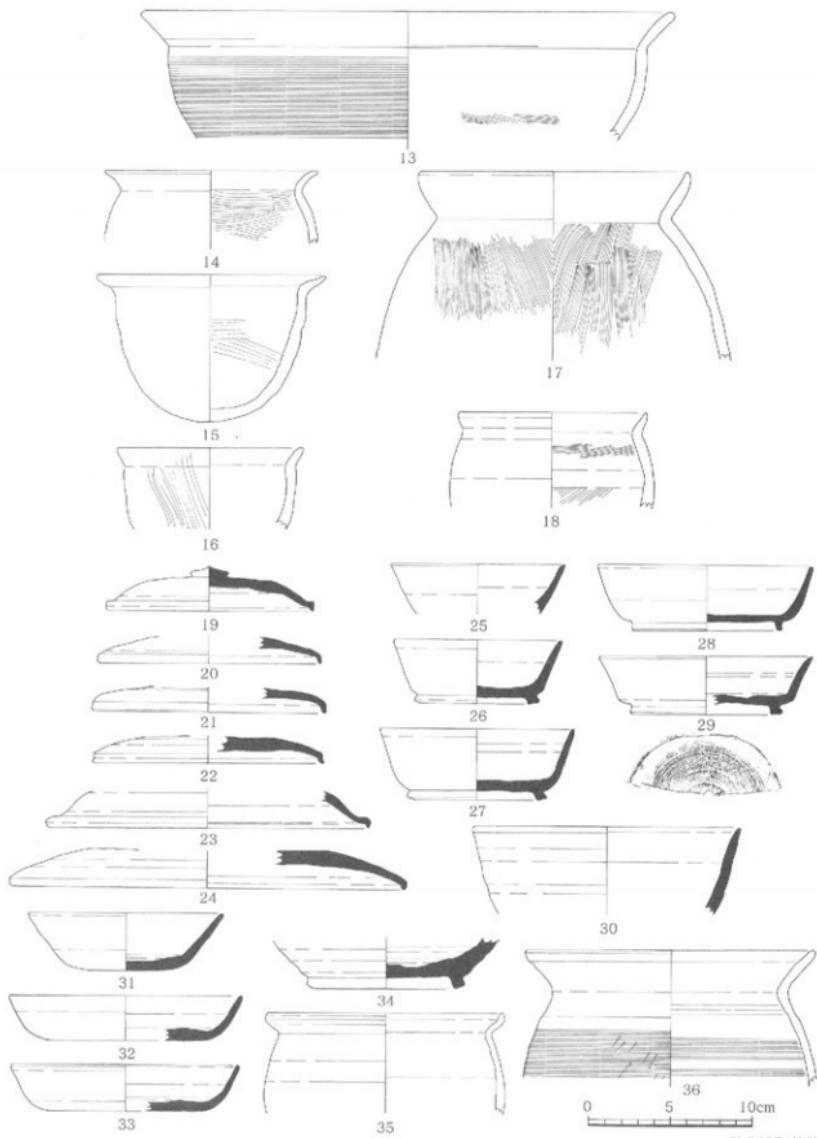


第119図 1994年度 遺構実測図⑧ (S = 1/60)



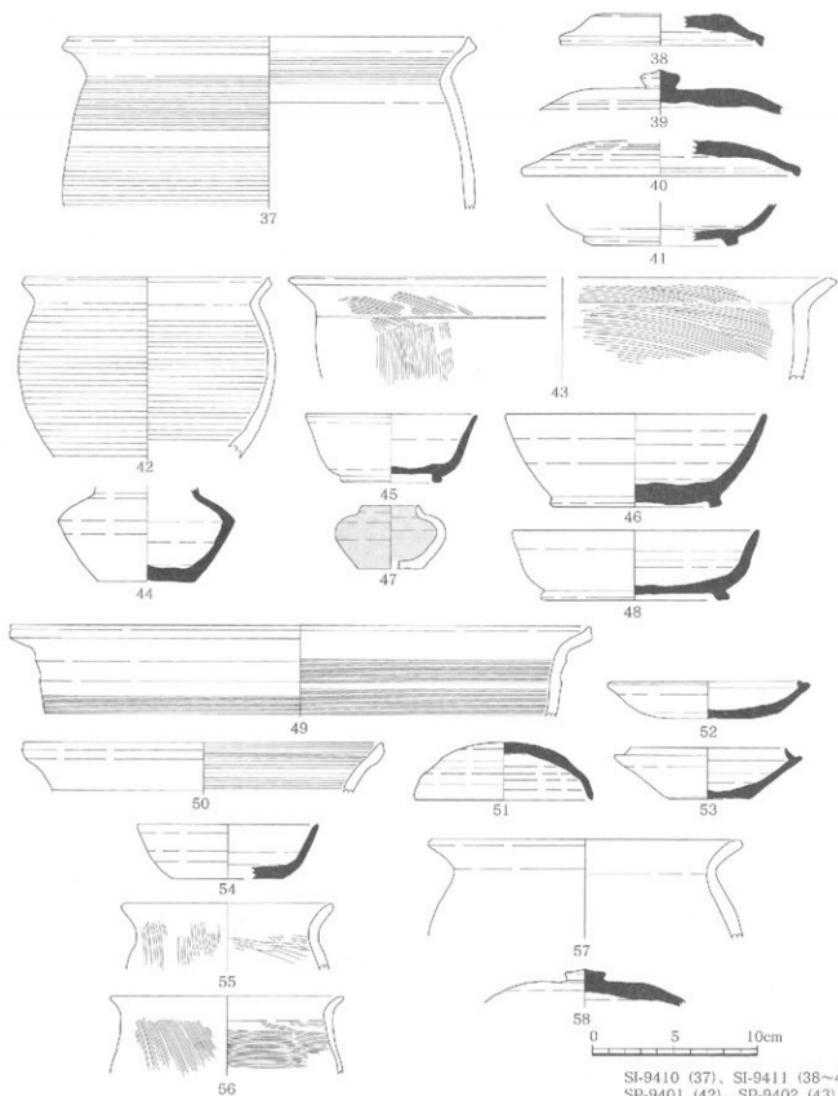
SI-9403 (1~5)  
SI-9405 (6~12)

第120図 1994年度遺物実測図① (S = 1/3)



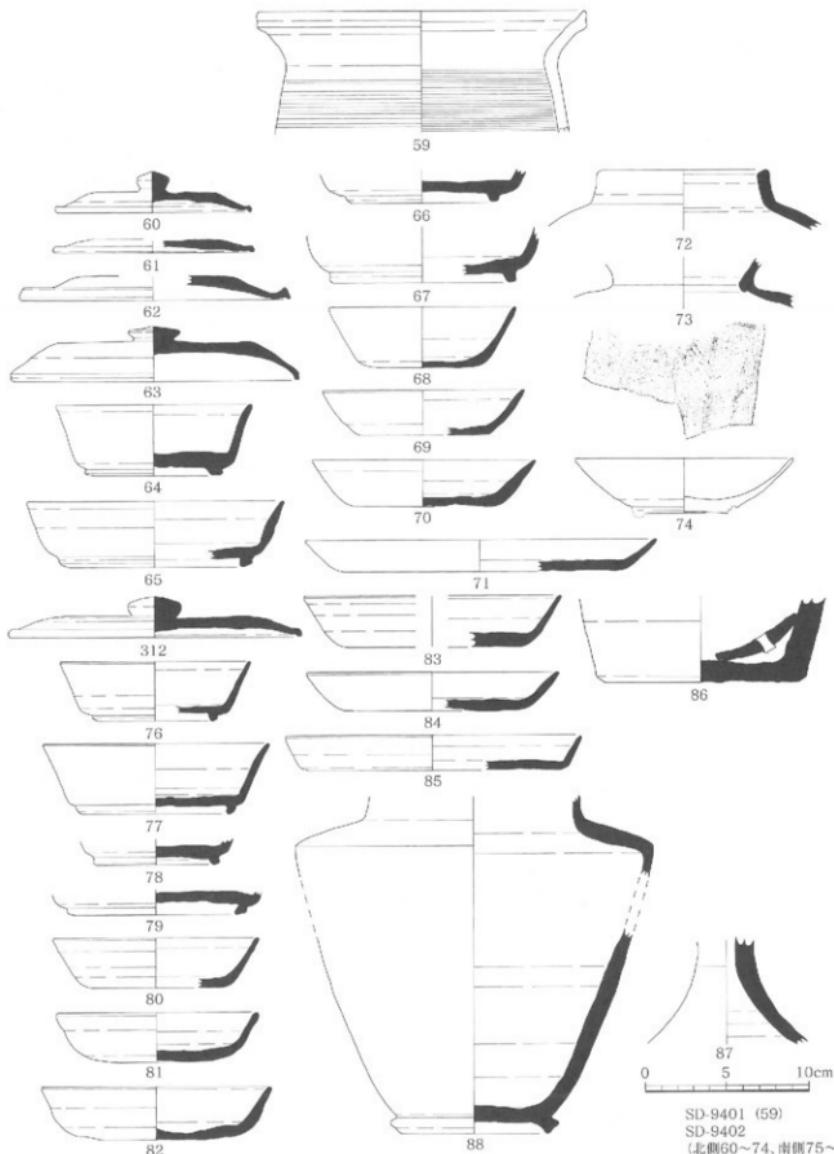
第121図 1994年度 遺物実測図② (S = 1/3)

SI-9405 (13)  
 SI-9406 (14~17)  
 SI-9408 (18)  
 SI-9410 (19~36)

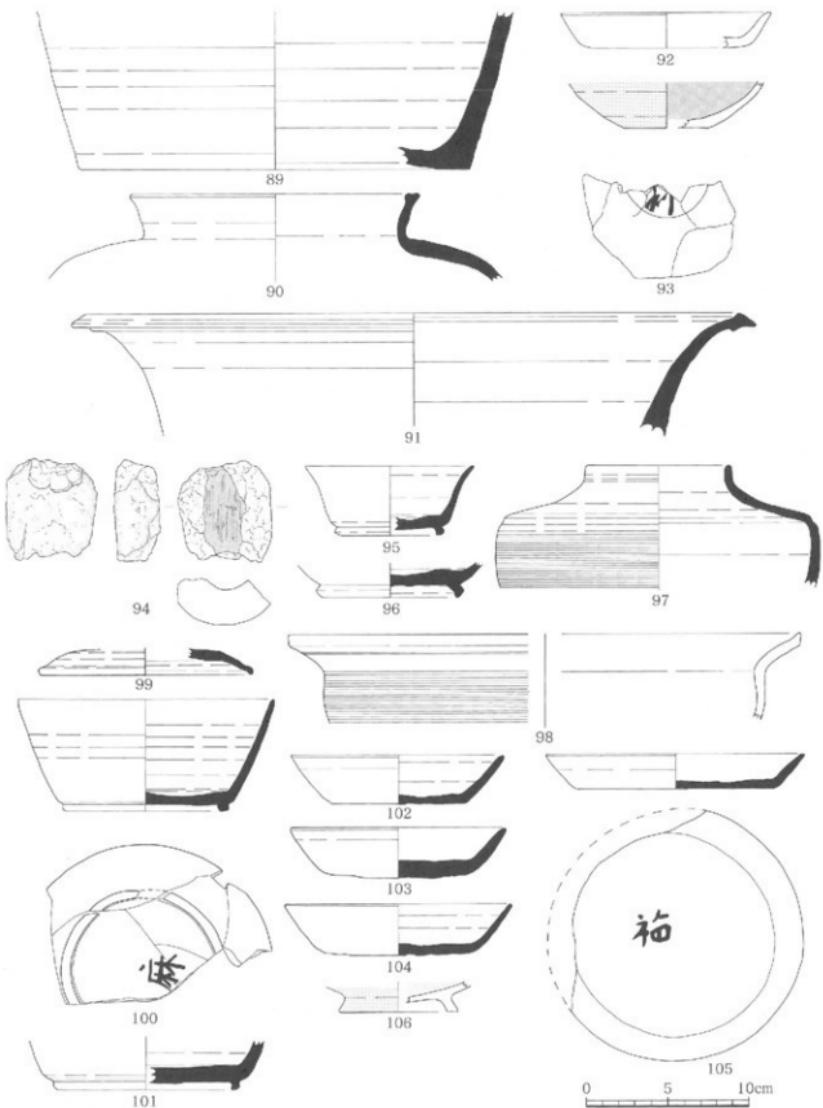


第122図 1994年度 遺物実測図③ (S = 1/3)

SI-9410 (37), SI-9411 (38~41)  
 SP-9401 (42), SP-9402 (43)  
 SP-9403 (44), SP-9405 (45)  
 SP-9406 (46), SP-9407 (47)  
 SK-9401 (48・49), SK-9402 (50)  
 SK-9404 (51), SK-9405 (52・53)  
 SK-9407 (54~57), SK-9411 (58)

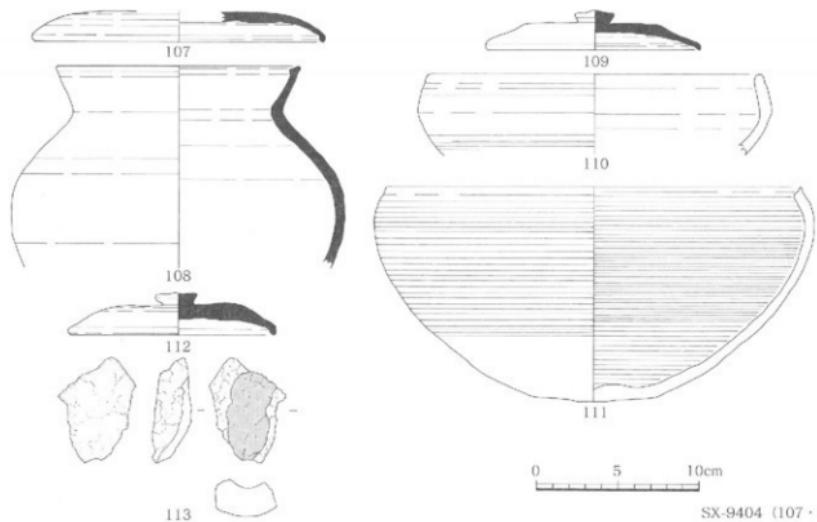


第123図 1994年度 遺物実測図④ (S = 1/3)



SD-9402 (南側89~94)  
 SD-9403 (95~97)  
 SX-9402 (98)  
 SX-9403 (99~106)

第124図 1994年度 遺物実測図⑤ (S = 1/3)



第125図 1994年度 遺物実測図⑥ (S = 1/3)

SX-9404 (107・108)  
 SP-9408 (109・110)  
 SP-9409 (111)  
 SP-9410 (112)  
 SD-9404 (113)

# 遺物觀察表 (1994年度)

番号	器種	法量	調整	色調	焼成	胎	上	通存	備考
1	环	C:10.6	ナデ	暗青灰色	良	S-1	1/6		
2	楕	B: 8.6	ナデ	淡青灰色	並	S-M-1	3/4	内外面 赤彩	
3	甕	C:12.4	ナデ	a: 暗褐色 b: 淡褐色	並	S-2	1/2		
4	甕	C:18.0	ナデ	淡褐色	並	S-L-1	小片		
			ナメ	赤色斑					
5	甕	C:22.6 W:22.2	ナデ	暗褐色	並	M-L-1	1/5		
6	甕	C:11.2 W:12.2	ナデ	暗褐色	並	S-2	1/6		
7	甕	C:22.6	ナデ	淡褐色	並	S-M-L-1	1/8		
8	甕	C:27.6 W:26.2	ナデ	暗褐色	良	S-M-L-1	1/8		
9	壺	C:31.0	ナデ	淡褐色	並	S-M-L-1	小片		
10	壺	C:30.6	ナデ	淡褐色	並	S-2	小片		
11	壺	C:33.2	ナデ	淡褐色	並	S-M-2	1/5		
			ナメ	赤色斑					
12	砾石	L:(20.0) W: 6.1 D: 4.7					完	830 g	
13	壺	C:32.6	ナデ	暗褐色	良	S-2	1/7		
			カキ目						
14	甕	C:13.0 W:13.0	ナデ	a: 淡褐色 b: 淡褐色	並	S-M-1	1/2	剥離	
15	甕	C:16.0 H:18.4	ナデ	a: 暗褐色 b: 淡褐色	並	M-L-1	2/3	重み	
16	甕	C:11.2	ナデ	a: 淡褐色 b: 暗褐色	並	M-1	1/3		
17	甕	C:25.6	ナデ	淡褐色	並	M-L-2	1/5	摩耗	
			ナメ	赤色斑					
18	甕	C:11.4 W:12.5	ナデ	淡褐色	並	S-M-2	1/8		
19	蓋	C:12.6 H: 2.8	ナメ	灰色	並	S-2	1/3	外面剥灰	
20	蓋	C:13.6	ナメ	a: 淡灰色 ナデ	並	S-2	1/5		
21	蓋	C:14.1	ナメ	a: 淡褐色 ナデ	並	S-L-1	1/7		
22	蓋	C:14.2	ナメ	暗褐色	並	S-M-1	1/6		
23	蓋	C:17.6	ナデ	a: 淡褐色 b: 淡黄色	不良	S-M-1	1/9		
24	蓋	C:14.0	ナメ	灰色	並	M-1	小片		
25	坏	C:10.8	ナデ	暗青灰色	並	M-2	1/5		
26	有台坏	C:10.4 H: 4.0	ナデ	a: 暗灰色 b: 暗灰色	並	S-2	完		
27	有台坏	C:12.0 H: 4.4	ナデ	a: 暗灰色 b: 淡褐色	並	S-M-1	1/3	外底斜 剥削	
28	有台坏	C:13.1 H:4.0	ナデ	a: 淡褐色 b: 淡褐色	並	M-2	2/3	重み	
29	有台坏	C:13.2 H: 3.7	ナデ	a: 淡灰色 b: 淡灰色	並	S-2	1/5	外底斜 剥削	
30	椭	C:16.4	ナデ	淡褐色	並	M-2	1/8		
31	坏	C:12.0 H: 3.6	ナデ	底白色	不良	M-1	2/3	使用時 切欠有	
32	坏	C:14.4 H: 2.8	ナデ	a: 青灰色 b: 淡褐色	並	S-2	1/4		
33	坏	C:14.0 H: 2.9	ナデ	a: 淡青灰色 b: 黄灰色	並	S-2	1/3		
			ナメ	赤色斑					
34	器種	法量	調整	色調	焼成	胎	上	通存	備考
35	甕	C:14.4	ナデ	淡褐色	並	M-L-1	1/8		
36	甕	C:17.8	ナデ	淡褐色	並	S-L-1	1/8	外側 剥離	
37	甕	C:24.4	ナデ	a: 淡青灰色 カキ目	並	M-1	1/5	赤色粒 紅英	
38	甕	C:12.4 W:14.8	ナメ	暗褐色	並	S-1	1/5		
39	甕	C:15.6	ナデ	淡褐色	不良	S-1	1/3		
40	甕	C:16.8	ナデ	灰色	並	S-1	1/3		
41	椭	B: 9.4	ナデ	淡青灰色	並	S-M-2	1/3		
42	甕	C:15.0 W:15.6	ナデ	a: 淡褐色 カキ目	並	M-2	1/6		
43	甕	C:33.6	ナデ	a: 暗褐色 b: 淡褐色	並	S-2	小片		
			ナメ	赤色斑					
44	甕	W:10.8 H: 6.0	ナデ	淡褐色	並	S-2	光	外側 自然釉	
45	有台坏	C:10.4 H: 4.3	ナデ	暗青灰色	並	S-M-3	1/2		
46	有台坏	C:15.8 H: 5.8	ナデ	灰色	並	S-2	1/4		
47	甕	C:35.5 W: 6.8 H: 4.0	ナデ	暗褐色	不良	S-2	1/2	全面 黒色	
48	有台坏	C:15.2 H: 4.4	ナデ	灰白色	不良	S-1	7/8		
49	甕	C:35.6 カキ目	ナデ	淡褐色	並	S-2	小片		
50	甕	C:22.0 ナメ	a: 淡褐色 b: 淡褐色	並	S-M-L-1	1/7			
51	蓋	C:11.0 H: 3.6	ナメ	淡褐色	並	S-2	5/6	内面 二次被熱	
52	坏	C:12.4 H: 2.3	ナデ	灰白色	並	M-1	完		
53	坏	C:11.4 H: 3.2	ナデ	淡灰色	並	M-L-1	7/8	外側 自然釉	
54	坏	C:11.2 H: 3.4	ナデ	a: 淡青灰色 b: 淡褐色	良	S-M-1	1/8	内面降灰	
55	甕	C:12.8 ナメ	ナデ	a: 暗褐色 b: 淡褐色	並	S-2	1/6		
56	甕	C:14.2	ナデ	a: 暗褐色 b: 淡褐色	並	S-2	1/5		
57	甕	C:18.8	ナデ	黄褐色	並	S-L-2	1/4		
58	蓋	W:2.6	ケズリ ナメ	淡灰色	並	S-2	1/4	外側 自然釉	
59	甕	C:20.0	ナデ	淡褐色	良	S-1	1/6		
60	蓋	C:12.0 H: 2.1	ナデ	青灰色	並	M-L-1	1/6		
61	甕	C:12.4 ナメ	ナデ	暗褐色	並	M-2	1/5		
62	蓋	C:16.0 ナメ	ナデ	灰色	並	M-L-1	1/5	外側降灰	
63	蓋	C:17.4 H: 3.4	ナデ	淡灰色	並	S-2	2/3		

番号	品種	法數	調整	色調	既成	胎土	直有	備考
64	有台环	C:12.0 H: 4.4 八切→#	ナデ	a:淡灰色 b:淡灰色	不甚	S-2	1/2	
65	有台环	C:15.8 H: 4.1 八切→#	ナデ	a:淡灰色 b:淡灰色	並	S-2 L-1	1/4	
66	有台环	B: 9.0 八切→#	ナデ	灰白色	不良	S-1	1/5	
67	楕	B:10.6 八切→#	ナデ	暗青灰色	並	M-L1	1/5	
68	环	C:11.4 H: 3.8 八切→#	ナデ	灰白色	不良	S-1	1/6	
69	环	C:12.4 H: 2.8 八切→#	ナデ	青灰色	並	S-1	小片	
70	环	C:13.6 H: 2.9 八切→#	ナデ	淡黃褐色	不良	S-M-L1 八切→#	1/8	外底面 八切→#
71	盤	C:21.6 B:17.6 H: 2.0 八切→#	ナデ	灰白色	不良	S-1	1/8	
72	皿	C:10.4 八切→#	ナデ	a:淡灰色 b:淡灰色	並	S-3 M-1	1/3	
73	横瓶	N: 6.8 八切→#	ナデ	淡灰色	並	M-2 L-1	2/3	自然釉
74	楕	C:13.4 八切→#	ナデ	暗褐色	並	S-1 八切→#	1/2	高台凹陷
75	蓋	C:18.0 H: 2.5 八切→#	ナデ	淡灰色	並	S-L1	1/3	
76	有台环	C:10.8 H: 3.7 八切→#	ナデ	青灰色	並	S-2 M-1	1/6	
77	有台环	C:13.8 H: 4.4 八切→#	ナデ	a:淡灰色 b:淡灰色	並	S-2 M-1	1/5	
78	有台环	B: 7.2 八切→#	ナデ	a:淡灰色 b:淡灰色	並	S-3 M-1	完	外面 自然釉
79	有台环	B:11.0 八切→#	ナデ	灰色	並	S-2 M-1	2/3	
80	环	C:12.6 H: 3.1 八切→#	ナデ	a:淡灰色 b:淡灰色	並	S-2 M-1	1/6	
81	环	C:12.4 H: 3.1 八切→#	ナデ	暗褐色	並	S-1	1/8	
82	环	C:14.0 H: 3.3 八切→#	ナデ	a:淡褐色 b:青灰色	並	S-3 L-1	1/8	
83	环	C:14.8 H: 3.2 八切→#	ナデ	灰色	並	S-2	小片	内面障灰
84	盤	C:15.6 B:10.0 H: 2.4 八切→#	ナデ	灰白色	不良	S-2	小片	
85	蝶	C:18.2 B:15.4 H: 2.2 八切→#	ナデ	淡青灰色	並	S-M-1	1/8	内面障灰
86	底碟	B:12.8 八切→#	ナデ	灰色	並	S-M-2	1/4	
87	高环(脚環)	N: 3.6 W:22.0 B: 9.4 八切→#	ナデ	灰白色	不良	S-2 M-1	光	厚耗
88	皿	C:22.0 B: 9.4 八切→#	ナデ	a:灰色 b:淡褐色	良	S-M-1	1/4	片部 自然釉
89	底碟(脚)	B:27.8 八切→#	ナデ	a:灰色 b:淡褐色	並	M-1	1/2	厚耗
90	蓋	C:17.6 八切→#	ナデ	淡青灰色	並	S-2 M-L1	小片	内外面 自然釉
91	蓋	C:42.0 八切→#	ナデ	a:淡灰色 b:淡褐色	並	M-2 L-1	1/6	外底面灰 八切→#
92	环	C:13.0 H: 2.2 八切→#	ナデ	淡黄褐色	不良	S-M-L1	小片	厚耗
93	椭	B: 5.2 八切→#	ナデ	暗褐色	不良	S-1	2/5	外面赤彩 内黑 墨青 [利]か

番号	器種	法數	調整	色調	既成	胎土	直有	備考
94	椭圓	B:11.4 八切→#	ナデ	a:淡褐色 b:淡褐色	並	S-1	光	
95	有台环	C:10.4 H: 4.4 八切→#	ナデ	淡灰色	良	S-2 M-1	1/3	外圓 自然釉
96	有台环	B: 8.4 八切→#	ナデ	灰黄色	良	S-2	1/2	
97	蓋	C: 8.8 W:19.9 八切→#	ナデ	淡青灰色	良	S-M-1	1/3	
98	椭	C:31.4 八切→#	ナデ カキ目	淡褐色 並	S-L-1 M-2 赤色粒		1/8	
99	蓋	C:13.0 八切→#	ナデ	淡青灰色	並	S-M-1	1/6	
100	有台环	C:15.8 B: 5.1 八切→# H: 7.0	ナデ	灰白色	不良	S-M-2 L-1	1/3	墨青 口麻口 人名
101	有台环	B:11.4 八切→#	ナデ	灰色	並	S-1	1/3	墨青 不鮮明
102	环	C:13.0 H: 3.1 八切→#	ナデ	淡灰色	並	S-2	1/2	
103	环	C:13.2 H: 3.2 八切→#	ナデ	灰白色	不良	M-L-1	1/2	厚耗
104	环	C:14.0 H: 3.2 八切→#	ナデ	灰褐色	不良	S-2 M-1	1/6	
105	蓋	C:15.8 B:12.0 八切→# H: 2.2	ナデ	淡灰色	並	S-3 L-1	2/3	墨青不明 「梅」か 「海」か
106	椭	B: 7.4 八切→#	ナデ	淡褐色	並	S-1	1/5	外圓赤彩 内里
107	蓋	C:17.8 八切→#	ケズリ ナデ	淡黃色	良	S-1	1/6	單耗
108	蓋	C:14.8 W:20.2 八切→#	ナデ	淡青灰色	並	S-2 M-1	1/3	内外面 降灰
109	蓋	C:13.2 H: 2.5 八切→#	ナデ	灰色	並	S-L-1	5/6	外圓 自然釉
110	鉢鉢	C:20.0 W:21.6 八切→#	ナデ カキ目	淡褐色	並	M-2 L-1	小片	
111	鉢鉢	C:25.2 W:26.8 八切→# H:13.4	ナデ カキ目	褐褐色	並	S-M-1	1/3	
112	蓋	C:32.5 H: 2.6 八切→#	ナデ	灰色	並	S-L-1	4/5	端部 自然釉
113	椭洞口	—	ナデ	a:淡褐色 b:淡褐色	並	S-2	光	

## 第5節 1995年度の調査

### 1. 調査の経過と概要

91年度調査区の東側に広がる長大な調査区であり、上林新庄遺跡としては最終年度の調査にあたる。調査は便宜的に現道を挟んで東側をE区、西側をW区とし、両調査区ともに耕土を搬出できないために南北に二分して調査を進めた。全体として遺構密度が低く、12,200m<sup>2</sup>という面積にも拘わらず11月中に調査を終えることができたことは幸いである。遺跡としては古代の集落としての様相を示すのは南半70m程度までであり、これより北側は散発的ながら中世の遺構及び遺物が主体を占めるようになる。この部分については1988年度に行った埋蔵文化財分布調査の時にも同一遺跡として括るかどうか悩んだところであるが、結果として南部地区に展開した古代の集落は中程以南を中心とした上林新庄ブロックと、1991年度北側調査区以北から下新庄アラチ遺跡までを含むアラチブロックの大きく2つに分けて考えられるようである。

### 2. 遺構と遺物

確認された主な遺構は堅穴住居5棟、掘立柱建物同じく5棟などであり、調査面積に比較して極めて少ないものであった。この内堅穴住居については前述のとおりすべて南半部分に位置しており、掘立柱建物については北側に位置するSB-9504・05が中世に属するものである。その他、E区北半には欽溝状遺構が多数見られる。SB-9505の東に存在する南北溝は、遺物の出土はなかったものの方向から見てSB-9504・05に伴う中世のX画溝であろう。

#### ① 堅穴住居

W区に1棟、E区に4棟存在する。W区南側に位置するSI-9501は1棟だけが独立して存在し、隣接する1991年度調査区のSI-9114-16とも一定の距離を保っている。遺物はある程度のまとまりを持って出土しており（第133図1～12）、その様相から9世紀前半から中頃のものと思われる。当遺跡で確認された堅穴住居としては比較的新しい群に属するものである。E区南側に位置する4棟の内SI-9503～05の3棟はある3つの時間幅の中での建て替えであり、同時に存在したのはSI-9502との2棟であろう。いずれも中型の住居である。この内、北側にやや離れて存在するSI-9502については出土した遺物が僅かに1点（第133図13）のみであり、時期の確定には不安を残すが8世紀後半代を考えておきたい。その他干渉する3棟についてはやはり僅かに1点（第133図14）のみの出土であるSI-9503を保留するものの、SI-9504・05については前者をやや時間幅を感じられるが8世紀後半から9世紀前半代に、後者を8世紀中頃から後半に置きたい。SI-9503については検出時のプランの確認からSI-9504に先行するものと思われる。また、1993年度に先行しておこなった南接する区画道路拡幅部分の調査では、これより東側には近代の旧河川の存在が確認されており、この覆土を遺跡の終焉と捉えた可能性が高い。本来はこの部分に大型住居を核とした1群が存在したのであろう。

#### ② 掘立柱建物

E区南側に位置する3棟（SB-9501～03）はいずれも古代のものであり、柱筋を揃えてバランス良く配置されており、同時に存在した可能性が高い。この内SB-9501・02はそれぞれの内側にSK-9512・13を含んでおり、特に前者には焼土痕が認められることから、建物に伴う地下遺構である可能性も残す。また、SB-9502については桁行6間の規模を誇り、中心的な建物と考えられる。S

B-9503は全体を検出していないものの3×2間程度の建物となろう。これら3棟の建物を構成する柱穴からは、遺物の出土はなかった。次に、W区北端に位置するSB-9504・05は、前述のとおり柱穴の規模や覆土の様子、総柱構造から中世のものと考えて間違いない。SB-9504は5×3間の大型建物として復元したが、桁行中央（第3・4柱穴）の柱間が他に比べて若干広く、柱筋を揃えた3×2棟の東西棟2棟に復元される可能性もある。建物を構成するSP-9501から僅かに1点出土した遺物（第134図25）は中世の上師皿である。東側に位置するSB-9505は3×2間の建物であろう。また、周辺では柱筋を通し、柵状遺構かと思われるものもいくつか見られ、中世という時代の建物の特質から若干増加する可能性を残している。

#### ③ 土坑

図示したものは13基である。この内、遺物を出土したものはSK-9501・04・10・12の4基であり、SK-9501（第134図34～39）・10（第134図41～43）については調査区北側に位置するいずれも中世の方形土坑である。また、中央やや南寄りに位置するSK-9504は僅か1点（第134図40）の出土であるが古代の須恵器壺であり、SK-9512（第134図44・45）は9世紀後半頃の所産であろう。この土坑については、前述のとおりSB-9501と関連する可能性も考えられるが現状では積極的な根拠が得られず、ここではその指摘のみに止めておく。また、W区中央北側に位置するSK-9503はプラン上面を拳大から人頭大の自然疊で覆われておらず、特異な在り方を示す。掘進時の観察では内部の覆土は自然疊を含まない褐色及び黄褐色のシルト質土であり、焼上及び炭化物等は検出されていない。深さは西側第1テラス部で15cm、中央第2テラス部で44cm、東側方形部で76cmを測る（いずれも検出面より）。遺物の出土はなかった。また、W区南西隅で自然河道肩に重複して存在するSK-9507・08はともに端正な長方形を呈するものであり、特に前者は竪穴住居に匹敵する規模を持つ。両土坑とも遺物の出土はなかった。

#### ④ その他

W区南端から北西に向けて伸びる大溝は近代の旧河川であり、北東に向けて伸びるものは古代の河川であり、いずれも1994年度調査区よりの延長である。この内、後者は最低でも4条の溝が錯綜しており、遺物はSD-9501がW区東壁にぶつかる手前周辺で集中して出土しているが、摩耗、摩滅の激しい小片が多く岡化し得たものは第135図46・47の僅かに2点のみである。また、E区南西隅に位置する畝溝状のSD-9502から出土した須恵器壺（第135図48）は、体部外面に横位のヘラ記号が1条刻まれている。その他、注目される遺物としては、W区南東隅付近の包含層より出土した須恵器盤（第135図59）がある。9世紀初頭の所産と思われ、外底面にしっかりとした筆跡で「斐」の墨書きが確認される。

## 遺構一覧表

### ・ S I (竪穴住居)

番号	長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)	床面積(m <sup>2</sup> )	形 状	主軸方位	備 考
9501	3.80	3.60	14	13.64	方形	N2° W	V <sub>1</sub>
9502	4.12	3.80	33	16.17	方形	N11.5° W	IV <sub>1</sub> ～IV <sub>2</sub> (古)
9503	4.40	3.96	23	17.36	方形	N19.5° W	IV <sub>2</sub> (新)?
9504	4.52	3.88	27	(17.18)	方形	N19.5° W	IV <sub>2</sub> (古)～V <sub>1</sub>
9505	4.20	4.08	40	(17.39)	方形	N15° W	III～IV <sub>1</sub> (古)

### ・ S B (掘立柱建物)

番号	規 模	桁行(m)	梁行(m)	面積(m <sup>2</sup> )	主軸方位	備 考
9501	3×2(3)	6.42	5.12	32.87	N8° W	S K-9512?
9502	6×2	14.00	6.44	90.16	N7° W	
9503	3×(2)	6.48	—	—	N8° W	
9504	5×3(總)	12.68	7.78	98.65	N0°	中世
9505	3×(2-総)	4.72	—	—	N6° W	中世

### ・ S K (土坑)

番号	長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)	形 状	備 考
9501	2.60	2.28	43	略長方形	中世
9502	2.24	1.24	45	略長方形	
9503	4.16	1.48	76	複合	
9504	1.60	1.40	18	不定形	須恵器
9505	2.00	1.72	32	略円形	
9506	(2.64)	1.28	21	不定形	
9507	3.40	(2.00)	36	略長方形	
9508	2.60	1.60	42	略長方形	
9509	3.44	1.56	66	不定形	
9510	2.20	2.00	39	略方形	中世
9511	(3.60)	2.52	26	略椭円形	
9512	6.40	5.08	18	不定形	9世紀後半?
9513	2.68	2.60	26	略方形	



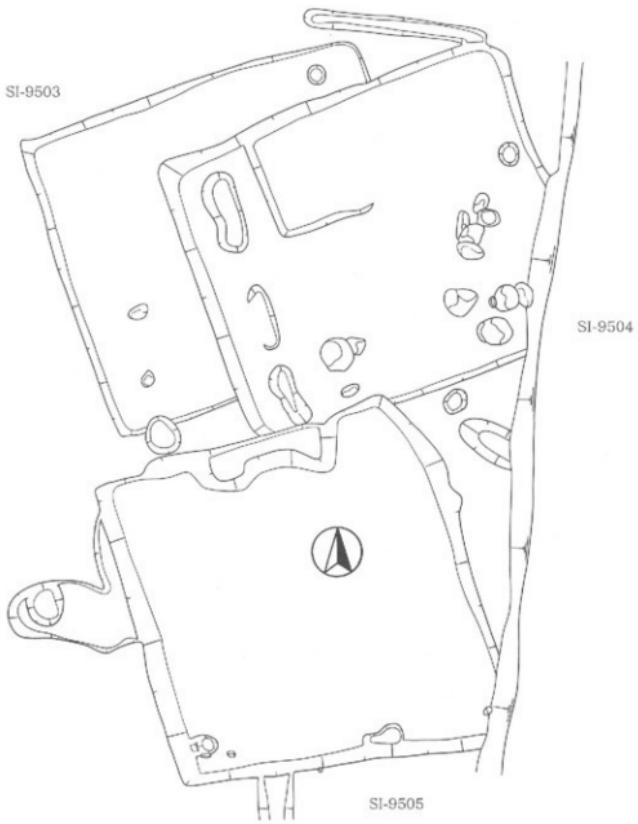
SI-9501



SI-9502

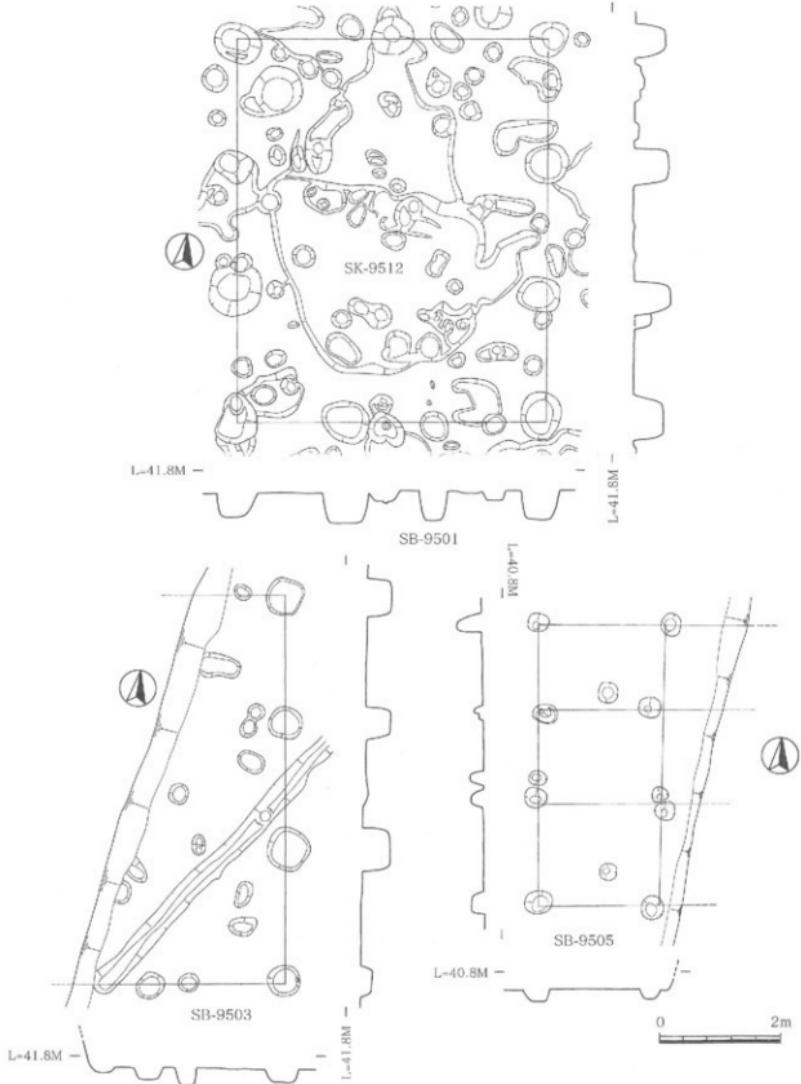
0 2m

第126図 1995年度 遺構実測図① (S = 1/60)

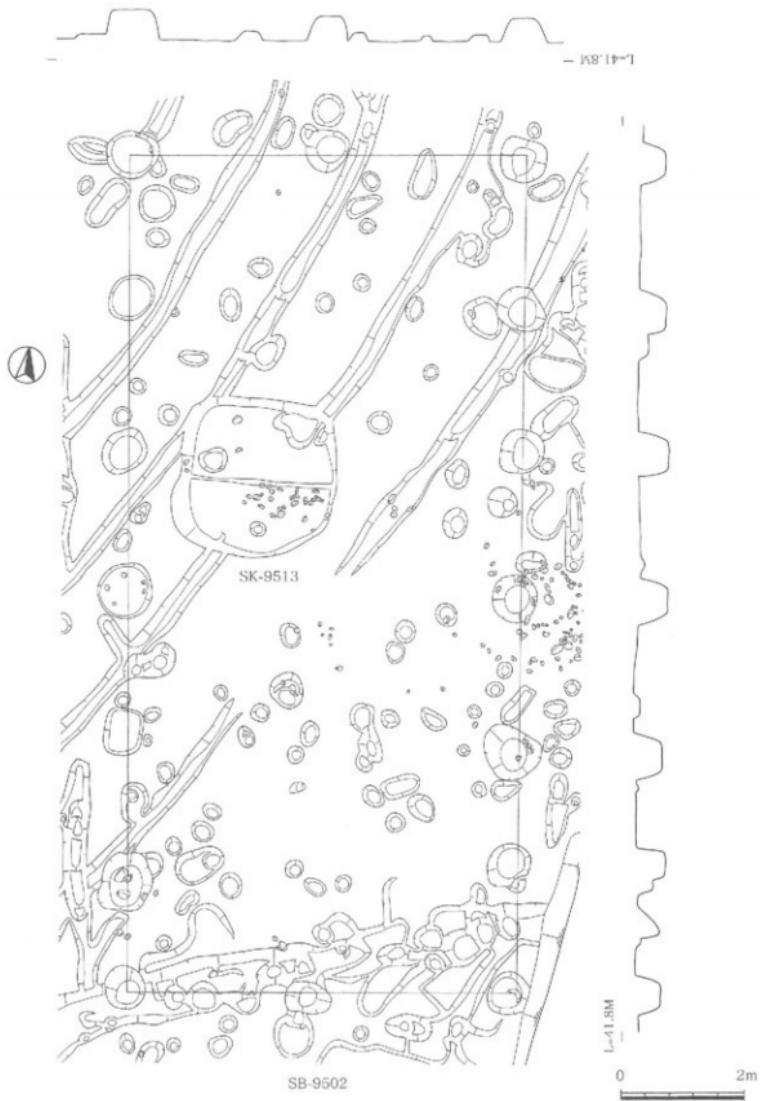


0 2m

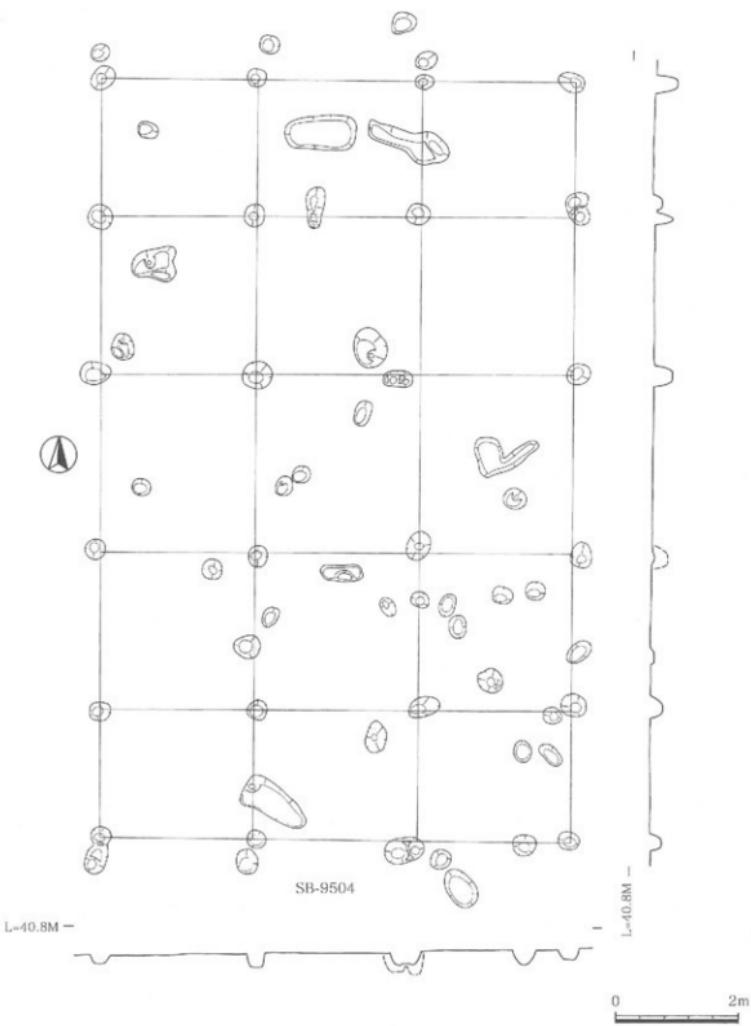
第127図 1995年度 遺構実測図② ( $S = 1/60$ )



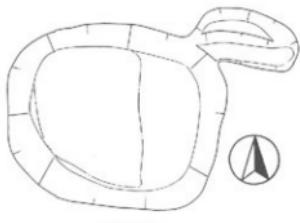
第128図 1995年度 遺構実測図③ (S = 1/80)



第129図 1995年度 遺構実測図④ (S=1/80)



第130図 1995年度 遺構実測図⑤ (S = 1/80)



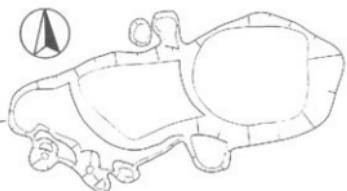
SK-9501



SK-9502



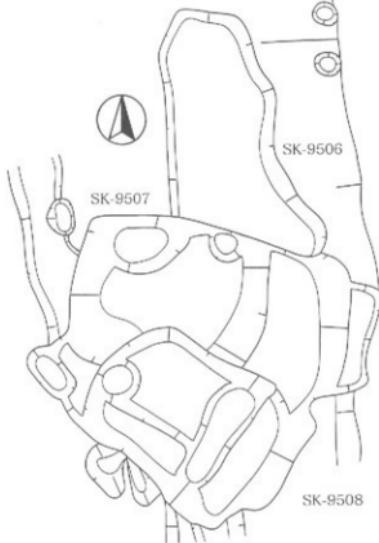
SK-9503 上面



SK-9503



SK-9505



SK-9507

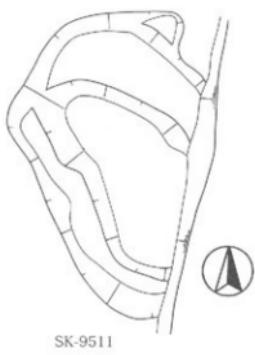
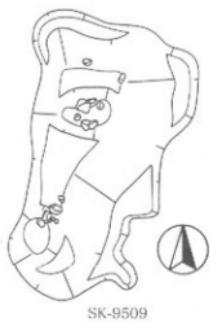
SK-9506



SK-9504

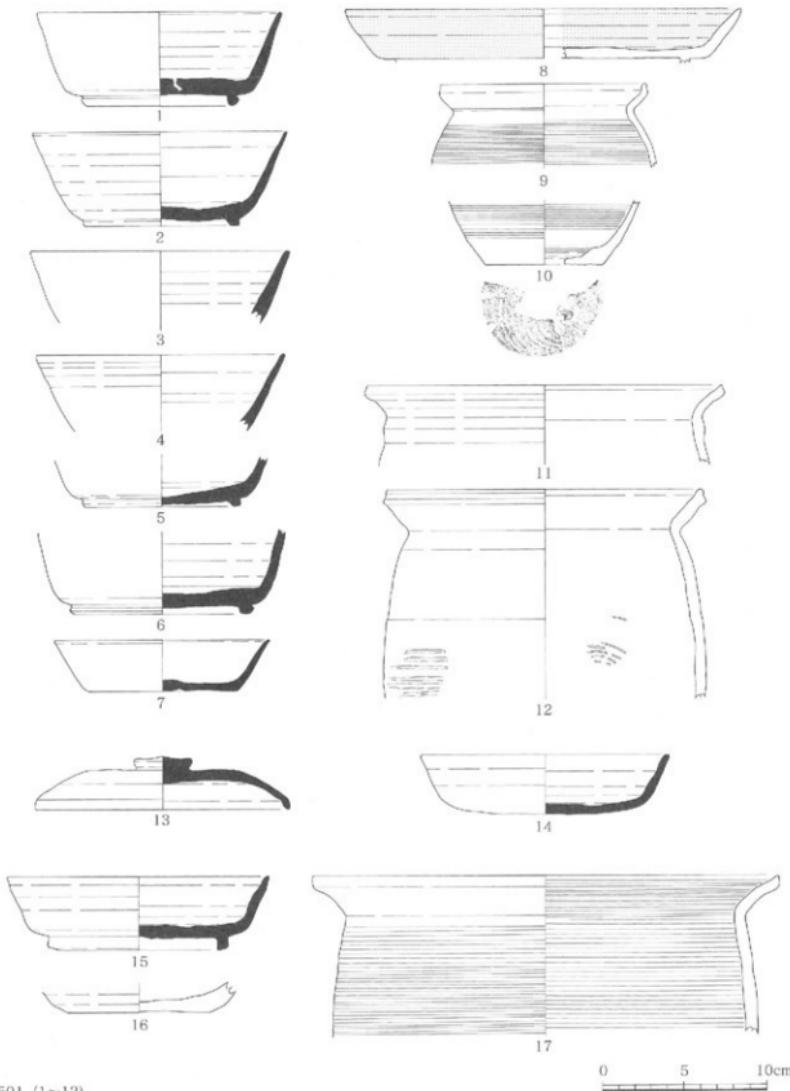
0 2m

第131図 1995年度 遺構実測図⑥ (S = 1/60)



0 2m

第132図 1995年度 遺構実測図⑦ (S = 1/60)



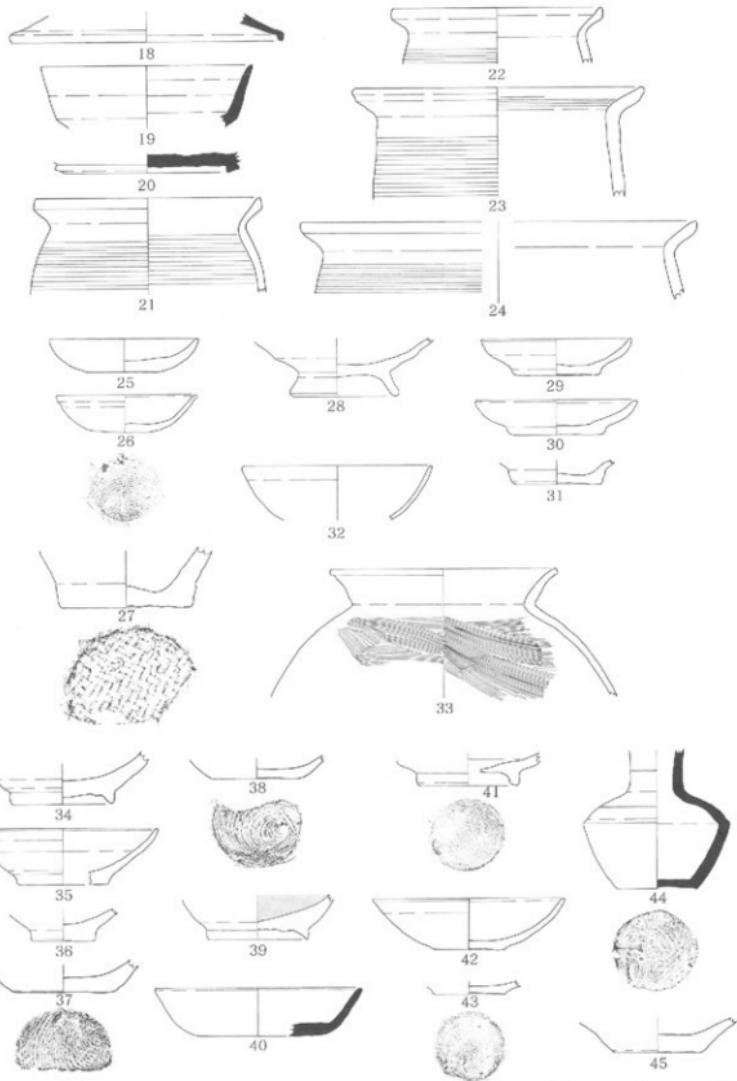
SI-9501 (1~12)

SI-9502 (13)

SI-9503 (14)

SI-9504 (15~17)

第133図 1995年度 遺物実測図① (S = 1/3)



SI-9505 (18~24)

SP-9501 (25)、SP-9502 (26)

SP-9503 (27)、SP-9504 (28)

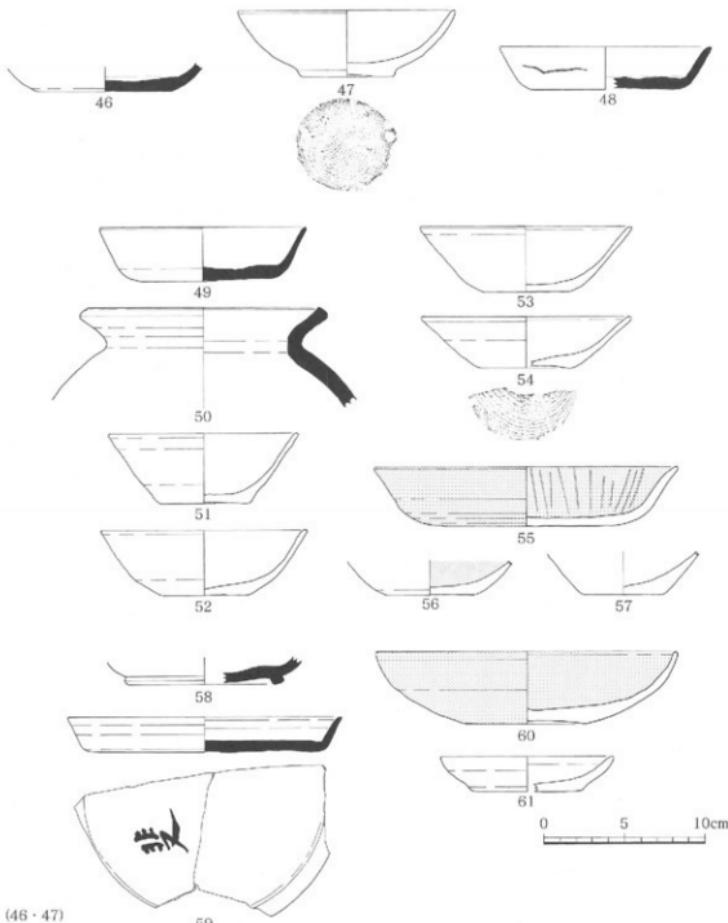
SP-9505 (29~31)

SP-9506 (32・33)

SK-9501 (34~39)、SK-9504 (40)

SK-9510 (41~43)、SK-9512 (44・45)

第134図 1995年度 遺物実測図② (S = 1/3)



SD-9501 (46・47)

SD-9502 (48)

Ⅲ河道 (49~57)

合包層 (58~61)

第135図 1995年度 遺物実測図③ (S = 1/3)

## 遺物觀察表 (1995年度)

番号	出土地	法 印	形 調	顔色	焼成	胎 土	遺存	備考
1 有台跡	C: 14.8 H: 5.9	ナデ 八切→打	淡青灰色 並	S-M-2 L-1	1/2			
2 有台跡	C: 15.4 H: 5.9	ナデ 八切→打	灰白色 不良	M-2	1/8	摩耗		
3 有台跡	C: 15.8	ナデ	淡黃灰色 良	S-M-1	1/4			
4 有台跡	C: 15.2	ナデ	淡灰色 不良	S-2 M-1	1/4			
5 有台跡	B: 9.6 八切→打	ナデ 八切→打	灰白色 不良	M-L-1	完	摩耗		
6 有台跡	B: 10.8 八切→打	ナデ 八切→打	淡青灰色 並	M-2 L-1	完			
7 破 (底部)	C: 13.2 H: 3.2	ナデ 八切→打	淡青灰色 並	M-2 L-1	1/2	外面降灰		
8 盤	C: 24.2 B: 18.0	ナデ リ→打	淡青褐色 良	S-2	1/4	内外面 赤彩		
9 麻	C: 12.6 カギ目	ナデ	淡褐色 良	S-1	1/5			
10 瓢 (底部)	B: 7.2	日目・カ 系切	a:褐色 b:淡褐色	S-2 M-1	1/2			
11 麻	C: 21.6	ナデ	淡黃褐色 並	S-2 M-1	小片	摩耗		
12 麻	C: 19.3 W: 19.8	ナデ 八切→打	淡褐色 並	S-M-L-1	1/7			
13 麻	C: 15.6	ナデ 八切→打	淡褐色 不良	S-M-1	完			
14 环	C: 15.2 H: 3.8	ナデ 八切→打	淡褐色 並	S-2 M-1	1/3			
15 有台跡	C: 16.0 H: 4.5	ナデ 八切→打	a:淡褐色 b:淡褐色	S-2 M-1	1/3	外面降灰		
16 檻	B: 8.8	ナデ	淡褐色 並	S-3 M-1 石英	完	摩耗		
17 麻	C: 28.4 W: 26.0	ナデ カギ目	淡褐色 並	S-2 L-1	1/8			
18 麻	C: 16.6	ナデ	a:淡褐色 b:淡褐色	S-M-1	1/4			
19 有台跡	C: 13.0	ナデ	淡褐色 良	M-2	1/8	内部降灰		
20 有台跡	B: 11.3	ナデ 八切→打	黄褐色 並	S-M-1	1/3	表面自然崩 粗粒砂か		
21 麻	C: 10.8 カギ目	ナデ 八切→打	a:淡褐色 b:淡褐色	S-2 M-1	1/5	摩耗		
22 麻	C: 12.8 カギ目	ナデ 八切→打	a:淡褐色 b:褐色	S-1 M-2	1/7	摩耗		
23 麻	C: 17.6 W: 15.4	ナデ カギ目	淡褐色 不良	S-M-1 石英	1/7	摩耗		
24 麻	C: 24.2 カギ目	ナデ 八切→打	a:淡褐色 b:淡褐色	S-1 M-1	小片	摩耗		
25 皿	C: 9.1 H: 2.1	ナデ	淡褐色 並	M-L-1	3/4	摩耗 中世		
26 皿	C: 8.5 H: 2.4	ナデ 条切	a:淡褐色 b:淡褐色	S-1 研挫	5/6	並み 中世		
27 深鉢 (碗文)	B: 8.0	ナデ 時代江戸	a:淡褐色 b:淡褐色	M-3 L-1	2/3			
28 檻	B: 7.2	ナデ	a:淡褐色 b:淡褐色	L-1	完	摩耗		
29 皿	C: 9.2 H: 2.3	ナデ	淡褐色 並	M-2 L-1	3/4	摩耗 中世		
30 皿	C: 9.8 H: 2.2	ナデ	淡褐色 並	M-L-1	1/6	摩耗 中世		
31 底部	B: 5.2	ナデ 条切	淡褐色 並	M-L-1 赤色粒	1/2	摩耗		
32 檻	C: 11.6	ナデ	淡褐色 並	S-1 赤色粒	1/6			
33 瓢	C: 14.0	ナデ ハケ	淡褐色 並	L-1 赤色粒	M-2	1/5		
34 檻	B: 6.0	ナデ	淡褐色 並	S-2 研挫	S-2	1/2	外底面 剥離	
35 皿	C: 11.7 H: 3.5	ナデ	淡褐色 並	S-2	1/4	摩耗		
36 底部	B: 3.6	ナデ 系切	褐色 並	M-2	完			
37 底部	B: 5.9	ナデ 系切	a:褐色 b:淡褐色	S-M-1 研挫	1/2			
38 底部	B: 5.4	ナデ 系切	淡褐色 並	S-2 M-1	2/3	外底面 状付着物		
39 檻	B: 5.9	ナデ	淡褐色 並	M-2	1/4	内里 外底面剥離		
40 环	C: 12.8 H: 3.0	ナデ 八切→打	黄褐色 並	M-2 L-1	1/3			
41 檻	B: 6.0	ナデ 系切	淡褐色 並	S-1	1/3			
42 檻	C: 11.8 H: 3.3	ナデ 系切	淡褐色 並	M-1	3/4			
43 底部	B: 4.4	ナデ 系切	a:淡褐色 b:淡褐色	S-1	完			
44 瓶	N: 3.3 W: 9.0 B: 4.9	ナデ 系切	灰色 並	S-M-1 研挫	完	同部 自然剥		
45 底部	B: 5.2	ナデ	a:淡褐色 b:淡褐色	S-1	完	摩耗		
46 环	B: 8.4	ナデ 八切→打	淡灰色 並	M-2 L-1	1/6			
47 檻	C: 13.4 H: 4.2	ナデ 系切	赤褐色 並	M-2	5/6			
48 环	C: 13.0 H: 2.7	ナデ 八切→打	淡灰色 良	S-3 M-1	1/3	外底 内括支 内面附灰		
49 环	C: 12.8 H: 3.4	ナデ 八切→打	灰白黄色 不良	M-2 L-1	1/2			
50 製	C: 14.4	ナデ タッキ	淡灰色 並	M-2	1/7	外底面 内面附灰		
51 檻	C: 11.8 H: 4.3	ナデ 八切→打	a:淡褐色 b:淡褐色	S-2 M-1	1/3			
52 檻	C: 12.7 H: 4.1	ナデ 八切→打	a:淡褐色 b:淡褐色	M-L-1 赤色粒	1/3			
53 檻	C: 13.0 H: 4.1	ナデ	淡褐色 並	S-2 M-1 赤色粒	1/2	摩耗		
54 檻	C: 13.0 H: 3.2	ナデ 系切	褐色 並	M-2 L-1 研挫	1/6			
55 檻	C: 18.8 H: 3.7	ナデ リ→打	粉褐色 並	L-1	2/3	内外赤彩 輪文		
56 檻	B: 5.5	ナデ リ→打	a:淡褐色 b:淡褐色	S-2	完	内黑		
57 底部	B: 5.0	ナデ	淡褐色 並	L-1	2/3	摩耗		
58 有台跡	B: 9.9	ナデ 八切→打	淡青灰色 良	S-2	1/7	外面降灰		
59 檻	C: 17.0 B: 15.0 H: 2.2	ナデ リ→打	淡青灰色 良	S-M-1	1/2	外底面 墨青 「斐」		
60 檻	C: 18.6 H: 4.5	ナデ リ→打	淡褐色 並	S-2 M-1	1/2	内外赤 车彩		
61 皿	C: 10.8 H: 2.2	ナデ	褐色 並	S-1	1/8	中世		

## 第6節　まとめ

5年間にわたり延べにして40,750m<sup>2</sup>を調査した上林新庄遺跡は、手取川によって形成された手取扇状地の扇央部に立地しており、検出面の標高は南端で43.1m、中程で41.5m、北端で39.6mを測り、全体として斜度1/120の緩やかな傾斜を伴う地点に広がる大集落跡である。検出された遺構は延べにして竪穴住居85棟（竪穴状遺構含む）、掘立柱建物跡56棟（中世2棟含む）、その他ピット、土坑、溝など多数に上り、それに伴う遺物も7世紀初頭から9世紀後半を主体として一部中世に下るものまで多種多様にわたっている。遺跡の構成は、前節でも述べたとおり平成7年度調査区の中程以南を中心とする南プロックと、平成3年度北側調査区以北を中心とする北プロックの2地区に大別されると思われ、その間には中世に降る遺構、遺物が散見される。全域ではないが、一部行った遺跡内に多く見られる大正時代初期の耕地整理以前まで機能していた旧河道跡のトレンチ調査では、この部分以外でも該期の遺物が一定量出土しており、中世段階においてももう少し広がりを持っていた可能性がある。この内、遺跡の主要な部分を占める古代に焦点をおいて概観すると、上林新庄遺跡の初現は平成2年度調査区の北半及び平成3年度調査区を中心とした遺跡推定地の西側にあたる部分であり、7世紀前半代、早くても初頭のことと思われる。このことは困難な扇状地扇央部の開発を目的とした先駆的な新興家父長嶋の台頭と呼応した出来事であり、その経緯については次章に詳しい。ただ、この時点では集落としてはいかにも散発的な、自然発生的景観を示しており、周辺に位置する上林テラダ遺跡等の居住者と有機的に連動していたものと思われる。上林テラダ遺跡の集落としての評価は後述する第3章のとおり不明な部分を多く残すが、僅かに出土した遺物の様相よりほぼ同時期の開始と見て大過あるまい。

表1は当遺跡で確認された竪穴住居の時期的な推移を表したものである。ここから、まず上林新庄遺跡の中心と思われる南側プロックの展開を追うと、7世紀前半以降集落として急激に竪穴住居の数が増加するのはⅡ期のことであり、やはり1990年度に調査を実施した上林新庄遺跡西側を中心とした動向である。それ以後は集落の中心を遺跡の南端部分にあたる1993年度調査区に移し、さらに8世紀後半頃までにかけて継続的に営まれているがそれ以降は急速に数を減じている。このことについては、周辺に多く分布する掘立柱建物との関係も考慮に入れるべきであるが、現状ではその時期的推移について明らかにし得ていない。ただ、前年に検討した下新庄アラチ遺跡では竪穴住居主体の集落構成から掘立柱建物主体へと変化する時期をⅢ期頃と捉えており、その推移も併存しながらの漸移的なものであったことから、南部地区全体として見ても同様の推移を辿ったものと思われる。住居の新築、廃絶は決して画一的なものではないが、常識的な耐用年数から判断すれば、同時に営まれていたと考えられるものは上林新庄遺跡全体を通じて7~8棟前後（保留・不明のものも考慮）であり、それに掘立柱建物が加わるものであろう。その区別は階層差から来るものか、使用目的から来るものかは当遺跡の様相からは明確にし難いが、下新庄アラチ遺跡での在り方は掘立柱建物が中心になるにつれ竪穴住居は規模を縮小し、プランも歪曲化していく傾向が見られ使用目的の変化が窺われる。下新庄アラチ遺跡が大型建物を核とした政治色の強い集落を形成しているのに対して、上林新庄遺跡の中心である南側プロックは前述のとおり製鉄に従事した集団の居住区としての性格を示しており、工房等特殊な目的を持っていた可能性もある。また、その下限については1993年度4区中央に位置するSK-9327のごく軽羽口を出土し、9世紀中頃から後半にかけて機能した土坑も確認されていることから、掘立柱建物を中心とし、少なくともこの時期までは存続していたことは間違いないと思われる。また、

やや遅れて竪穴住居が出現する1995年度調査区南東側ではそれぞれの規模、作りが依然として居住施設の様相を保っており、その占地からも製鉄集団とは異なる性格の建物群であろう。

表1 竪穴住居(SI)の推移

(No.は各年度内でのものを表す)

	90年度	91年度	93年度	94年度	95年度
I 1		15 16			
I 2	10	07 08			
II 1	04?		36	41	06
II 2	01 03? 05 07 08	09 11?	23 31 28 ?		05
II 3	06		13 21 26? 11 15 25? 29	33? 40	35
III	02?		08 10 24 01 07 19 14 42	39	05
IV 1			01 03 37	11	02
IV 2(古)			17 38 41?		04
IV 2(新)		06	43?	03	03?
V 1				10	01 ?
V 2					

(保留・不明のものは除く)

次に、北側ブロックの展開についてであるが、単独で見た場合集落を構成する要因となるものは掘立柱建物3棟のみであり、その様相を窺い知ることは難しい。しかし、南側ブロックの北限と北側ブロックの南限はおおよそ110m離れており、その間は古代の集落としては空白地帯となっていることから、第5節で述べたようにこの部分はさらに北に中心を持つ下新庄アラチ遺跡に含まれる可能性が高いと思われる。その場合両者の間を遺跡推定地から除外し、結果的にその様相を知ることができな

かったことは非常に悔やまれるが、試掘調査の記録を確認する限り耕地整理前の旧河道覆土と同様の灰色粘土を検出しており、それによって破壊されている可能性が高い。確認し得た面積は僅かであるが、東西に長いSB-9111は通常の建物とは異なる門のような構造であり、主軸方位を同じくする南北棟SB-9401とともにこのブロックの南限を示す遺構と思われる。付随すると思われる柵や堀に類する施設は確認されていないが、周辺のビット等から特徴的に出土した鉄鉢はこの周辺の性格を良く示しているものと思われ、推測の域を出ないものの仏教に関連した施設である可能性もある。1992年度に調査を実施した下新庄アラチ遺跡SD-07から出土した種桿とも時期的には矛盾のないものであり、北側ブロックの中では1996年度調査の大建物SB-49(50)がSB-55に建て替わる頃にあたる(下新庄アラチ遺跡での集落の推移は拙稿<sup>⑩</sup>に詳しい)。これらのことから、再三指摘していることであるが、下新庄アラチ遺跡を主体とした北側ブロックは8世紀初頭に出現した当初から卓越した大型住居に居住する勢力を中心として展開し、同中頃には確実に仏教を取り入れており更に階層分化の進んだ極めて政治色の強い集団へと成長していたことが窺われる。

また、南側、北側両ブロックの関係についてであるが、先に検証したように前者の初現はⅠ期前後でありその後Ⅱ期において急激に拡大するのに対して、後者を含むと思われる下新庄アラチ遺跡の初現はⅢ期であり、竪穴住居を主体としながらも当初から整った集落構成を示している。その背景には前者における開発のある一定の成果があったことが見込まれ、当初の新興家父長層が在地有力者層にまで成長し、新たに計画的な集落の実現を目指して移動を果たしたものと考えられる。そこにはⅢ期以降隆盛する掘立柱建物の規則的な配置から窺われる律令国家関与<sup>⑪</sup>の可能性も認められる。内部を区画する具体的な溝や道路遺構等は確認されていないが、南北両ブロックの距離が約110mと古代の条里制のほぼ1町に相当することも示唆的である。

7世紀初頭を前後する時期に上林新庄遺跡の西側一帯に営まれた集落は、その後8世紀にかけて大きく成長し、律令体制下に組み込まれた下新庄アラチ遺跡に見られる政治色の強い集団と、上林新庄遺跡南半に見られる製鉄に従事する集団とに分化し、前者主導のもと安定した経営を開拓する。その下限は9世紀後半と思われるが、最盛期は7世紀末から9世紀前半にかけてのことであり、手取扇状地に見られる他の該期集落と同様の動きを見せる<sup>⑫</sup>。その評価については、周辺に分布する該期の集落遺跡の全容が全て明らかになったとは言えず、また当区画整理事業区域の西側から末松地区にかけての空白地帯での未発見の遺跡の存在も当然考慮しなければならないが、現段階では押御郷の中核にあたるものであると考えておきたい。

最後に、集落遺跡としての取り扱いであるが、竪穴住居跡の推移については各年度ごとの調査区の報文中で若干触れているものの、その成果を上林新庄遺跡全体の中での建物群の推移として、或いは他の4遺跡を合わせた南部地区全体の中で検討する作業が未だ成されていない。また、掘立柱建物跡については竪穴住居との関係や推移等、当遺跡の中での検討すらできなかった。全体を通して掘立柱建物については遺物を伴わないものがほとんどであり、明確な時期設定が難しいことも事実であるが、これらについては時間的な制約によるところが大きく、またシリーズ全般をとおして他遺跡の状況や、文献を通じての諸先学の成果を十分検討することができなかつたことも一重に筆者自身の怠慢によるものが主要因である。大方のご期待に沿えない不十分な体裁となったことに深くお詫びするとともに、機会を改めて検討して行くことでご容赦願いたい。先学諸氏の更なるご教導をお願いする次第である。

### 〈注〉

(1) 「下新庄アラチ遺跡」

野々市町南部土地区画整理事業に係る埋蔵文化財緊急発掘調査報告書 II

1999年 野々市町教育委員会・野々市町南部土地区画整理組合

(2) 「古代の村落遺跡の消長」一手取川扇状地・金沢平野を題材として—

川畠 誠 1992年 第2回村落遺跡研究会報告レジメ

(3) 注(2)と同じ

### 〈参考文献〉

浅香 年木 「古代における手取川扇状地の開拓」「古代地城史の研究」 1978 法政大学出版局

宇野 隆夫 「土地利用の歴史と条里制の意義について」「条里制研究」 第12号 1996  
条里制研究会

鬼頭 清明 「郷・村・集落」「国立歴史民俗博物館研究報告」 第22集 1989

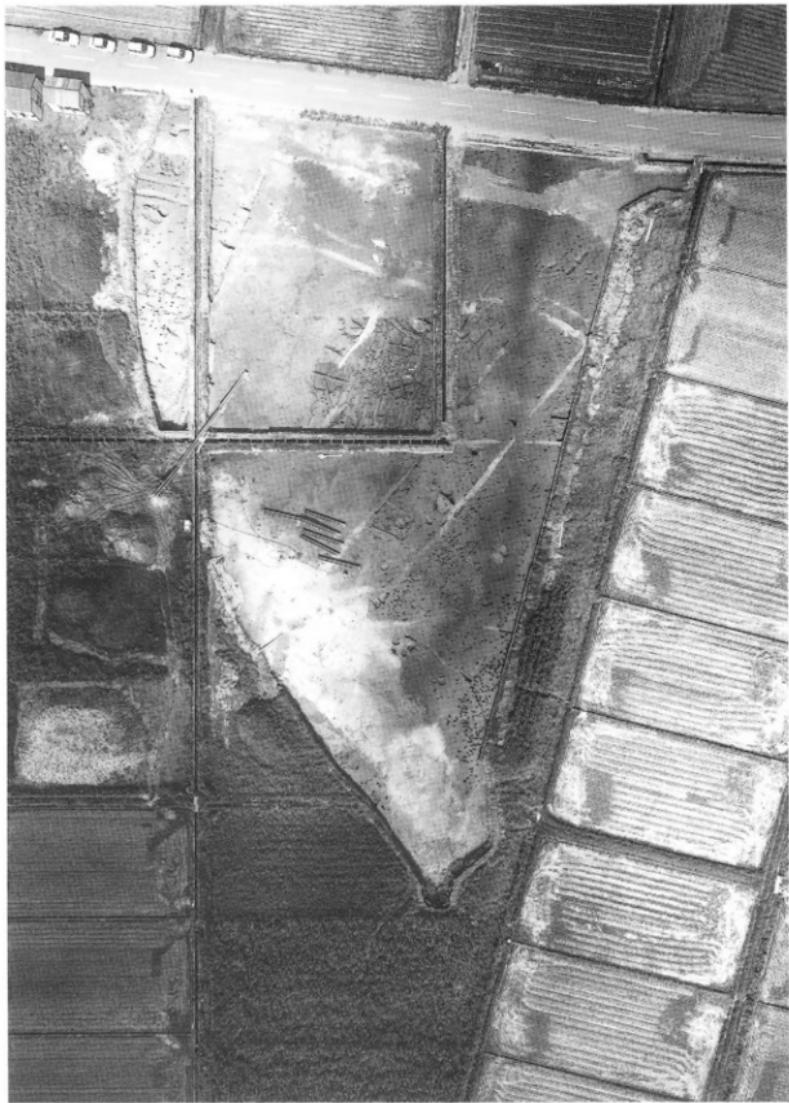
田嶋 明人 「奈良・平安時代の住居グループと集落遺跡—加賀・能登の掘立柱建物群を中心とした観察ー」「北陸の考古学」 1983 石川考古学研究会

田嶋 明人 「古代土器編年軸の設定」「シンポジウム「北陸の古代土器研究の現状と課題」」 1988  
石川考古学研究会・北陸古代土器研究会

平川 南・天野 努・黒田 正典 「古代集落と墨書き土器—千葉県八千代市村上込の内遺跡の場合ー」「国立歴史民俗博物館研究報告」 第22集 1989

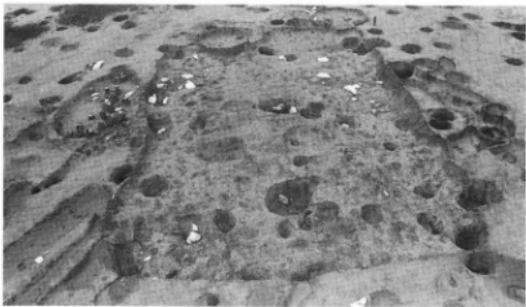
吉岡 康暢 「日本海域の土器・陶磁」「古代編」 1991 六興出版

(社) 石川県埋蔵文化財保存協会 「石川県出土文字資料集成」 1997



1990年度 調査区全景（中央部は未振・N↑）

S I -9001  
(南東より)



S I -9002  
(南西より)

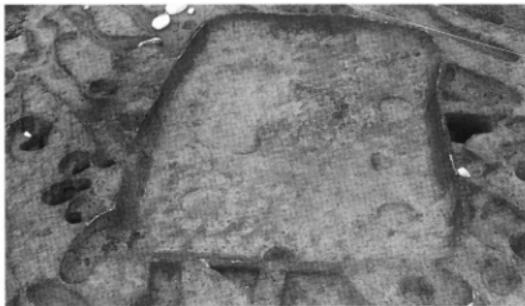


S I -9003  
(西より)



S I -9004  
(西より)

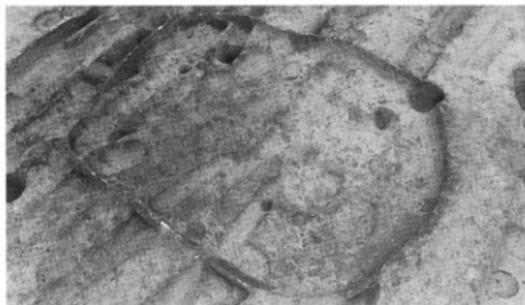




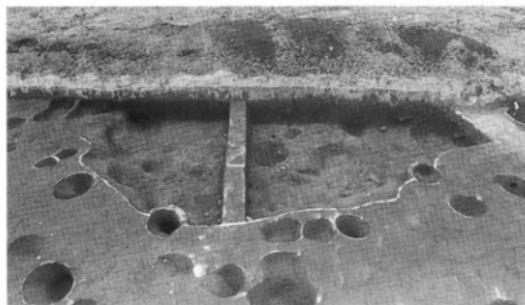
S I -9005  
(西より)



S I -9006 床面状況  
(西より)



S I -9006 床面下状況  
(南東より)

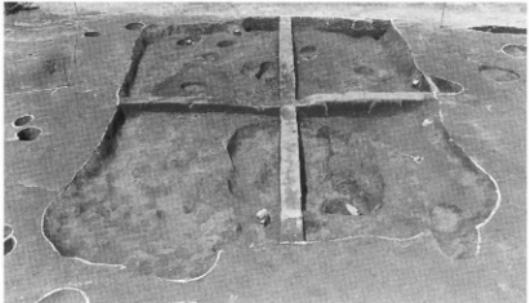


S I -9008  
(西より)

S I -9009  
(南西より)



S I -9010  
(南東より)



西側調査区全景  
(北西より)



西側調査区旧河道路  
完掘状況  
(南西より)





中央調査区完掘状況  
(東より)



南調査区飲溝状遺構  
検出状況 (北より)



南調査区飲溝状遺構  
検出状況 (東より)



南調査区飲溝状遺構  
検出状況 (西より)



1991年度 調査区全景（北東より）  
(手前：北側調査区 奥：南側調査区)



1991年度 南側調査区全景（E区のみ完掘）

W区 S I -9101  
S B-9101・02  
(南より)



W区 S I -9102  
(東南より)

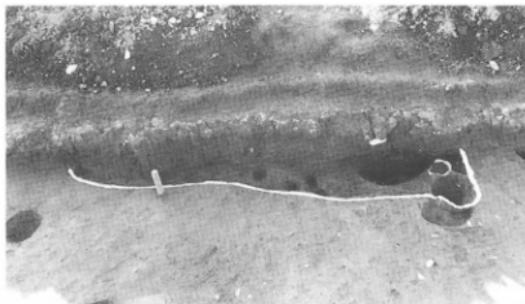


W区 S I -9103  
(東より)



W区 S I -9104  
(北東より)





W区 S I -9105  
(東より)



W区 S I -9106  
(西より)



S I -9106  
土層堆積状況



S I -9106  
カマド検出状況

W区 S I -9106  
カマド完掘状況



S I -9106  
カマド→煙道



W区 S I -9107  
(北より)

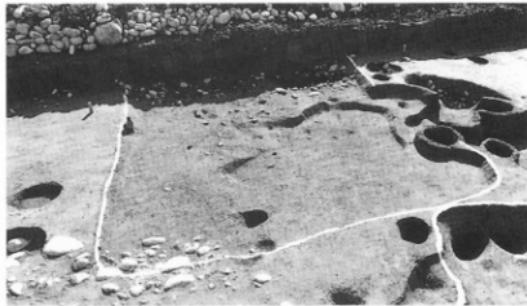


W区 S I -9108  
(北より)





W区 S I -9109  
(東より)



W区 S I -9110  
(北より)



W区 S I -9111  
(東より)



W区 S I -9111  
土器出土状況 (47)

E区 SI-9112  
(南より)



SI-9112 内  
骨片出土土坑

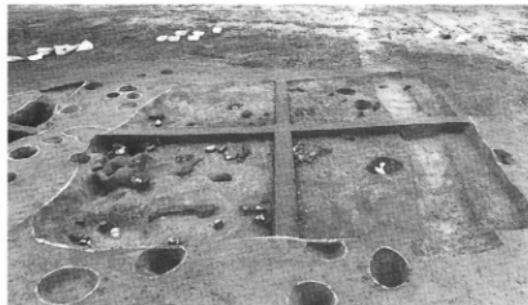


E区 SI-9113  
(北東より)



E区 SI-9114  
(東より)





E区 S I-9115  
(東より)



S I-9115  
カマド・遺物出土状況

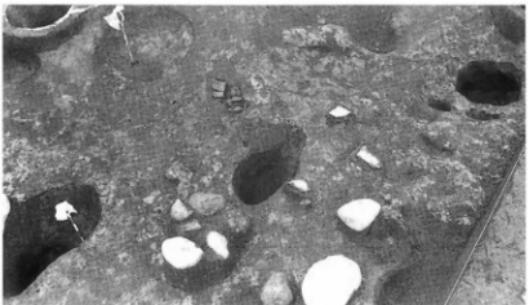


S I-9115  
横瓶出土状況 (221)



E区 S I-9116  
(西より)

E区 S I-9116  
遺物出土状況（西より）



W区 S B-9103・04  
(東より)

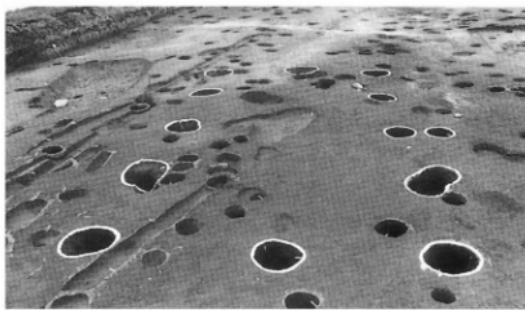


W区 S B-9105・06  
(北西より)

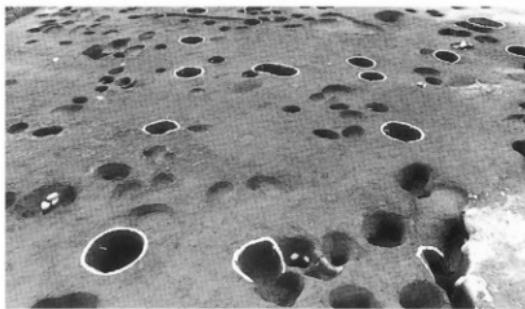


E区 S B-9107  
(南より)

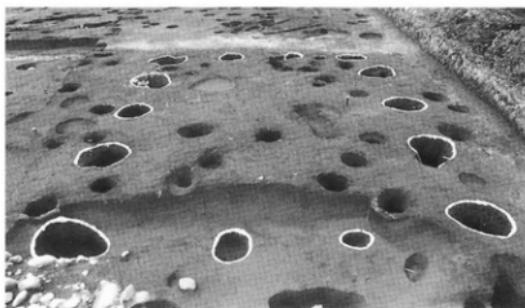




W区 SB-9108  
(南より)



W区 SB-9109  
(東より)

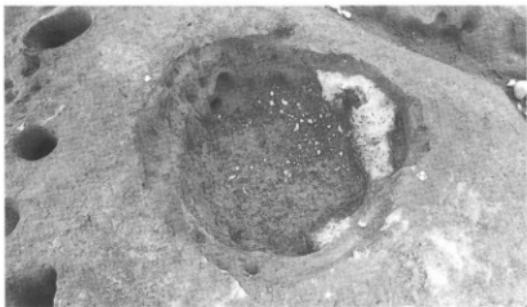


W区 SB-9110  
(南より)



W区 SK-06  
(南西より)

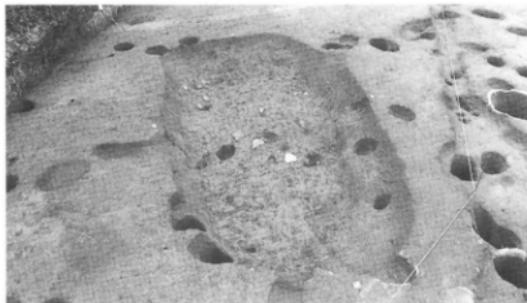
E区 SK-9107  
(北西より)



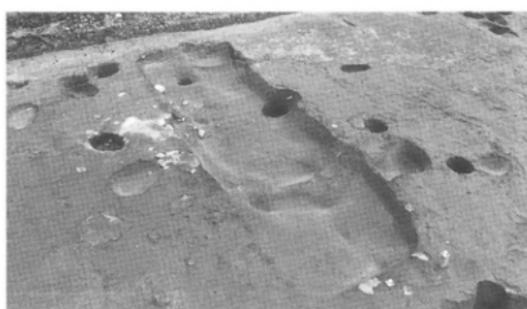
E区 SK-9108  
(南より)



E区 SK-9110  
(南より)



E区 SK-9111  
(北東より)





W区 SD-9101  
(北西より)



E区 SD-9105  
(北東より)



E区 SX-9102  
(北東より)



北側東調査区調査風景  
(北西より)

北側西調査区 全景  
(東より)



S B-9111西側  
(東より)

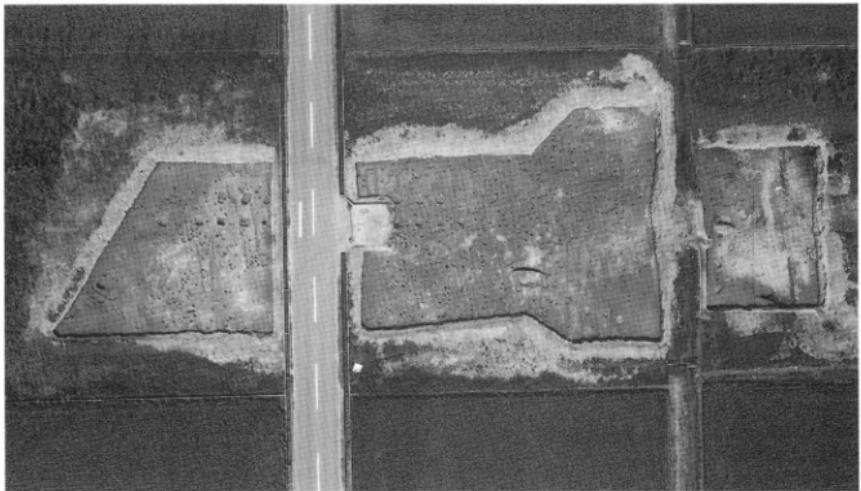


S B-9111東側  
(東より)



S B-9111  
柱穴掘方状況





1991年度 北側調査区全景



S B-9111 全景



遺跡遺景（1993年度・N↑）



1993年度 調査区全景（N↑）



1区南端 主要遺構全景 (N↑)



2区中央部 主要遺構全景 (N↑)



2区南端 主要遺構全景 (N↑)



2区南端東側 主要遺構全景 (N↑)



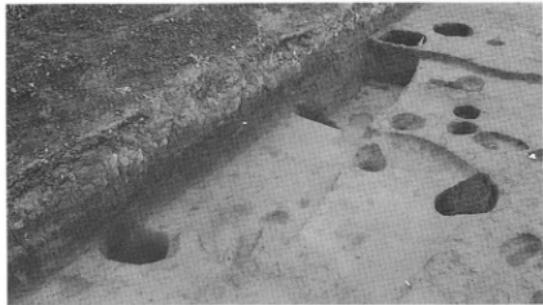
3区北東側 主要遺構全景 (N↑)



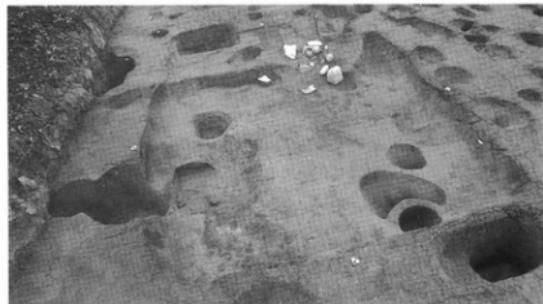
4區北半 主要遺構全景 (N↑)



1区全景  
(南より)



S I -9301  
(1区・南東より)

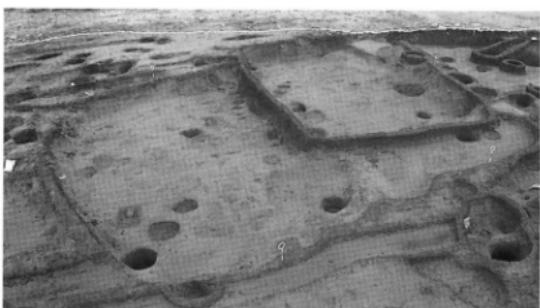


S I -9303  
(1区・南より)

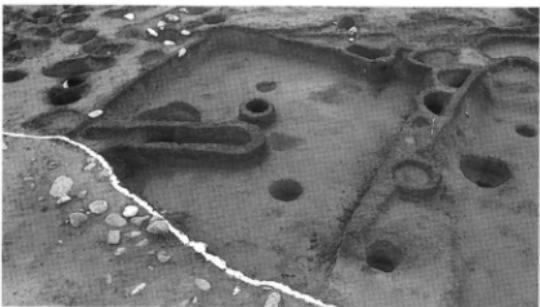


同上鉄分検出状況  
(北より)

S I -9313・14  
(2区・西より)



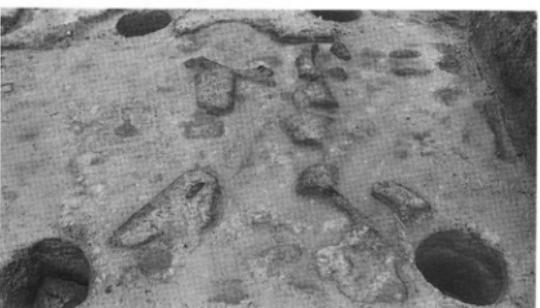
S I -9315  
(2区・北東より)

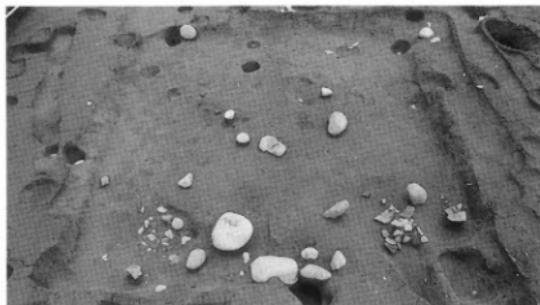


S I -9323  
(2区・北より)

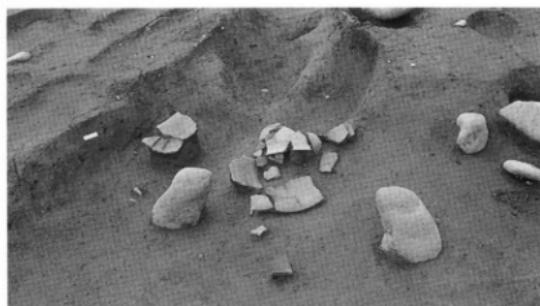


同上炭化物出土状況  
(北より)





S I -9329  
(2区・南より)



S I -9329  
カマド付近土器出土状況  
(北より)



S P -9320  
土器出土状況 (290)



S I -9332  
(3区・南より)

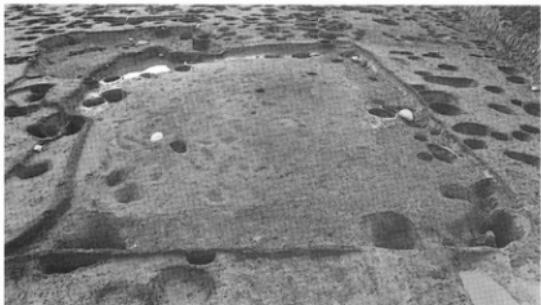
S B-9318・19  
(3区・北より)



S B-9320・21  
(3区・北より)



S B-9335  
(4区・北より)

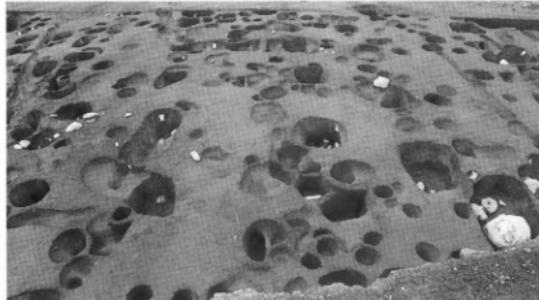


S B-9326・27・28  
S A-9307  
(4区・南より)

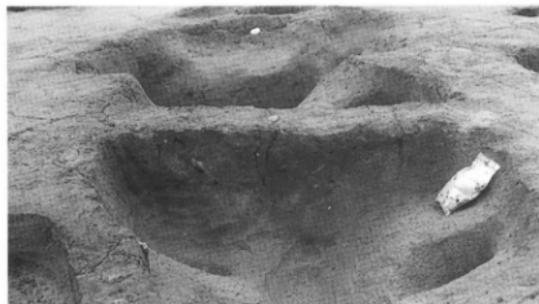




S B-9329・30  
(4区・南より)



S B-9331・32  
(4区・南より)

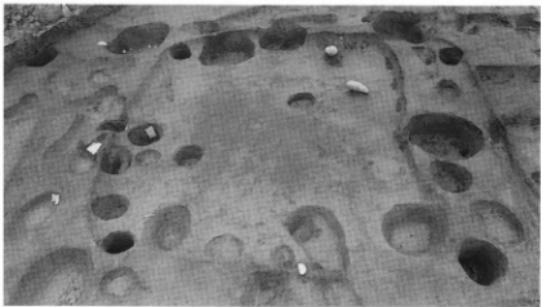


S K-9334  
(4区・西より)



5区全景  
(南より)

S I -9343  
(5区・西より)



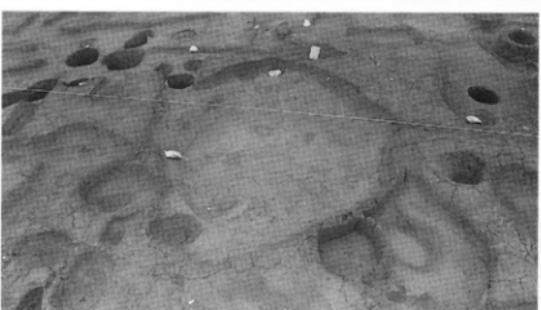
S B-9336  
(5区・南より)

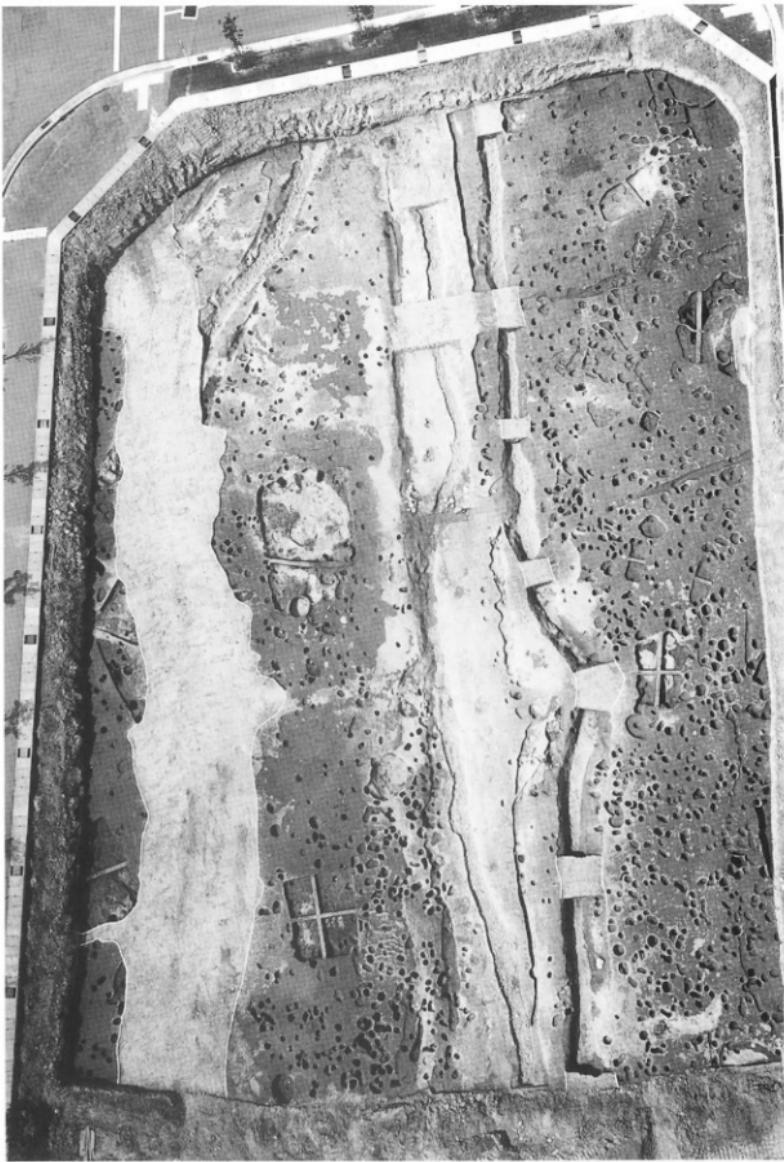


S B-9337  
(5区・北より)



S K-9337  
(5区・東より)





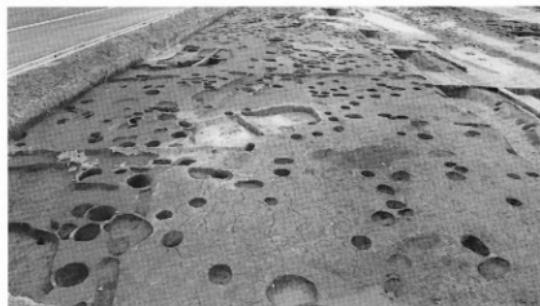
1994年度 北側調査区全景



1994年度 南側調査区全景



南側調査区全景  
(N区中央・南より)



南側調査区全景  
(N区東半・北より)



南側調査区全景  
(S区東半・北より)



南側調査区全景  
(S区西半・北より)

S I -9401・02  
(北東より)



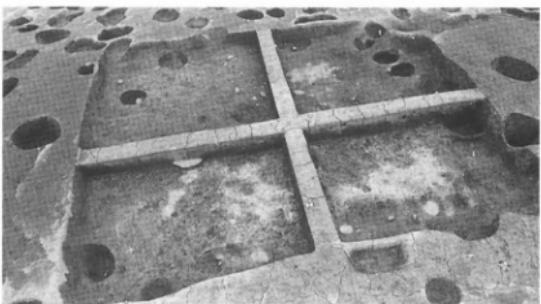
S I -9403  
(西より)



S I -9405  
(北より)



S I -9406  
(西より)





S I -9409  
(西より)



S I -9410  
(北より)



S I -9411  
(北より)

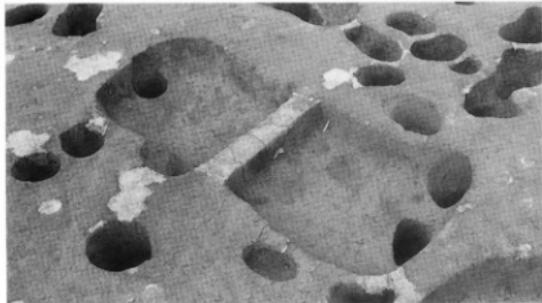


S B -9403  
(北より)

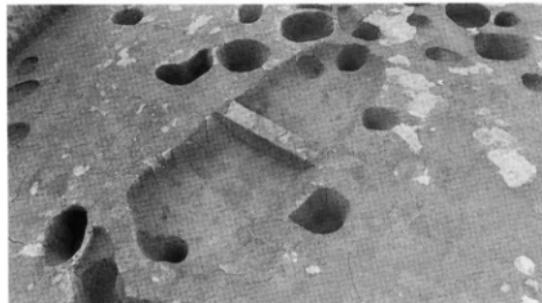
S K-9403  
(西より)



S K-9404  
(東より)



S K-9405  
(北西より)



北側調査区 1区全景  
(北より)





S D-9404  
(北より)



北側調査区 2区全景  
(南東より)



S B-9401  
(西より)



S B-9402  
(南より)



北側調査区 3区全景  
(西より)



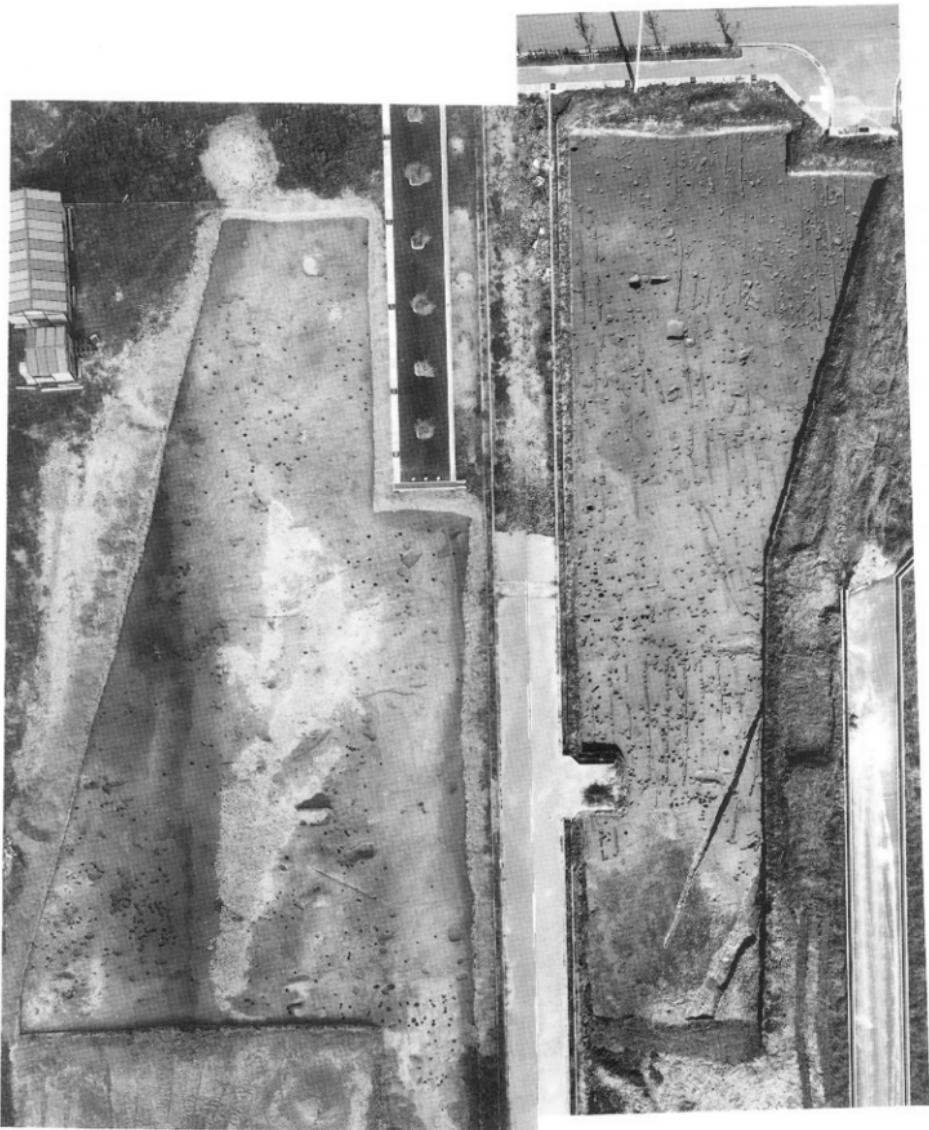
北側調査区 4区全景  
(南より)



北側調査区 4区全景  
(北半・南より)



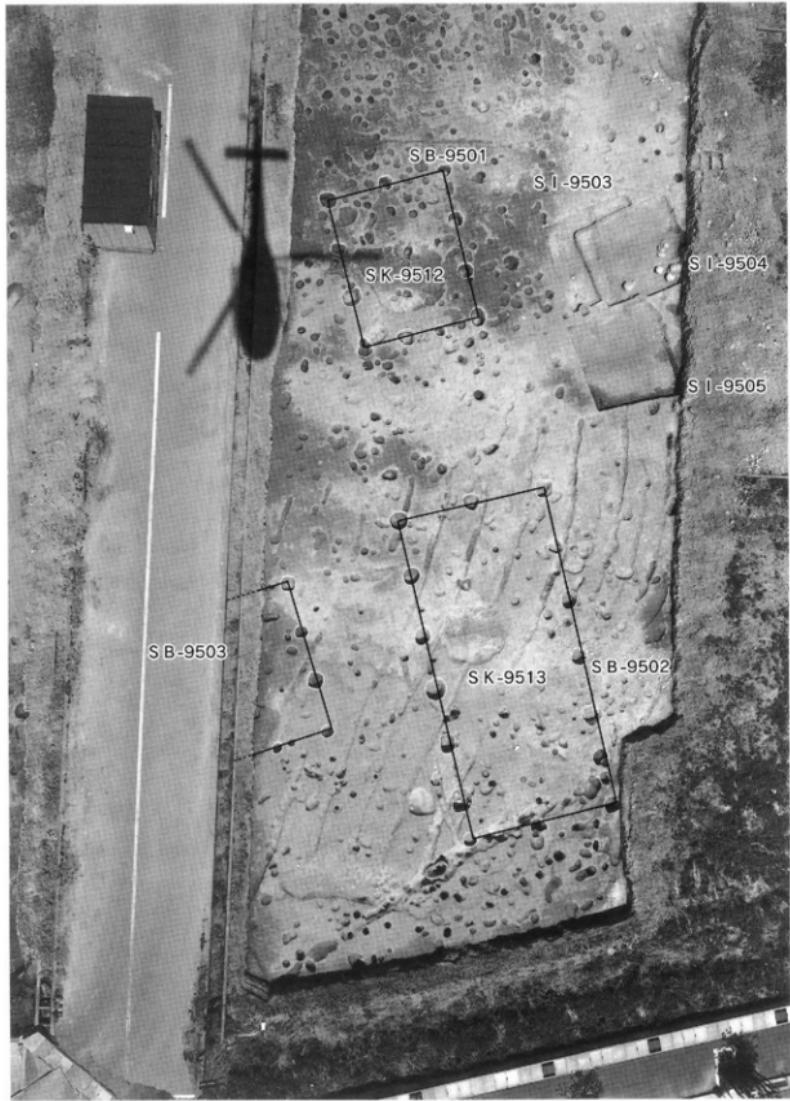
北側調査区 4区全景  
(南半・北より)



1995年度 調査区北半 全景 (N↑)



1995年度 調査区南半 全景 (N↑)



E区 南端 主要遺構全景 (N↑)

S I -9501  
(南より)



S I -9502  
(南西より)

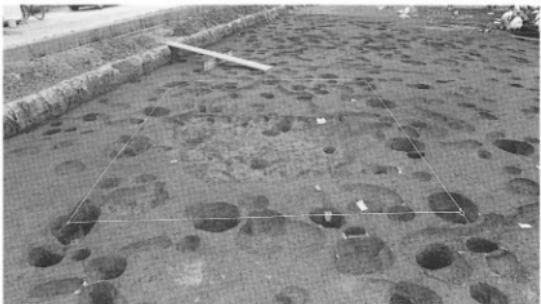


S I -9503・04  
(南西より)

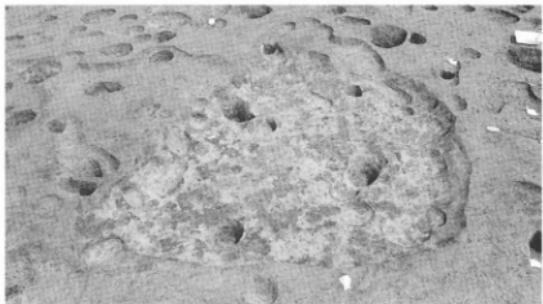


S I -9505  
(南西より)

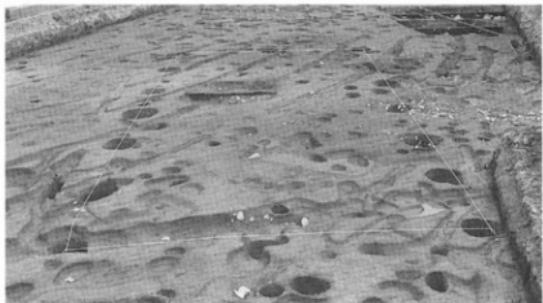




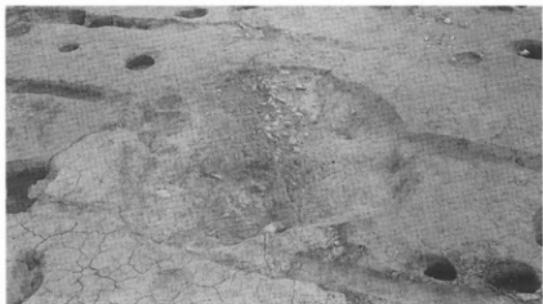
S B-9501  
(南より)



S K-9512  
(西より)



S B-9502  
(北より)



S K-9513  
(西より)

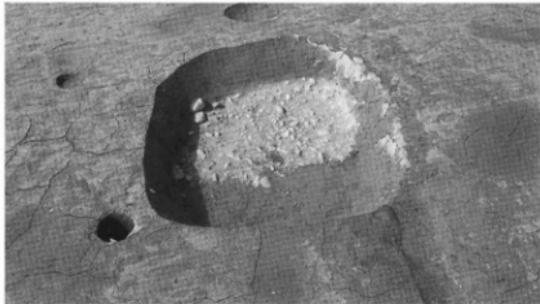
S B-9503  
(南より)



S B-9504  
(北西より)



S K-9501  
(東より)



S K-9503  
蝶検出状況  
(東より)





SK-9503 完掘状況  
(東より)



SD-9501  
(南西より)



W区南半自然流路  
(古代・南西より)



W区南半旧河道路跡  
(近・現代・南東より)



1990年度 出土遺物



41



54



58



65



61



64



73



79



89



81



93

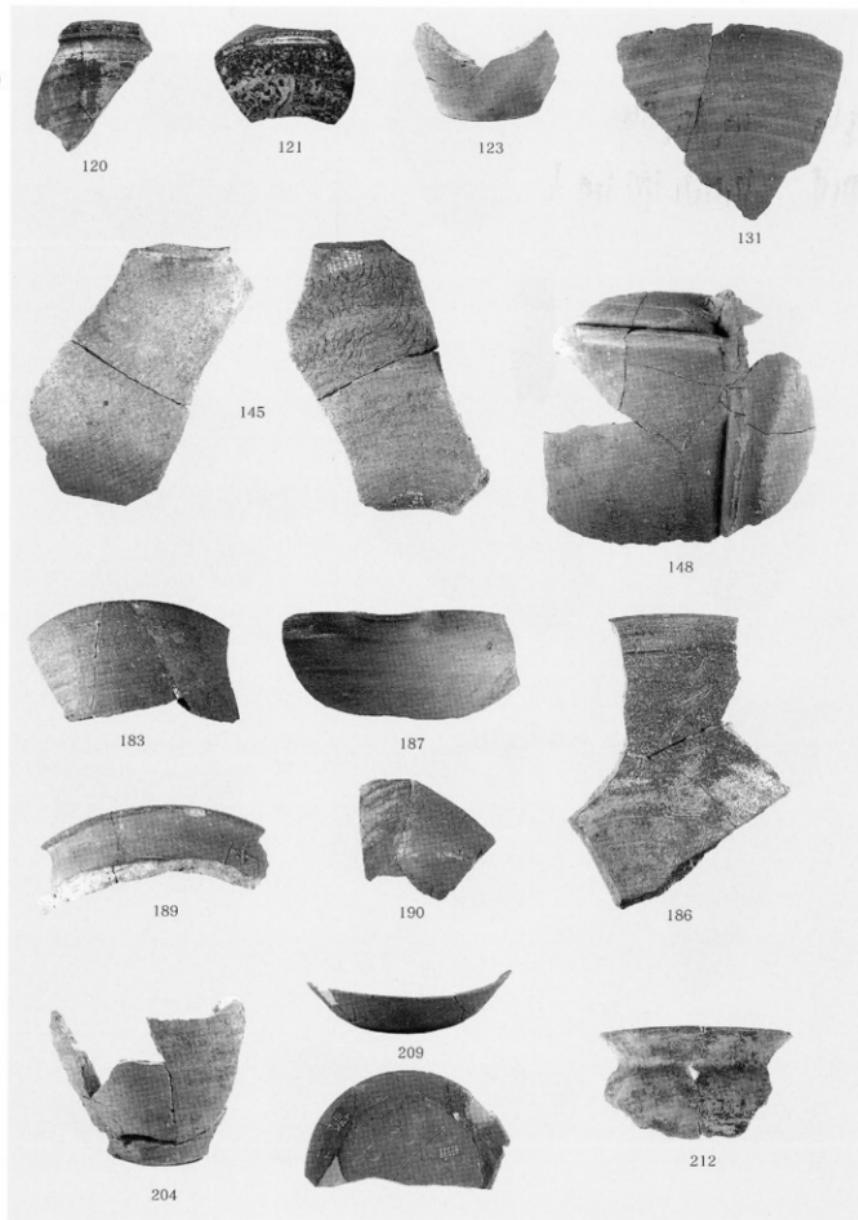


96

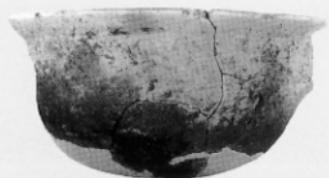


98

1990年度 出土遺物



1990年度 出土遺物



213



220



221



2



3



5



10



11



17



15



27



31



48

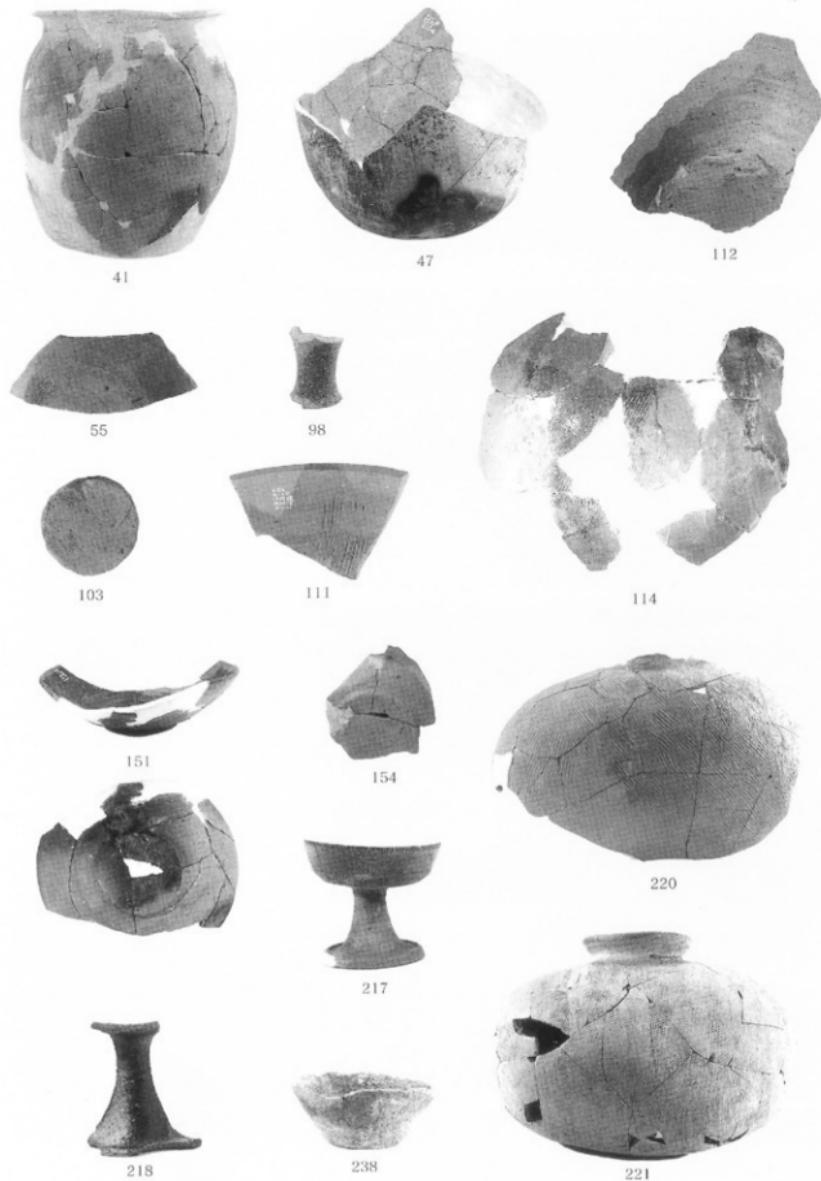


52



40

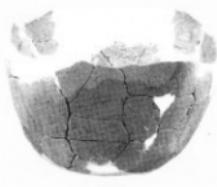
1990年度（～221）・91年度（2～）出土遺物



1991年度 出土遺物



219



224



225



227



230



234



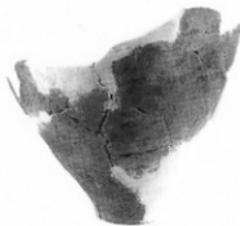
235



236



237

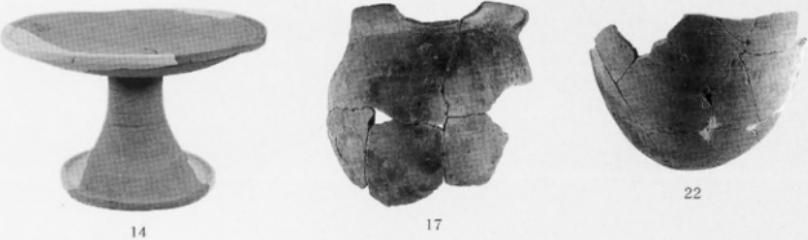
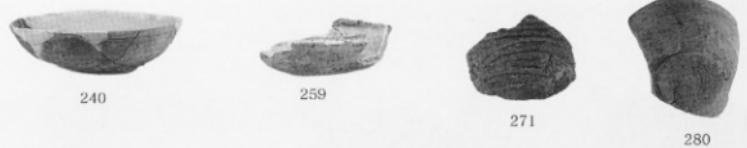


239

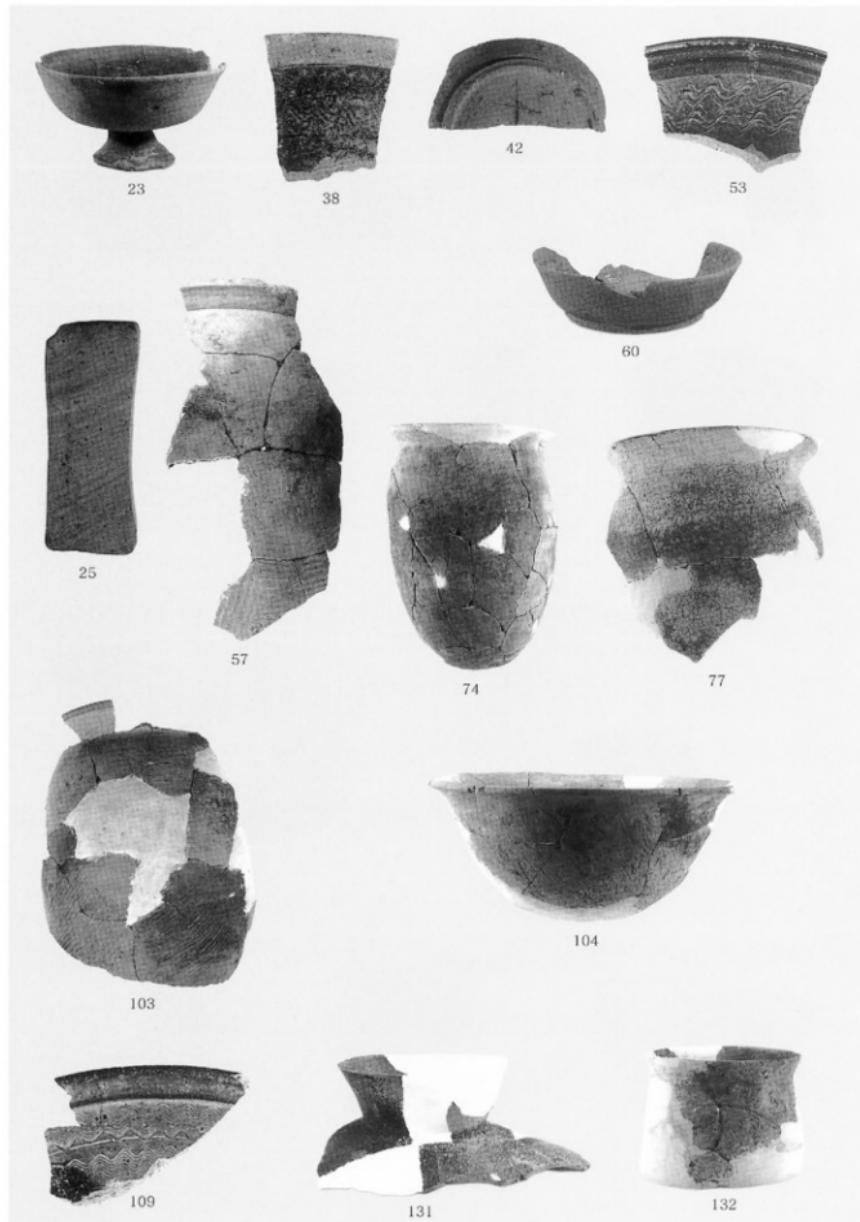


281

1991年度 出土遺物



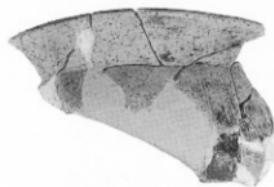
1991年度(～280)・93年度(2～)出土遺物



1993年度 出土遺物



133



142



173



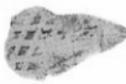
181



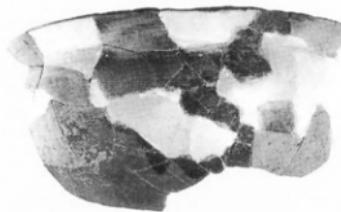
186



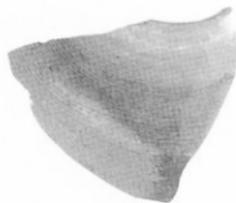
146



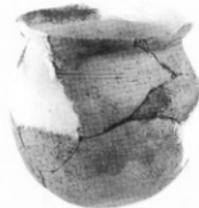
150



163



201



211

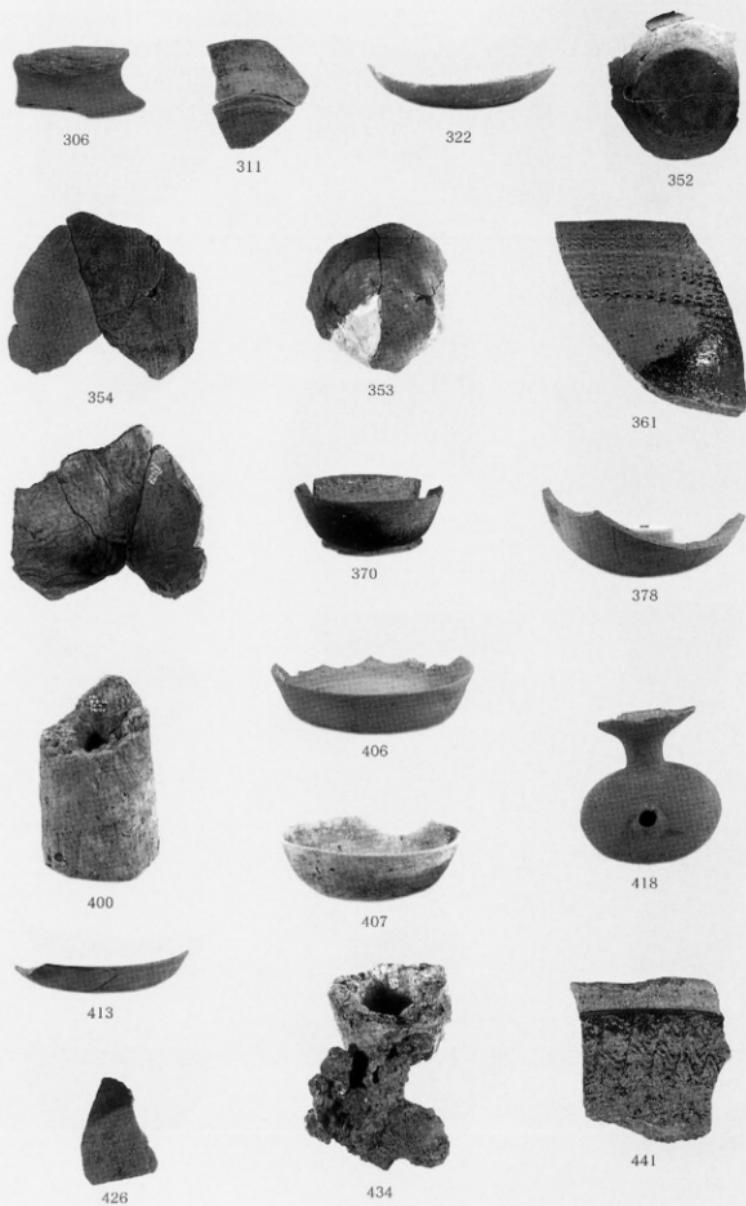


217

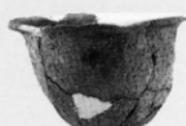
1993年度 出土遺物



1993年度 出土遺物



1993年度 出土遺物



15



44



47



51



53



73



74



86



87



93



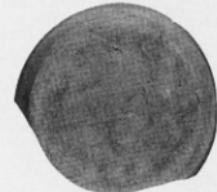
100



105



108



1994年度 出土遺物



13



26



27



28



42



44



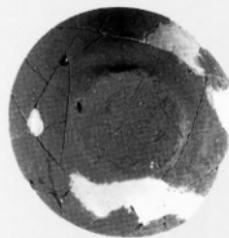
47



48



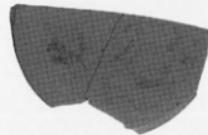
55



56



59



1995年度 出土遺物

上林古墳



## 第2章 上林古墳（1991年度）

### 第1節 調査の経過と概要

#### 1. 調査の経過

総調査面積 63,100m<sup>2</sup>にのぼる野々市町南部地区の埋蔵文化財発掘調査において、ただ 1 基確認された古墳である。1991年度の主体となる南側の調査区に存在し、当初は全域を集落跡として認識していたため地下約40cmから石列が姿を現した時の驚きは大変なものであった。そのため表土除去作業の段階で、「もしかしたら」という思いがあったものの俄には信じ難く、奥壁側の石列を重機により 2 個廃棄してしまうという失敗を犯してしまった。何事も思い込みで実行してはならないという今後の反省である。調査前の現況は田であり、近隣には 7 世紀前半代の堅穴住居が数基存在している。検出以降慎重な調査を続け、墓坑を覆う黒色土をほぼ除去し終わった 6 月 11 日、現地において石川県立埋蔵文化財センター小嶋芳孝氏に「間違なく横穴式石室である」との確認をいただき、今後の調査方針にもご教示を受けた。翌 12 日、同じく伊藤雅文氏が来跡、担当者がこのような“立体的な”遺構の調査には慣れであったため記録の方法などについて丁寧なご指導をいただいた。伊藤氏にはこの後も休暇の度に現地での調査や記録作業をご指導いただくこととなった。

航空測量も無事終了した 9 月 4 日、記録の終わった石列に墨書きで座標、レベルを記入し翌日には小型のクレーン車を導入し取り上げ作業を終えた。

#### 2. 調査の概要

上林古墳は県下第一の河川である手取川により形成された手取扇状地の扇央部に位置し、検出面での標高は約 41m を測る。周辺は大正時代初頭より始まった耕地整理により端正に区画された田及び島地が広がっており、扇状地の地形に伴う緩やかな傾斜が認められるのみであり、山地形の様子を窺わせる痕跡は存在していない。同種の遺跡としては南西へ約 2.7km の距離に位置し、ほぼ同規模の横穴式石室が確認された松任市田地古墳<sup>(1)</sup> や、詳細は不明であるが、その立地からやはり同様の内容を持つと思われる末松古墳（野々市町末松地内、当地より北西へ約 1 km）が知られている。発見の端緒としては極めて偶発的なものであったが、その後の調査は担当者が一人であったため、平日は集落跡としての上林新庄遺跡の調査に従事し、休暇を待つて前出の伊藤氏、町教委社会教育課吉田主事（現町教委文化課主査）の 3 名で調査、記録をおこなった。両氏の献身的なご協力に感謝するとともに、現地に赴き差し入れとともに有益なご教示を戴いた小松市教育委員会櫻田誠氏にも併せて感謝申し上げる。

### 第2節 遺構と遺物

遺構として確認されたものは横穴式石室の最下列 1 段とそれに伴う墓坑であり、第 1 章第 2 節で述べたとおり現況が田であったためマウンド等の痕跡は認められず、周濠の存在も確認されなかった。検出された横穴式石室は全長 7.90m、羨道長 3.20m、玄室長 4.70m、内幅は羨道部で 0.80m、玄室部で 1 m 余りを測り、西側へ若干開く片袖式かと思われるが、一部石列が欠落しており判然としない。石室を築造するに当たり掘られた墓坑は長軸 9.70m、短軸 2.80m、深さ検出面より約 23cm の略楕円形を

呈する。石材は内側に向けて平坦な自然面もしくはカットされた面を揃えて並べられており、径60cmをこえる大きなものから人頭大の河原石、一部砂岩が用いられている。奥壁側の損壊が激しく、その構造を明らかにすることはできなかったが、壁石が存在したと思われる部分には小さく破碎された石材が抜き取り痕とともに確認され、その状況からおそらく砂岩の一枚石を用いていたものと考えられる。また、羨道と玄室との封鎖施設については中央に長さ54.6cm、幅23.4cmの偏平な自然石を据え、両側石を根深く立てて構築している。西側の石材については他の石材と同等の大きさであるが、東側の石材については長さ70.8cmと一際大きく、他の石列に比べて約30cm突出させ上部はやや内傾するよううに据えている。石室の形態については羨道部西側の石列の欠落が甚だしく、断定はできないものの現状で約15cm玄室が封鎖施設を境に西側に広がっており、片袖式となる可能性が高い。検出時の床面の状況は、玄室部については十分に叩き締められた丁寧な作りであり、羨道部についても玄室部ほどではないがきれいに整地されていた。平面図上羨道部に一部敷石状の痕跡のように見える部分は間隙の小石が崩れ落ちたものであり、床面からは若干浮いた状態で検出されたものである。また、羨門については東側に比べて西側で約35cm短く、ともに最初の石材を外側に開く形で配置している。玄室部及び羨道部には排水施設は認められなかった。

石室からは、前述のごとく奥壁側の損壊が特に著しく盗掘にあった可能性も考えられ、純粹に古墳に伴うと思われる遺物や副葬品は出土していない。ただ1点出土した平瓶は、羨道部中央付近で間石として用いられた小石が崩れ落ちたものと思われる小砾群の上面より故意に打ち碎かれたような状況で出土しており、この段階ですでに石室が破壊されていたことを示している。また、周囲より石室の上部に積まれていたと思われる石材が1点も検出されておらず、破壊された後持ち去られて他に流用されたものと考えられる。玄室の床面については精査したものの棺床及び重量物を据えた際の圧痕等埋葬施設の痕跡を窺わせるものは確認されず、その方法や形態などは不明である。出土した平瓶（第2図）は口径5.7cm、頸部径3.5cm、胴部最大幅13.8cm、底部径6.9cm、器高12.5cmを測り、全体に輪轂成形によるナデ痕を強く残し、外底部は回転ヘラ削りで整える。胎土は小砾を若干含むものの精良であり、外面は灰色、内面は暗青灰色を呈する。出土した時の状況は、前述のとおり故意に打ち碎かれた様相を強く見せており、胴部中央を拳大の礫で3分割されていた。肩部より上の1/3ほどを欠いているが、胴部及び底部については完形である。7世紀後半に位置付けられよう。

### 第3節　まとめ

出土した遺物の状況から、この古墳は7世紀後半代にはすでに破壊を受けていたものであるが、築造された時期についてはどうであろうか。冒頭で述べたとおり、近隣には7世紀前半代の竪穴住居が数棟確認されており、その内南へ約60m離れた地点に存在するS1-9115からは、同時期の横瓶2点と平瓶1点がほぼ完全な形で出土している。ともに一般的な集落遺跡の住居跡からは出土例の少ないものであり、その関係が注目される。この住居は床面積30m<sup>2</sup>近くを測る端正な形状の中核的なものであり、加えて火災にあって焼け落ちたものであることから、今までに副葬に供しようという時にこの災難に遭遇し、放棄されたものではあるまいか。また、石室の形態もやや弛緩した片袖式に近く、田地古墳で確認された石室の形態に類似している。しかし、羨道部西側の石列の欠落が激しく袖部のつながりについては不明であるが、東側の石列のシャープさを依然保っていたと仮定すれば、看過されるほどの時間幅ではないにしろ田地古墳にやや先行する可能性もある。以上のことから、この古墳が築造されたのは7世紀前半と捉えておきたい。また、築造時期から考えてもこのよう古墳が1基の

み単独で存在するということは想定し難く、周辺の調査及び遺跡推定地外での開発工事についても目を向けていたが、新たに発見することはできなかった。

最後に、上林古墳と南部地区に大きく展開した集落との関係について考えておきたい。言うまでもなく、古墳が存在するということは、それを築造した母体となる集落が存在するということであり、時期的に見ても1990~91年度にかけて調査をおこなった上林新庄遺跡の西側一帯に展開する住居群が想定されよう。当該期は古墳時代終末において小規模古墳が群を成して急速に増加する時期であり、その性格もそれまでの特定家父長墓から家父長（郷戸的）墓へ、さらには一層拡大する家族（戸戸的）墓へと変質を遂げる時であり<sup>1)</sup>、簡略化された横穴式石室の盛行を特徴とする。また、当古墳の位置する扇状地扇央部は高燥で礫を多数表出す地勢に加え、開発に不可欠な治水の困難さなど、その本格的な成果は末松廃寺跡が建立されたとされる白鳳期を待たねばならず、周辺での該期を測る定住的な集落遺跡の発見を妨げている。このような中にあって、当古墳の被葬者像を考える時、そこには扇状地の開発を目的として入植した先駆的な新興家父長層の存在が予想される。手取川による扇状地への（自然災害的）洗礼及び後代の耕地整理により、どれほど古墳が地下深く埋没または消滅したかは明らかにし得ないが、市道建設工事に伴い偶然発見された田地古墳や、末松地区の大兄八幡神社末松神社に僅かに墳丘の痕跡を残す末松古墳等、このような動勢は以外に珍しいことではなかったのかもしれない。

次に、当古墳の性格についてであるが、第1章中でも再三触れているとおり、遺跡推定地の境を決定するにおいて近代の旧河川覆土を判断基準とした節が多くあり、更に広がる可能性を持つことは否めない。しかし、先行して実施した全城にわたる試掘調査では推定地外では概ね深い黒色土に覆われた鞍部にあたることが確認されており、さほど大きな誤差はないものと考えている。これを根拠のひとつとして既に全調査を終了した南部地区で得られた事実から、上林新庄遺跡の西側を中心として確認された7世紀前半までに住居は3棟前後であるのに対して築造された古墳は1基であり、しかもその配置は平成2年度調査区の中央に1棟、平成3年度調査区の南西端に1棟、同じく平成3年度調査区の南東間に2棟と逆三角形を形成するように一定の距離を保って沿まれている。それぞれの距離は45~70mを測る散居村的景観を予測でき、そこには前述の戸戸的性格を見出すことはやや難しいように思える。このことから上記古墳の変質の過程の中では依然として家父長（郷戸的）墓の性格を残しているように思えるが、この点については田嶋氏の指摘するように「戸戸の家族が郷戸（的）の殻を完全に破り、独自の運動を開始したと理解するものではない」<sup>2)</sup>とすれば、小時期差及び地域差を内包した過渡的な背景に成立した古墳であったと言えよう。このことは、居住城と墓域との位置関係にも反映しているものと思われるが、前出の田地・末松両古墳が母体となる集落との関係を明らかにし得ていない今、ひとつの例として提示するに止める。また、当古墳が築造または破壊された後も、上林新庄遺跡は集落跡として連續と営まれており、その後の展開は第1章第6節で述べたとおりである。集落としての断絶が認められない現状で、社会的に最も最大切な行為のひとつである葬送がこの後どのように変容していくのかは当遺跡の発掘調査全体を通して明らかにすることはできなかった。

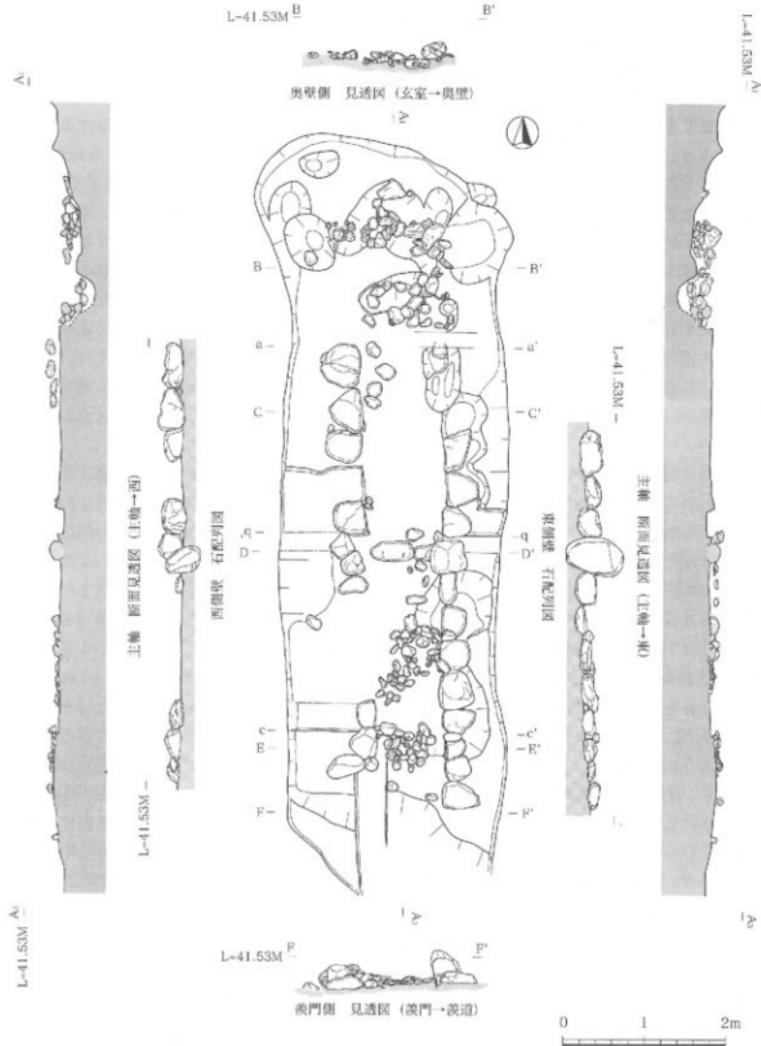
### 〈注〉

(1) 「松任市田地古墳緊急調査報告」金山嶽光・田嶋明人・高瀬 澄・小嶋芳孝

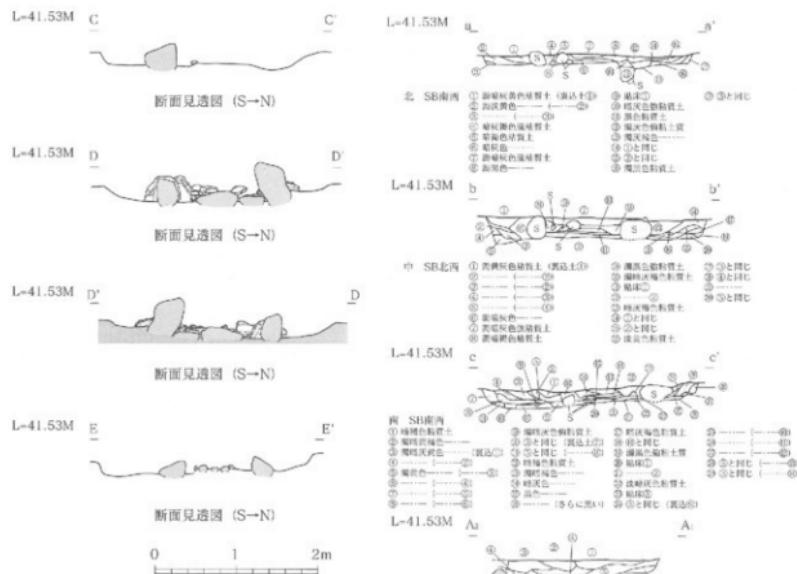
『石川考古学研究会々誌』 第14号 1971年3月 石川考古学研究会

(2) 注(1)と同じ

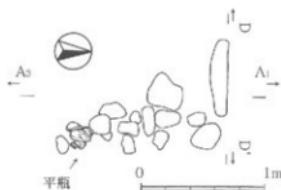
(3) 注(1)と同じ



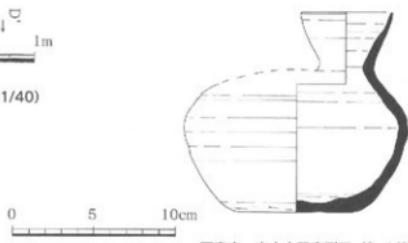
第1図 上林古墳 石室実測図 ( $S=1/60$ )



### 上林古墳 石室 断面見透図・墓坑土層図 (S=1/60)



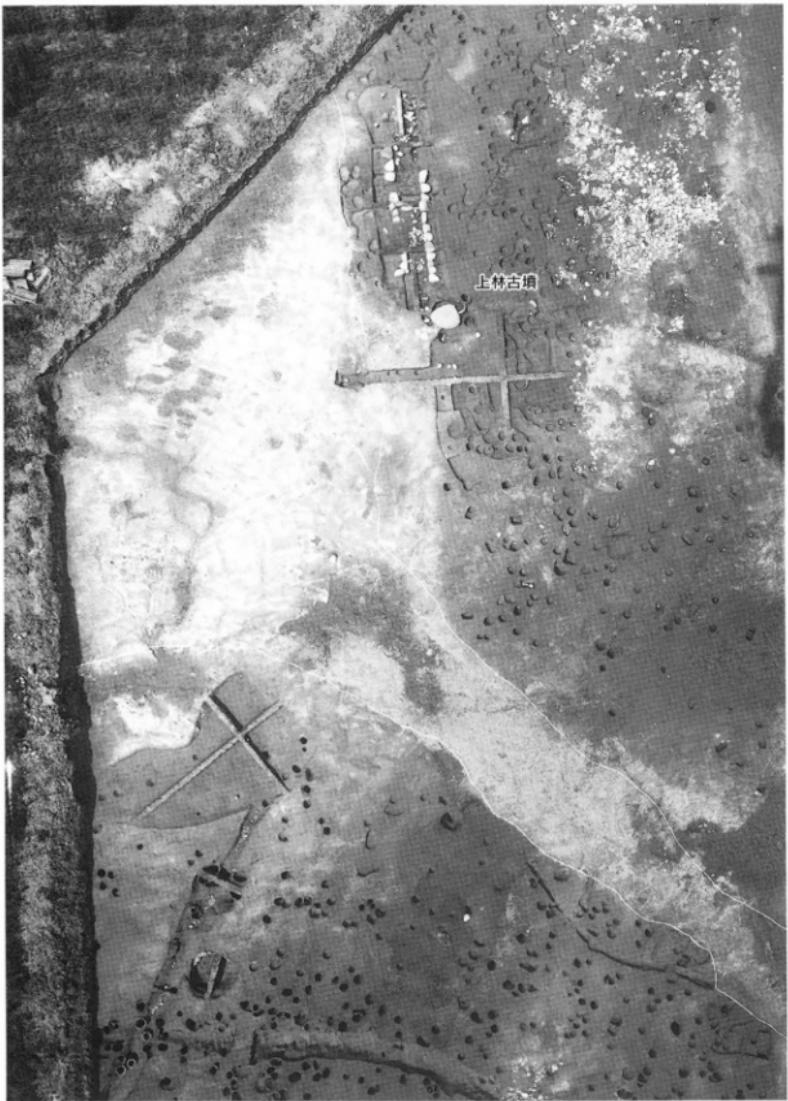
### 石室内 土器出土状況実測図 (S=1/40)



石室内 出土土器実測図 (S=1/3)

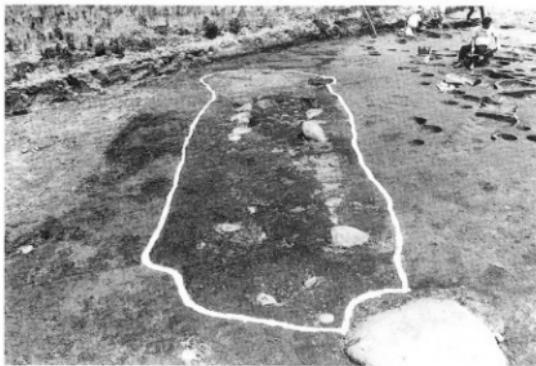
第2図 上林古墳 石室・出土土器塞測図





上林古墳 周辺全景

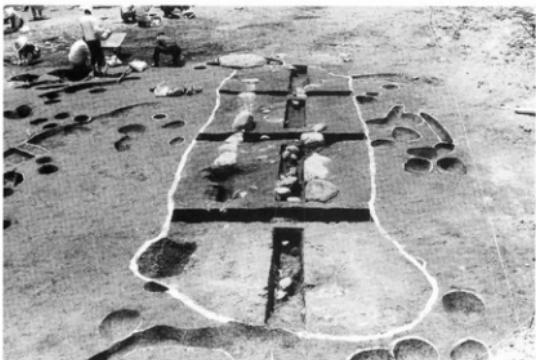
墓坑検出状況  
(南より)



サブトレンチ設定状況  
(南より)



サブトレンチ設定状況  
(北より)





調査風景  
(黒色土除去)



覆土除去後状況  
(南より)



平瓶出土状況

完掘状況①  
(南より)



完掘状況①  
(北より)



完掘状況①奥壁部  
(南より)

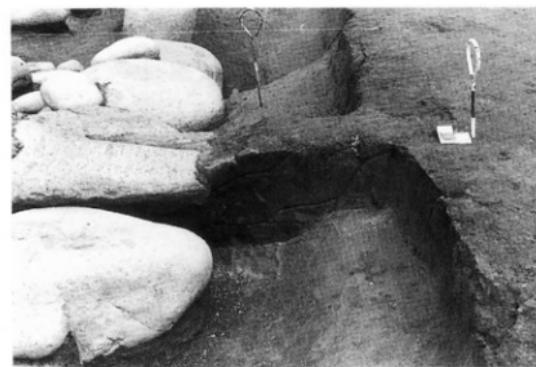




C-C' ライン  
土層堆積状況  
(西側)



C-C' ライン  
土層堆積状況  
(中央)



C-C' ライン  
土層堆積状況  
(東側)

完掘状況  
(南より)



完掘状況  
(南より)



完掘状況  
(北より)





完振状況（奥壁部）  
(南東より)



西側封鎖施設



石列座標記入状況

墓坑完掘状況  
(石列除去後 南より)



墓坑完掘状況  
(北より)



石室内出土平瓶



# 上林テラダ遺跡



# 第3章 上林テラダ遺跡（1990年度）

## 第1節 調査の経過と概要

### 1. 調査の経過

上林テラダ遺跡は野々市町南部土地区画整理事業施行区域の南西端、検出面で標高42~43mを測る地点に位置する遺跡である。昭和63年に実施した試掘調査の結果、高擧用水沿いに約3,000m<sup>2</sup>の広がりを持つことが確認され、その中心は現在の上林集落の下にあることが予想される。開発計画との照合の結果、現道を挟んで北側の部分約2,000m<sup>2</sup>については都市公園の造成予定地ということで盛土を施し現状保存することに決定し、区画道路の築造及び将来的に宅地となる南側部分については全面的に発掘調査を実施することで合意、1990年7月7日より現地調査に着手し同年11月6日に全てを終了した。上林テラダ遺跡としての調査面積は約1,000m<sup>2</sup>であったが、同一事業で先行して着手していた上林新庄遺跡の調査面積は約5,600m<sup>2</sup>であり、全体としては6,600m<sup>2</sup>の調査を地点を移動しながら行ったこととなる。

### 2. 調査の概要

調査を実施した地点は、推定された範囲の線形から遺跡の中心を外れた東端にあたるものと思われ、集落を構成する主要な遺構である竪穴住居跡及び掘立柱建物跡等は確認されていない。また、出土した遺物も非常に少なく、性格の把握はわろか時期の推定にも困難を伴うものであったが、僅かに図示した上器の様相から古代にあたることは間違いくなく、その初現も東へ約140mほど離れた上林新庄遺跡と同様7世紀前半まで遡るようである。事前に上地の古老からうかがった話では、現在の上林集落の起源は平安時代頃ということであったため（根拠については不明）、南部地区の中心部に南北に長く展開する遺跡群（上新庄ニシウラ遺跡<sup>(1)</sup>・上林新庄遺跡・下新庄アラチ遺跡<sup>(2)</sup>）が9世紀半ばから後半にかけて衰退していくこととの関係、或いは変遷についての手掛かりが得られる可能性を漠然と抱いていたが、実際に整理作業を進めて行く内に不可能であることがわかった。事前の試掘調査の結果でも、当遺跡と上記の遺跡群が広がる島状微高地の間には南北に長い大きな鞍部が伸びていることが予測されており、当遺跡はむしろ安養寺遺跡・上林遺跡から現在の中林集落へ伸びる別の島状微高地に近いものと考えていただけに残念である。

#### 《注》

##### (1)「上新庄ニシウラ遺跡」

野々市町南部土地区画整理事業に係る緊急発掘調査報告書 I

1998年3月 野々市町教育委員会・野々市町南部土地区画整理事業組合

##### (2)「下新庄アラチ遺跡」

野々市町南部土地区画整理事業に係る緊急発掘調査報告書 II

1999年3月 野々市町教育委員会・野々市町南部土地区画整理事業組合

## 第2節 遺構と遺物（第2図）

前述のごとく、当遺跡からは住居等の居住関係の遺構は一切確認されておらず、ピット及び土坑（不定形な落ち込み状遺構含む）、溝がそれぞれ数基確認されたのみである。特徴的な遺構が見られないといため、全体の様相としては第1図遺構全体図を参照して頂くこととし、以下では遺物を出土した遺構及び遺物の出土はなかったものの唯一特徴的な遺構と思われる環状溝のみの解説を行うことでご涼解願いたい。

### S P - 1

調査区北側中央に位置する長径25cm、深さ検出面より17cm程度を測る小さなピットであり、建物等を構成するものではない。遺物は1点のみの出土である。1は瓶頸の底部である。底径は高台接地面で6.4cmを測り、内外面ともに轆轤により丁寧なナデを施す。胎土に小砾を若干含むものの焼成は良好であり、外面は暗灰色、内面灰色を呈する。1/3程度の残存であり、外面に薄く自然釉がかかる。強く張り出す高台の形態より8世紀中頃～後半のものと思われる。

### S D - 1

調査区東南より北側中央に向けて北流する溝であり、上幅最大で141cm、最小で59cm、深さ平均で30cmを測る。肩部の掘り方及び底面の立ち上がりは全体としてやや弛緩しており、東南壁際で両側にテラスを持ち、北端では幅の広がりとともに底面で2条の流路を持つ。検出した長さは約35mであり、磁北より西へ約20°振っている。遺物は流路のほぼ中央より2点出土している。2は口径11.9cmを測る須恵器壺蓋である。内外面ともに灰色を呈し、小砾を若干含むものの焼成は良好である。小片であり、口徑の復元については誤差を含む。3も小片のため口徑の復元は望めないが、上飾器瓶の口縁部である。外面にナデ調整を施し、内面は指頭状に膨らんだ部分より上位を横ハケ、下位を縦ハケで仕上げる。内外面ともに黄褐色を呈し、外面には煤が付着している。焼成は並であり、胎土に若干の砂礫と石英を含む。全体に摩耗が激しく、器壁の荒れが著しい。

### S D - 2

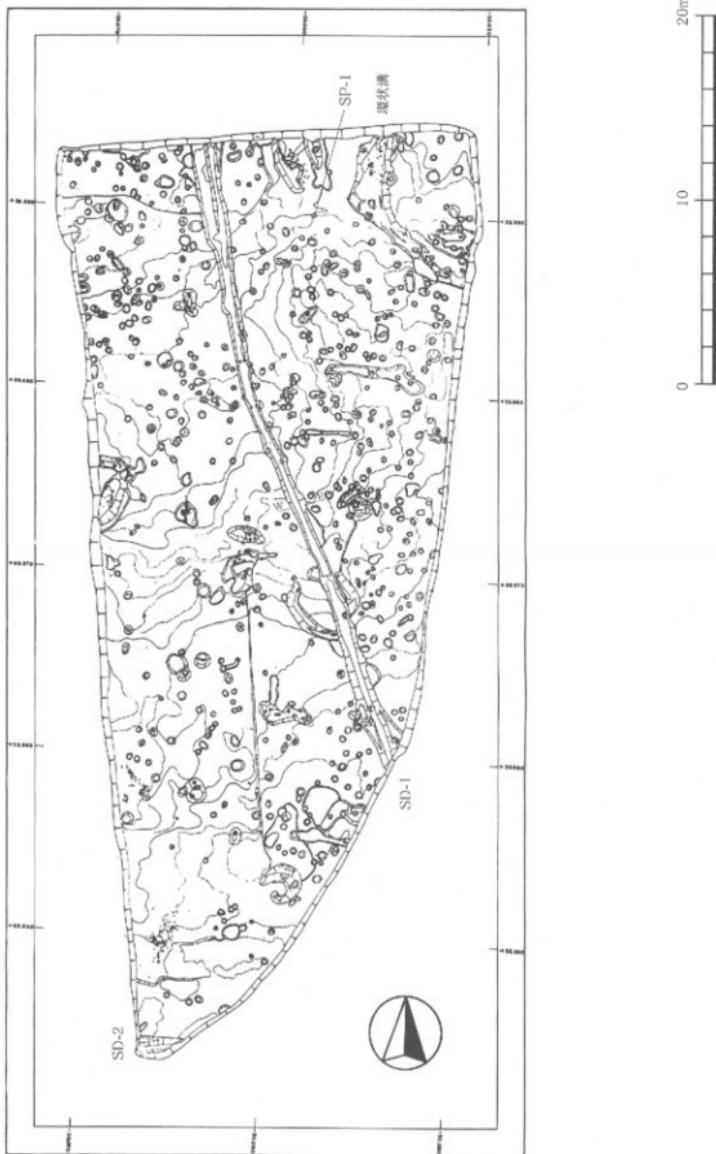
調査区南端に位置する東西方向の溝であり、上端で僅かに240cmの検出である。西端に一部テラスを持ち、中央で上幅90cm、深さ42cmを測る。北側底面の立ち上がりは不明瞭であり、覆土は薄い灰色がかった黄褐色シルトの單層であった。他の遺構が覆土を黒色または暗褐色の粘質土を標準とするのに対して、異質のものである。4は底径8.1cmを測る瓶頸の底部である。焼き上がりは並であり、内外面ともに灰色を呈する。体部には轆轤による強い水引き痕を残しており、胎土に微小な砾とともに海綿骨片を僅かに含む。轆轤からの切り離しは静止糸切りで行っており、後に外底面に幅6mm程度のヘラ状具で平行なナデを軽く施している。図に対しての遺存状況は完形である。

### 環状溝

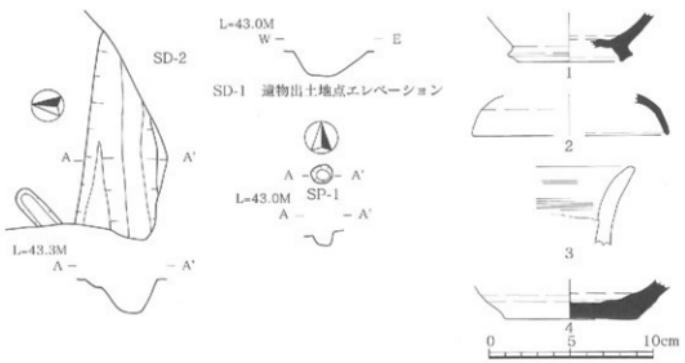
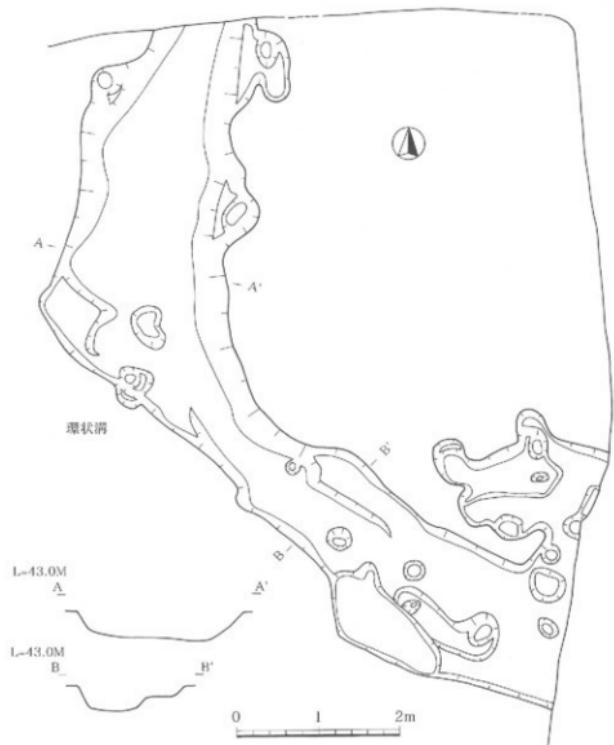
調査区北東隅に位置する弧状に巡る溝であり、円周とすると約1/4の検出にあたる。上幅最大で約200cm、最小で84cm、深さ平均で32cm、検出長はほぼ中央で10.2mを測り、肩部や内部にいくつかのピットや土坑状遺構が重複している。環状内側に相当する北東隅の調査区コーナー部では不規則な配置のピットをいくつか検出しているものの、積極的に関係のあるものは確認できていない。遺物は全く出土しておらず、遺構の時期及び性格については不明である。

### 第3節　まとめ

上林テラダ遺跡は今回の区画整理事業を契機として行われた発掘調査としては最小のものであり、遺跡の大半が区画整理範囲外の西側に広がっていると思われるため全体としての規模、性格等は不明の部分が多い。ただ、遺跡単体としては少なくとも7世紀前半には出現し、奈良時代にかけて展開した集落跡であることは確実と思われる。この場合、周辺に広がる南部遺跡群全体の中でも上林新庄遺跡の西側に展開したブロックとともに最も古い一群に属するものであり、そこには上林古墳で抽出した扇状地の開発を目的とした先駆的な新興家父長層の存在が予測される。深い鞍部を挟んでの140mという距離はやはり別個の単位と思われるが、両者の関係を推定するには上林テラダ遺跡においてあまりに判断材料の少ないものであった。また、さらに巨視的に見た時、当遺跡が南部地区全体の中でのような位置付けであったのか、上林新庄遺跡のように8世紀にかけてさらなる発展を見せるものなのか、もしくはそこに組み込まれていくものなのか、現状では知りようもないが、扇状地の特質から手取川の残した多くの水系に沿う島状微高地において、遅くとも7世紀前半代、もしくは初頭には新興開発集団の進出があったことは確実視され、後の国家的政治勢力の裏付けを得て或るものは下新庄アラチ遺跡に見られるような極めて政治色の強い集団へと成長し、また或るものはそこに解体、吸収されていったのではないか。この問題については、国道157号線の建設及び農業基盤整備事業等を中心として行われた末松地区的調査成果の公表を待ってさらに検討して行きたい。



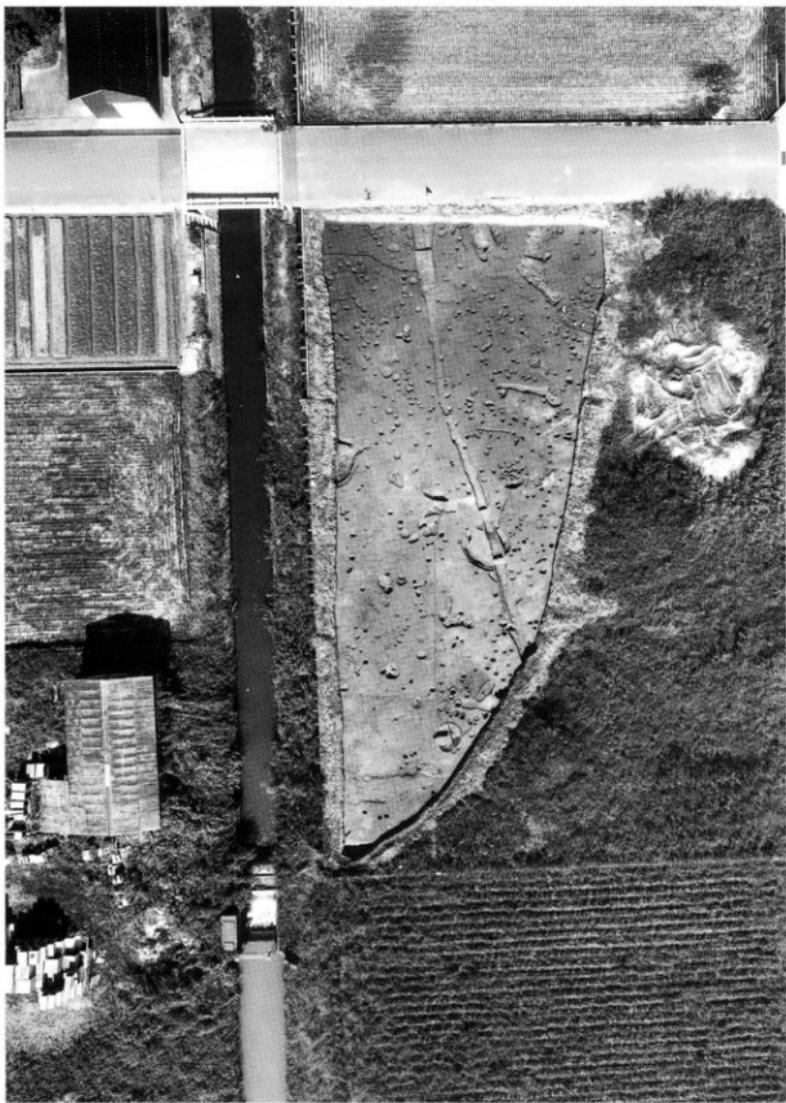
第1図 上林テラダ遺跡 遺構全体図 ( $S = 1/200$ )



第2図 上林テラダ遺跡 遺構・遺物実測図 (遺構: 1/60、遺物: 1/3)

SP-1 (1)  
SD-1 (2・3)  
SD-2 (4)





上林テラダ遺跡 調査区全景 (N↑)

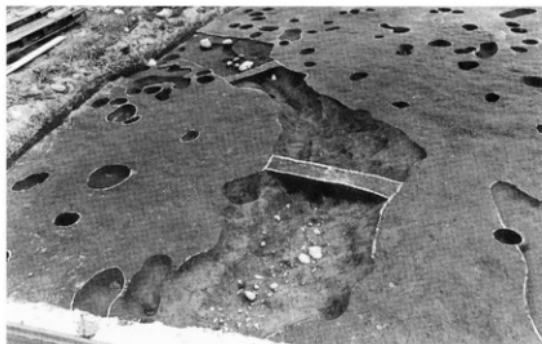
調査区全景  
(北より)



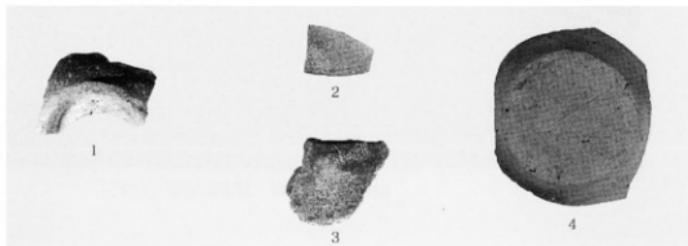
SD-1 全景  
(北西より)



環状溝完掘状況  
(北より)



出土遺物



# 下新庄タナカダ遺跡



## 第4章 下新庄タナカダ遺跡（1994年度）

### 第1節 調査の経過と概要

#### 1. 調査の経過

下新庄タナカダ遺跡は野々市町南部上地区画整理事業施行区域の北東側、木呂川に接して広がる約3,500m<sup>2</sup>の遺跡であり、標高は検出面で39m前後を測る。遺跡の中心は木呂川を挟んで現在の野々市町新庄5丁目一帯に伸びているものと思われるが、一帯は既に宅地化が進行しており、農地として残されている部分は僅かである。開発計画としては、遺跡推定地において木呂川沿いの東側に縁道、区画道路の建設が予定されており、西側に弧状に広がる部分については将来宅地化される計画であり、全面発掘を実施する旨で合意した。調査区の設定に際しては、遺跡の中央を東西に横断する基幹農道については耕作の用に供するとともに、周辺の生活道路として定着していたため分断することを断念、南北2つの調査区（北側をN区、南側をS区と呼称）で実施することとした。調査面積は約3,000m<sup>2</sup>である。下新庄タナカダ遺跡としての着手は1994年9月22日であったが、第1章第4節で述べたとおり同時に下新庄アラチ遺跡、上林新庄遺跡の調査も実施していたために、工程に沿って各遺跡を移動しながらの大変忙しい年度であった。結果として埋め戻しまでの含めた全ての調査を終えたのは年も押し詰まった12月28日のことである。

#### 2. 調査の概要

当遺跡の調査区は推定地の形態から集落の中心部分を外れた西側縁辺と推定され、N・S両区ともに東から西に向けてかなりの傾斜で地山が落ち込んでおり、その標高差はもっとも顯著な部分で約1mにも及び、未だ底面を確認していない。西に約45m離れて同年度に調査した下新庄アラチ遺跡の東端調査区では、奇麗な地山とともにいくつかの遺構が確認されており、落ち込んだ後西に向かって再び急激に上がって行くことが予測される。検出面の状況は、N区については標高の高い東側部分に多くの自然疊が表しており、ここに竪穴住居跡や掘立柱建物跡等の主要な遺構が集中する。また、第1図上疊が集中して帶状のラインを形成しているように見える部分を境として、西側へ落ち込んで行く斜面は淡黄灰色のシルト質土であり、対照的な様相を示している。加えて、南東隅では幅8m、長さ19.5mにわたり大きく搅乱を受けていた。S区については全体的に淡黄灰色のシルト質土であり、中央を北流する溝を境に西側へ深く落ち込んで行く。

### 第2節 遺構と遺物

検出された遺構は、N区で竪穴住居3棟、掘立柱建物2棟、土坑12基、溝4条、その他ピット、散溝状遺構多数があり、S区では掘立柱建物2棟、土坑4基、溝1条、ピット多数である。遺跡推定地の西端ということもあり、3,000m<sup>2</sup>の調査面積に対しては確認された遺構、遺物は少ないものであった。

#### 1. 竪穴住居

3棟が集中して存在する地点は自然疊が多く表出しておらず、湿氣を含む暗褐色の地山であったため検出作業は予想外に難航することとなつた。

### S I - 1

N区北半中央に3棟集中して存在する住居跡の内の最も東側に位置する住居であり、南西隅をS I - 2と重複しているが、礫を多く含む褐色の地山からの検出であったためプランからの前後関係は確認できていない。長軸3.64m、短軸2.80m、深さ19cm、床面積推定で9.58m<sup>2</sup>を測る東西に長い長方形を呈する住居であり、主軸方位はN5°Eである。SK-1とした南東隅に見られる土坑状の落ち込みはカマドに伴うものと思われ、深さ約10cmを測り西側に小さなテラスを持つ。また、北壁に接する土坑状の遺構もこの住居に伴うものと思われ、深さ16cmを測る。南西コーナー部分には重複するS I - 2と床面のレベルを同じくする別の土坑が掘り込まれており、双方の壁を破壊している。遺物は3点図示している(第7図1~3)。1は口径15.5cm、底径9.6cm、器高3.4cmを測る須恵器壺である。胎土に砂礫をやや多く含み、外面灰色、内面は暗褐灰色を呈する甘い焼成の個体であり、外面口唇部に幅1.5cm程度の重焼痕が巡っている。遺存状態は小片。2は上師器小壺の小片であり、口径10.6cm、頸部径9.6cmを測る。口縁部内外面を横ナテ調整し、体部外面については細かい原体を用いた継方向のハケ調整、内面を同一工具を用いた斜位のハケ調整で仕上げる。胎土には砂礫をやや多く含み、石英・黒雲母も若干見られる。焼成は並であり、外表面は赤みがかった暗褐色、内面は淡橙褐色を呈する。摩耗、剥離が激しく2次混入の可能性もある。3は口径20.6cm、頸部径18.5cmを測る土師器甕であり、口縁端部を若干つまみ上げぎみに垂直な面取りをして仕上げる。内外面ともに褐色を呈する並の焼成であり、胎土にはやや多めの砂礫と石英を含む。図に対しての遺存状態はほぼ完形であり、床面に近い部分からの出土であるため、この住居の年代を最も良く示すものであろう。

### S I - 2

S I - 1の南西に重複して存在する住居である。長軸4.44m、短軸3.56m、深さ21cm、床面積推定で15.5m<sup>2</sup>を測る南北に長い長方形を呈し、主軸方位はN8°Eである。南東隅にカマドの痕跡と思われる焼土の高まりが認められ、東側脇にピットを伴う。西壁に沿って南北に見られる柱穴状のピットは北側で深さ20cm、南側で同10cmを測るが、東壁に沿っては確認されていない。また、南西隅の東脇に存在するピットはSB-1を構成する柱穴であり、S I - 2を切って掘り込まれている。遺物はやはり3点図示している(第7図4~6)。4は口径19.0cmを測る大振りな須恵器壺蓋の小片であり、内外面ともに灰色を呈する。胎土に小砂礫をやや多く含み、器壁はザラザラした感触である。並の焼成であり、端部外面に重焼痕が認められる。5は須恵器壺であり、口径14.8cm、底径10.8cm、器高2.9cmを測る。外底面を回転ヘラ切りの後ナデで仕上げており、内外面ともに縁がかった灰色を呈する。小砂礫を若干含み、僅かに海綿骨片が認められる。焼成は並であり、1/7程度の遺存である。外面口唇部に重焼痕が巡っている。6は口径15.0cm、底径11.6cm、器高3.6cmを測る須恵器壺である。外表面は淡青灰色、内面は縁がかった灰褐色を呈し、焼成はやや甘い。外底面は回転ヘラ切りの後一方向のヘラ状具によるナデが施されている。1/4程度の遺存であり、胎土には小砂礫をやや多く含む。全体的に摩耗が激しい。

### S I - 3

S I - 2の北西側に近接して存在する住居である。長軸3.48m、短軸2.96m、深さ19cm、床面積10.5m<sup>2</sup>を測る東西に長い長方形を呈し、主軸方位はN20°Eと、他の棟に比べてやや大きく東に振る。焼上等カマドの痕跡は認められなかったが、南東隅に見られるプランから突出したピット状の遺構は煙道に伴うものかもしれない。床面は中央部分に向かって緩く窪んでおり、3棟全てに共通することであるが、整地は決して丁寧に行われているとは言い難い。遺物はやはり3点図示している(第7図7~9)。7は底径10.0cmを測る須恵器有台壺の底部である。外底面を回転ヘラ切りの後ナデで仕上げ

ており、外面青灰色、内面灰色を呈する。胎土に小砂礫をやや多く含み、1~2mmの小砾も若干含んでいる。焼成は並であり、1/4程度の遺存である。8は口縁端部を内面につまみ上げ、面取りを施した須恵器坏であり、口径9.6cm、底径6.4cm、器高2.9cmを測る。外底面を回転ヘラ切りの後不定方向のナデで仕上げており、内外面ともに淡灰色を呈する。胎土に1~2mmの小砾をやや多く含み、焼成は並、ほぼ完形である。9は丸底の須恵器長胴甌である。外面に平行タタキ、内面に同心円タタキを施し、底部近くを指頭で押さえ整える。並の焼成であり、内外面ともに灰色を呈する。図に対しての遺存状況はほぼ完形であり、胎土に小砂礫をやや多めに含む。

## 2. 据立柱建物

N区西半中央に2棟、S区西半中央に2棟の計4棟確認している。この内N区に存在する2棟については規格、構造より居住目的の建物と考えられるのに対して、S区に存在する2棟は倉庫棟もしくは付属屋としての性格が強い。いずれの建物も、構成する柱穴からの遺物の出土は見られなかった。

### S B - 1

N区のS 1~2に北梁を重複して存在する建物であり、その前後関係については前述のとおりである。4×2間の建物であり、南梁において中柱が棟持のように外にずれる。北梁については竪穴住居と錯綜しており確認できていないが、3間になる可能性もある。桁行7.36m、梁行4.84m、面積35.6m<sup>2</sup>を測り、主軸方位はほぼ磁北を指す。柱穴は径40~72cmの楕円形を基本とし、深さ43cm前後であり、柱間距離は心間で東桁北より1.83~1.86~1.84~1.83m、南梁で西より2.31~2.53mを測る。

### S B - 2

N区西半中央、S B - 1 の南側5mに位置する3×2間の建物である。桁行7.18m、梁行5.22m、面積37.5m<sup>2</sup>を測り、主軸方位はN10°Wを指す。柱穴は径84cm前後のS B - 1より一回り大きい略円形を標準とし、深さ40cm程度を測る。柱間距離は心間で西桁北より2.22~2.84~2.12m、北梁で西より2.58~2.64mを測る。S B - 1 と比べて建物構造では劣るもの、柱穴の掘り方を含めた規模においては上回っている。

### S B - 3

S区西半ほぼ中央に位置する2×2間の総柱建物であり、倉庫棟と思われる。桁行3.02m、梁行2.98mを測るほぼ正方形のプランを有し、面積約9m<sup>2</sup>、主軸方位はN6°Eを指す。柱穴は径63cm前後の略方形もしくは円形であり深さ40cm程度、柱間距離は心間で東桁北より1.46~1.56m、南梁で西より1.42~1.56mを測る。小振りではあるが柱の太い、しっかりとした建物が想定できる。

### S B - 4

S B - 3 の南側2.2mに位置する3×1間の南北棟となる建物であり、西梁の柱筋をS B - 3 の西桁に揃えており、主軸方位もほぼ等しい。桁行5.31m、梁行2.04m、面積10.8m<sup>2</sup>を測り、径40cm前後、深さ38cm程度の小さな柱穴により構成されている。柱間距離は心間で北桁西より1.81~1.76~1.74mを測る。規格及び構造から簡易的な建物が想定され、物置もしくは簡単な作業小屋と考えられる。遺物からの検証はできないが、その位置関係からS B - 3とは同時期に存在していたものと思われ、西側を北流するS D - 2 や主軸方位を揃えたS K - 3などとともに計画的に配されていたことが窺われる。

## 3. ピット

遺物を確認できたものはいずれもN区竪穴住居群の周辺に位置する2基のみである。

### S P - 1

N区S I - 3 の西隣に位置する長径68cm、短径38cm、深さ18cmを測る略長方形を呈するピットであり、建物等を構成するものではない。第7図10は底径9.0cmを測る須恵器瓶類の底部である。外面は暗灰色を呈し、一部に自然釉が厚く付着しており、内面は灰色を呈し、底面に降灰が認められ一部釉化している。胎土に2~3mmの大いな小砾と黒雲母を僅かに含み、外底面に回転ヘラ切り痕が残る。焼成は並であり、1/3の遺存である。

### S P - 2

S I - 1 の南壁際中央に重複するピットであり、長径56.8cm、短径43.6cm、深さ最深部で検出面より33cm、テラス部で22cmを測る。S I - 1 の覆土上に自然砾が多く含まれていたため、掘進の段階ではS I - 1 の床面に到達するまで気が付かなかった。遺物は2点図示している（第7図11・12）。11は口径12.0cm、頸部径10.8cmを測る輪轆成形の土師器小壺である。口縁端部をつまみ上げぎみに面取りし、外面は頸部まで、内面は頸部直下までをナデにより仕上げる。内外面ともに褐色を呈し、一部橙褐色の部分も認められる。胎土に2mmの大いな小砾を若干含み、石英・赤色粒も僅かに見られる。焼成は並であり、1/6程度の遺存である。全体に摩耗が激しい。12は口径16.0cm、頸部径13.6cmを測るやや胴の張る土師器小壺である。内外面にナデを施し、直線的に伸びる口縁部は端部を丸く仕上げる。内外面ともに褐色を呈し、胎土に1~2mmの大いな小砾を若干含む。焼成は並であり、1/4の遺存である。11と同様摩耗が激しい。

## 4. 土坑

### S K - 1

N区S I - 1 の南東隅に位置し、前述のようにS I - 1 のカマド構築に伴う落ち込み状の土坑であり、長軸1.24m、短軸1.16cmを測るほぼ方形を呈するものである。遺物は1点図示している。第7図13は口径13.4cm、頸部径12.0cm、胴部最大径13.6cmを測る土師器小壺であり、丸い体部から短く直線的に伸びる口縁部先端を丸線に仕上げる。雑な作りの輪轆成形であり、体部内面に一部横位ハケ調整の痕跡を残す。内外面ともに褐色を呈し、胎土に小砂砾をやや多く含む。焼成は並であり1/2の遺存、全体に摩耗が進んでいる。

### S K - 2

N区南半東側の西に向かって落ち込む斜面上に位置する不定形な土坑であり、長軸4.24m、短軸3.20mを測り、坑中央と東側上端とのレベル差は22cmである。第7図14は口径11.8cm、底径7.8cm、器高3.4cmを測る須恵器壺である。外底面は回転ヘラ切りの後ナデを施し、内外面ともに青灰色を呈する。胎土に1~2mmの大いな小砾を僅かに含み、焼成は並、底部については完形、口縁部については1/3の遺存である。

### S K - 3

S区ほぼ中央の東壁際に位置する略長方形を呈する土坑であり、長軸6.60m、短軸1.80m、深さ南側平坦部で39cm、中央ピットで41cm、北端ピットで40cmを測る。周辺には砾が見られず奇麗な黄灰色シルト質土であったが、この土坑の覆土のみは自然砾が多く含まれており、内部に重複するピット等との関係は明確にはし得ていない。遺物の出土はなかったが、S B - 3・4、S D - 2との位置関係や形態から、工房等集落の中でも有機的に機能していた遺構と思われる。

## 5. 溝

### SD-1 (a・b)

N区の西端、SK-2の西隣に存在する溝であり、南北溝をSD-1 a、東西溝をSD-1 bとした。部分的な検出であるが、それぞれの位置関係から方形に巡り何かを区画する溝となる可能性が高い。SD-1 aは検出長11.9m、幅中央部で58cm、深さ16cmを測り、SD-1 bは検出長4.58m、幅53cm、深さ12cmを測る。ともに遺物は出土しておらず、立地も西に向かってさらに深みを増す鞍部斜面上に位置していることから上記の可能性については確証を得ないが、区画溝とすれば幅員及び深さからさほど大きな区画ではないものと思われる。

### SD-2

S区全域を緩やかな曲線を描きながら伸びる南北溝であり、検出長約50m、幅60~36cm、深さ南端で11cm（標高溝底面で38.98m）、中央部で17cm（同38.93m）、北端で16cm（同38.93m）とほとんどレベル差がなく、積極的に北へ水を流す目的のものではないと思われる。ただ、この溝を境に西側に向けて急激に地山が落ち込んでいることと合わせ、東岸に位置するSB-3・4やSK-3などの配置から、規模は小さいものの集落の西辺を限る目的の溝であったものと思われる。また、N区については延長想定地の標高がさらに低いこともあり、調査ではその伸びを確認することはできなかった。

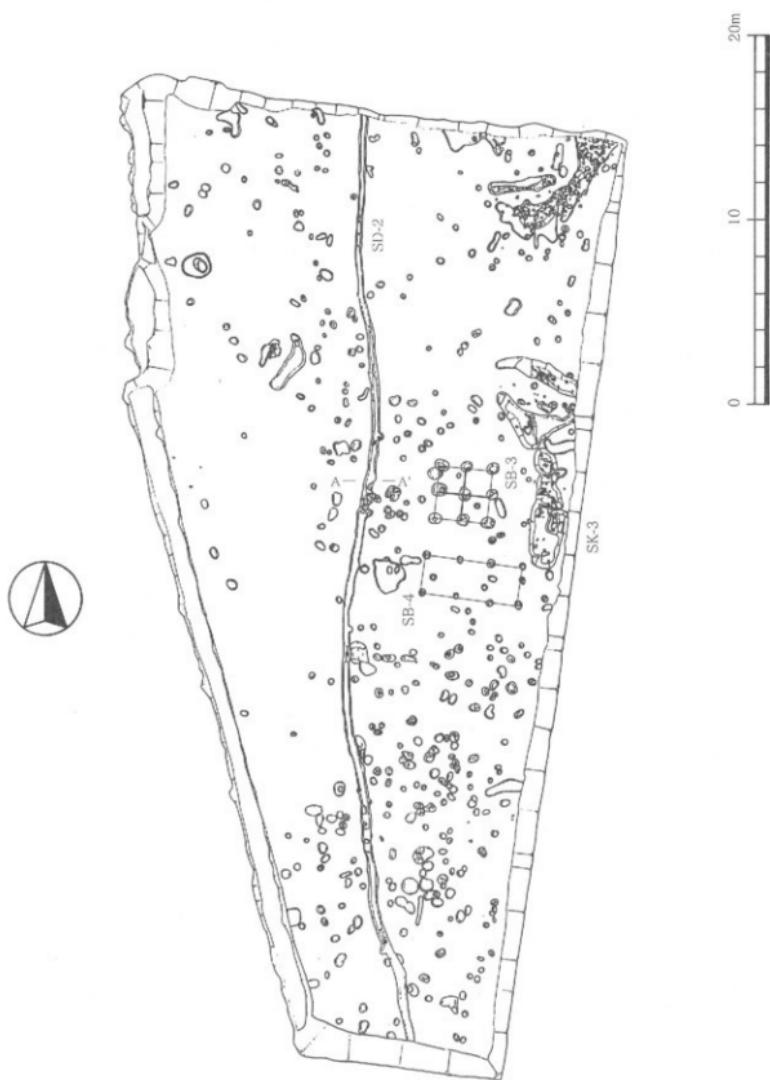
## 第3節まとめ

下新庄タナカ遺跡は本区画整理事業の範囲外である新庄5丁目に中心を持つと思われる遺跡であり、今回調査を実施した部分は新庄6丁目にあたり、遺跡の西側縁辺部に相当する部分と考えられ、全体としての規模及び性格は不明な点が多い。上林テラダ遺跡ほどではないにしろ確認された遺構・遺物は十分とは言えず、単独では8世紀代に機能した一般的な集落の城を出ないものであるが、南部地区全体としてはさらに西側に展開した政治色の強い大集落である下新庄アラチ遺跡を中心とした一群の成員であることは間違いない。両者の間に存在する鞍部状の大規模な落ち込みが、遺跡周辺でどの程度の伸びを見せるのかは確認できていないが、1/16の急な傾斜は古代の河川に統くものである可能性もある。遺跡が展開した旧地形を考える時、想定される島状微高地と対を為していたであろう「古木呂川」は現河道の西側、上林新庄遺跡の東辺に沿って北流し、下新庄アラチ遺跡と下新庄タナカ遺跡の間を抜けていたのではないか。この場合当遺跡と、下新庄アラチ遺跡及び上林新庄遺跡の北側部分を含むブロックとは河川を挟んで対峙する同一の水系を基盤とした集落として捉えられるが、すでに宅地化が進み、木呂川右岸での微高地の広がりを検証できない現状ではその可能性の指摘のみに止めておく。

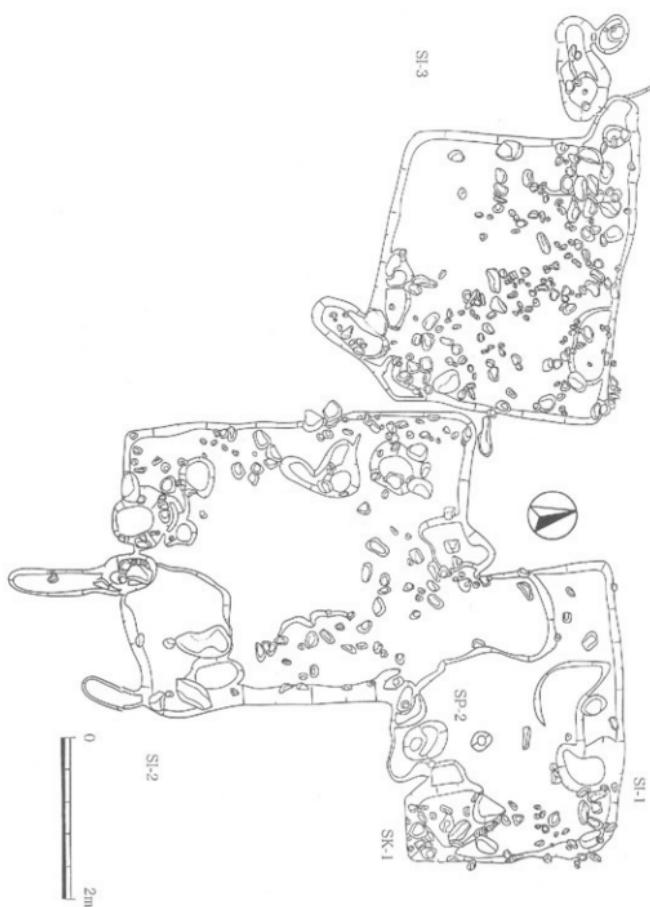
次に、当遺跡に与えられる年代についてであるが、図化し得た遺物を主体的に出土した竪穴住居でさえ僅かに3点ずつであり、積極的にその推移を窺えるものは少ない。この3棟については位置関係から同一世帯の経時的建替えと思われ、8世紀第2四半期から9世紀初頭にかけて営まれたものと捉えておきたい。SI-2と重複するSB-1についてはその後に建てられたものであろう。



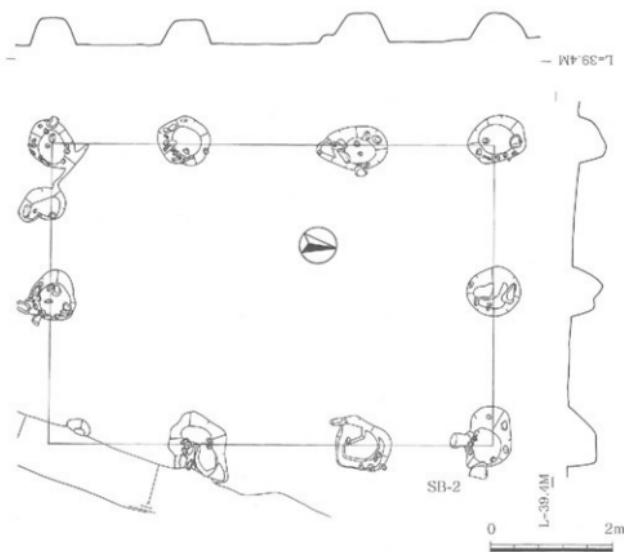
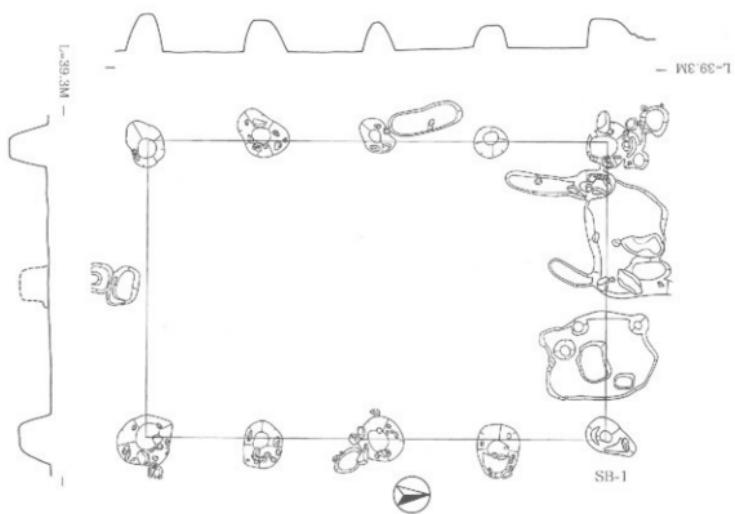
第1図 下新庄タナカダ遺跡（N区）遺構全体図（S=1/200）



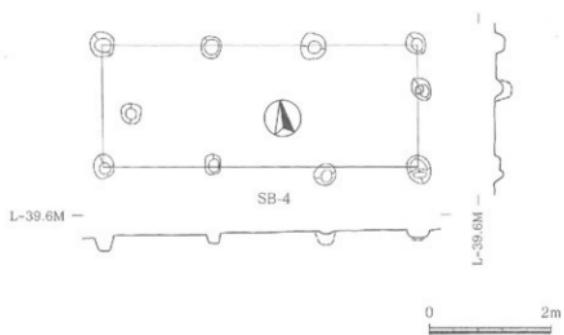
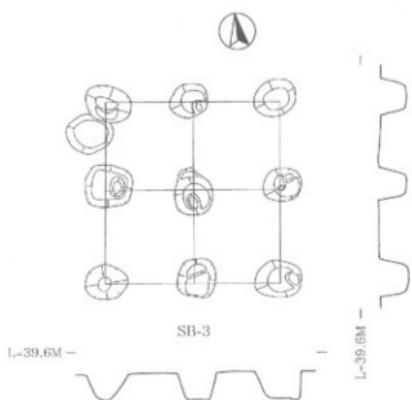
第2図 下新庄タナカダ遺跡（S区）遺構全体図（S=1/200）



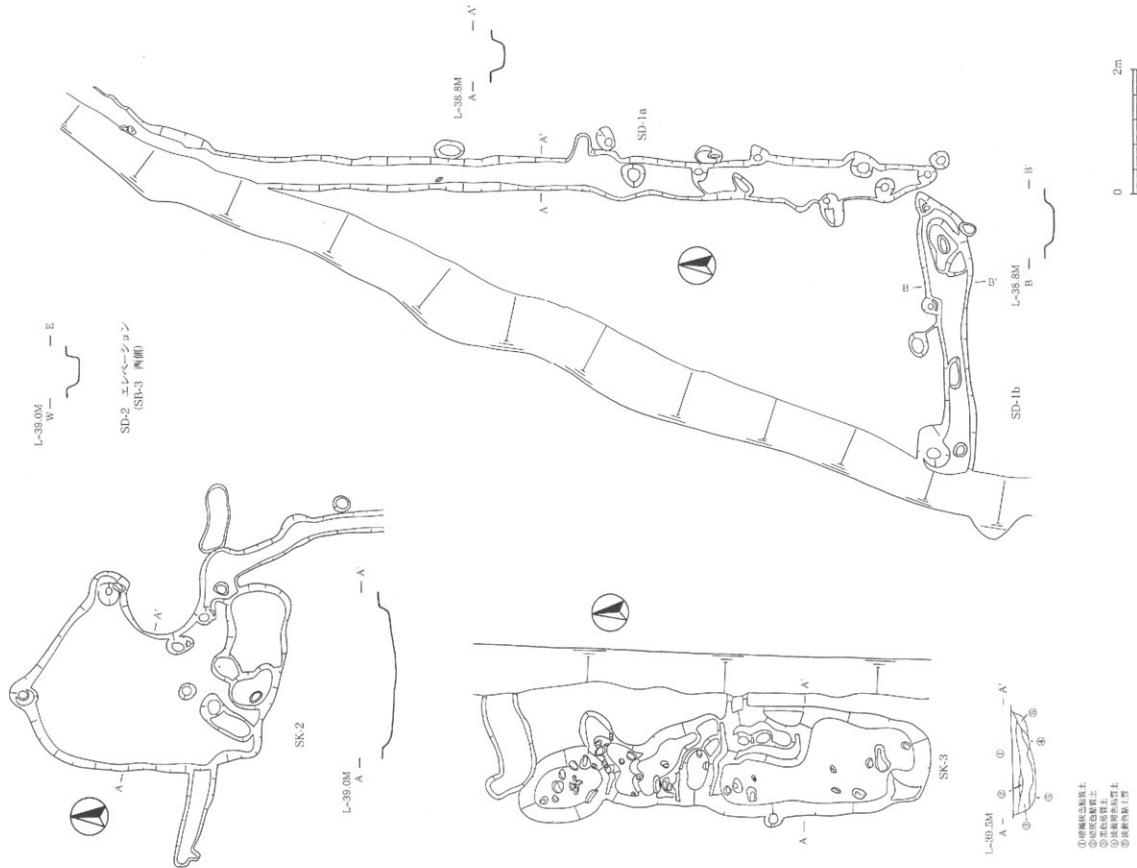
第3図 下新庄タナカダ遺跡 遺構実測図① ( $S = 1/60$ )



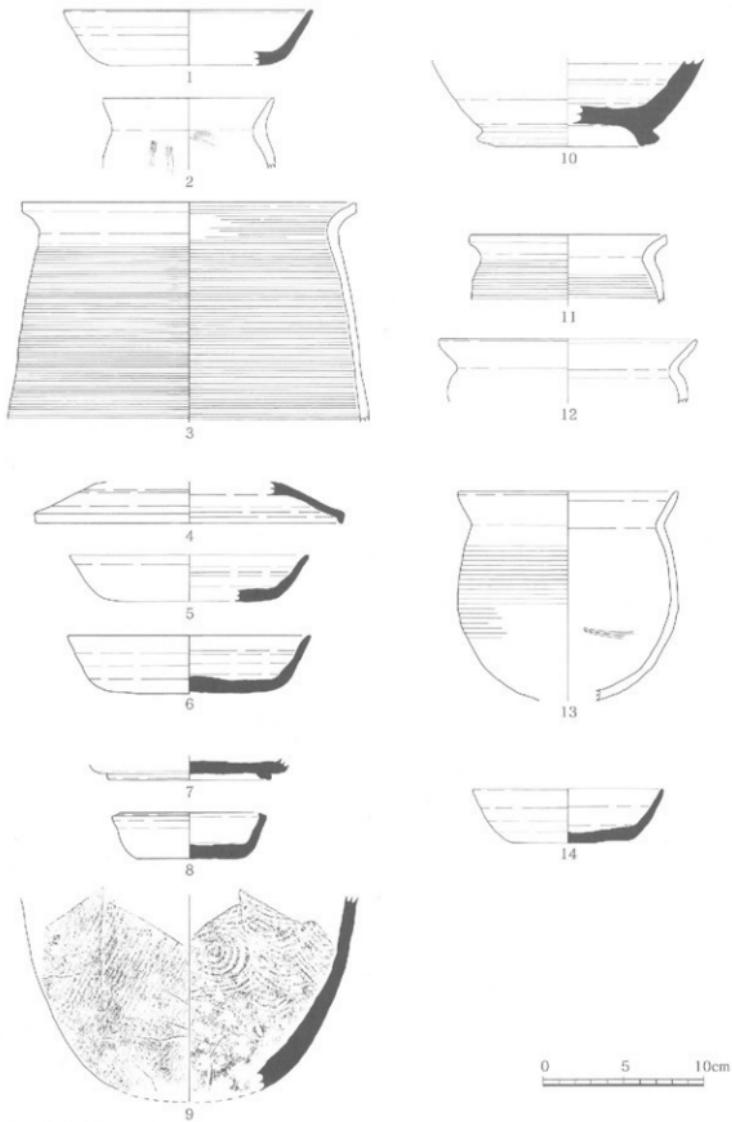
第4図 下新庄タナカダ遺跡 遺構実測図② (S = 1/80)



第5図 下新庄タナカダ遺跡 遺構実測図③ (S=1/80)



第6図 下新庄タナカダ遺跡 遺構実測図④ (S=1/60)



SI-1 (1~3)、SI-2 (4~6)、SI-3 (7~9)

SP-1 (10)、SP-2 (11·12)

SK-1 (13)、SK-2 (14)

第7図 下新庄タナカダ遺跡 遺物実測図 (S=1/3)

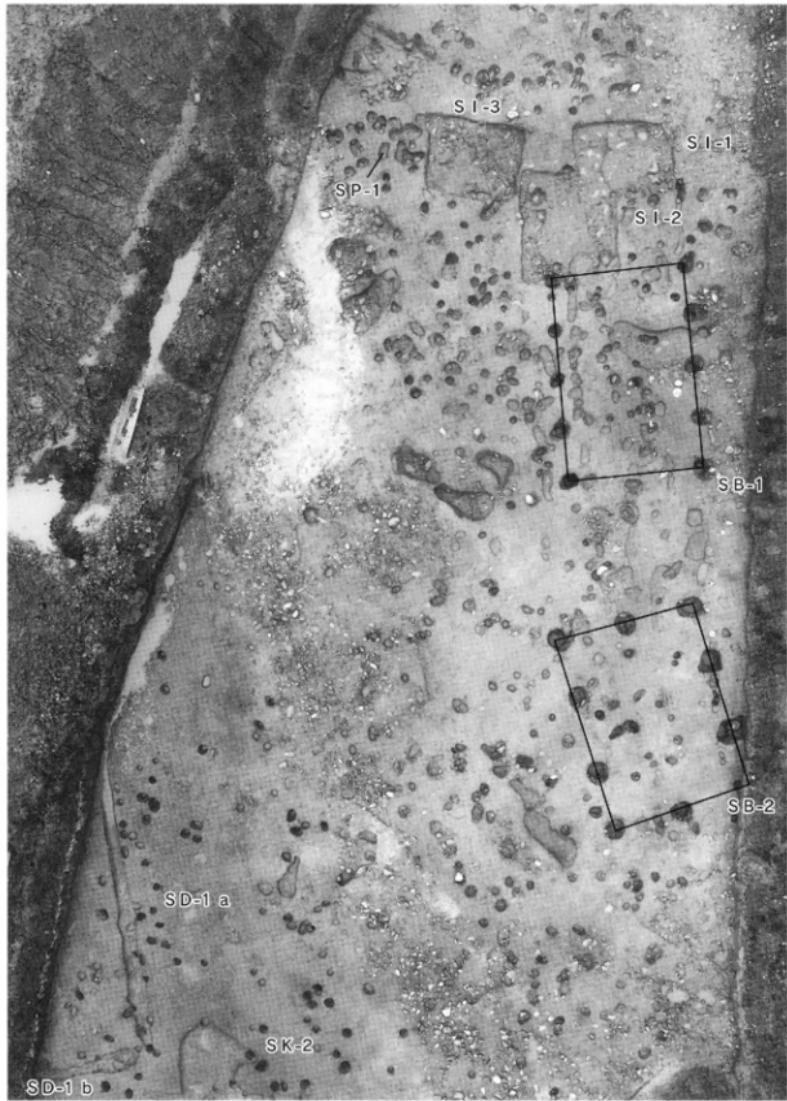




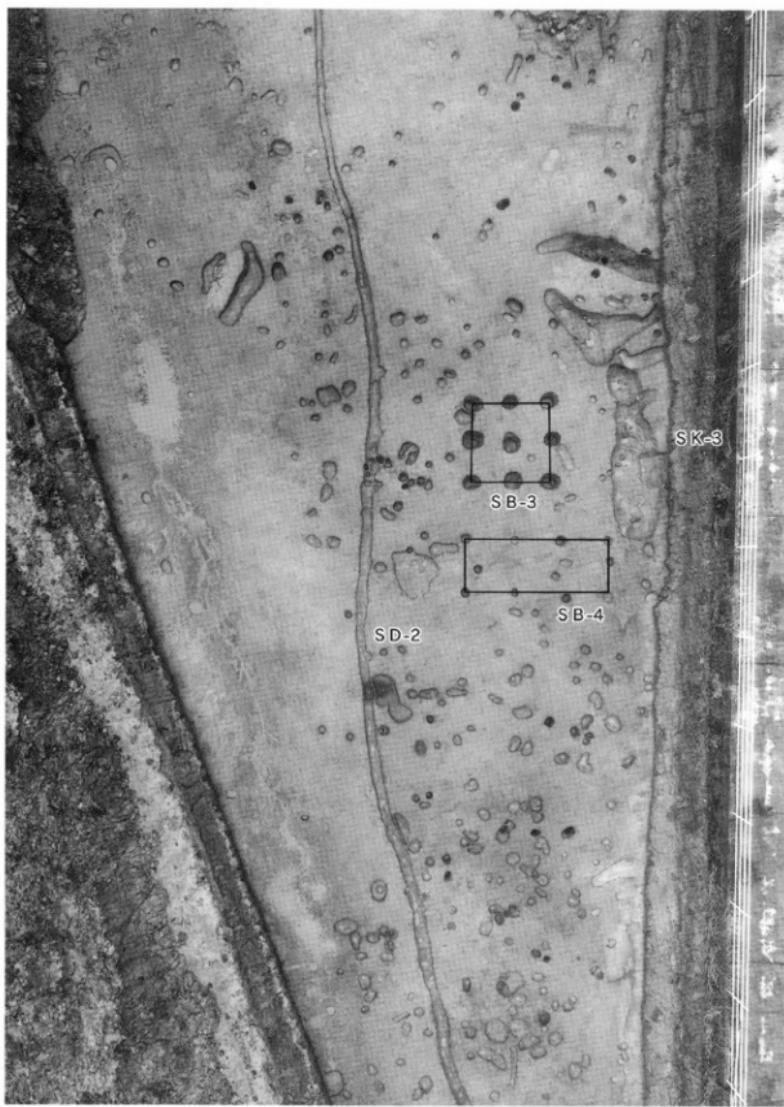
遺跡遠景（北より）



調査区全景



N区 主要遺構全景 (N↑)



S区 主要遺構全景 (N↑)



N区全景  
(南西より)



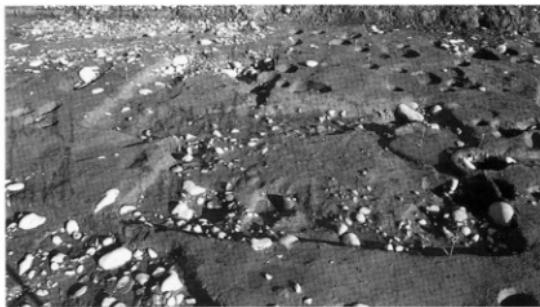
N区自然礫境界状況  
(南より)



N区鞍部落込み状況  
(南東より)



S I -3  
(西より)



S I -1・2  
(西より)



S B -1  
(南より)



S B -2  
(北より)



S K -2  
(南より)

SD-1 a・1 b  
(南東より)



S区全景  
(北西より)



S区冠水状況



SB-3  
(東より)

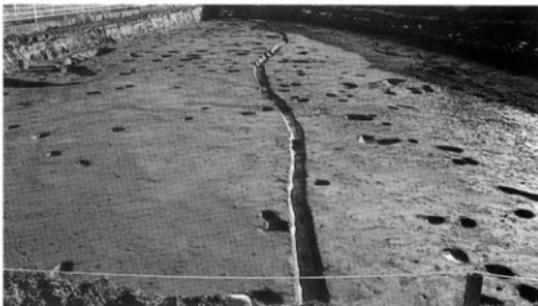




S B-3・4  
(西より)



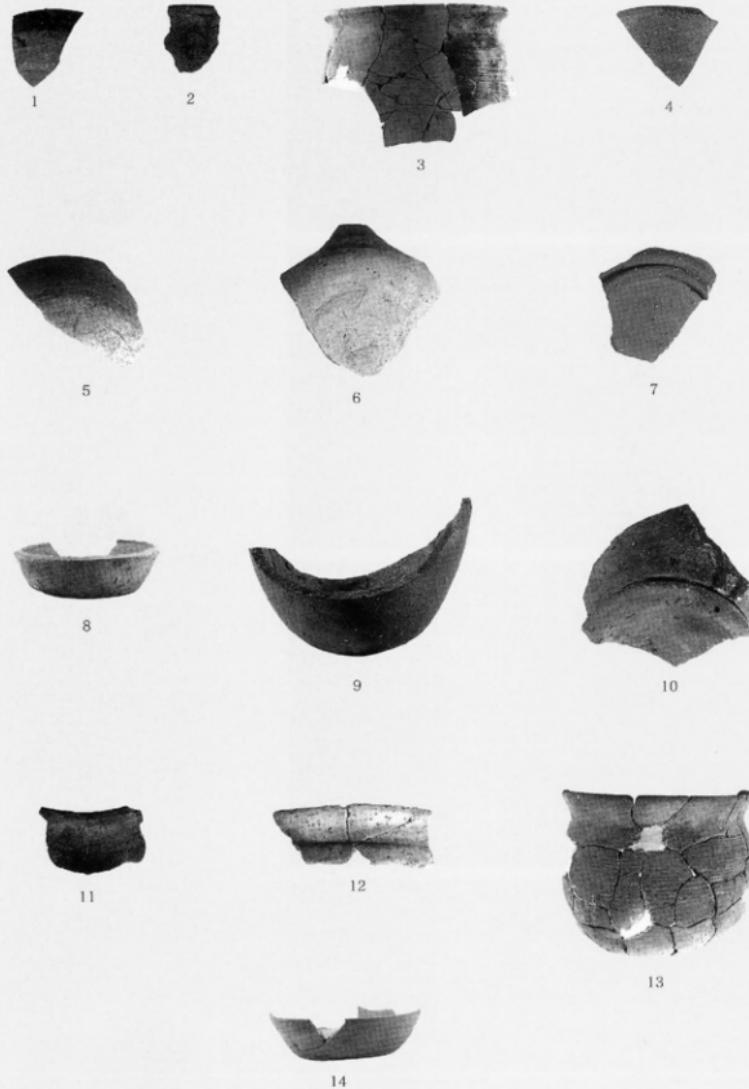
S K-3  
(南東より)



S D-2  
(北より)



性格不明遺構  
(北より)



下新庄タナカダ遺跡 出土遺物

報 告 書 抄 錄

ふりがな 書名	かんばやしじんじょういせき 上林新庄遺跡・上林古墳・上林テラダ遺跡・下新庄タナカダ遺跡	かんばやしこふん かんばやし	いせき しもじんじょう	いせき			
副書名	野々市町南部土地区画整理事業に係る埋蔵文化財緊急発掘調査報告書 Ⅲ						
卷次							
シリーズ名							
編著者名	横山 貴広						
編集機関	野々市町教育委員会						
所在地	〒921-8815 石川県石川郡野々市町本町5丁目4番1号						
電話番号	西暦 2 0 0 0 年 3 月 3 1 日						
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因	
かんばやしじんじょう 上林新庄	いしかわけいしわぐん 石川県石川郡 のいちらまちかんばやしじんじょう 野々市町上林・新庄	17344 16004	36° 30' 7"	136° 36' 36" 36"	199006～199012 199105～199201 199304～199403 199405～199412 199504～199511	40,750	組合施行による 土地区画整理事業
かんばやしこふん 上林古墳	ののいちまちかんばやし 野々市町上林	17344 16005	36° 30' 7"	136° 36' 36"	199105～199109	上記に含む	組合名 野々市町南部 土地区画 整理組合
かんばやし 上林テラダ	ののいちまちかんばやし 野々市町上林	17344 16003	36° 29' 58"	136° 36' 25"	199007～199011	1,000	
しもじんじょう 下新庄 <sup>タナカダ</sup>	ののいちまち しんじょう 野々市町新庄	17344 16007	36° 30' 14"	136° 36' 45"	199409～199412	3,000	
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
上林新庄	集落	古墳末 奈良・平安	竪穴式住居跡 掘立柱式建物跡 溝・土坑 樹列・ピット 製鉄炉跡	須恵器 土師器 鉄製品 上製品 石製品・石器	古墳末・奈良～平安時代の竪穴式住居跡と 掘立柱式建物跡からなる集落跡を検出 製鉄関連遺構及び鉄滓、鉄製品を多数検出		
上林古墳	古墳	古墳末	横穴式石室	須恵器	7世紀初頭の横穴式石室最下段を検出 (填土、周濠等は未検出)		
上林テラダ	集落	奈良・平安	溝・土坑 ピット	須恵器・土師器 石器			
下新庄 <sup>タナカダ</sup>	集落	奈良・平安	竪穴式住居跡 掘立柱式建物跡 溝・土坑 ピット	須恵器・土師器 石器	奈良～平安時代の竪穴式住居跡と掘立柱式 建物跡を検出		

# 上林新庄遺跡・上林古墳 上林テラダ遺跡・下新庄タナカダ遺跡

野々市町南部土地区画整理事業に係る  
埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅲ

発 行 2000年3月

編集発行 野々市町教育委員会

〒921-8815 石川県石川郡野々市町本町5丁目4番1号

☎076-248-8545

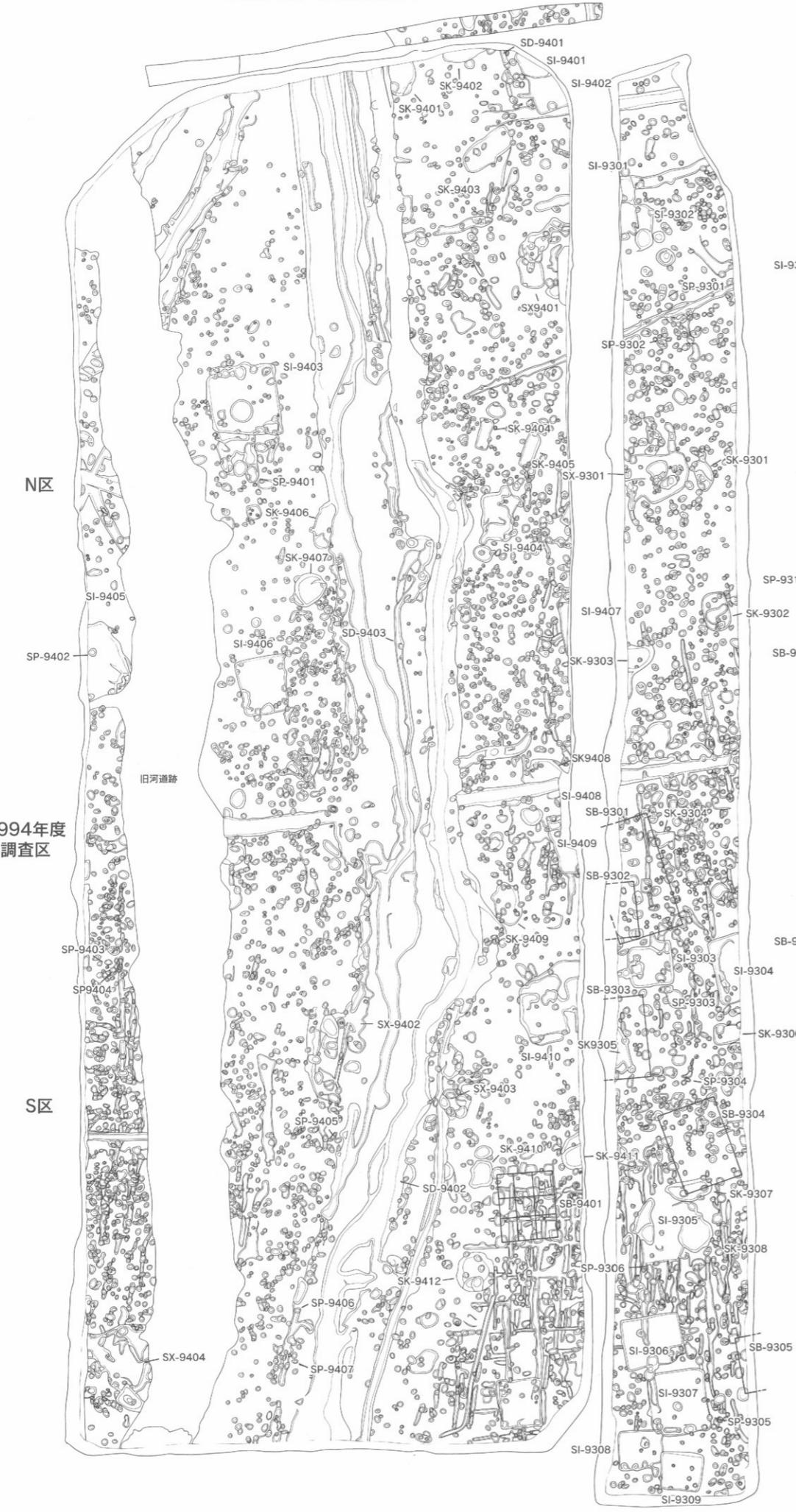
印 刷 高桑美術印刷株式会社



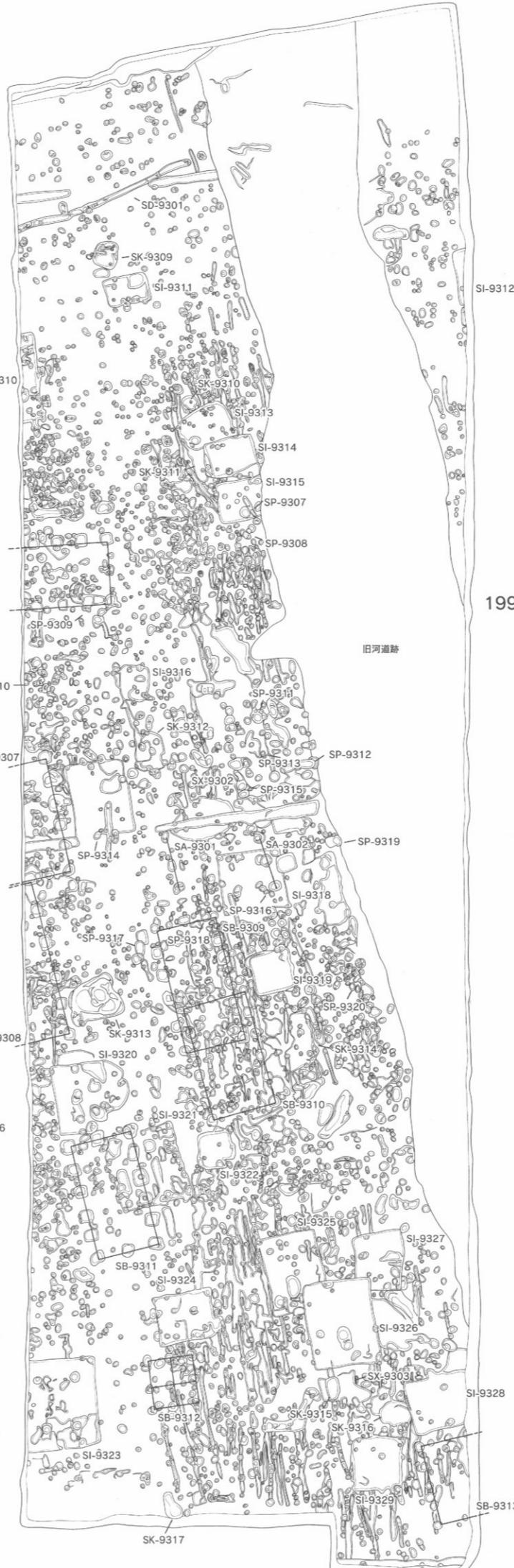


1991年度 調査区

1993年度 道跡拡張C区



1993年度 1区

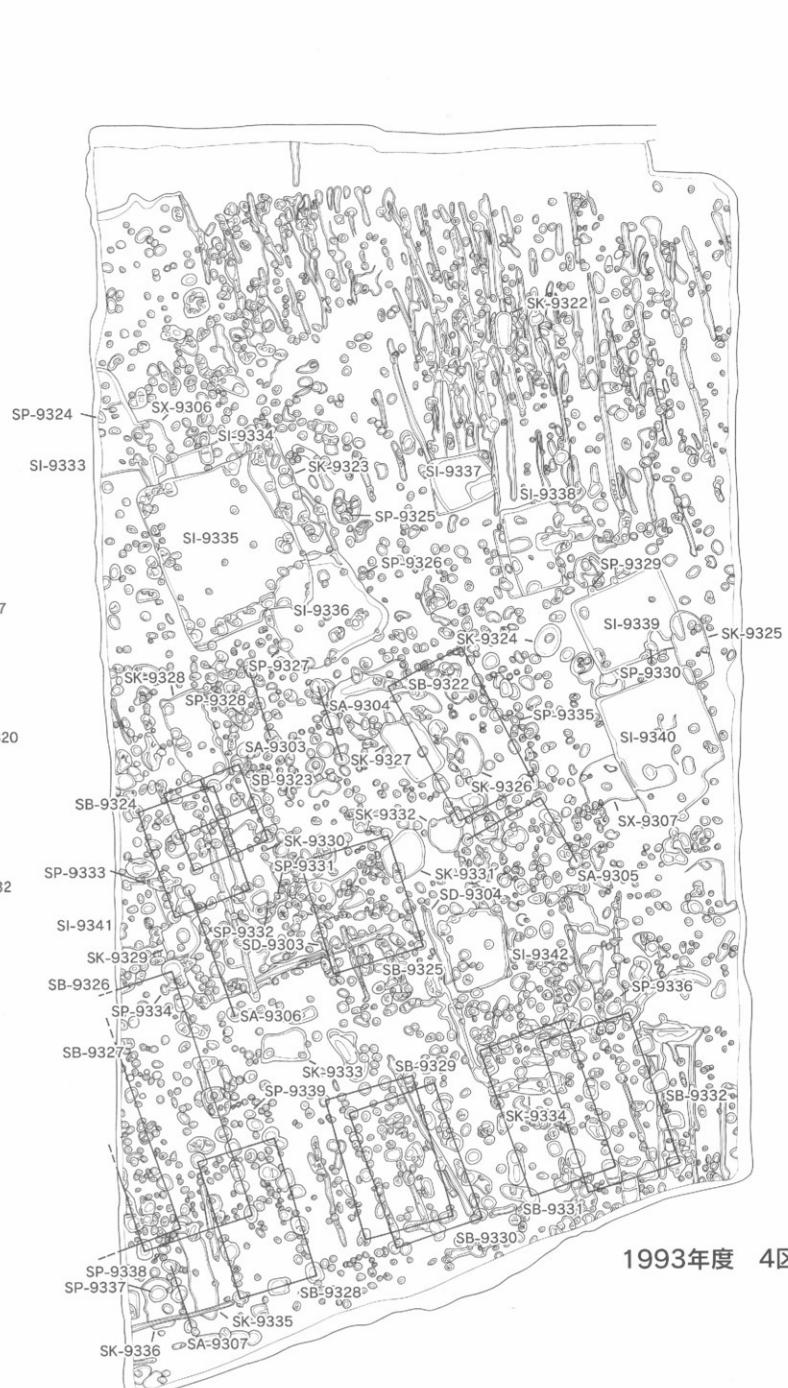


1993年度 2区

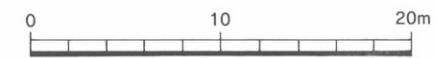
1993年度 5区北半



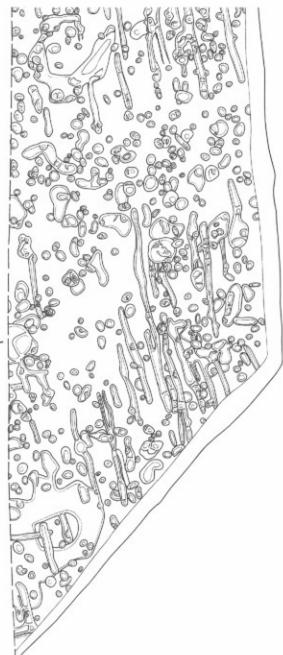
1993年度 3区



1993年度 4区



1993年度 5区南半



撒乱





1993年度 道路扩幅A区

1995年度 道路扩幅B区

0 10 20m

